別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画									
事　項		記　入　欄							備　考
計画の区分		研究科の専攻に係る課程の変更							
フリガナ 設置者		ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ﾄｳｶｲﾀﾞｲｶﾞｸ 学校法人　東海大学							
フリガナ 大学の名称		ﾄｳｶｲﾀﾞｲｶﾞｸﾀﾞｲｶﾞｸｲﾝ 東海大学大学院（Tokai University Graduate School）							
大学本部の位置		神奈川県平塚市北金目4-1-1							
大学の目的		東海大学大学院は、東海大学建学の精神にのっとり、専門分野における高度な学術の理論及び応用を教授研究し、その意義を認識すると同時に、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の創造発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。							
新設学部等の目的		体育学研究科博士課程後期の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、体育学研究科博士課程前期の研究内容や高度解析技術を発展させて、高いレベルの「スポーツ科学」に精通しながら、独創的・創造性に優れた高度な研究能力を備えて専門分野の発展に寄与しつつ、それを社会に還元できる能力を有する人材を養成することである。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	体育学研究科 [Graduate School of Physical Education]	年	人	年次 人	人		年　月 第　年次		
	体育学専攻 [Course of Physical Education] 博士課程後期 [Doctor Program]	3	3	—	9	博士（体育学） [Doctor of Physical Education]	令和３年４月 第１年次	神奈川県平塚市北金目4-1-1	【基礎となる学部等】 ・体育学研究科体育学専攻修士課程 ・体育学部
	計		3	—	9				
同一設置者内における変更状況 （定員の移行，名称の変更等）		東海大学大学院 地球環境科学研究科（廃止） 地球環境科学専攻　（△10） ※令和３年４月学生募集停止 体育学研究科体育学専攻修士課程〔定員増〕（　5）（令和３年４月） 令和３年４月名称変更予定 体育学研究科体育学専攻修士課程→体育学研究科体育学専攻博士課程前期							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計				
	体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）	6科目	7科目	0科目	13科目		16単位		

教員組織の概要

	学部等の名称	専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員	
		人	人	人	人	人	人	人	
新設分	体育学研究科 体育学専攻（博士課程後期）	11 (11)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	
	計	11 (11)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	— —	
既設分	総合理工学研究科 総合理工学専攻（博士課程）	107 (107)	25 (25)	4 (4)	1 (1)	137 (137)	0 (0)	0 (0)	
	生物科学研究科 生物科学専攻（博士課程）	15 (15)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	0 (0)	
	文学研究科 文明研究専攻（博士課程前期）	9 (9)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	2 (2)	
	文学研究科 文明研究専攻（博士課程後期）	13 (13)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	2 (2)	
	文学研究科 史学専攻（博士課程前期）	8 (8)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	5 (5)	
	文学研究科 史学専攻（博士課程後期）	8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	4 (4)	
	文学研究科 日本文学専攻（博士課程前期）	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	3 (3)	
	文学研究科 日本文学専攻（博士課程後期）	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	
	文学研究科 英文学専攻（博士課程前期）	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	
	文学研究科 英文学専攻（博士課程後期）	4 (4)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	
	文学研究科 コミュニケーション学専攻（博士課程前期）	9 (9)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	6 (6)	
	文学研究科 コミュニケーション学専攻（博士課程後期）	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	
	文学研究科 観光学専攻（修士課程）	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	2 (2)	
	政治学研究科 政治学専攻（博士課程前期）	6 (6)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	
	政治学研究科 政治学専攻（博士課程後期）	5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	
	経済学研究科 応用経済学専攻（博士課程前期）	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	
	経済学研究科 応用経済学専攻（博士課程後期）	9 (9)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	
	法学研究科 法律学専攻（博士課程前期）	11 (11)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	
	法学研究科 法律学専攻（博士課程後期）	11 (11)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	
	人間環境学研究科 人間環境学専攻（修士課程）	10 (10)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	12 (12)	
	芸術学研究科 音響芸術専攻（修士課程）	3 (3)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	4 (4)	
	芸術学研究科 造型芸術専攻（修士課程）	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	12 (12)	
	体育学研究科 体育学専攻（博士課程前期）	28 (28)	1 (1)	2 (2)	2 (2)	33 (33)	0 (0)	0 (0)	令和２年９月名称変更届出（予定）
	理学研究科 数理科学専攻（修士課程）	12 (12)	10 (10)	3 (3)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	1 (1)	
	理学研究科 物理学専攻（修士課程）	13 (13)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	1 (1)	
	理学研究科 化学専攻（修士課程）	9 (9)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	
	工学研究科 電気電子工学専攻（修士課程）	31 (31)	11 (11)	6 (6)	2 (2)	50 (50)	0 (0)	5 (5)	
	工学研究科 応用理化学専攻（修士課程）	23 (23)	8 (8)	3 (3)	1 (1)	35 (35)	0 (0)	8 (8)	
	工学研究科 建築土木工学専攻（修士課程）	17 (17)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	26 (26)	0 (0)	10 (10)	
	工学研究科 機械工学専攻（修士課程）	26 (26)	11 (11)	7 (7)	1 (1)	45 (45)	0 (0)	2 (2)	
	工学研究科 医用生体工学専攻（修士課程）	8 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	5 (5)	
	情報通信学研究科 情報通信学専攻（修士課程）	19 (19)	10 (10)	1 (1)	0 (0)	30 (30)	0 (0)	4 (4)	
	海洋学研究科 海洋学専攻（修士課程）	35 (35)	20 (20)	4 (4)	0 (0)	59 (59)	0 (0)	6 (6)	
	医学研究科 医科学専攻（修士課程）	97 (97)	40 (40)	4 (4)	0 (0)	141 (141)	0 (0)	6 (6)	
	医学研究科 先端医科学専攻（博士課程）	98 (98)	37 (37)	3 (3)	0 (0)	138 (138)	0 (0)	4 (4)	
	健康科学研究科 看護学専攻（修士課程）	10 (10)	11 (11)	18 (18)	0 (0)	39 (39)	0 (0)	22 (22)	

教員組織の概要									
既設分	健康科学研究科 保健福祉学専攻（修士課程）	5 (5)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	1 (1)	
	農学研究科 農学専攻（修士課程）	16 (16)	5 (5)	5 (5)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	12 (12)	
	生物学研究科 生物学専攻（修士課程）	7 (7)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	
	計	732 (732)	264 (264)	74 (74)	10 (10)	1080 (1080)	0 (0)	— —	
合計		743 (743)	264 (264)	75 (75)	11 (11)	1093 (1093)	0 (0)	— —	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計
	事務職員	599 (599)	476 (476)	1,075 (1075)
	技術職員	59 (59)	15 (15)	74 (74)
	図書館専門職員	41 (41)	29 (29)	70 (70)
	その他の職員	19 (19)	56 (56)	75 (75)
	計	718 (718)	576 (576)	1,294 (1294)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	1,680,407.08 ㎡	2,052.88 ㎡	0.00 ㎡	1,682,459.96 ㎡	内借用地：57,586.20㎡
	運動場用地	396,797.97 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	396,797.97 ㎡	内借用地：47,855.12㎡
	小計	2,077,205.05 ㎡	2,052.88 ㎡	0.00 ㎡	2,079,257.93 ㎡	
	その他	316,979.76 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	316,979.76 ㎡	内借用地：153,717.23㎡
	合計	2,394,184.81 ㎡	2,052.88 ㎡	0.00 ㎡	2,396,237.69 ㎡	借用期間：2～30年

東海大学付属望星高等学校と共用

名称：東海大学付属望星高等学校（通信制）
収容定員：3,000名
校地面積基準：なし

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
	508,835.38 ㎡ (508,835.38 ㎡)	0.00 ㎡ (0.00 ㎡)	0.00 ㎡ (0.00 ㎡)	508,835.38 ㎡ (508,835.38 ㎡)

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	437 室	329 室	1,191 室	86 室 （補助職員 21 人）	7 室 （補助職員 0 人）	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数
	体育学研究科体育学専攻博士課程後期	13 室

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	体育学研究科 体育学専攻	25,390〔3,940〕 (24,630〔3,823〕)	4,051〔2,840〕 3,284〔2,081〕)	2,506〔2,403〕 (1,748〔1,647〕)	159 (152)	0〔0〕 (0〔0〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	体育学部と共用
	計	25,390〔3,940〕 (24,630〔3,823〕)	4,051〔2,840〕 3,284〔2,081〕)	2,506〔2,403〕 (1,748〔1,647〕)	159 (152)	0〔0〕 (0〔0〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	20,494 ㎡	3,568 席	2,248,166 冊	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		
	24,060.79 ㎡	トレーニングセンター	25mプール	大学全体

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		330千円	330千円	330千円	— 千円	— 千円	— 千円	研究科単位での算出不能なため、学部との合計
	共同研究費等		4,742千円	4,742千円	4,742千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	図書購入費	2,740千円	2,877千円	3,021千円	3,172千円	— 千円	— 千円	— 千円	図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
	設備購入費	4,510千円	4,510千円	4,510千円	4,510千円	— 千円	— 千円	— 千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,369千円	1,069千円	1,069千円	— 千円	— 千円	— 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常経費補助金、手数料等

既設大学等の状況

大学の名称	東海大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	備考
	年	人	年次人	人		倍			
文学部		**370**	**－**	**1,490**		**1.01**	**昭和25年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
文明学科	4	60	－	240	学士(文学)	1.03	平成13年	〃	
ｱｼﾞｱ文明学科	4	－	－	－	学士(文学)	－	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
ﾖｰﾛｯﾊﾟ文明学科	4	－	－	－	学士(文学)	－	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
ｱﾒﾘｶ文明学科	4	－	－	－	学士(文学)	－	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
北欧学科	4	－	－	－	学士(文学)	－	昭和42年	〃	平成30年度より学生募集停止
歴史学科		130	－	530		1.02	昭和35年	〃	
日本史専攻	4	50	－	210	学士(文学)	1.07	昭和58年	〃	
東洋史専攻	4	－	－	－	学士(文学)	－	昭和58年	〃	平成30年度より学生募集停止
西洋史専攻	4	50	－	200	学士(文学)	0.99	昭和58年	〃	
考古学専攻	4	30	－	120	学士(文学)	0.99	昭和58年	〃	
日本文学科	4	90	－	360	学士(文学)	1.01	平成13年	〃	
文芸創作学科	4	－	－	－	学士(文学)	－	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
英語文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	4	90	－	360	学士(文学)	1.00	昭和35年	〃	
広報ﾒﾃﾞｨｱ学科	4	－	－	－	学士(文学)	－	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
心理・社会学科	4	－	－	－	学士(文学)	－	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
文化社会学部		**450**	**－**	**1,350**		**1.01**	**平成30年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
ｱｼﾞｱ学科	4	70	－	210	学士(文化社会学)	1.03	平成30年	〃	
ﾖｰﾛｯﾊﾟ・ｱﾒﾘｶ学科	4	70	－	210	学士(文化社会学)	0.99	平成30年	〃	
北欧学科	4	60	－	180	学士(文化社会学)	1.02	平成30年	〃	
文芸創作学科	4	60	－	180	学士(文化社会学)	1.01	平成30年	〃	
広報ﾒﾃﾞｨｱ学科	4	100	－	300	学士(文化社会学)	1.01	平成30年	〃	
心理・社会学科	4	90	－	270	学士(文化社会学)	0.99	平成30年	〃	
政治経済学部		**480**	**－**	**1,890**		**1.00**	**昭和41年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
政治学科	4	160	－	630	学士(政治学)	1.03	昭和41年	〃	
経済学科	4	160	－	630	学士(経済学)	0.99	昭和41年	〃	
経営学科	4	160	－	630	学士(経営学)	0.99	昭和49年	〃	
法学部		**300**	**－**	**1,200**		**1.01**	**昭和61年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
法律学科	4	300	－	1,200	学士(法学)	1.01	昭和61年	〃	
教養学部		**330**	**－**	**1,320**		**1.03**	**昭和43年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
人間環境学科		160	－	640		1.01	昭和43年	〃	
自然環境課程	4	65	－	260	学士(教養学)	0.97	昭和44年	〃	
社会環境課程	4	95	－	380	学士(教養学)	1.01	昭和44年	〃	
芸術学科		90	－	360		1.02	昭和43年	〃	
音楽学課程	4	32	－	128	学士(教養学)	1.04	昭和44年	〃	
美術学課程	4	20	－	80	学士(教養学)	1.08	昭和44年	〃	
ﾃﾞｻﾞｲﾝ学課程	4	38	－	152	学士(教養学)	1.03	昭和44年	〃	
国際学科	4	80	－	320	学士(教養学)	1.09	昭和47年	〃	
体育学部		**480**	**－**	**1,880**		**1.01**	**昭和42年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
体育学科	4	110	－	430	学士(体育学)	0.97	昭和42年	〃	
競技ｽﾎﾟｰﾂ学科	4	140	－	550	学士(体育学)	1.03	平成16年	〃	
武道学科	4	60	－	235	学士(体育学)	1.02	昭和43年	〃	
生涯ｽﾎﾟｰﾂ学科	4	110	－	430	学士(体育学)	0.99	昭和46年	〃	
ｽﾎﾟｰﾂ･ﾚｼﾞｬｰﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	4	60	－	235	学士(体育学)	1.03	平成16年	〃	
健康学部		**200**	**－**	**600**		**1.02**	**平成30年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
健康ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	4	200	－	600	学士（健康ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学）	1.02	平成30年	〃	
理学部		**320**	**－**	**1,280**		**0.98**	**昭和39年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
数学科	4	80	－	320	学士(理学)	0.99	昭和39年	〃	
情報数理学科	4	80	－	320	学士(理学)	0.99	昭和49年	〃	
物理学科	4	80	－	320	学士(理学)	0.98	昭和39年	〃	
化学科	4	80	－	320	学士(理学)	0.98	昭和39年	〃	
情報理工学部		**200**	**－**	**800**		**1.03**	**平成13年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
情報科学科	4	100	－	400	学士(工学)	1.04	平成13年	〃	
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ応用工学科	4	100	－	400	学士(工学)	1.03	平成13年	〃	

既設大学等の状況

工学部		**1,390**	**－**	**5,630**		**1.01**	**昭和25年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
生命化学科	4	100	－	400	学士(工学)	0.99	平成13年	〃	
応用化学科	4	80	－	320	学士(工学)	1.00	平成13年	〃	
光・画像工学科	4	60	－	240	学士(工学)	1.02	平成18年	〃	
原子力工学科	4	40	－	160	学士(工学)	0.89	平成18年	〃	
電気電子工学科	4	140	－	560	学士(工学)	1.03	平成18年	〃	
材料科学科	4	80	－	320	学士(工学)	0.98	昭和41年	〃	
建築学科	4	200	－	800	学士(工学)	1.07	昭和41年	〃	
土木工学科	4	120	－	480	学士(工学)	1.05	昭和41年	〃	
精密工学科	4	80	－	320	学士(工学)	1.06	昭和46年	〃	
機械工学科	4	140	－	570	学士(工学)	0.99	昭和46年	〃	
動力機械工学科	4	150	－	650	学士(工学)	0.99	昭和46年	〃	
航空宇宙学科		140	－	570		0.99	昭和42年	〃	
航空宇宙学専攻	4	90	－	370	学士(工学)	1.03	昭和42年	〃	
航空操縦学専攻	4	50	－	200	学士(工学)	0.93	昭和42年	〃	
医用生体工学科	4	60	－	240	学士(工学)	1.04	平成22年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 神奈川県伊勢原市下糟屋143	
観光学部		**200**	**－**	**800**		**1.03**	**平成22年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1 東京都渋谷区富ヶ谷2-28-4	
観光学科	4	200	－	800	学士(観光学)	1.03	平成22年	〃	
情報通信学部		**320**	**－**	**1,280**		**1.02**	**平成20年**	東京都港区高輪2-3-23	
情報ﾒﾃﾞｨｱ学科	4	80	－	320	学士(工学)	1.00	平成20年	〃	
組込みｿﾌﾄｳｪｱ工学科	4	80	－	320	学士(工学)	1.07	平成20年	〃	
経営ｼｽﾃﾑ工学科	4	80	－	320	学士(工学)	1.00	平成20年	〃	
通信ﾈｯﾄﾜｰｸ工学科	4	80	－	320	学士(工学)	1.04	平成20年	〃	
海洋学部		**530**	**－**	**2,120**		**1.00**	**昭和37年**	静岡県静岡市清水区折戸3-20-1	
海洋文明学科	4	80	－	320	学士(海洋学)	1.00	平成16年	〃	
環境社会学科	4	80	－	320	学士(海洋学)	1.06	平成23年	〃	
海洋地球科学科	4	80	－	320	学士(海洋学)	1.01	平成23年	〃	
水産学科	4	120	－	480	学士(海洋学)	1.04	平成18年	〃	
海洋生物学科	4	90	－	360	学士(海洋学)	1.03	平成18年	〃	
航海工学科		80	－	320		0.83	平成23年	〃	
航海学専攻	4	20	－	80	学士(海洋学)	0.96	平成23年	〃	
海洋機械工学専攻	4	60	－	240	学士(海洋学)	0.78	平成23年	〃	
医学部		**203**	**－**	**960**		**0.90**	**昭和49年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1 神奈川県伊勢原市下糟屋143	
医学科	6	118	－	705	学士(医学)	0.88	昭和49年	〃	
看護学科	4	85	－	255	学士(看護学)	0.97	平成30年	〃	
健康科学部							**平成7年**	神奈川県伊勢原市下糟屋143	平成30年度より学生募集停止
看護学科	4	－	－	－	学士(看護学)	－	平成7年	〃	平成30年度より学生募集停止
社会福祉学科	4	－	－	－	学士(社会福祉学)	－	平成7年	〃	平成30年度より学生募集停止
経営学部		**230**	**－**	**920**		**0.99**	**平成25年**	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	
経営学科	4	150	－	600	学士(経営学)	1.04	平成25年	〃	
観光ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	4	80	－	320	学士(経営学)	0.92	平成25年	〃	
基盤工学部		**140**	**－**	**560**		**0.74**	**平成25年**	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	
電気電子情報工学科	4	80	－	320	学士(工学)	0.73	平成25年	〃	
医療福祉工学科	4	60	－	240	学士(工学)	0.77	平成25年	〃	
農学部		**230**	**－**	**920**		**0.89**	**平成20年**	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽	
応用植物科学科	4	80	－	320	学士(農学)	0.95	平成20年	〃	
応用動物科学科	4	80	－	320	学士(農学)	0.88	平成20年	〃	
ﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ学科	4	70	－	280	学士(農学)	0.86	平成20年	〃	
国際文化学部		**260**	**－**	**1,040**		**1.01**	**平成20年**	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
地域創造学科	4	110	－	440	学士(教養学)	1.05	平成20年	〃	
国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	4	80	－	320	学士(教養学)	1.05	平成20年	〃	
ﾃﾞｻﾞｲﾝ文化学科	4	70	－	280	学士(教養学)	0.89	平成24年	〃	
生物学部		**140**	**－**	**560**		**1.02**	**平成24年**	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
生物学科	4	70	－	280	学士(理学)	0.99	平成24年	〃	
海洋生物科学科	4	70	－	280	学士(理学)	1.05	平成24年	〃	

既設大学等の状況	≪大学院≫								
	総合理工学研究科							**平成17年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1　等
	総合理工学専攻　博士課程	3	35	―	105	博士(理学)・博士(工学)	0.45	平成17年	〃
	地球環境科学研究科							**平成17年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1　等
	地球環境科学専攻　博士課程	3	10	―	30	博士(理学)・博士(工学)	0.30	平成17年	〃
	生物科学研究科							**平成17年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1　等
	生物科学専攻　博士課程	3	10	―	30	博士(理学)・博士(農学) 博士(水産学)	0.10	平成17年	〃
	文学研究科							**昭和44年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1
	文明研究専攻　博士課程前期	2	8	―	16	修士(文学)	0.31	昭和49年	〃
	文明研究専攻　博士課程後期	3	4	―	12	博士(文学)	0.33	昭和51年	〃
	史学専攻　博士課程前期	2	8	―	16	修士(文学)	0.06	昭和44年	〃
	史学専攻　博士課程後期	3	4	―	12	博士(文学)	0.00	昭和46年	〃
	日本文学専攻　博士課程前期	2	8	―	16	修士(文学)	0.68	昭和49年	〃
	日本文学専攻　博士課程後期	3	4	―	12	博士(文学)	0.50	昭和51年	〃
	英文学専攻　博士課程前期	2	4	―	8	修士(文学)	0.00	昭和44年	〃
	英文学専攻　博士課程後期	3	2	―	6	博士(文学)	0.00	昭和46年	〃
	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学専攻　博士課程前期	2	8	―	16	修士(文学)	0.43	昭和49年	〃
	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学専攻　博士課程後期	3	4	―	12	博士(文学)	0.00	昭和51年	〃
	観光学専攻　修士課程	2	8	―	16	修士(観光学)	0.43	平成26年	〃
	政治学研究科							**昭和46年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1
	政治学専攻　博士課程前期	2	10	―	20	修士(政治学)	0.05	昭和46年	〃
	政治学専攻　博士課程後期	3	5	―	15	博士(政治学)	0.00	昭和48年	〃
	経済学研究科							**昭和54年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1
	応用経済学専攻　博士課程前期	2	10	―	20	修士(経済学)	0.10	昭和54年	〃
	応用経済学専攻　博士課程後期	3	5	―	15	博士(経済学)	0.00	昭和56年	〃
	法学研究科							**平成2年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1
	法律学専攻　博士課程前期	2	10	―	20	修士(法学)	0.00	平成2年	〃
	法律学専攻　博士課程後期	3	5	―	15	博士(法学)	0.00	平成5年	〃
	人間環境学研究科							**平成19年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1
	人間環境学専攻　修士課程	2	10	―	20	修士(学術)	0.40	平成19年	〃
	芸術学研究科							**昭和48年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1
	音響芸術専攻　修士課程	2	4	―	8	修士(芸術学)	0.37	昭和48年	〃
	造型芸術専攻　修士課程	2	4	―	8	修士(芸術学)	0.25	昭和48年	〃
	体育学研究科							**昭和51年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1
	体育学専攻　修士課程	2	15	―	30	修士(体育学)	1.33	昭和51年	〃
	理学研究科							**昭和43年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1
	数理科学専攻　修士課程	2	8	―	16	修士(理学)	0.43	昭和43年	〃
	物理学専攻　修士課程	2	12	―	24	修士(理学)	1.37	昭和43年	〃
	化学専攻　修士課程	2	12	―	24	修士(理学)	0.49	昭和43年	〃
	工学研究科							**昭和38年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1
	電気電子工学専攻　修士課程	2	50	―	100	修士(工学)	1.01	平成28年	〃
	応用理化学専攻　修士課程	2	45	―	90	修士(工学)	1.24	平成28年	〃
	建築土木工学専攻　修士課程	2	25	―	50	修士(工学)	1.10	平成28年	〃
	機械工学専攻　修士課程	2	75	―	150	修士(工学)	1.19	平成28年	〃
	医用生体工学専攻　修士課程	2	8	―	16	修士(工学)	0.37	平成26年	神奈川県伊勢原市下糟屋143
	情報通信学研究科							**平成24年**	東京都港区高輪2-3-23
	情報通信学専攻　修士課程	2	30	―	60	修士(情報通信学)	0.94	平成24年	〃
	海洋学研究科							**昭和42年**	静岡県静岡市清水区折戸3-20-1
	海洋学専攻　修士課程	2	20	―	40	修士(海洋学)	0.62	平成27年	〃

既設大学等の状況	**医学研究科**								**昭和55年**	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
	医科学専攻	修士課程	2	10	―	20	修士(医科学)	0.80	平成7年	〃	
	先端医科学専攻	博士課程	4	35	―	140	博士(医学)	0.49	平成17年	〃	
	健康科学研究科								**平成11年**	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
	看護学専攻	修士課程	2	10	―	20	修士(看護学)	0.85	平成11年	〃	
	保健福祉学専攻	修士課程	2	10	―	20	修士(保健福祉学)	0.30	平成11年	〃	
	農学研究科								**平成20年**	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽	
	農学専攻	修士課程	2	12	―	24	修士(農学)	0.87	平成20年	〃	
	生物学研究科								**平成31年**	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
	生物学専攻	修士課程	2	8	―	8	修士（理学）	0.25	平成31年	〃	
	大学の名称		東海大学短期大学部								
	学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
			年	人	年次 人	人		倍			
	食物栄養学科		**2**	―	―	―	短期大学士(食物栄養学)	―	**昭和41年**	静岡県静岡市葵区宮前町101	令和2年度より学生募集停止
	児童教育学科		**2**	―	―	―	短期大学士(児童教育学)	―	**昭和44年**	〃	令和2年度より学生募集停止
	大学の名称		東海大学医療技術短期大学								
	学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
			年	人	年次 人	人		倍			
	看護学科		**3**	―	―	―	短期大学士(看護学)	―	**昭和49年**	神奈川県平塚市北金目4-1-2	令和2年度より学生募集停止

附属施設の概要	名　　称：東海大学医学部付属病院 目　　的：医療機関 所 在 地：神奈川県伊勢原市下糟屋143 設置年月：昭和50年２月 規 模 等：土地 116,282.91㎡、建物 83,822.63㎡ 名　　称：東海大学医学部付属東京病院 目　　的：医療機関 所 在 地：東京都渋谷区代々木１－２－５ 設置年月：昭和58年12月 規 模 等：土地 2,498.45㎡、建物 7,550.91㎡ 名　　称：東海大学医学部付属大磯病院 目　　的：医療機関 所 在 地：神奈川県中郡大磯町月京21－１ 設置年月：昭和59年４月 規 模 等：土地 23,286.72㎡、建物 19,950.38㎡ 名　　称：東海大学医学部付属八王子病院 目　　的：医療機関 所 在 地：東京都八王子市石川町1838 設置年月：平成14年３月 規 模 等：土地 47,708.39㎡、建物 46,636.17㎡

学校法人東海大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度

東海大学

学　部	学科・専攻・課程		入学定員	編入学定員	収容定員	備考
文学部	文明学科		60	—	240	
	歴史学科	日本史専攻	50	—	200	
		西洋史専攻	50	—	200	
		考古学専攻	30	—	120	
	日本文学科		90	—	360	
	英語文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科		90	—	360	
文化社会学部	ｱｼﾞｱ学科		70	—	280	
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ・ｱﾒﾘｶ学科		70	—	280	
	北欧学科		60	—	240	
	文芸創作学科		60	—	240	
	広報ﾒﾃﾞｨｱ学科		100	—	400	
	心理・社会学科		90	—	360	
政治経済学部	政治学科		160	—	640	
	経済学科		160	—	640	
	経営学科		160	—	640	
法学部	法律学科		300	—	1200	
教養学部	人間環境学科	自然環境課程	65	—	260	
		社会環境課程	95	—	380	
	芸術学科	音楽学課程	32	—	128	
		美術学課程	20	—	80	
		ﾃﾞｻﾞｲﾝ学課程	38	—	152	
	国際学科		80	—	320	
体育学部	体育学科		110	—	440	
	競技ｽﾎﾟｰﾂ学科		140	—	560	
	武道学科		60	—	240	
	生涯ｽﾎﾟｰﾂ学科		110	—	440	
	ｽﾎﾟｰﾂ・ﾚｼﾞｬｰﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科		60	—	240	
健康学部	健康ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科		200	—	800	
理学部	数学科		80	—	320	
	情報数理学科		80	—	320	
	物理学科		80	—	320	
	化学科		80	—	320	
情報理工学部	情報科学科		100	—	400	
	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ応用工学科		100	—	400	
工学部	生命化学科		100	—	400	
	応用化学科		80	—	320	
	光・画像工学科		60	—	240	
	原子力工学科		40	—	160	
	電気電子工学科		140	—	560	
	材料科学科		80	—	320	
	建築学科		200	—	800	
	土木工学科		120	—	480	
	精密工学科		80	—	320	
	機械工学科		140	—	560	
	動力機械工学科		150	—	600	
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	90	—	360	
		航空操縦学専攻	50	—	200	
	医用生体工学科		60	—	240	
観光学部	観光学科		200	—	800	
情報通信学部	情報ﾒﾃﾞｨｱ学科		80	—	320	
	組込みｿﾌﾄｳｪｱ工学科		80	—	320	
	経営ｼｽﾃﾑ工学科		80	—	320	
	通信ﾈｯﾄﾜｰｸ工学科		80	—	320	
海洋学部	海洋文明学科		80	—	320	
	環境社会学科		80	—	320	
	海洋地球科学科		80	—	320	
	水産学科		120	—	480	
	海洋生物学科		90	—	360	
	航海工学科	航海学専攻	20	—	80	
		海洋機械工学専攻	60	—	240	
医学部	医学科		118	—	708	118名は令和3年度入学生まで
	看護学科		85	—	340	
経営学部	経営学科		150	—	600	
	観光ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科		80	—	320	
基盤工学部	電気電子情報工学科		80	—	320	
	医療福祉工学科		60	—	240	
農学部	応用植物科学科		80	—	320	
	応用動物科学科		80	—	320	
	ﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ学科		70	—	280	
国際文化学部	地域創造学科		110	—	440	
	国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科		80	—	320	
	ﾃﾞｻﾞｲﾝ文化学科		70	—	280	
生物学部	生物学科		70	—	280	
	海洋生物科学科		70	—	280	
計			6773	—	27328	

令和3年度

東海大学

学　部	学科・専攻・課程		入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
文学部	文明学科		60	—	240		
	歴史学科	日本史専攻	50	—	200		
		西洋史専攻	50	—	200		
		考古学専攻	30	—	120		
	日本文学科		90	—	360		
	英語文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科		90	—	360		
文化社会学部	ｱｼﾞｱ学科		70	—	280		
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ・ｱﾒﾘｶ学科		70	—	280		
	北欧学科		60	—	240		
	文芸創作学科		60	—	240		
	広報ﾒﾃﾞｨｱ学科		100	—	400		
	心理・社会学科		90	—	360		
政治経済学部	政治学科		160	—	640		
	経済学科		160	—	640		
	経営学科		160	—	640		
法学部	法律学科		300	—	1200		
教養学部	人間環境学科	自然環境課程	65	—	260		
		社会環境課程	95	—	380		
	芸術学科	音楽学課程	32	—	128		
		美術学課程	20	—	80		
		ﾃﾞｻﾞｲﾝ学課程	38	—	152		
	国際学科		80	—	320		
体育学部	体育学科		110	—	440		
	競技ｽﾎﾟｰﾂ学科		140	—	560		
	武道学科		60	—	240		
	生涯ｽﾎﾟｰﾂ学科		110	—	440		
	ｽﾎﾟｰﾂ・ﾚｼﾞｬｰﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科		60	—	240		
健康学部	健康ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科		200	—	800		
理学部	数学科		80	—	320		
	情報数理学科		80	—	320		
	物理学科		80	—	320		
	化学科		80	—	320		
情報理工学部	情報科学科		100	—	400		
	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ応用工学科		100	—	400		
工学部	生命化学科		100	—	400		
	応用化学科		80	—	320		
	光・画像工学科		60	—	240		
	原子力工学科		40	—	160		
	電気電子工学科		140	—	560		
	材料科学科		80	—	320		
	建築学科		200	—	800		
	土木工学科		120	—	480		
	精密工学科		80	—	320		
	機械工学科		140	—	560		
	動力機械工学科		150	—	600		
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	90	—	360		
		航空操縦学専攻	50	—	200		
	医用生体工学科		60	—	240		
観光学部	観光学科		200	—	800		
情報通信学部	情報ﾒﾃﾞｨｱ学科		80	—	320		
	組込みｿﾌﾄｳｪｱ工学科		80	—	320		
	経営ｼｽﾃﾑ工学科		80	—	320		
	通信ﾈｯﾄﾜｰｸ工学科		80	—	320		
海洋学部	海洋文明学科		80	—	320		
	環境社会学科		80	—	320		
	海洋地球科学科		80	—	320		
	水産学科		120	—	480		
	海洋生物学科		90	—	360		
	航海工学科	航海学専攻	20	—	80		
		海洋機械工学専攻	60	—	240		
医学部	医学科		118	—	708	118名は令和3年度入学生まで	
	看護学科		85	—	340		
経営学部	経営学科		150	—	600		
	観光ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科		80	—	320		
基盤工学部	電気電子情報工学科		80	—	320		
	医療福祉工学科		60	—	240		
農学部	応用植物科学科		80	—	320		
	応用動物科学科		80	—	320		
	ﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ学科		70	—	280		
国際文化学部	地域創造学科		110	—	440		
	国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科		80	—	320		
	ﾃﾞｻﾞｲﾝ文化学科		70	—	280		
生物学部	生物学科		70	—	280		
	海洋生物科学科		70	—	280		
計			6773	—	27328		

令和2年度

東海大学大学院

研究科	専攻		入学定員	編入学定員	収容定員	備考
総合理工学研究科	総合理工学専攻	（D）	35	—	105	
地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	（D）	10	—	30	
生物科学研究科	生物科学専攻	（D）	10	—	30	
文学研究科	文明研究専攻	（M）	8	—	16	
		（D）	4	—	12	
	史学専攻	（M）	8	—	16	
		（D）	4	—	12	
	日本文学専攻	（M）	8	—	16	
		（D）	4	—	12	
	英文学専攻	（M）	4	—	8	
		（D）	2	—	6	
	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学専攻	（M）	8	—	16	
		（D）	4	—	12	
	観光学専攻	（M）	8	—	16	
政治学研究科	政治学専攻	（M）	10	—	20	
		（D）	5	—	15	
経済学研究科	応用経済学専攻	（M）	10	—	20	
		（D）	5	—	15	
法学研究科	法律学専攻	（M）	10	—	20	
		（D）	5	—	15	
人間環境学研究科	人間環境学専攻	（M）	10	—	20	
芸術学研究科	音響芸術専攻	（M）	4	—	8	
	造型芸術専攻	（M）	4	—	8	
体育学研究科	体育学専攻	（M）	15	—	30	
理学研究科	数理科学専攻	（M）	8	—	16	
	物理学専攻	（M）	12	—	24	
	化学専攻	（M）	12	—	24	
工学研究科	電気電子工学専攻	（M）	50	—	100	
	応用理化学専攻	（M）	45	—	90	
	建築土木工学専攻	（M）	25	—	50	
	機械工学専攻	（M）	75	—	150	
	医用生体工学専攻	（M）	8	—	16	
情報通信学研究科	情報通信学専攻	（M）	30	—	60	
海洋学研究科	海洋学専攻	（M）	20	—	40	
医学研究科	医科学専攻	（M）	10	—	20	
	先端医科学専攻（4年制D）	（D）	35	—	140	
健康科学研究科	看護学専攻	（M）	10	—	20	
	保健福祉学専攻	（M）	10	—	20	
農学研究科	農学専攻	（M）	12	—	24	
生物学研究科	生物学専攻	（M）	8	—	16	
計			565	—	1288	

令和3年度

東海大学大学院

研究科	専攻		入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
総合理工学研究科	総合理工学専攻	（D）	35	—	105		
			0	**—**	**0**		**令和3年4月学生募集停止**
生物科学研究科	生物科学専攻	（D）	10	—	30		
文学研究科	文明研究専攻	（M）	8	—	16		
		（D）	4	—	12		
	史学専攻	（M）	8	—	16		
		（D）	4	—	12		
	日本文学専攻	（M）	8	—	16		
		（D）	4	—	12		
	英文学専攻	（M）	4	—	8		
		（D）	2	—	6		
	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学専攻	（M）	8	—	16		
		（D）	4	—	12		
	観光学専攻	（M）	8	—	16		
政治学研究科	政治学専攻	（M）	10	—	20		
		（D）	5	—	15		
経済学研究科	応用経済学専攻	（M）	10	—	20		
		（D）	5	—	15		
法学研究科	法律学専攻	（M）	10	—	20		
		（D）	5	—	15		
人間環境学研究科	人間環境学専攻	（M）	10	—	20		
芸術学研究科	音響芸術専攻	（M）	4	—	8		
	造型芸術専攻	（M）	4	—	8		
体育学研究科	体育学専攻	（M）	**20**	—	**40**		**定員変更（5）**
		（D）	**3**	—	**9**		**課程変更（認可申請）**
理学研究科	数理科学専攻	（M）	8	—	16		
	物理学専攻	（M）	12	—	24		
	化学専攻	（M）	12	—	24		
工学研究科	電気電子工学専攻	（M）	50	—	100		
	応用理化学専攻	（M）	45	—	90		
	建築土木工学専攻	（M）	25	—	50		
	機械工学専攻	（M）	75	—	150		
	医用生体工学専攻	（M）	8	—	16		
情報通信学研究科	情報通信学専攻	（M）	30	—	60		
海洋学研究科	海洋学専攻	（M）	20	—	40		
医学研究科	医科学専攻	（M）	10	—	20		
	先端医科学専攻（4年制D）	（D）	35	—	140		
健康科学研究科	看護学専攻	（M）	10	—	20		
	保健福祉学専攻	（M）	10	—	20		
農学研究科	農学専攻	（M）	12	—	24		
生物学研究科	生物学専攻	（M）	8	—	16		
計			**563**	—	**1277**		

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学研究科体育学専攻　博士課程後期）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
共通	スポーツ科学研究理論	1前	2			○			11		1	1		オムニバス
	スポーツ科学研究法Ａ	1後		2		○			1		1			オムニバス
	スポーツ科学研究法Ｂ	1後		2		○			1			1		オムニバス
	小計（３科目）	－	2	4		－			11	0	1	1		
専門	高度スポーツ文化社会科学特講	1前		2		○			3					オムニバス・共同（一部）
	高度スポーツ医科学特講	1前		2		○			4					オムニバス・共同（一部）
	高度実践スポーツ科学特講	1前		2		○			4					オムニバス・共同（一部）
	高度スポーツ文化社会科学演習	1後		2			○		3					オムニバス・共同（一部）
	高度スポーツ医科学演習	1後		2			○		4					オムニバス・共同（一部）
	高度実践スポーツ科学演習	1後		2			○		4					オムニバス・共同（一部）
	小計（６科目）			12		－			11	0	0	0		
特別研究	体育・スポーツ科学特別研究１	2前	2				○		11		1	1		
	体育・スポーツ科学特別研究２	2後	2				○		11		1	1		
	体育・スポーツ科学特別研究３	3前	2				○		11		1	1		
	体育・スポーツ科学特別研究４	3後	2				○		11		1	1		
	小計（４科目）	－	8	0		－			11	0	1	1		
合計（１３科目）		－	10	16		－			11	0	1	1		

学位又は称号	博士（体育学）	学位又は学科の分野	体育関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
共通から「スポーツ科学研究理論」を含め４単位以上修得し、且つ研究指導を受ける教員が担当する「体育・スポーツ科学特別研究１，２，３，４」を必修とし、合計１６単位以上を修得して、博士論文の審査並びに最終試験に合格すること。	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１４週
	１時限の授業時間	１００分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学研究科体育学専攻　修士課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
共通	体育学研究総論	1前	2			○			12	1	2			オムニバス
	体育学研究法Ａ	1前	2			○			3					オムニバス
	体育学研究法Ｂ	1後	2			○			1					
	体育学文献講読	1後		2		○			1					
	体育学特論Ａ	1前・2後		2		○			2					共同
	体育学特論Ｂ	1後・2後		2		○			1					
	体育学特論Ｃ	1前・2前		2		○			1					
	体育学特論Ｄ	1後・2後		2		○						1		
	小計（８科目）	－	6	10	0	－			12	1	2	1	0	
スポーツ文化社会科学領域	体育哲学特論	1前・2前		2		○			1					
	体育哲学演習	1後・2後		2		○			1					
	スポーツ社会学特論	1前・2前		2		○					1			
	スポーツ社会学演習	1後・2後		2			○				1			
	スポーツ史特論	1前・2前		2		○			1					
	スポーツ史演習	1後・2後		2			○		1					
	スポーツ心理学特論	1前・2前		2		○				1				
	スポーツ心理学特別実習	1後・2後		2				○		1				
	応用スポーツ心理学特論	1前・2前		2		○			1					
	応用スポーツ心理学特別実習	1後・2後		2				○	1					
	小計（１０科目）	－	0	20	0	－			3	1	1	0	0	
スポーツ医科学領域	運動生理学特論	1前・2前		2		○			1					
	運動生理学特別実習	1後・2後		2				○	1					
	スポーツバイオメカニクス特論	1後・2後		2		○			1					
	スポーツバイオメカニクス特別実習	1前・2前		2				○	1					
	スポーツ医学特論	1前・2前		2		○			2					オムニバス
	スポーツ医学特別実習	1後・2後		2				○	1					
	体力学特論	1後・2後		2		○			1					
	体力学特別実習	1前・2前		2				○	1					
	小計（８科目）	－	0	16	0	－			5	0	0	0	0	
実践スポーツ科学領域	武道学特論	1後・2後		2		○			4					オムニバス
	武道学特別実習	1前・2前		2				○	2					オムニバス
	スポーツ方法学特論	1前・2前		2		○			1					
	スポーツ方法学特別実習	1後・2後		2				○	1					
	生涯スポーツ特論	1前・2前		2		○			1					
	生涯スポーツ演習	1後・2後		2			○		1					
	スポーツ＆レジャー特論	1前・2前		2		○			1			1		共同
	スポーツ＆レジャー演習	1後・2後		2			○		1					
	スポーツマネジメント特論	1前・2前		2		○					1			
	スポーツマネジメント演習	1後・2後		2			○		1					
	健康教育学特論	1前・2前		2		○			1					
	健康教育学演習	1後・2後		2			○							
	スポーツ運動学特論	1前・2前		2		○			1					
	スポーツ運動学演習	1後・2後		2			○		1					
	コーチング特論	1前・2前		2		○			1					
	コーチング特別実習	1後・2後		2				○						共同
	トレーニング特論	1後・2後		2		○			1					
	トレーニング特別実習	1前・2前		2				○	1					
	保健体育科教育学特論	1前・2前		2		○			1					
	保健体育科教育学演習	1後・2後		2			○		1					
	小計（２０科目）	－	0	40	0	－			15	0	1	1	0	
研究ゼミナール	体育学研究１	1前	2				○		18	1	2			
	体育学研究２	1後	2				○		18	1	2			
	体育学研究３	2前	2				○		18	1	2			
	体育学研究４	2後	2				○		18	1	2			
	小計（４科目）	－	8	0	0	－			18	1	2	0	0	
合計（５０科目）		－	14	86		－			28	1	2	2	0	

学位又は称号	修士（体育学）	学位又は学科の分野	体育関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
修了には下記の要件をすべて満たすこと。 １．「体育学研究総論」「体育学研究法Ａ」「体育学研究法Ｂ」および研究指導を受ける教員が担当する「体育学研究１・２・３・４」を修得すること。 ２．合計30単位以上を修得すること。 ３．修士論文の審査、並びに最終試験に合格すること。	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１４週
	１時限の授業時間	１００分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部体育学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
論Ⅰ現代文明		現代文明論	2後	2			○								兼18	オムニバス
		小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼18	
Ⅱ現代教養科目	基礎教養科目	人文科学	1後	2			○								兼4	オムニバス
		社会科学	1前	2			○								兼4	オムニバス
		自然科学	1前	2			○								兼4	オムニバス
		小計（3科目）	－	6	0	0	－			0	0	0	0	0	兼12	
	発展教養科目	シティズンシップ	1後	1			○								兼5	
		ボランティア	1後	1			○								兼5	
		地域理解	1前	1			○								兼3	
		国際理解	1前	1			○								兼3	オムニバス
		小計（4科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼15	
	健康スポーツ科目	健康・フィットネス理論実習	1前	1					○						兼3	共同
		生涯スポーツ理論実習	1後	1					○						兼6	共同
		小計（2科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼8	
Ⅲ英語科目	英語コミュニケーション科目	英語リスニング＆スピーキング	1前	2					○						兼20	
		英語リーディング＆ライティング	1後	2					○						兼20	
		小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼35	
	グローバル人材育成科目	グローバルスキル	2後	2					○						兼16	
		アカデミック英語	2前	2					○						兼16	
		小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼31	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部体育学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅳ主専攻科目（学部共通科目）	身体教育学	体育・スポーツ総論	1後	2			○			3					兼12	オムニバス
		体育哲学	1前	2			○			1						
		体育経営管理学	1・2前・後		2		○								兼1	
		健康学概論	2後		2		○								兼1	
		武道概論	2後		2		○								兼2	
		生涯スポーツ概論	2前		2		○								兼1	
		レジャー・レクリエーション概論	1前		2		○								兼1	
		小計（7科目）	－	4	10	0	－			3	0	0	0	0	兼17	
	スポーツ科学	スポーツ社会学	2前	2			○					1				
		スポーツ史	1・2前・後		2		○			1					兼1	
		スポーツ心理学	1・2前・後		2		○								兼2	
		スポーツ運動学（運動方法学を含む）	2前・後		2		○			1					兼1	
		スポーツバイオメカニクス	2前・後		2		○			2						
		スポーツ栄養学	1・2前・後		2		○								兼1	
		スポーツ人類学	3後		2		○								兼1	
		スポーツ医学	3前		2		○								兼1	
		アダプテッド・スポーツ概論	3後		2		○			1						
		小計（9科目）	－	2	16	0	－			5	0	1	0	0	兼6	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部体育学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
Ⅳ主専攻科目（学部共通科目）	スポーツ指導法	体つくり運動 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○	1						
		器械運動 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		陸上競技 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼4	共同
		水泳 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		バスケットボール 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		ハンドボール 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼2	
		サッカー 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼2	
		ラグビー 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼2	
		バレーボール 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼2	
		卓球　理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		テニス 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		バドミントン 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		ソフトボール 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		柔道 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼2	
		剣道 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼3	
		ダンス 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		小計（16科目）	－	0	16	0	－			1	0	0	0	0	兼25	
	基礎関連科目	解剖学	1前・後		2		○			1					兼2	
		発育発達老化論	3前		2		○			1						
		スポーツ統計	3前・後		2		○			1						
		スポーツ産業概論	3後		2		○								兼1	
		小計（4科目）	－	0	8	0	－			3	0	0	0	0	兼3	
	教職関連科目	保健授業論	2前		2		○			1						
		体育授業論	2後		2		○			1						
		保健体育科教育法1	3前		2		○			2						共同
		保健体育科教育法2	3後		2		○			2						共同
		保健体育科教材論	3前・後		2		○			2						共同
		保健体育科教育実践論	3後		2		○			1						
		小計（6科目）	－	0	12	0	－			4	0	0	0	0		

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部体育学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅳ主専攻科目（学科開講科目）	体育学専門基礎	体育・スポーツ科学基礎ゼミナール	1前	2			○			3						共同
		体育・スポーツ科学入門	1後	2			○			10		1				オムニバス
		基礎身体運動実習A	1前・後	1					○	2						オムニバス
		基礎身体運動実習B	1前・後	1					○	3		1				オムニバス
		体育・スポーツ科学研究法	1後		2		○			1		1				オムニバス
		情報処理	1前・後		2		○								兼2	
		生理学	1後	2			○								兼1	
		運動生理学	2後	2			○								兼1	
		小計（8科目）	－	10	4	0	－			10	0	1	0	0	兼4	
	保健体育科教育学	衛生学（労働衛生を含む）	3前		2		○								兼1	
		公衆衛生学	3前		2		○								兼1	
		学校保健概論（小児保健・精神保健・学校安全を含む）	3前		2		○								兼1	
		救急処置法	3前		2		○								兼1	
		学校体育概論	2後		2		○			1						
		学校保健の指導論	2前		2		○			1						
		保健授業の基礎	2後		2		○			3						オムニバス
		体育授業の基礎	2前		2		○			1						
		保健体育授業づくり演習	3前		2			○		2						共同
		教職基礎演習	3後		2			○							兼1	
		保健体育学習指導法実習 A	3前		2				○	1						
		保健体育学習指導法実習 B	3後		2				○	1						
		小計（12科目）	－	0	24	0	－			4	0	0	0	0	兼4	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部体育学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
Ⅳ主専攻科目（学科開講科目）	スポーツ科学	スポーツ人文社会科学の基礎	2前		2		○			2		1				オムニバス
		社会調査法	2後		2		○			1		1				
		スポーツ人文社会科学実習A	3前		2				○	1						
		スポーツ人文社会科学実習B	3後		2				○	1						
		身体運動科学の基礎	2前		2		○			1						
		実験計画法	2後		2		○			1						
		スポーツバイオメカニクス実験Ａ	3前		2				○	3						共同
		スポーツバイオメカニクス実験Ｂ	3後		2				○	3						共同
		小計（8科目）	－	0	16	0	－			5	0	1	0	0		
	アウトドアスポーツ関連領域	アウトドアスポーツ 理論及び実習A	1後・休		2				○	2					兼7	共同
		アウトドアスポーツ 理論及び実習B	2休		1				○	2					兼7	共同、集中
		アウトドアスポーツ 理論及び実習C	2休		1				○	2					兼3	共同、集中
		アウトドアスポーツ 理論及び実習D	3休		1				○	2					兼3	共同、集中
		海外アウトドアスポーツ 理論及び実習１	2・3休		2				○	1					兼1	共同、集中
		海外アウトドアスポーツ 理論及び実習２	2・3前・後		2				○	1					兼1	共同、集中
		小計（6科目）	－	0	9	0	－			3	0	0	0	0	兼8	
	体育・スポーツ科学研究	研究発表の技法	3後		2		○			1						
		体育・スポーツ科学研究ゼミナール１	3前	2				○		11		1				
		体育・スポーツ科学研究ゼミナール２	3後	2				○		11		1				
		体育・スポーツ科学研究ゼミナール３	4前	2				○		11		1				
		体育・スポーツ科学研究ゼミナール４	4後	2				○		11		1				
		小計（5科目）	－	8	2	0	－			11	0	1	0	0	0	
合計（95科目）			－	46	117	0	－			11	0	1	0	0	兼170	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部体育学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	学士（体育学）		学位又は学科の分野			体育関係								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
以下の合計で124単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：24単位（１学期）） □科目区分Ⅰ現代文明論　（必修科目）　2単位修得 □科目区分Ⅱ現代教養科目（必修科目）　12単位修得 □科目区分Ⅲ英語科目　（必修科目）　8単位修得 □科目区分Ⅳ主専攻科目　72単位修得 ＜必修科目＞ ■学部共通　6単位修得 ■学科開講　18単位修得 ＜選択必修科目＞ ■学部共通　8単位修得 ■学科開講　1単位修得 ＜選択科目＞ ■学部共通　10単位修得 ■学科開講　29単位修得 □科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位　30単位修得 合計124単位修得	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１４週
	１時限の授業時間	１００分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部競技スポーツ学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅰ現代文明論		現代文明論	2後	2			○					1	1		兼16	オムニバス
		小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	1	1	0	兼16	
Ⅱ現代教養科目	基礎教養科目	人文科学	1前	2			○								兼4	オムニバス
		社会科学	1前	2			○								兼4	オムニバス
		自然科学	1後	2			○								兼4	オムニバス
		小計（3科目）	－	6	0	0	－			0	0	0	0	0	兼12	
	発展教養科目	シティズンシップ	1前	1			○								兼5	
		ボランティア	1前	1			○								兼5	
		地域理解	1後	1			○								兼4	
		国際理解	1後	1			○								兼4	オムニバス
		小計（4科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼16	
	健康スポーツ科目	健康・フィットネス理論実習	1前	1					○						兼2	共同
		生涯スポーツ理論実習	1後	1					○						兼6	共同
		小計（2科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼8	
Ⅲ英語科目	英語コミュニケーション科目	英語リスニング＆スピーキング	1前	2					○						兼17	
		英語リーディング＆ライティング	1後	2					○						兼17	
		小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼28	
	グローバル人材育成科目	グローバルスキル	2後	2					○						兼16	
		アカデミック英語	2前	2					○						兼16	
		小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼31	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部競技スポーツ学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅳ主専攻科目（学部共通科目）	身体教育学	体育・スポーツ総論	1後	2			○			2	1				兼12	オムニバス
		体育哲学	1前	2			○								兼1	
		体育経営管理学	1・2前・後		2		○								兼1	
		健康学概論	2後		2		○								兼1	
		武道概論	2後		2		○								兼2	
		生涯スポーツ概論	2前		2		○								兼1	
		レジャー・レクリエーション概論	1前		2		○								兼1	
		小計（7科目）	－	4	10	0	－			2	1	0	0	0	兼17	
	スポーツ科学	スポーツ社会学	2前	2			○								兼1	
		スポーツ史	1・2前・後		2		○								兼2	
		スポーツ心理学	1・2前・後		2		○			1					兼1	
		スポーツ運動学（運動方法学を含む）	2前・後		2		○			1					兼1	
		スポーツバイオメカニクス	2前・後		2		○								兼2	
		スポーツ栄養学	1・2前・後		2		○								兼1	
		スポーツ人類学	3後		2		○								兼1	
		スポーツ医学	3前		2		○								兼1	
		アダプテッド・スポーツ概論	3後		2		○								兼1	
		小計（9科目）	－	2	16	0	－			2	0	0	0	0	兼10	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部競技スポーツ学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
Ⅳ主専攻科目（学部共通科目）	スポーツ指導法	体つくり運動 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		器械運動 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○			1				
		陸上競技 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○	2	1	1				共同
		水泳 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		バスケットボール 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○	1						
		ハンドボール 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○	2						
		サッカー 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○		1	1				
		ラグビー 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○	1	1					
		バレーボール 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○		1		1			
		卓球　理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		テニス 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		バドミントン 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		ソフトボール 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		柔道 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼2	
		剣道 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼3	
		ダンス 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		小計（16科目）	－	0	16	0	－			6	4	3	1	0	兼12	
	基礎関連科目	解剖学	1前・後		2		○				1				兼2	
		発育発達老化論	3前		2		○								兼1	
		スポーツ統計	3前・後		2		○								兼1	
		スポーツ産業概論	3後		2		○								兼1	
		小計（4科目）	－	0	8	0	－			0	1	0	0	0	兼5	
	教職関連科目	保健授業論	2前		2		○								兼1	
		体育授業論	2後		2		○								兼1	
		保健体育科教育法1	3前		2		○								兼2	共同
		保健体育科教育法2	3後		2		○								兼2	共同
		保健体育科教材論	3前・後		2		○								兼2	共同
		保健体育科教育実践論	3後		2		○								兼1	
		小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼4	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部競技スポーツ学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅳ主専攻科目（学科開講科目）	競技スポーツ基礎領域	競技スポーツ入門	1前	2			○			2	1					共同
		スポーツ方法論	1後	2			○			1						
		基礎身体運動演習	1前・1後	2				○		2		1				共同
		生理学	2前	2			○								兼1	
		運動生理学	2後	2			○								兼1	
		情報処理	1後		2		○								兼3	
		競技スポーツ海外実習	1前・後		2				○	1	2					共同
		トレーニング論	2後		2		○			1						
		スポーツ栄養学特講	2前		2		○								兼1	
		スポーツ心理学特講	2前		2		○			1						
		スポーツ医学特講	2後		2		○								兼2	オムニバス
		アスリート論	2前		2		○			1						
		コーチング論	2前		2		○			1	1					オムニバス
		アスレティックトレーニング概論	2前		2		○				1					
		小計（14科目）	－	10	18	0	－			7	4	1	0	0	兼8	
	アスリート領域	競技スポーツ理論及び実習1-1	1前		2				○	7	4	3	1		兼8	共同
		競技スポーツ理論及び実習1-2	1後		2				○	7	4	3	1		兼9	共同
		競技スポーツ理論及び実習2-1	2前		2				○	7	4	3	1		兼8	共同
		競技スポーツ理論及び実習2-2	2後		2				○	7	4	3	1		兼9	共同
		競技スポーツ理論及び実習3-1	3前		2				○	7	4	3	1		兼8	共同
		競技スポーツ理論及び実習3-2	3後		2				○	7	4	3	1		兼9	共同
		競技スポーツ理論及び実習4-1	4前		2				○	7	4	3	1		兼8	共同
		競技スポーツ理論及び実習4-2	4後		2				○	7	4	3	1		兼9	共同
		スポーツ戦術実習1-1	1前		1				○	5	4	1	1		兼6	共同
		スポーツ戦術実習1-2	1後		1				○	5	4	1	1		兼6	共同
		スポーツ戦術実習2-1	2前		1				○	5	4	1	1		兼6	共同
		スポーツ戦術実習2-2	2後		1				○	5	4	1	1		兼6	共同
		スポーツ戦術実習3-1	3前		1				○	5	4	1	1		兼6	共同

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部競技スポーツ学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
Ⅳ主専攻科目（学科開講科目）	アスリート領域	スポーツ戦術実習3-2	3後		1				○	5	4	1	1		兼6	共同
		スポーツ戦術実習4-1	4前		1				○	5	4	1	1		兼6	共同
		スポーツ戦術実習4-2	4後		1				○	5	4	1	1		兼6	共同
		小計（16科目）	－	0	24	0	－			7	4	3	1	0	兼9	
	コーチング領域	スピードトレーニング理論及び実習	2前		1				○	1						
		ストレングストレーニング理論及び実習	2後		1				○						兼1	
		コーディネーショントレーニング理論及び実習	2前		1				○		1	1				共同
		エンデュランストレーニング理論及び実習	2後		1				○		2					共同
		メンタルトレーニング理論及び実習	2後		1				○	1						
		コーチング理論及び実習1	2前		1				○			3	1			共同
		コーチング理論及び実習2	2後		1				○			3	1			共同
		チームマネジメント論	3後		2		○			1						
		トレーニング測定評価演習	2後		2			○			1					
		スポーツパフォーマンス分析実習	3前		2				○			1				
		コーチング演習1	3前		2			○			1					
		コーチング演習2	3後		2			○			1					
		コーチング実践論１	3前		2		○			1						
		コーチング実践論２	3後		2		○									
		小計（14科目）	－	0	21	0	－			4	4	4	1	0	兼1	
	トレーナー領域	アスレティックトレーナー理論及び実習	2後		1				○		1					
		コンディショニング概論	2前		2		○				1				兼2	オムニバス
		スポーツマッサージ理論及び実習	2前・後		1				○		1				兼1	
		テーピング理論及び実習	2後		1				○		1				兼1	
		コンディショニング実習	2後		2				○		1					
		リハビリテーション理論及び実習	3前		2				○		1				兼2	共同
		アスレティックトレーナー演習1	3前		2			○			1					
		アスレティックトレーナー演習2	3後		2			○			1					
		小計（8科目）	－	0	13	0	－			0	1	0	0	0	兼5	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部競技スポーツ学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅳ主専攻科目（学科開講科目）	競技スポーツ研究領域	競技スポーツ研究ゼミナール1	3前	2				○		7	6	3	0	0		
		競技スポーツ研究ゼミナール2	3後	2				○		7	8	3	0	0		
		競技スポーツ研究ゼミナール3	4前	2				○		7	8	3	0	0		
		競技スポーツ研究ゼミナール4	4後	2				○		7	8	3	0	0		
		小計（4科目）	－	8	0	0	－			7	8	3	0	0		
	アウトドアスポーツ領域	海外アウトドアスポーツ 理論及び実習１	2・3休		2				○						兼2	共同、集中
		海外アウトドアスポーツ 理論及び実習２	2・3前・後		2				○						兼2	共同、集中
		アウトドアスポーツ 理論及び実習A	1後・休		2				○	1					兼8	共同
		アウトドアスポーツ 理論及び実習B	2休		1				○	1					兼8	共同、集中
		アウトドアスポーツ 理論及び実習C	2休		1				○						兼5	共同、集中
		アウトドアスポーツ 理論及び実習D	3休		1				○						兼5	共同、集中
		小計（6科目）	－	0	9	0	－			1	0	0	0	0	兼9	
	教職関連領域	衛生学（労働衛生を含む）	2後・3前		2		○								兼1	
		公衆衛生学	3後・後		2		○								兼1	
		学校保健概論（小児保健・精神保健・学校安全を含む）	1前・後		2		○								兼1	
		救急処置法	3前・後		2		○								兼1	
		小計（4科目）	－	0	8	0	－			0	0		0	0	兼3	
合計（122科目）			－	46	155	0	－			8	6	4	1	0	兼157	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部競技スポーツ学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	学士（体育学）		学位又は学科の分野			体育関係								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
以下の合計で124単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：24単位（１学期）） □科目区分Ⅰ現代文明論　（必修科目）　2単位修得 □科目区分Ⅱ現代教養科目（必修科目）　12単位修得 □科目区分Ⅲ英語科目　（必修科目）　8単位修得 □科目区分Ⅳ主専攻科目　72単位修得 ＜必修科目＞ ■学部共通　6単位修得 ■学科開講　18単位修得 ＜選択必修科目＞ ■学部共通　6単位修得 ＜選択科目＞ ■学部共通　10単位修得 ■学科開講　32単位修得 □科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位　30単位修得 合計124単位修得	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１４週
	１時限の授業時間	１００分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部武道学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
Ⅰ現代文明論		現代文明論	2後	2			○								兼18	オムニバス
		小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼18	
Ⅱ現代教養科目	基礎教養科目	人文科学	1前	2			○								兼4	オムニバス
		社会科学	1前	2			○								兼4	オムニバス
		自然科学	1後	2			○								兼4	オムニバス
		小計（3科目）	－	6	0	0	－			0	0	0	0	0	兼12	
	発展教養科目	シティズンシップ	1前	1			○								兼5	
		ボランティア	1前	1			○								兼5	
		地域理解	1後	1			○								兼3	
		国際理解	1後	1			○								兼3	オムニバス
		小計（4科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼15	
	健康スポーツ科目	健康・フィットネス理論実習	1前	1					○						兼2	共同
		生涯スポーツ理論実習	1後	1					○						兼6	共同
		小計（2科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼8	
Ⅲ英語科目	英語コミュニケーション科目	英語リスニング＆スピーキング	1後	2					○						兼21	
		英語リーディング＆ライティング	1前	2					○						兼21	
		小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼32	
	グローバル人材育成科目	グローバルスキル	2後	2					○						兼16	
		アカデミック英語	2前	2					○						兼16	
		小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼31	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部武道学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅳ主専攻科目（学部共通科目）	身体教育学	体育・スポーツ総論	1後	2			○			2	2				兼11	オムニバス
		体育哲学	1前	2			○								兼1	
		体育経営管理学	1・2前・後		2		○								兼1	
		健康学概論	2後		2		○								兼1	
		武道概論	2後		2		○			2						
		生涯スポーツ概論	2前		2		○								兼1	
		レジャー・レクリエーション概論	1前		2		○								兼1	
		小計（7科目）	－	4	10	0	－			3	2	0	0	0	兼15	
	スポーツ科学	スポーツ社会学	2前	2			○								兼1	
		スポーツ史	1・2前・後		2		○								兼2	
		スポーツ心理学	1・2前・後		2		○								兼2	
		スポーツ運動学（運動方法学を含む）	2前・後		2		○								兼2	
		スポーツバイオメカニクス	2前・後		2		○								兼2	
		スポーツ栄養学	1・2前・後		2		○								兼1	
		スポーツ人類学	3後		2		○								兼1	
		スポーツ医学	3前		2		○			1						
		アダプテッド・スポーツ概論	3後		2		○								兼1	
		小計（9科目）	－	2	16	0	－			1	0	0	0	0	兼11	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部武道学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
Ⅳ主専攻科目（学部共通科目）	スポーツ指導法	体つくり運動 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		器械運動 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		陸上競技 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼4	共同
		水泳 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		バスケットボール 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		ハンドボール 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼2	
		サッカー 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼2	
		ラグビー 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼2	
		バレーボール 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼2	
		卓球　理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		テニス 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		バドミントン 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		ソフトボール 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		柔道 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○	1	1					
		剣道 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○		3					
		ダンス 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		小計（16科目）	－	0	16	0	－			1	4	0	0	0	兼30	
	基礎関連科目	解剖学	1前・後		2		○								兼3	
		発育発達老化論	3前		2		○								兼1	
		スポーツ統計	3前・後		2		○								兼1	
		スポーツ産業概論	3後		2		○								兼1	
		小計（4科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼6	
	教職関連科目	保健授業論	2前		2										兼1	
		体育授業論	2後		2										兼1	
		保健体育科教育法1	3前		2										兼2	共同
		保健体育科教育法2	3後		2										兼2	共同
		保健体育科教材論	3前・後		2										兼2	共同
		保健体育科教育実践論	3後		2										兼1	
		小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼4	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部武道学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
Ⅳ主専攻科目（学科開講科目）	武道学基幹科目	武道文化論	1前	2			○			1	1					オムニバス
		プレゼミナール	1前	2			○			2	5	1				オムニバス
		武道基礎実習	1前・後	1					○	1	1					共同
		日本刀講義	1前・後		2		○								兼1	
		武道科学概論	2前	2						1	1					
		武道専門書講読	2後		2		○			2	1					
		小計（6科目）	－	7	4	0	－			5	5	1	0	0	兼1	
	研究ゼミナール	武道研究ゼミナール１	4前	2				○		4	5	1				
		武道研究ゼミナール２	4後	2				○		4	5	1				
		小計（2科目）	－	4	0	0	－			4	5	1	0	0		
	武道学関連科目	整復概論	3前		2		○								兼1	
		武道学研究法	3前		2		○			1	1				兼2	共同
		武道学実験	3後		2				○	1	1				兼2	共同
		武道特別実習１	3前		1				○	1						
		武道特別実習２	3後		1				○	1						
		小計（5科目）	－	0	8	0	－			2	1	0	0	0	兼4	
	武道実技科目	武道実習Ａ（合気道）	2前		1				○						兼1	
		武道実習Ｂ（空手道）	1前		1				○						兼1	
		武道実習Ｃ（弓道）	3前		1				○						兼1	
		武道実習Ｄ（居合道）	1後		1				○						兼1	
		武道実習Ｅ（杖道）	2前		1				○	1					兼1	
		小計（5科目）	－	0	5	0	－			1	0	0	0	0	兼5	
	武道基礎領域	情報処理	1後		2		○								兼1	
		生理学	1後	2			○								兼1	
		運動生理学	4後	2			○								兼1	
		衛生学（労働衛生を含む）	2後・3前		2		○								兼1	
		公衆衛生学	3後・後		2		○								兼1	
		学校保健概論（小児保健・精神保健・学校安全を含む）	1前・後		2		○								兼1	
		救急処置法	3前・後		2		○								兼1	
		小計（7科目）	－	4	10	0	－			0	0	0	0	0	兼6	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部武道学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
Ⅳ主専攻科目（学科開講科目）	アウトドアスポーツ領域	海外アウトドアスポーツ 理論及び実習１	2・3休		2				○						兼2	共同、集中
		海外アウトドアスポーツ 理論及び実習２	2・3前・後		2				○						兼2	共同、集中
		アウトドアスポーツ 理論及び実習A	1後・休		2				○		1				兼8	共同、集中
		アウトドアスポーツ 理論及び実習B	2休		1				○		1				兼8	共同、集中
		アウトドアスポーツ 理論及び実習C	2休		1				○						兼5	共同、集中
		アウトドアスポーツ 理論及び実習D	3休		1				○						兼5	共同、集中
		小計（6科目）	－	0	9	0	－			0	1	0	0	0	兼9	
	武道学基幹科目	柔道論	3後	2			○			3	1	1				オムニバス
		柔道史	1後	2			○			1	1					
		柔道指導論	3前	2			○			1						
		柔道指導法演習	3後		2			○		1						
		剣道論	3後	2			○			1						
		剣道史	1後	2			○			1	1					
		剣道指導論	３前	2			○				1					
		剣道指導法演習	3前		2			○			1					
		小計（8科目）	－	12	4	0	－			4	4	1	0	0		
	武道実技科目	剣道実習	1後		1				○	1	2					
		投の形	1前		1				○	1	1					共同
		固の形	1後		1				○		1				兼1	共同
		柔の形	2前		1				○			1			兼1	共同
		極の形	2後		1				○			1			兼1	共同
		古式の形	3前		1				○	1						
		護身術の形	3後		1				○	1						
		柔道形指導法１	4前		1				○	1	1					共同
		柔道形指導法２	4後		1				○	1	1					共同
		柔道特別実習１	1前		1				○	2						共同
		柔道特別実習２	1後		1				○			1				
		柔道特別実習３	2前		1				○	1		1			兼1	共同
		柔道特別実習４	2後		1				○		2					共同

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部武道学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
Ⅳ主専攻科目（学科開講科目）	武道実技科目	柔道特別実習５	3前		1				○			1				
		柔道特別実習６	3後		1				○	2						共同
		柔道特別実習７	4前		1				○		2					共同
		柔道特別実習８	4後		1				○	1		1			兼1	共同
		柔道実習	1後		1				○	1	2	1				オムニバス
		日本剣道形１	1前		1				○		2					共同
		日本剣道形２	1後		1				○		2					共同
		なぎなた１	2前		1				○		1				兼1	共同
		なぎなた２	2後		1				○		1				兼1	共同
		居合道１	3前		1				○						兼1	
		居合道２	3後		1				○						兼1	
		剣道形指導法	4後		1				○		2					共同
		古流の形	4後		1				○	1	1					共同
		剣道特別実習１	1前		1				○		1					
		剣道特別実習２	1後		1				○		1					
		剣道特別実習３	2前		1				○		1					
		剣道特別実習４	2後		1				○		1					
		剣道特別実習５	3前		1				○		1					
		剣道特別実習６	3後		1				○		1					
		剣道特別実習７	4前		1				○	1						
		剣道特別実習８	4後		1				○	1						
		小計（34科目）	－	0	34	0	－			4	5	1	0	0	兼4	
	武道学関連科目	柔道国際マネジメント実習	3前		2				○	1						
		柔道海外実習	3後		2				○	2						共同、集中
		剣道審判法演習	2前		2			○			2					共同
		剣道海外実習	3後		2				○		2					共同、集中
		小計（4科目）	－	0	8	0	－			2	2	0	0	0		

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部武道学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
Ⅳ主専攻科目（学科開講科目）	研究ゼミナール	柔道研究ゼミナール１	3前	2				○		3	2	1			
		柔道研究ゼミナール２	3後	2				○		3	2	1			
		剣道研究ゼミナール１	3前	2				○		1	3				
		剣道研究ゼミナール２	3後	2				○		1	3				
		小計（4科目）	－	8	0	0	－			4	5	1	0	0	
合計（137科目）			－	63	144	0	－			6	5	1	0	0	兼116

学位又は称号	学士（体育学）	学位又は学科の分野	体育関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
以下の合計で124単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：24単位（１学期）） □科目区分Ⅰ現代文明論　（必修科目）　2単位修得 □科目区分Ⅱ現代教養科目（必修科目）　12単位修得 □科目区分Ⅲ英語科目　（必修科目）　8単位修得 □科目区分Ⅳ主専攻科目　72単位修得 ＜必修科目＞ ■学部共通　6単位修得 ■学科開講　25単位修得 ＜選択必修科目＞ ■学部共通　4単位修得 ■学科開講　8単位修得 ＜選択科目＞ ■学部共通　10単位修得 ■学科開講　19単位修得 □科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位　30単位修得 合計124単位修得	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１４週
	１時限の授業時間	１００分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部生涯スポーツ学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
論	Ⅰ現代文明	現代文明論	2後	2			○								兼18	オムニバス
		小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼18	
Ⅱ現代教養科目	基礎教養科目	人文科学	1前	2			○								兼4	オムニバス
		社会科学	1前	2			○								兼4	オムニバス
		自然科学	1後	2			○								兼4	オムニバス
		小計（3科目）	－	6	0	0	－			0	0	0	0	0	兼12	
	発展教養科目	シティズンシップ	1前	1			○								兼5	
		ボランティア	1前	1			○								兼5	
		地域理解	1後	1			○								兼3	
		国際理解	1後	1			○								兼3	オムニバス
		小計（4科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼15	
	健康スポーツ科目	健康・フィットネス理論実習	1後	1					○	1					兼3	共同
		生涯スポーツ理論実習	1前	1					○						兼4	共同
		小計（2科目）	－	2	0	0	－			1	0	0	0	0	兼7	
Ⅲ英語科目	英語コミュニケーション科目	英語リスニング＆スピーキング	1前	2					○						兼20	
		英語リーディング＆ライティング	1後	2					○						兼20	
		小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼35	
	グローバル人材育成科目	グローバルスキル	2後	2					○						兼16	
		アカデミック英語	2前	2					○						兼16	
		小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼31	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部生涯スポーツ学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅳ主専攻科目（学部共通科目）	身体教育学	体育・スポーツ総論	1後	2			○			1					兼14	オムニバス
		体育哲学	1前	2			○								兼1	
		体育経営管理学	1・2前・後		2		○				1					
		健康学概論	2後		2		○			1						
		武道概論	2後		2		○								兼2	
		生涯スポーツ概論	2前		2		○			1						
		レジャー・レクリエーション概論	1前		2		○								兼1	
		小計（7科目）	－	4	10	0	－			2	1	0	0	0	兼17	
	スポーツ科学	スポーツ社会学	2前	2			○								兼1	
		スポーツ史	1・2前・後		2		○								兼2	
		スポーツ心理学	1・2前・後		2		○				1				兼1	
		スポーツ運動学（運動方法学を含む）	2前・後		2		○								兼2	
		スポーツバイオメカニクス	2前・後		2		○								兼2	
		スポーツ栄養学	1・2前・後		2		○								兼1	
		スポーツ人類学	3後		2		○								兼1	
		スポーツ医学	3前		2		○								兼1	
		アダプテッド・スポーツ概論	3後		2		○								兼1	
		小計（9科目）	－	2	16	0	－			0	1	0	0	0	兼11	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部生涯スポーツ学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
Ⅳ主専攻科目（学部共通科目）	スポーツ指導法	体つくり運動 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		器械運動 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		陸上競技 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼4	共同
		水泳 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		バスケットボール 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		ハンドボール 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼2	
		サッカー 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼2	
		ラグビー 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼2	
		バレーボール 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼2	
		卓球　理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		テニス 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		バドミントン 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		ソフトボール 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		柔道 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼2	
		剣道 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼3	
		ダンス 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		小計（16科目）	－	0	16	0	－			0	0	0	0	0	兼26	
	基礎関連科目	解剖学	1前・後		2		○			1					兼2	
		発育発達老化論	3前		2		○								兼1	
		スポーツ統計	3前・後		2		○								兼1	
		スポーツ産業概論	3後		2		○								兼1	
		小計（4科目）	－	0	8	0	－			1	0	0	0	0	兼3	
	教職関連科目	保健授業論	2前		2		○								兼1	
		体育授業論	2後		2		○								兼1	
		保健体育科教育法1	3前		2		○								兼2	共同
		保健体育科教育法2	3後		2		○								兼2	共同
		保健体育科教材論	3前・後		2		○								兼2	共同
		保健体育科教育実践論	3後		2		○								兼1	
		小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼4	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部生涯スポーツ学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅳ主専攻科目（学科開講科目）	基礎領域	生涯スポーツ基礎セミナー	1前	2			○			3	1	1				共同
		生涯スポーツ論	1前	4			○			3	1					
		生理学	1前	2			○			1						
		運動生理学	1前	2			○			1						
		情報処理	1前		2		○			1						
		救急処置法	1前		2		○								兼2	
		生涯スポーツボランティア実習1	1前		1				○	2	1					
		生涯スポーツ基礎演習	1後	2				○		1		1				共同
		小計（8科目）	－	12	5	0	－			5	3	1	0	0	兼2	
	野外活動領域	アウトドアスポーツ 理論及び実習A	1後・休		2				○		1				兼8	共同
		アウトドアスポーツ 理論及び実習B	2休		1				○		1				兼8	共同、集中
		アウトドアスポーツ 理論及び実習C	2休		1				○						兼5	共同、集中
		アウトドアスポーツ 理論及び実習D	3休		1				○						兼5	共同、集中
		冬季野外活動理論演習	1後・休	3				○		5	3	1	1		兼1	共同、集中
		夏季野外活動理論演習	2前・休	3				○		5	3	1	1		兼1	共同、集中
		海外アウトドアスポーツ 理論及び実習１	2・3休		2				○						兼2	共同、集中
		海外アウトドアスポーツ 理論及び実習２	2・3前・後		2				○						兼2	共同、集中
		野外活動指導演習	3前・休		3			○			1					集中
		小計（9科目）	－	6	12	0	－			5	3	1	1	0	兼11	
	生涯スポーツ領域	生涯スポーツ政策論	2後		2		○				1					
		レクリエーショナルスポーツ演習	2前・後		2			○			1	1				
		生涯スポーツ企画・運営演習	2前		2			○			1					
		地域スポーツクラブ経営論	4前・後		2		○				1					
		アダプテッド・スポーツ演習	3前・後		2			○		1						
		子どもと遊び演習	3前・後		2			○			1					
		高齢者スポーツ演習	3前		2			○		1	1	1				
		小計（7科目）	－	0	14	0	－			1	1	1	0	0		

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部生涯スポーツ学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
Ⅳ主専攻科目（学科開講科目）	健康スポーツ領域	健康教育論	2前		2		○			1						
		健康スポーツ心理学	2前		2		○				1					
		運動処方論	2前		2		○			1						
		健康・体力づくり演習	2前		2			○		1		1			兼1	オムニバス
		エアロビクス運動演習	2前・後		2			○		1		1				共同
		スポーツカウンセリング	3前・後		2		○				1					
		健康運動指導特講	4前		2		○			1						
		運動処方演習	3前		2			○		1						
		運動処方応用実習	3前・後		2				○	2					兼1	
		小計（9科目）	－	0	18	0	－			4	1	1			兼2	
	保健・衛星領域	衛生学（労働衛生を含む）	1前		2		○						1			
		公衆衛生学	1前		2		○						1			
		学校保健概論（小児保健・精神保健・学校安全を含む）	1前		2		○			1						
		成人保健学	2前・後		2		○			1						
		環境保健学	2前・後		2		○						1			
		環境評価デザイン実習	2前・後		2				○	1					兼1	共同
		救急法	3前		2			○			1				兼1	共同、集中
		労働衛生法規1（労働基準法を含む）	3前		2		○								兼1	
		労働衛生法規2（労働基準法を含む）	3後		2		○								兼1	
		小計（9科目）	－	0	18	0	－			3	1	0	1	0	兼2	
	研究・応用領域	生涯スポーツボランティア実習2	3前		1				○	2	1					
		生涯スポーツインターンシップ	3前・休		3				○	2	1					共同、集中
		生涯スポーツ・健康科学研究法	3前	2				○			1		1			
		生涯スポーツ研究ゼミナール1	3前	2				○		6	3	1	1			
		生涯スポーツ研究ゼミナール2	3後	2				○		6	3	1	1			
		生涯スポーツ研究ゼミナール3	4前	2				○		6	3	1	1			
		生涯スポーツ研究ゼミナール4	4後	2				○		6	3	1	1	0		
		小計（7科目）	－	10	4	0	－			6	3	1	1	0		
合計（105科目）			－	56	133	0	－			6	3	1	1	0	兼119	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部生涯スポーツ学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	学士（体育学）		学位又は学科の分野			体育関係								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
以下の合計で124単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：24単位（１学期）） □科目区分Ⅰ現代文明論　（必修科目）　2単位修得 □科目区分Ⅱ現代教養科目（必修科目）　12単位修得 □科目区分Ⅲ英語科目　（必修科目）　8単位修得 □科目区分Ⅳ主専攻科目　72単位修得 ＜必修科目＞ ■学部共通　6単位修得 ■学科開講　30単位修得 ＜選択必修科目＞ ■学部共通　6単位修得 ■学科開講　17単位修得 ＜選択科目＞ ■学部共通　6単位修得 ■学科開講　7単位修得 □科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位　30単位修得 合計124単位修得	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１４週
	１時限の授業時間	１００分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
論Ⅰ現代文明		現代文明論	2後	2			○								兼18	オムニバス
		小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼18	
Ⅱ現代教養科目	基礎教養科目	人文科学	1後	2			○								兼4	オムニバス
		社会科学	1後	2			○								兼4	オムニバス
		自然科学	1前	2			○								兼4	オムニバス
		小計（3科目）	－	6	0	0	－			0	0	0	0	0	兼12	
	発展教養科目	シティズンシップ	1後	1			○								兼5	
		ボランティア	1後	1			○								兼5	
		地域理解	1前	1			○								兼3	
		国際理解	1前	1			○								兼3	オムニバス
		小計（4科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼15	
	健康スポーツ科目	健康・フィットネス理論実習	1後	1					○	1					兼1	共同
		生涯スポーツ理論実習	1前	1					○						兼4	共同
		小計（2科目）	－	2	0	0	－			1	0	0	0	0	兼5	
Ⅲ英語科目	英語コミュニケーション科目	英語リスニング＆スピーキング	1後	2					○						兼17	
		英語リーディング＆ライティング	1前	2					○						兼17	
		小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼30	
	グローバル人材育成科目	グローバルスキル	2後	2					○						兼16	
		アカデミック英語	2前	2					○						兼16	
		小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼31	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅳ主専攻科目（学部共通科目）	身体教育学	体育・スポーツ総論	1後	2			○			1	1				兼13	オムニバス
		体育哲学	1前	2			○								兼1	
		体育経営管理学	1・2前・後		2		○								兼1	
		健康学概論	2後		2		○								兼1	
		武道概論	2後		2		○								兼2	
		生涯スポーツ概論	2前		2		○								兼1	
		レジャー・レクリエーション概論	1前		2		○				1					
		小計（7科目）	－	4	10	0	－			1	2	0	0	0	兼16	
	スポーツ科学	スポーツ社会学	2前	2			○								兼1	
		スポーツ史	1・2前・後		2		○			1					兼1	
		スポーツ心理学	1・2前・後		2		○								兼2	
		スポーツ運動学（運動方法学を含む）	2前・後		2		○								兼2	
		スポーツバイオメカニクス	2前・後		2		○								兼2	
		スポーツ栄養学	1・2前・後		2		○			1						
		スポーツ人類学	3後		2		○			1						
		スポーツ医学	3前		2		○								兼1	
		アダプテッド・スポーツ概論	3後		2		○								兼1	
		小計（9科目）	－	2	16	0	－			2	0	0	0	0	兼10	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
Ⅳ主専攻科目（学部共通科目）	スポーツ指導法	体つくり運動 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		器械運動 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		陸上競技 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼4	共同
		水泳 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		バスケットボール 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		ハンドボール 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○	1					兼1	
		サッカー 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼2	
		ラグビー 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼2	
		バレーボール 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼2	
		卓球　理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		テニス 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○		1					
		バドミントン 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		ソフトボール 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○	1						
		柔道 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼2	
		剣道 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼3	
		ダンス 理論及び実習	1・2・3前・後		1				○						兼1	
		小計（16科目）	－	0	16	0	－			2	1	0	0	0	兼23	
	基礎関連科目	解剖学	1前・後		2		○								兼3	
		発育発達老化論	3前		2		○								兼1	
		スポーツ統計	3前・後		2		○								兼1	
		スポーツ産業概論	3後		2		○					1				
		小計（4科目）	－	0	8	0	－			0	0	1	0	0	兼5	
	教職関連科目	保健授業論	2前		2		○								兼1	
		体育授業論	2後		2		○								兼1	
		保健体育科教育法1	3前		2		○								兼2	共同
		保健体育科教育法2	3後		2		○								兼2	共同
		保健体育科教材論	3前・後		2		○								兼2	共同
		保健体育科教育実践論	3後		2		○								兼1	
		小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼4	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
Ⅳ主専攻科目（学科開講科目）	専門基礎	スポーツ＆レジャー概論	1前	2			○			1	1		1			共同
		マネジメント概論	1前	2			○			1			1			共同
		情報処理	1前		2		○								兼2	
		小計（3科目）	－	4	2	0	－			2	1	0	1	0	兼2	
	国際スポーツ＆レジャー論	国際スポーツ＆レジャー論	1前		4		○				1					
		国際イベントマネジメント論	1後		4		○			1	1					共同
		国際スポーツ＆レジャーカルチャー論	2前		2		○				1					
		国際ツーリズム論	2後		2		○				1					
		国際コミュニケーション論	3前	2					○						兼2	
		国際レジャーサービス論	3後	2					○		1					
		小計（6科目）	－	4	12	0	－			1	1	0	0	0	兼2	
	スポーツ＆レジャー各論	スポーツ＆レジャー論A　（文化）	2前		2		○			1						
		スポーツ＆レジャー論B　（コミュニケーション）	2前		2		○					1				
		スポーツ＆レジャー論C　（健康）	2前		2		○			1						
		スポーツ＆レジャー論D　（ゆとり）	2後		2		○				1					
		スポーツ＆レジャー論E　（環境）	2後		2		○				1					
		スポーツ＆レジャー論F　（ツーリズム）	2後		2		○						1			
		小計（6科目）	－	0	12	0	－			2	2	1	1	0		
	マネジメント各論	マネジメント論A　（メディア）	2前		2		○								兼1	
		マネジメント論B　（ファシリティ）	2前		2		○			1						
		マネジメント論C　（ビジネス）	2前		2		○					1				
		マネジメント論D　（組織）	2後		2		○			1						
		マネジメント論E　（ファイナンス）	2後		2		○								兼1	
		マネジメント論F　（マーケティング）	2後		2		○			1						
		小計（6科目）	－	0	12	0	－			2	0	1	0	0	兼2	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅳ主専攻科目（学科開講科目）	スポーツ＆レジャーマネジメント実践	フレッシュマンゼミナール1	1前	2			○			2	2	1	0	0		
		フレッシュマンゼミナール2	1後	2			○			4	3	1	1	0		
		マネジメントゼミナール１	2前	2			○			4	3	1	1	0		
		マネジメントゼミナール２	2後	2			○			4	3	1	1	0		
		スポーツイベントマネジメント実習	2休	2					○	4	3	1	1	0		集中、共同
		スポーツ＆レジャー海外実習	2休		2				○	1	1					集中、共同
		スポーツ＆レジャーインターンシップ	3休		1				○		1	1				集中、オムニバス
		スポーツ＆レジャーボランティア	3休		1				○		1	1				集中
		研究ゼミナール1	3前	2				○		4	3	1	1	0		
		研究ゼミナール2	3後	2				○		4	3	1	1	0		
		研究ゼミナール3	4前	2				○		4	3	1	1	0		
		研究ゼミナール4	4後	2				○		4	3	1	1	0		
		小計（12科目）	－	18	4	0	－			4	3	1	1	0	0	
	教職関連領域	生理学	1前	2			○								兼1	
		運動生理学	1前	2			○								兼1	
		衛生学（労働衛生を含む）	1前		2		○								兼1	
		公衆衛生学	1前		2		○								兼1	
		学校保健概論（小児保健・精神保健・学校安全を含む）	1前		2		○								兼1	
		救急措置法	1前		2		○								兼1	
		小計（6科目）	－	4	8	0	－			0	0	0	0	0	兼4	
合計（95科目）			－	58	112	0	－			4	3	1	1	0	兼111	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	学士（体育学）		学位又は学科の分野			体育関係								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
以下の合計で124単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：24単位（１学期）） □科目区分Ⅰ現代文明論　（必修科目）　2単位修得 □科目区分Ⅱ現代教養科目（必修科目）　12単位修得 □科目区分Ⅲ英語科目　（必修科目）　8単位修得 □科目区分Ⅳ主専攻科目　72単位修得 ＜必修科目＞ ■学部共通　6単位修得 ■学科開講　30単位修得 ＜選択必修科目＞ ■学部共通　6単位修得 ■学科開講　17単位修得 ＜選択科目＞ ■学部共通　6単位修得 ■学科開講　7単位修得 □科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位　30単位修得 合計124単位修得	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１４週
	１時限の授業時間	１００分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（体育学研究科体育学専攻　博士課程後期）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通	スポーツ科学研究理論	（概要） 博士課程後期においては、コースワークとして、スポーツ文化社会科学・スポーツ医科学・実践スポーツ科学の３領域において専門科目を開設し、その科目の担当者がそれぞれリサーチワークである特別研究科目を開設している。 スポーツ科学研究理論では、特別研究科目の担当者が、それぞれの分野の最新の研究方法論・研究成果の概説を行うことにより、リサーチワークへの導入と研究方法論の理解を促す。また、エビデンスに基づく研究成果、知見、技術などを社会へ還元することを目的に、データマネジメント、データサイエンスの概要についても学ぶ。さらに、全教員が担当することで、他領域の最新情報を踏まえたうえで、体育・スポーツ科学の学際性と領域の広がりを理解する。このことによって研究領域の多様性を認識して広い視野を持ち、体育・スポーツ科学に求められる社会課題を考察できる応用的な力を身につける。博士課程後期で学修を進め、博士論文を作成していくにあたり、自らの研究の指針・考え方を確立していくための基幹となる科目である。 （オムニバス方式／全14回） （⑨　萩　裕美子／2回） 第1回授業では研究・教育に必要な正義感・倫理観の重要性について学ぶことに加え、コースワークとして設定する3領域を概説し、自らが取り組む研究課題の可能性や博士論文作成までのプロセス等について解説する。第2回授業ではスポーツ・レジャーの概念整理と国内外の最先端研究動向を踏まえ、社会におけるスポーツやレジャーの関わりや役割、データマネジメントの概要について、3領域を跨る視点の必要性に加え、さらに複雑化する現代における体育・スポーツ科学分野だけではない幅広い視点と他分野との融合の必要性についても講義する。 （①　阿部　悟郎／1回） 体育・スポーツ哲学の立場から、体育学・スポーツ科学の学理論構成と現代的意義を踏まえた上で、体育・スポーツ哲学の現状と課題、そしてその現代的可能性について検討していく。とりわけ学校体育の諸問題に目を向けて、その哲学的基礎を人文主義に求め、現代社会における学校体育のありかたを論理的に模索する。 （②　松浪　稔／1回） スポーツ史・スポーツ人類学の研究の視点について、身体史、身体観、競技スポーツ、民族スポーツの具体的事例を取り上げながら、最新の研究動向や今後取り組むべき研究課題などとあわせて解説する。 （③　松本　秀夫／1回） スポーツ心理学の対象は、教育、競技、健康、レジャーなど様々であり、その研究方法も多岐に渡る。最新の研究トピックを取り上げ、最先端の分析方法や研究の動向、今後取り組むべき研究課題などを解説する。 （④　八田　有洋／1回） 至適運動から高強度トレーニングまで、エクササイズが脳に及ぼす影響について解説する。 （⑤　山田　洋／1回） バイオメカニクスの方法論・研究成果について紹介した上で、研究計画、実験方法、データの解釈・考察の実際について解説する。また、データサイエンスの概要についても講義する。 （⑥　内山　秀一／1回） 運動やトレーニングは、身体に急性的及び慢性的な変化をもたらす。特に、筋の形態的及び機能的変化は顕著である。運動やトレーニング刺激に対する筋の適応メカニズムについて、最新の研究トピックを取り上げ、今後取り組むべき研究課題について解説する。 （⑦　宮崎　誠司／1回） スポーツに関する生理学・形態学的な基礎研究と、選手の健康管理や外傷・障害の治療ならびに予防についての臨床研究について解説する。 （⑧　久保田　晃生／1回） 健康づくり・介護予防のための身体活動の意義、身体不活動の諸課題について、修士論文より検索範囲を広めた国内外の運動疫学的研究における文献研究及び運動疫学的手法による実証的研究から明らかとすることについて、研究指導を行う。 （⑩　野坂　俊弥／1回） 種々の健康関連概念について概説し、それと保健体育・身体活動との関連性について探求することを通じて、グローバルなクリティカルシンキングの必要性について議論する。 （⑪　吉岡　尚美／1回） アダプテッド体育・スポーツをテーマに、障がい者とスポーツを取り巻く現状と諸課題について、国内外の研究動向を踏まえて解説する。 （⑫　押見　大地／1回） スポーツマネジメントに関する代表的な理論的背景を学修しつつ、学んだ理論や知識体系を実学としてのスポーツマネジメントと関連付けて考察する能力について解説する。また、データマネジメントの概要についても講義する。 （⑬　松下　宗洋／1回） 根拠に基づく医学（EBM）について紹介した上で、疫学による根拠（エビデンス）の作り方、また今後の発展が期待される体育・スポーツ医学領域における疫学研究について紹介する。また、データサイエンスの概要についても講義する。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通	スポーツ科学研究法Ａ	（概要） 　スポーツ科学研究法Ａは、データマネジメントに関する科目であり、体育・スポーツ科学において得られたデータに関して、得られた知見を組織的運営に活かすこと、および継続的にデータを得るためのアプローチを学ぶ。 　体育・スポーツ科学に必要不可欠な代表的なデータ解析の理論と実践を学修するとともに、結果だけでなくプロセスを研究するアクションリサーチ（質的研究）についても身につけることを目標とする。また、学際的研究に必要な共同研究を実施するための組織的運営について学ぶ。同時に、マネジメントやビジネスへの応用についても学び、さらに、データの正しい取り扱いと倫理の育成も進めていく。 （オムニバス方式／全14回） （9　萩　裕美子／7回） 　第1回授業では、本科目で扱う研究方法に加え、博士論文作成に向けて、より高度な情報の取り扱い方、情報倫理、研究倫理、道徳観等について概説を行う。 　第2～4, 7～9回授業では、学際的な研究の意義、データに基づく量的研究方法とプロセスや事例を研究として落とし込む質的研究方法、さらには双方を使用した混合研究方法について学修する。また研究方法の一つとして共同研究を実施する上での組織的運営方法についても概説する。 （12　押見　大地／7回） 　第5～6, 10～14回授業では、スポーツ消費者行動研究といったスポーツマネジメントに関わる題材をもとに、その研究手法や学術論文の執筆・発表方法全般について学修していく。また、スポーツ科学がビジネスとしてどのように応用できるのか事例をもとに解説する。	オムニバス方式
	スポーツ科学研究法Ｂ	（概要） 　スポーツ科学研究法Ｂは、データサイエンスに関する科目であり、体育・スポーツ科学において得られたデータに関して、新たな科学的および社会に有益な知見を引き出そうとするアプローチを学ぶ。 　体育・スポーツ科学領域において、量的データを用いる際には、研究成果として示すデータの正確さの担保が、研究の質を向上させる上では欠かせない。そのため、ミクロ・マクロな視点において、適切な量的データの入手（対象者の選定から測定・調査まで）から分析に至る、科学的知見を得るための手法の全体を学ぶ。同時に、得られた知見を社会に還元するためのアプローチを学び、さらに、データの正しい取り扱いと倫理の育成も進めていく。 （オムニバス方式／全14回） （5　山田　洋／7回） 　第1回授業では、本科目で扱う研究方法と、博士論文作成に向けた、より精度の高い情報の測定方法、情報倫理、研究倫理、道徳観等について概説を行う。 　第2～7回授業では、バイオメカニクスを中心としたミクロな視点から体育・スポーツ科学研究に不可欠な研究の質を担保する要素を紹介する。具体的には、1）測定による妥当性・信頼性および誤差、2）測定原理への理解（筋電図及び動作解析を中心に）、3）外的妥当性とトランスレーショナルリサーチについて、バイオメカニクスの観点から議論を行う。 （13　松下　宗洋／7回） 　第8～14回授業では、疫学を中心としたマクロな視点から体育・スポーツ科学研究で陥りやすい量的研究の”ピットフォール（落とし穴）”を紹介する。具体的には研究計画の立案に関わる、1）研究デザインの選択、2）対象者および対照集団の設定、3）調査・測定方法の選定、4）結果に影響を及ぼすバイアスについて、疫学の観点から議論を行うとともに、基礎から応用への「橋渡し」についても言及する。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門	高度スポーツ文化社会科学特講	（概要） 専門区分科目は、修士課程における専門科目で学んだ各領域の多数の科目を包括的に捉えて統合し、さらに高度化させると共に、研究成果を社会へ還元するための応用能力の獲得を目的として設置している。これにより、高度スポーツ文化社会科学特講では、体育・スポーツ事象にみられる諸問題に対する体育学における人文社会科学的アプローチ（体育スポーツ哲学・倫理学、スポーツ史・人類学、スポーツ心理学）によって問題把握の多角化をはかるとともに、これを通して研究を独創的に遂行する能力を育成する。なお、本科目においては、体育スポーツ哲学・倫理学、スポーツ史・人類学、スポーツ心理学における最前線の議論や知見に触れ、修士課程で獲得された一般的研究能力における人文社会科学的認識・思考能力の洗練を通じて、学識と思考力を拡充し、研究者としての高度な創造性を養う。 （オムニバス方式／全14回） （① 阿部　悟郎・②　松浪　稔・③　松本　秀夫／2回）（共同） 第1回授業では、本科目で扱う研究領域である、最新の体育スポーツ哲学・倫理学、スポーツ史・人類学、スポーツ心理学などについて概説する。そして、第14回授業では、全体のまとめとして、研究テーマの確定に向けた意見交換等を行うとともに、3領域との関連、体育・スポーツ科学以外の分野との関連性や将来の可能性を含め解説する。そして、修士課程から身に付けてきた、本領域における専門的な知見と幅広い視点、そして他分野との融合を含め、自らの研究テーマとの関連性について再検証を行い、レポートの作成、ディスカッションを行う。 （①　阿部　悟郎／4回） 第2～5回授業では、修士課程の人文社会科学的領域の授業において得られた哲学・倫理学領域の認識に基づいて、純粋哲学領域に関する諸理論の相互連関を段階的に検討していく。具体的には、体育哲学における哲学的思考の有効性を踏まえたうえで、体育哲学の哲学的源泉、とくに観念論や実在論、自然主義、プラグマティズム、そして実存哲学に目を向けながら、体育本質論における人文主義的方向の可能性を模索していく。 （②　松浪　稔／4回） 第6～9回授業では、スポーツとは何か？、人はなぜスポーツをするのか？、遊びとは何か？、身体とは何か？などのスポーツの根源にある問いに対する答えを探求すべく、人間とスポーツの関りについて歴史的に検討する。 （③　松本　秀夫／4回） 第10～13回授業では、体育・健康・スポーツ（競技・生涯・障害）・レジャーを対象としたスポーツ心理学研究の歴史的背景と方向性、最新の配票・インターネットによる量的研究、フィールドワークによる質研究、生理的指標を用いた研究の動向と課題について、解析と方法論を含め解説する。	オムニバス方式・共同（一部）
	高度スポーツ医科学特講	（概要） 専門区分科目は、修士課程における専門科目で学んだ各領域の多数の科目を包括的に捉えて統合し、さらに高度化させると共に、研究成果を社会へ還元するための応用能力の獲得を目的として設置している。これにより、高度スポーツ医科学特講では、体育・スポーツ事象にみられる諸問題に対する体育学における自然科学的アプローチ（スポーツ生理学、スポーツバイオメカニクス・体力学、スポーツ医学）を学び、博士課程後期の研究として、研究課題の焦点化に資する専門知識を身につける。同時に、当該学問分野における最前線の解析方法や研究事例に触れ、研究を独創的かつ創造的に遂行する能力を育成する。 （オムニバス方式／全14回） （④　八田　有洋・⑤　山田　洋・⑥　内山　秀一・⑦　宮崎　誠司／2回）（共同） 第1回授業では、本科目で扱う研究領域である、最新のスポーツ生理学、スポーツバイオメカニクス・体力学、スポーツ医学などについて概説する。そして、第14回授業では、全体のまとめとして、研究テーマの確定に向けた意見交換等を行うとともに、3領域との関連、体育・スポーツ科学以外の分野との関連性や将来の可能性を含め解説する。そして、修士課程から身に付けてきた、本領域における専門的な知見と幅広い視点、そして他分野との融合を含め、自らの研究テーマとの関連性について再検証を行い、レポートの作成、ディスカッションを行う。 （④　八田　有洋／3回） 第2～4回授業では、脳・脊髄運動神経系の運動適応能について、最新のトピックスを取り上げ、運動生理学的研究の観点から解説する。 （⑤　山田　洋／3回） 第5～7回授業では、人間の基本運動の機構を科学的に分析するために必要な知識である運動学（解剖学・生理学・力学）について学び、先端のバイオメカニクス研究の理論・手法・成果を修得し、研究者としてスポーツの発展に貢献出来うる最先端の知識とスキルの体得を目標とする。 （⑥　内山　秀一／3回） 第8～10回授業では、運動やトレーニング刺激に対する筋－神経の適応メカニズムについて、最新の研究トピックを取り上げ、理論的背景やエビデンスについて解説する。 （⑦　宮崎　誠司／3回） 第11～13回授業では、スポーツによっておこる生理学・形態学的な変化を正常機能との違いや疾病、外傷・障害という異常な状態を理解し、戻すための治療ならびに予防について学修する。	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門	高度実践スポーツ科学特講	（概要） 　専門区分科目は、修士課程における専門科目で学んだ各領域の多数の科目を包括的に捉えて統合し、さらに高度化させると共に、研究成果を社会へ還元するための応用能力の獲得を目的として設置している。これにより、高度実践スポーツ科学特講では、スポーツや運動、身体活動が、現代社会・国民に果たす具体的な意義について、修士課程より研究範囲を広げ国内外の様々な先端研究のエビデンスから考究する。特に、ウエルネス、スポーツ・レジャーマネジメント、健康づくり・介護予防の身体活動、アダプテッド体育・スポーツをキーワードとして、それぞれの分野の最新の研究動向やビジネスへの応用について、修士課程より深めた解説から、現代社会・国民と地域の発展に役立つ研究を遂行できる能力とマネジメント力を駆使した創造性を育成する。 （オムニバス方式／全14回） （⑧　久保田　晃生・⑨　萩　裕美子・⑩　野坂　俊弥・⑪　吉岡　尚美／2回）（共同） 　第1回授業では、現代社会・国民に役立つ研究を遂行できる能力とマネジメント力を駆使した創造性を養うことを目的に、本科目で扱う研究領域と役割、そして関連性について概説する。そして、第14回授業では、全体のまとめとして、研究テーマの確定に向けた意見交換等を行うとともに、3領域との関連、体育・スポーツ科学以外の分野との関連性や将来の可能性を含め解説する。そして、修士課程から身に付けてきた、本領域における専門的な知見と幅広い視点、そして他分野との融合を含め、自らの研究テーマとの関連性について再検証を行い、レポートの作成、ディスカッションを行う。 （⑧　久保田　晃生／3回） 　第2～4回授業では、健康づくり・介護予防における身体活動の役割について、修士課程より研究範囲を広めた先端研究の成果に基づき考究する。また、この分野で具体的に研究を進めていく方法について解説する。 （⑨　萩　裕美子／3回） 　第5～7回授業授業では、スポーツ・レジャーにおけるマネジメントに関する国内外の先端研究を考究するとともに、スポーツ・レジャーが果たす社会的役割、スポーツ・レジャー政策の評価について解説し、研究に落とし込む方法として質的研究、量的研究、混合研究がどう使えるのか、課題解決にどう役立てられるかを解説する。 （⑩　野坂　俊弥／3回） 　第8～10回授業では、ウェルネス 概念の始祖であるハルバート・ダンの原著 ″High Level Wellness″に触れ、それを具現した全米ウェルネス会議(National Wellness Conference)の歴史と現況について理解する。転じて、我が国における国民健康づくり対策「健康日本21（第2次）」とそこに至る施策の変遷について世界的視野から考究することにより、今後の方策の方向性について議論する。 （⑪　吉岡　尚美／3回） 　第11～13回授業では、アダプテッド体育・スポーツ分野における多様性と学際性について、国内外の先端研究をもとにその強みと課題を考究する。また、各障害種別の研究について具体的な方法と可能性を解説する。	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門	高度スポーツ文化社会科学演習	（概要） 　専門区分科目は、修士課程における専門科目で学んだ各領域の多数の科目を包括的に捉えて統合し、さらに高度化させると共に、研究成果を社会へ還元するための応用能力の獲得を目的として設置している。これにより、高度スポーツ文化社会科学演習では、体育・スポーツ事象にみられる諸問題に対する体育学における人文社会科学的アプローチ（体育スポーツ哲学・倫理学、スポーツ史・人類学、スポーツ心理学）によって問題解決能力の拡充をはかるとともに、これを通して研究を独創的に遂行する能力を高める。本科目においては、修士課程で獲得された一般的研究能力における人文社会科学的認識・思考能力のさらなる洗練のために、最前線の議論や知見を踏まえながら、広大で歴史的な知の総体において自らの問題追求を相対化することで、研究者としての学識や良識の錬磨と高度な研究スキルを身に付ける。さらに、教育研究における他の分野との融合を推進するため、隣接する分野（社会学・歴史学等）の専門家・学生と協同したパネルディスカッションを行う。 （オムニバス方式／全14回） （① 阿部　悟郎・②　松浪　稔・③　松本　秀夫／2回）（共同） 　第1回授業では、本科目で扱う演習内容について、現代社会における課題等について問題提起し人文社会学的なアプローチ方法について概説する。第14回授業では、履修者による発表・討議を中心とした授業全体の総括を行うとともに、隣接する分野（社会学・歴史学等）の専門家・学生と協同しパネルディスカッションにより意見交換を行う。これにより、論文の作成能力や発表力の向上を目指すだけではなく、自分の研究テーマについて広い視点で俯瞰的に見直しを行い、より独創性と創造性の高い研究の実現を目指していく。 （①　阿部　悟郎／4回） 　第2～5回授業では、「高度スポーツ文化社会科学特講」の体育スポーツ哲学領域において得られた純粋哲学領域に関する諸理論の相互連関に基づいて、主題を体育本質論に絞り込み、いわゆる教育哲学の代表的な諸理論に焦点化して、とりわけ精神科学的教育学、教育人間学、実存哲学的教育学、人文主義的教育学を段階的に検討し、体育本質論の構成のための深い認識を養成していく。具体的には、体育哲学の思想的源泉の一つとしての精神科学的教育学の現代的可能性を踏まえたうえで、その思想類型としての教育人間学と実存哲学的教育学に目を向けながら、体育本質論の構成における人文主義的教育学の現代的可能性を模索していく。 （②　松浪　稔／4回） 　第6～9回授業では、身体史、身体観、メディア表象、オリンピック史、スポーツとメディアなどについて最新の研究動向を取り上げながら検討していく。 （③　松本　秀夫／4回） 　第10～13回授業は、「高度スポーツ文化社会科学特講」のスポーツ心理学領域において学んだ、心理的指標・生理的指標による最新のスポーツ心理学のアプローチによって、スポーツ・レジャー関与と情動・動機づけ・ライフスタイル変容・幸福感についての研究計画を立案する。	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門	高度スポーツ医科学演習	（概要） 　専門区分科目は、修士課程における専門科目で学んだ各領域の多数の科目を包括的に捉えて統合し、さらに高度化させると共に、研究成果を社会へ還元するための応用能力の獲得を目的として設置している。これにより、高度スポーツ医科学演習では、体育・スポーツ事象にみられる諸問題に対する体育学における自然科学的アプローチ（スポーツ生理学、スポーツバイオメカニクス・体力学、スポーツ医学）の手法によるスポーツ科学実験研究のプロセス（計画→測定→処理→論議）を演習として学ぶ。これらを通じて、当該分野において、質の高い研究テーマ、研究デザイン、データの解釈・考察を行い、修士課程で学修した内容を基礎に、博士課程後期としてふさわしい研究者としての学識や良識の錬磨と、論文執筆を遂行できる高度な研究スキルを身に付ける。さらに、後半の共同の部分で、医学、工学、理学等他分野が融合したプロジェクト研究に参加し、研究能力・成果を社会に還元する力を身につける。 （オムニバス方式／全14回） （④ 八田　有洋・⑤　山田　洋・⑥　内山　秀一・⑦　宮崎　誠司／6回）（共同） 　第1回授業では、本科目で扱う演習内容について、現代社会における課題等について問題提起し自然科学的なアプローチ方法について概説する。第10～14回授業では、医学、工学、理学等の他の分野と融合したプロジェクト研究に参加し、計画・測定・処理・論議の全体を経験・発表し、研究能力・成果を社会に還元する力を身につける。特に、第14回授業においては、プロジェクト研究に参加した結果について、自分の研究テーマと関連した「現状との差異や問題点」などについて発表・意見交換も行い、より広い視点をもった俯瞰的な見直しを行い、より独創性と創造性の高い研究の実現につなげていくことを目指す。 （④ 八田　有洋／2回） 　第2～3回授業では、随意運動と認知過程の関連性について筋電図や脳電位などの電気生理学的指標を用いて検証する。高次脳機能の測定を行うことから、修士課程より高度な内容となっている。 （⑤ 山田　洋／2回） 　第4～5回授業では、人間の基本運動の機構を科学的に分析するために必要な知識である運動学（解剖学・生理学・力学）について学び、先端のキネシオロジー研究の理論・手法・成果を修得し、研究者としてスポーツの発展に貢献出来うる最先端の知識とスキルの体得を目標とする。最新のモーションキャプチャシステムを駆使して力学的分析を行うことにより、修士課程より高度な内容となっている。 （⑥ 内山　秀一／2回） 　第6～7回授業では、運動やトレーニング刺激に対する筋－神経の適応メカニズムの検証方法を身につける。実験動物を用いて筋生理を学び、トレーニング方法の構築等を考える等、修士課程より高度な内容となっている。 （⑦ 宮崎　誠司／2回） 　第8～9回授業では、スポーツという外部の刺激に対する生体の機能的な応答、スポーツによって損なわれた病的状態から生まれる生体の機能的な応答、並びに外的操作である薬理的、機能的並びに外科的操作による構造的（解剖学）、機能的（生理学・生化学）修復を解説しそれに対して議論を行う。同時に、治療方法、emergency care for sportsの原理を実習を通じて学ぶことにより、修士課程より高度な内容となっている。	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門	高度実践スポーツ科学演習	（概要） 　専門区分科目は、修士課程における専門科目で学んだ各領域の多数の科目を包括的に捉えて統合し、さらに高度化させると共に、研究成果を社会へ還元するための応用能力の獲得を目的として設置している。これにより、高度実践スポーツ科学演習では、スポーツや運動、身体活動が、現代社会において貢献しうる研究テーマや研究デザインを、具体的に考案する能力を養う。特に、ウエルネス、スポーツ・レジャーマネジメント、健康づくり・介護予防の身体活動、アダプテッド体育・スポーツをキーワードとして、それぞれの分野において、質の高い研究テーマや実現可能な研究デザインを立案し、ビジネスに応用するための最新情報を取り扱う。加えて、対象領域の広い実践スポーツ科学分野の専門家となるため、修士課程で学修した内容を基礎に、博士課程後期としてふさわしい学識や良識の錬磨を図り、自立した研究者になるための高度な研究スキルを身に付ける。また、実践スポーツ科学の担当教員が進めているプロジェクト研究や活動の内容を理解するとともに参加して、中核的に研究に携わることで、博士論文のテーマについての研究を深めていく。 （オムニバス方式／全14回） （⑧　久保田　晃生・⑨　萩　裕美子・⑩　野坂　俊弥・⑪　吉岡　尚美／2回）（共同） 　第1回授業では、本科目で扱う演習内容について、現代社会における課題等について問題提起し、具体的に貢献し得るスポーツや運動についての可能性について概説する。第14回授業においては、プロジェクト研究に参加した結果について、自分の研究テーマと関連した「現状との差異や問題点」などについて発表・意見交換を行い、より広い視点をもった俯瞰的な見直しを行い、より独創性と創造性の高い研究の実現につなげていくことを目指す。 （⑧　久保田　晃生／3回） 　第2～4回授業では、担当教員が取り組む健康づくり・介護予防のための身体活動促進プロジェクト研究を理解するとともに、具体的な参加内容を検討、調整する。 （⑨　萩　裕美子／3回） 　第5～7回授業では、スポーツ・レジャーにおけるマネジメントの課題を現場の視点から考察するために、スポーツイベントの現場を体験し、連携の在り方や方法を考察したり、企業や団体の取り組みを取材してPDCAサイクルの観点からまとめ、社会に貢献できる研究テーマを選び、量的アプローチと質的アプローチの研究デザインを立案する。 （⑩　野坂　俊弥／3回） 　第8～10回授業では、ウェルネス 概念の原著 ″High Level Wellness″を講読し、その特異性と普遍性について議論する。また、「健康日本21（第2次）」との類似点および相違点について議論し、健康教育および保健科教育に反映する可能性について議論する。さらに担当教員が事務局長を務める「日本ウエルネス学会」と「日本保健科教育学会」における議論に参加し、それぞれの領域における我が国最先端の専門的教養を獲得する。また、担当教員がアドバイザーを務める全米ウェルネス会議国際委員会のウェブ会議を聴講し、健康関連概念の世界的潮流について理解する。 （⑪　吉岡　尚美／3回） 　第11～13回授業では、アダプテッド体育・スポーツ分野における実践研究テーマの立案と、研究計画・研究方法の検討、改善までを遂行できる能力を培うことをテーマに、実践スポーツ科学の担当教員が進めているプロジェクト研究や活動の内容を理解するとともに実際に参加する。 　プロジェクト研究という実践の場を通じ、自らの研究テーマについての方針・取り組み方などについて再確認をおこなうことに加えて、より高度な専門性、より広い視点の必要性について再確認を行い、第14回目の発表に向けてレポートの作成を行う。	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	体育・スポーツ科学特別研究１	（概要） 体育・スポーツ科学特別研究１では、研究指導教員のもと、自身の研究分野に関連する研究テーマの可能性について考究する。研究手法については予備実験、並びに理論構成に対しての議論を繰り返し、研究方法の精度や妥当性を検証する。学期後半には研究情報交換会においてプロポーザル（企画・提案）発表を行い、体育学研究科の教員から問題点の指摘や助言を受け、今後の研究の再構築をはかる。成績評価については、日常での研究への取り組みや研究計画の進捗状況、プロポーザル発表の内容による。 （1　阿部　悟郎） 体育学・スポーツ科学の理論構成と現代的意義を踏まえ、体育・スポーツ哲学研究における精神科学的教育学に提起された教育学理論に基づいた現代的可能性を追求していくことについて、研究指導を行う。 （2　松浪　稔） スポーツ史・スポーツ人類学の分野について、特に、スポーツを支える身体の歴史（身体史：身体が歴史的に如何に扱われてきたか、近代的身体の形成過程）や、オリンピック史を中心に、身体、社会とスポーツの関係史について、最新の研究動向を踏まえながら検討することについて、研究指導を行う。 （3　松本　秀夫） 体育・スポーツ・レジャー・健康に関する行動科学の理論的枠組みと知識体系を構造的に理解し、スポーツ・レジャーに関する事柄について、健康・スポーツ心理学、社会心理学によるアプローチから検証することについて、研究指導を行う。 （4　八田　有洋） 長期運動トレーニングによって身体諸機能に適応変化が生じるとともにスキルの獲得やパフォーマンスが向上する。このようなヒトの運動適応能や可塑的変化について筋電図や脳電位などの電気生理学的指標を用いて検証することについて、研究指導を行う。 （5　山田　洋・13　松下　宗洋） バイオメカニクスや電気生理学的な観点から、スポーツ（オリンピック選手）から日常動作（一般の高齢者等）に至るまであらゆる被験者を対象とし、その動作特性や生理機能を生理的生体情報をツールとして用いることで解明していく。さらに、被験者の身体機能向上や健康寿命促進へつなげていくことについて、研究指導を行う。 （6　内山　秀一） 運動やトレーニングは、身体に急性的及び慢性的な変化をもたらす。特に、筋の形態的及び機能的変化は顕著である。運動やトレーニング刺激に対する筋の適応メカニズムについて、運動生理学及び運動生化学的手法により、発揮筋力、動作解析、筋電図、筋及び脳の血流動態、血中の代謝産物などを指標に実験的に検証することについて、研究指導を行う。 （7　宮崎　誠司） スポーツによる生理学・形態学的な変化を正常機能の比較や疫病、外傷・障害といった異常状態の理解・知識を深め、薬理的、機能的、外科的操作による構造的、機能的修復へと導く手法を、スポーツ医学の観点から検証、考察することについて、研究指導を行う。 （8　久保田　晃生） 健康づくり・介護予防における身体活動の意義および普及方法について、国内外の運動疫学的研究における文献研究及び運動疫学的手法による実証的研究から明らかとすることについて、研究指導を行う。 （9　萩　裕美子・12　押見　大地） スポーツやレジャーの振興において重要なステークホルダーである、消費者（実践者、観戦者）に焦点を当て、スポーツやレジャーへの興味や関心について、どのような要因が関連し、影響を及ぼしているのか、健康科学や行動科学、スポーツマネジメントの視点から調査、分析を試みることについて、研究指導を行う。 （10　野坂　俊弥） ウェルネスをはじめとする健康関連概念の起源と変遷について考究し理解を深めるとともに、健康・保健に関連する諸問題について、実験的手法、統計学的分析等の科学的データに基づいた検証によって解決法を探っていくことについて、研究指導を行う。 （11　吉岡　尚美） 障がい者のスポーツ活動の現状と諸課題をふまえ、現場につながる指導法について、国内外のアダプテッド体育・スポーツ学の文献研究、質的・量的な実践研究から明らかにすることについて、研究指導を行う。	

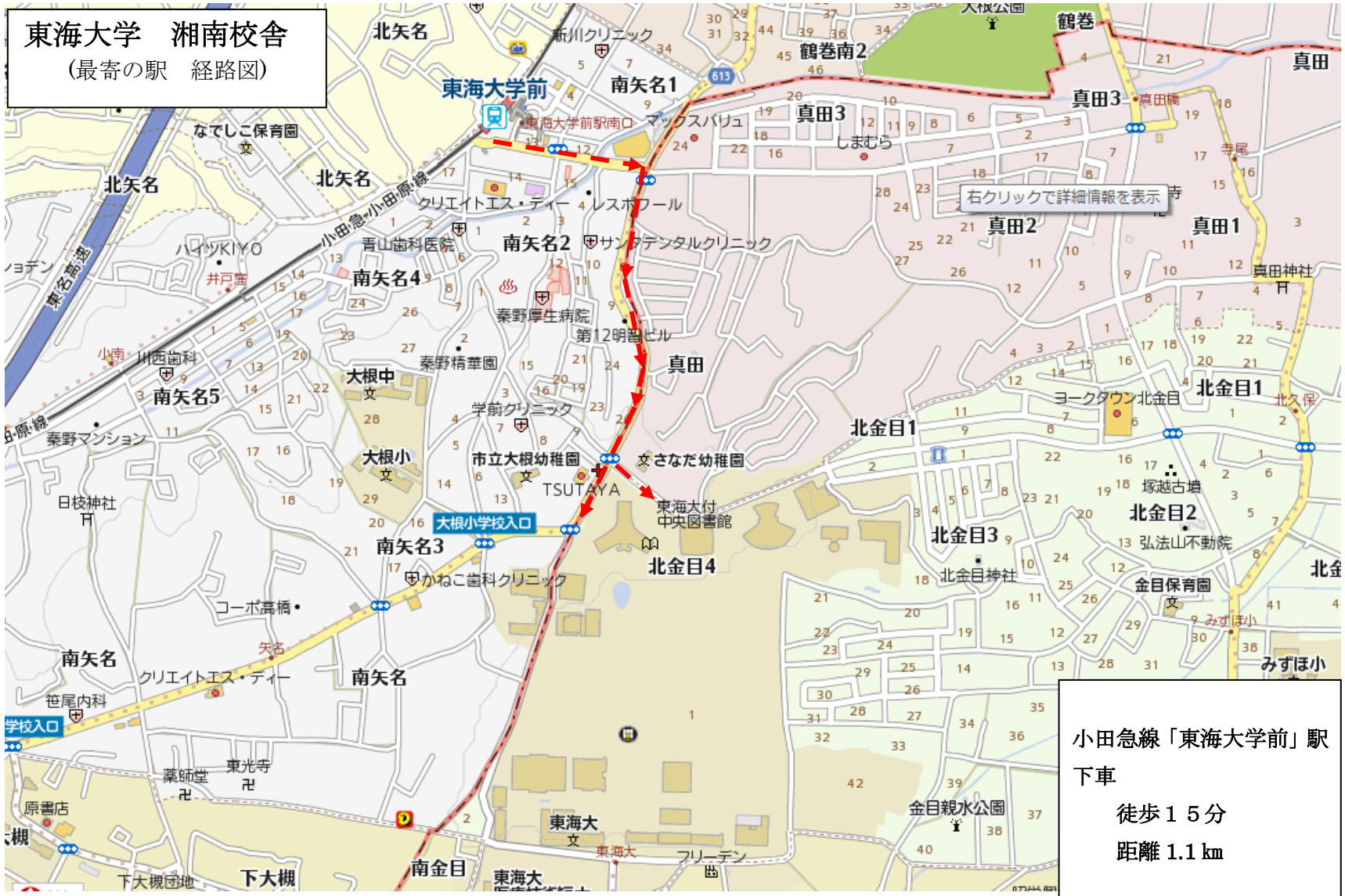
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	体育・スポーツ科学特別研究２	（概要） 体育・スポーツ科学特別研究２では、特別研究１でまとめた研究計画をより具体化し、実験系は実験方法のスキルを高め、文献系は資料収集の手順とその整理の仕方を学び、自身の研究を進めていく。また、研究内容のプレゼンテーション、ディスカッションを行う能力を高め、研究成果をまとめるために、学会発表や学会誌へ投稿する準備を行う。学期後半には、研究情報交換会（博士論文作成計画発表会）で研究の進捗状況を発表する。体育学研究科の教員から問題点の指摘や助言を受け、研究内容の充実をはかる。成績評価については、日常の研究への取り組み状況や研究計画の進捗状況、博士論文作成計画発表会の内容による。 （1　阿部　悟郎） 体育学・スポーツ科学の理論構成と現代的意義を踏まえ、体育・スポーツ哲学研究における精神科学的教育学に提起された教育学理論に基づいた現代的可能性を追求することについて、研究指導を行う。 （2　松浪　稔） スポーツ史・スポーツ人類学の分野について、特に、スポーツを支える身体の歴史（身体史：身体が歴史的に如何に扱われてきたか、近代的身体の形成過程）や、オリンピック史を中心に、身体、社会とスポーツの関係史について、最新の研究動向を踏まえながら検討することについて、研究指導を行う。 （3　松本　秀夫） 体育・スポーツ・レジャー・健康に関する行動科学の理論的枠組みと知識体系を構造的に理解し、スポーツ・レジャーに関する事柄について、健康・スポーツ心理学、社会心理学によるアプローチから検証することについて、研究指導を行う。 （4　八田　有洋） 長期運動トレーニングによって身体諸機能に適応変化が生じるとともにスキルの獲得やパフォーマンスが向上する。このようなヒトの運動適応能や可塑的変化について筋電図や脳電位などの電気生理学的指標を用いて検証することについて、研究指導を行う。 （5　山田　洋・13　松下　宗洋） バイオメカニクスや電気生理学的な観点から、スポーツ（オリンピック選手）から日常動作（一般の高齢者等）に至るまであらゆる被験者を対象とし、その動作特性や生理機能を生理的生体情報をツールとして用いることで解明していく。さらに、被験者の身体機能向上や健康寿命促進へつなげていくことについて、研究指導を行う。 （6　内山　秀一） 運動やトレーニングは、身体に急性的及び慢性的な変化をもたらす。特に、筋の形態的及び機能的変化は顕著である。運動やトレーニング刺激に対する筋の適応メカニズムについて、運動生理学及び運動生化学的手法により、発揮筋力、動作解析、筋電図、筋及び脳の血流動態、血中の代謝産物などを指標に実験的に検証することについて、研究指導を行う。 （7　宮崎　誠司） スポーツによる生理学・形態学的な変化を正常機能の比較や疫病、外傷・障害といった異常状態の理解・知識を深め、薬理的、機能的、外科的操作による構造的、機能的修復へと導く手法を、スポーツ医学の観点から検証、考察することについて、研究指導を行う。 （8　久保田　晃生） 健康づくり・介護予防における身体活動の意義および普及方法について、国内外の運動疫学的研究における文献研究及び運動疫学的手法による実証的研究から明らかとすることについて、研究指導を行う。 （9　萩　裕美子・12　押見　大地） スポーツやレジャーの振興において重要なステークホルダーである、消費者（実践者、観戦者）に焦点を当て、スポーツやレジャーへの興味や関心について、どのような要因が関連し、影響を及ぼしているのか、健康科学や行動科学、スポーツマネジメントの視点から調査、分析を試みることについて、研究指導を行う。 （10　野坂　俊弥） ウェルネスをはじめとする健康関連概念の起源と変遷について考究し理解を深めるとともに、健康・保健に関連する諸問題について、実験的手法、統計学的分析等の科学的データに基づいた検証によって解決法を探っていくことについて、研究指導を行う。 （11　吉岡　尚美） 障がい者のスポーツ活動の現状と諸課題をふまえ、現場につながる指導法について、国内外のアダプテッド体育・スポーツ学の文献研究、質的・量的な実践研究から明らかにすることについて、研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	体育・スポーツ科学特別研究３	（概要） 体育・スポーツ科学特別研究３では、特別研究２でまとめた研究成果をもとに、博士論文の作成を進める。学期後半には、研究情報交換会（博士論文作成中間発表会）でこれまでの成果を中間報告として行う。体育学研究科の教員から問題点の指摘や助言を受け、博士論文作成に関わる知見を得て、さらに質の高い研究にするための検討を行う。成績評価については、日常の研究に対する取り組み状況や研究計画の進捗状況、博士論文作成中間発表会の内容による。 （1　阿部　悟郎） 体育学・スポーツ科学の理論構成と現代的意義を踏まえ、体育・スポーツ哲学研究における精神科学的教育学に提起された教育学理論に基づいた現代的可能性を追求していくことについて、研究指導を行う。 （2　松浪　稔） スポーツ史・スポーツ人類学の分野について、特に、スポーツを支える身体の歴史（身体史：身体が歴史的に如何に扱われてきたか、近代的身体の形成過程）や、オリンピック史を中心に、身体、社会とスポーツの関係史について、最新の研究動向を踏まえながら検討することについて、研究指導を行う。 （3　松本　秀夫） 体育・スポーツ・レジャー・健康に関する行動科学の理論的枠組みと知識体系を構造的に理解し、スポーツ・レジャーに関する事柄について、健康・スポーツ心理学、社会心理学によるアプローチから検証することについて、研究指導を行う。 （4　八田　有洋） 長期運動トレーニングによって身体諸機能に適応変化が生じるとともにスキルの獲得やパフォーマンスが向上する。このようなヒトの運動適応能や可塑的変化について筋電図や脳電位などの電気生理学的指標を用いて検証することについて、研究指導を行う。 （5　山田　洋・13　松下　宗洋） バイオメカニクスや電気生理学的な観点から、スポーツ（オリンピック選手）から日常動作（一般の高齢者等）に至るまであらゆる被験者を対象とし、その動作特性や生理機能を生理的生体情報をツールとして用いることで解明していく。さらに、被験者の身体機能向上や健康寿命促進へつなげていくことについて、研究指導を行う。 （6　内山　秀一） 運動やトレーニングは、身体に急性的及び慢性的な変化をもたらす。特に、筋の形態的及び機能的変化は顕著である。運動やトレーニング刺激に対する筋の適応メカニズムについて、運動生理学及び運動生化学的手法により、発揮筋力、動作解析、筋電図、筋及び脳の血流動態、血中の代謝産物などを指標に実験的に検証することについて、研究指導を行う。 （7　宮崎　誠司） スポーツによる生理学・形態学的な変化を正常機能の比較や疫病、外傷・障害といった異常状態の理解・知識を深め、薬理的、機能的、外科的操作による構造的、機能的修復へと導く手法を、スポーツ医学の観点から検証、考察することについて、研究指導を行う。 （8　久保田　晃生） 健康づくり・介護予防における身体活動の意義および普及方法について、国内外の運動疫学的研究における文献研究及び運動疫学的手法による実証的研究から明らかとすることについて、研究指導を行う。 （9　萩　裕美子・12　押見　大地） スポーツやレジャーの振興において重要なステークホルダーである、消費者（実践者、観戦者）に焦点を当て、スポーツやレジャーへの興味や関心について、どのような要因が関連し、影響を及ぼしているのか、健康科学や行動科学、スポーツマネジメントの視点から調査、分析を試みることについて、研究指導を行う。 （10　野坂　俊弥） ウェルネスをはじめとする健康関連概念の起源と変遷について考究し理解を深めるとともに、健康・保健に関連する諸問題について、実験的手法、統計学的分析等の科学的データに基づいた検証によって解決法を探っていくことについて、研究指導を行う。 （11　吉岡　尚美） 障がい者のスポーツ活動の現状と諸課題をふまえ、現場につながる指導法について、国内外のアダプテッド体育・スポーツ学の文献研究、質的・量的な実践研究から明らかにすることについて、研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	体育・スポーツ科学特別研究４	（概要） 体育・スポーツ科学特別研究４では、これまでの研究成果をまとめ、社会への貢献につなげていく博士論文を完成させることを目的とする。博士論文の構成と各章の執筆、推敲に関する指導を受け、論文を完成させる。学期後半には、研究情報交換会（博士論文完成発表会）で博士論文の発表を行う。成績評価については、日常の研究に対する取り組み状況や研究計画の進捗状況、博士論文の提出及び博士論文完成発表会での発表の内容による。 （1　阿部　悟郎） 体育学・スポーツ科学の理論構成と現代的意義を踏まえ、体育・スポーツ哲学研究における精神科学的教育学に提起された教育学理論に基づいた現代的可能性を追求していくことについて、研究指導を行う。 （2　松浪　稔） スポーツ史・スポーツ人類学の分野について、特に、スポーツを支える身体の歴史（身体史：身体が歴史的に如何に扱われてきたか、近代的身体の形成過程）や、オリンピック史を中心に、身体、社会とスポーツの関係史について、最新の研究動向を踏まえながら検討することについて、研究指導を行う。 （3　松本　秀夫） 体育・スポーツ・レジャー・健康に関する行動科学の理論的枠組みと知識体系を構造的に理解し、スポーツ・レジャーに関する事柄について、健康・スポーツ心理学、社会心理学によるアプローチから検証することについて、研究指導を行う。 （4　八田　有洋） 長期運動トレーニングによって身体諸機能に適応変化が生じるとともにスキルの獲得やパフォーマンスが向上する。このようなヒトの運動適応能や可塑的変化について筋電図や脳電位などの電気生理学的指標を用いて検証することについて、研究指導を行う。 （5　山田　洋・13　松下　宗洋） バイオメカニクスや電気生理学的な観点から、スポーツ（オリンピック選手）から日常動作（一般の高齢者等）に至るまであらゆる被験者を対象とし、その動作特性や生理機能を生理的生体情報をツールとして用いることで解明していく。さらに、被験者の身体機能向上や健康寿命促進へつなげていくことについて、研究指導を行う。 （6　内山　秀一） 運動やトレーニングは、身体に急性的及び慢性的な変化をもたらす。特に、筋の形態的及び機能的変化は顕著である。運動やトレーニング刺激に対する筋の適応メカニズムについて、運動生理学及び運動生化学的手法により、発揮筋力、動作解析、筋電図、筋及び脳の血流動態、血中の代謝産物などを指標に実験的に検証することについて、研究指導を行う。 （7　宮崎　誠司） スポーツによる生理学・形態学的な変化を正常機能の比較や疫病、外傷・障害といった異常状態の理解・知識を深め、薬理的、機能的、外科的操作による構造的、機能的修復へと導く手法を、スポーツ医学の観点から検証、考察することについて、研究指導を行う。 （8　久保田　晃生） 健康づくり・介護予防における身体活動の意義および普及方法について、国内外の運動疫学的研究における文献研究及び運動疫学的手法による実証的研究から明らかとすることについて、研究指導を行う。 （9　萩　裕美子・12　押見　大地） スポーツやレジャーの振興において重要なステークホルダーである、消費者（実践者、観戦者）に焦点を当て、スポーツやレジャーへの興味や関心について、どのような要因が関連し、影響を及ぼしているのか、健康科学や行動科学、スポーツマネジメントの視点から調査、分析を試みることについて、研究指導を行う。 （10　野坂　俊弥） ウェルネスをはじめとする健康関連概念の起源と変遷について考究し理解を深めるとともに、健康・保健に関連する諸問題について、実験的手法、統計学的分析等の科学的データに基づいた検証によって解決法を探っていくことについて、研究指導を行う。 （11　吉岡　尚美） 障がい者のスポーツ活動の現状と諸課題をふまえ、現場につながる指導法について、国内外のアダプテッド体育・スポーツ学の文献研究、質的・量的な実践研究から明らかにすることについて、研究指導を行う。	

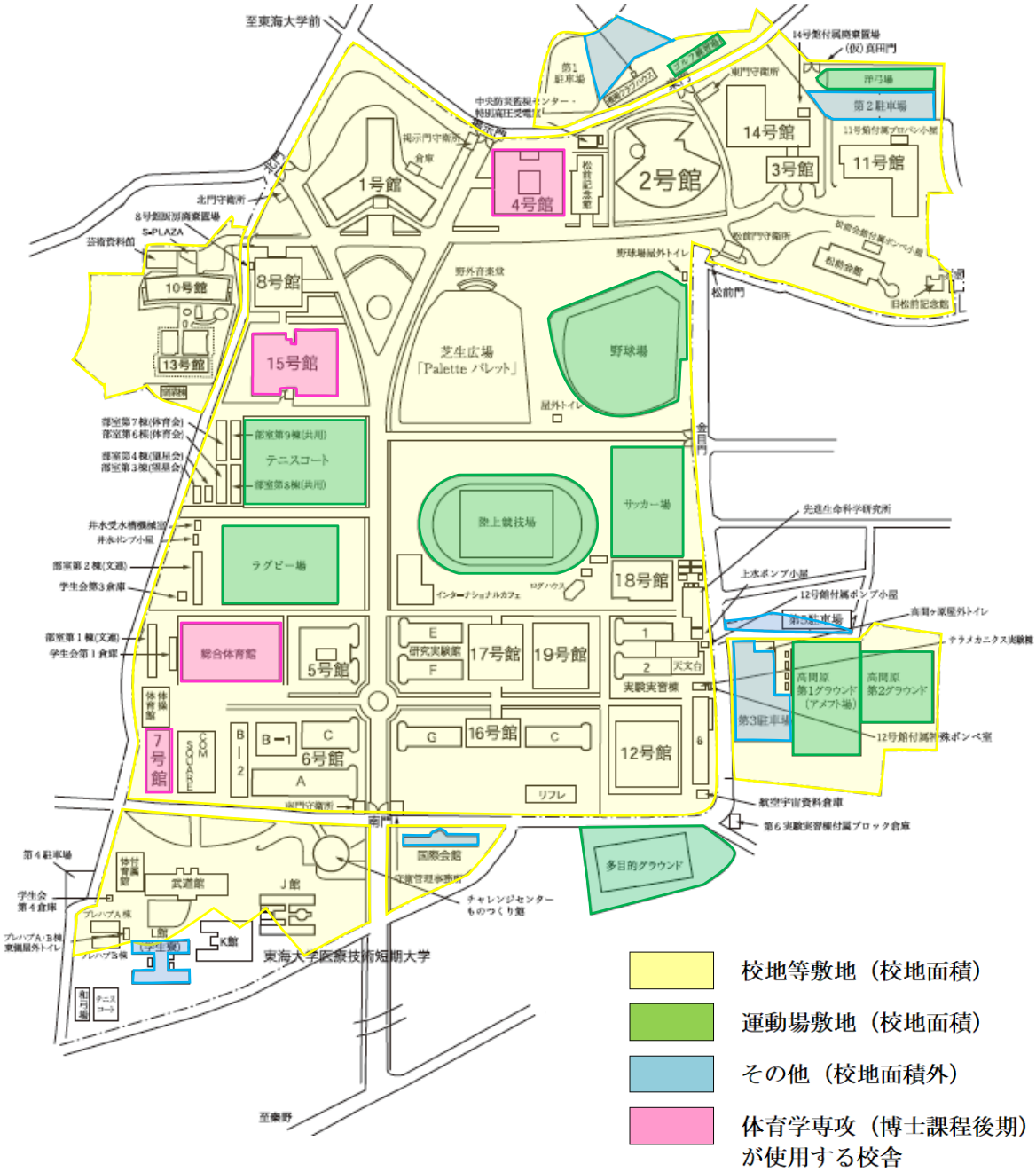
東海大学　湘南校舎
（位置関係図）

東海大学　湘南校舎
（最寄の駅　経路図）



小田急線「東海大学前」駅
下車
徒歩１５分
距離 1.1 km

湘南校舎配置図



湘南校舎　校地・校舎面積

	区　分	専　用	共　用	共有する他の学校の専用	計	
校地等	校舎敷地	378,307.80 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	378,307.80 ㎡	
	運動場用地	155,168.27 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	155,168.27 ㎡	内借地5,880.49㎡
	小計	533,476.07 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	533,476.07 ㎡	
	その他	14,699.03 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	14,699.03 ㎡	内借地5,567.00㎡
	合計	548,175.10 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	548,175.10 ㎡	借用期間：6年
校舎		専　用	共　用	共有する他の学校の専用	計	
		245,859.63 ㎡ （245,859.63 ㎡）	0.00 ㎡ （0.00 ㎡）	0.00 ㎡ （0.00 ㎡）	245,859.63 ㎡ （245,859.63 ㎡）	

○東海大学大学院学則（案）

（制定　昭和38年４月１日）

改訂　昭和39年４月１日　昭和40年４月１日
昭和41年４月１日　昭和42年４月１日
昭和43年４月１日　昭和44年４月１日
昭和45年４月１日　昭和46年４月１日
昭和47年４月１日　昭和48年４月１日
昭和49年４月１日　昭和50年４月１日
昭和51年４月１日　昭和52年４月１日
昭和53年４月１日　昭和54年４月１日
昭和55年４月１日　昭和56年４月１日
昭和57年４月１日　昭和58年４月１日
昭和59年４月１日　昭和60年４月１日
昭和61年４月１日　昭和62年４月１日
昭和63年４月１日　平成元年４月１日
平成２年４月１日　平成３年４月１日
平成３年９月１日　平成４年４月１日
平成５年４月１日　平成６年４月１日
平成７年４月１日　平成８年４月１日
平成９年４月１日　平成10年４月１日
平成11年４月１日　平成12年４月１日
平成13年４月１日　平成14年４月１日
平成15年４月１日　平成16年４月１日
平成17年４月１日　平成18年４月１日
平成19年４月１日　平成20年４月１日
平成20年10月１日　平成21年４月１日
平成22年４月１日　平成23年４月１日
平成24年４月１日　平成25年４月１日
平成26年４月１日　平成27年４月１日
平成28年４月１日　平成29年４月１日
平成30年４月１日　平成31年４月１日
令和２年４月１日　令和３年４月１日

第１章　総則

第１条　東海大学大学院（以下「本学大学院」という。）は，東海大学建学の精神にのっとり，専門分野における高度な学術の理論及び応用を教授研究し，その意義を認識すると同時に，その深奥を究め，又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い，文化の創造発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。

第１条の２　本学大学院は，研究科又は専攻ごとに，人材の養成に関する目的その他の研

究教育上の目的を別表１に定め，公表する。

第２条　本学大学院は，第１条，第１条の２の目的及び社会的使命を達成するため，教育研究活動等の状況について，自ら点検及び評価を行い，その結果を公表する。

２　前項の点検及び評価を行うに当たっては，適切な項目及び体制を別に定める。

第３条　本学大学院には，修士課程及び博士課程を置く。

２　博士課程（総合理工学研究科，生物科学研究科，医学研究科を除く。）は，これを前期２年（以下「博士課程前期」という。）及び後期３年（以下「博士課程後期」という。）の課程に区分する。

３　前項の前期２年の課程は，これを修士課程として取り扱う。

第３条の２　削除

２　削除

３　削除

４　削除

第４条　修士課程及び博士課程前期は，広い視野に立って精深な学識を授け，専攻分野における研究能力，又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。

第５条　博士課程及び博士課程後期は，専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い，又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

第２章　研究科，専攻等

第６条　本学大学院に，次の研究科・専攻及び課程を置く。

大学院

研　究　科　名	専　　攻　　名	修士課程・博士課程の別
総合理工学研究科	総合理工学専攻	博士課程
生物科学研究科	生物科学専攻	博士課程
文学研究科	文明研究専攻 史学専攻 日本文学専攻 英文学専攻 コミュニケーション学専攻	博士課程（前期・後期）
	観光学専攻	修士課程
政治学研究科	政治学専攻	博士課程（前期・後期）

経済学研究科	応用経済学専攻	博士課程（前期・後期）
法学研究科	法律学専攻	博士課程（前期・後期）
人間環境学研究科	人間環境学専攻	修士課程
芸術学研究科	音響芸術専攻 造型芸術専攻	修士課程
体育学研究科	体育学専攻	博士課程（前期・後期）
理学研究科	数理科学専攻 物理学専攻 化学専攻	修士課程
工学研究科	電気電子工学専攻 応用理化学専攻 建築土木工学専攻 機械工学専攻 医用生体工学専攻	修士課程
情報通信学研究科	情報通信学専攻	修士課程
海洋学研究科	海洋学専攻	修士課程
医学研究科	先端医科学専攻	博士課程
	医科学専攻	修士課程
健康科学研究科	看護学専攻 保健福祉学専攻	修士課程
農学研究科	農学専攻	修士課程
生物学研究科	生物学専攻	修士課程

第３章　修業年限，年度，学期及び休業日等

第７条　修士課程及び博士課程前期の修業年限は２年，博士課程及び博士課程後期の標準修業年限は３年，医学研究科博士課程にあっては４年とする。

２　修士課程及び博士課程前期にあっては４年，博士課程及び博士課程後期にあっては６年，医学研究科博士課程にあっては８年を超えて在学することはできない。

第８条　年度は，４月１日に始まり翌年３月 31 日に終わる。

２　前項において規定する年度の途中においても，学期の区分に従い，学生を入学させ及び修了させることができる。

第９条　１年度は，２学期に分け，原則として，春学期は４月１日より９月 30 日まで，秋学期は 10 月１日より３月 31 日までとする。ただし，学長は授業の開始終了について，変更することができる。

第１０条　学生の休業日は，日曜日及び国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日のほか，大学が定める期間とする。

春期休暇　　２月 15 日より３月 31 日まで
夏期休暇　　８月１日より９月 20 日まで
建学記念日　11 月１日
冬期休暇　　12 月 26 日より翌年１月６日まで

２　前項における休業日について，学長は，臨時に変更及び臨時の休業日を定めることができる。

第４章　定員

第１１条　本学大学院の入学定員及び収容定員は，別表２のとおりとする。

第５章　授業科目及び単位数

第１２条　各研究科の専攻別授業科目及び単位数は，別表３のとおりとする。ただし，総合理工学研究科，生物科学研究科の授業は，時間制を適用する。

第６章　履修方法及び単位算定基準

第１３条　通常の授業については，45 時間の学修を必要とする内容をもって１単位の授業とすることを標準とし，原則として次の基準によって単位計算するものとする。

（１）　講義・演習科目は，15 時間の授業をもって１単位とする。
（２）　外国語科目は，30 時間の授業をもって１単位とする。
（３）　実験，実習，実技科目は，30 時間の授業をもって１単位とする。
（４）　修士論文・博士論文作成等の科目は，これらに必要な学修等を考慮して単位数を定める。

第１３条の２　本学大学院が実施する遠隔授業科目については，前条に従い単位を与えることができる。

第１３条の３　本学大学院は，教育上特別の必要があると認めた場合には，夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

第１４条　学生は，大学の指定した期間に指導教員の指導のもとで当該学年における履修授業科目を選定し，受講を申請しなければならない。

第１５条　指導教員は，その学生の本学大学院における修学研究一般及び論文の作成を指導する。

２　研究科長が必要であると認めるとき，その所属学生に対し，所定の授業科目のほか，当該研究科内の他専攻若しくは本学大学院他研究科又は本学学部に配置された授業科目を指定し，これを履修させることができる。

３　前項による履修のうち,他研究科に配置された授業科目を履修させようとするときは，学生の所属する研究科長は，当該授業科目が配置されている研究科長の承諾を得なければならない。

第７章　成績の評価及び課程修了の認定

第１６条　授業科目履修の認定は，試験によって行う。

２　試験は，学期末に授業担当教員が行う。

３　試験を受けることができる授業科目は，本学大学院において正規に受講した授業科目に限る。

第１６条の２　本学大学院が教育上有益と認めるときは，原則として別表４に定める本学大学院と協定を結ぶ他の大学院における学修を，本学大学院における授業科目の履修とみなし，10 単位を超えない範囲で研究科教授会の議を経て認定することができる。

第１６条の３　本学大学院が教育上有益と認めるときは，学生が他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを研究科教授会の議を経て認めることができる。ただし，修士課程の学生について認める場合には，当該研究指導を受ける期間は，１年を超えないものとする。

第１６条の４　本学大学院が教育上有益と認めるときは，本学大学院に入学する前に本学大学院又は他の大学院（外国の大学院を含む）の授業科目について修得した単位を，本学大学院に入学した後の本学大学院における授業科目の履修により修得したものとみなし，１０単位を超えない範囲で研究科教授会の議を経て認定することができる。

第１７条　最終試験は，修士課程又は博士課程を修了するに必要な単位（総合理工学研究科，生物科学研究科においては必要な受講時間）の全部を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，学位論文を提出した者について行う。

第１８条　学位論文の審査及び最終試験については，東海大学学位規程に定める。

第１９条　修士課程及び博士課程前期については，２年以上在学し，専攻する専門課程の科目につき，必修・選択科目を通じて次の単位を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上修士論文又はこれに代わる研究成果を指導教員を通じて研究科長に提出し，その審査及び最終試験に合格した者を修了と認定する。ただし，優れた業績をあげた者については，１年以上在学すれば足りるものとする。

研　究　科	文　学	政治学	経済学	法　学	人間環境学	芸術学	体育学	理　学
単　位　数	30	32	30	32	32	30	30	30

工　学	情報通信学	海洋学	医　学	健康科学	農　学	生　物

36	30	32	30	30	30	32

２　前項について修士課程及び博士課程前期の目的に応じ当該研究科教授会が適当と認めるときは，特定の課題についての研究成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

３　入学後に第 15 条第２項,第 16 条の２及び第 16 条の３による履修によって修得した単位については，合わせて 10 単位を超えない範囲で研究科教授会の議を経て，これを第１項の単位に含めることができる。

第２０条　大学院博士課程については，５年（医学研究科にあっては４年）以上在学し，専攻する専門課程の科目につき，必修・選択科目を通じて次の単位を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，博士論文を研究科長に提出し，その審査及び最終試験に合格した者を修了と認定する。ただし，優れた研究業績をあげた者については，大学院に３年以上在学すれば足りるものとする。

研　究　科	文　学	政治学	経済学	法　学	体育学	医　学
単　位　数	40	46	48	48	46	30

２　修士課程を修了した者にあっては，当該課程における２年を在学期間に含めることができる。

３　修士課程を修了した者にあっては，当該課程において修得した単位のうち，博士課程における研究に必要と認められたものについて，第１項の単位に含ませることができる。

４　入学後に第 15 条第２項,第 16 条の２及び第 16 条の３による履修によって修得した単位については，合わせて 10 単位を超えない範囲で研究科教授会の議を経て，これを第１項の単位に含ませることができる。ただし，第 19 条第３項により認められた単位数と本項により認められた単位数の合計は，10 単位を超えないものとする。

５　第１項から前項の規定にかかわらず，学校教育法施行規則第 156 条の規定により大学院への入学資格に関し修士の学位若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者又は専門職学位課程を修了した者が，博士課程の後期 3 年の課程に入学した場合の博士課程の修了の要件は，大学院に３年（専門職大学院設置基準第 18 条第１項の法科大学院の課程を修了した者にあっては，２年）以上在学し，研究科が必要と認めた授業科目について，次の単位を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，研究科長に博士論文を提出し，その審査及び最終試験に合格することとする。ただし，在学期間に関しては，優れた研究業績をあげた者については，大学院に１年（標準修業年限が１年以上２年未満の専門職学位課程を修了した者にあっては，３年から当該１年以上２年未満の期間を減じた期間）以上在学すれば足りるものとする。

研究科	文学	政治学	経済学	法学	体育学
単位数	10 以上	８以上	８以上（ただし，指導教員	16 以上（ただし，法	16 以上

			が指定する科目の単位数を含む）	科大学院修了者は８以上とする）	

第２０条の２　総合理工学研究科，生物科学研究科については，３年（専門職大学院設置基準第 18 条第 1 項の法科大学院の課程を修了した者にあっては，２年）以上在学し，共同ゼミナール，専修ゼミナール各 30 時間を受講し，かつ，必要な研究指導を受けた上，博士論文を研究科長に提出し，その審査及び最終試験に合格した者を修了と認定する。ただし，優れた研究業績をあげた者については，大学院に１年（修士課程及び博士課程前期の修了者にあっては,修士課程及び博士課程前期を含めて３年）以上在学し，各ゼミナールについては 15 時間以上受講すれば足りるものとする。

第２１条　試験成績の評価及び合否は，次のとおりとする。

（１）　授業科目についての評価は合，Ｓ，Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｅとし，合，Ｓ，Ａ，Ｂ，Ｃを合格，Ｅを不合格とする。

（２）　学位論文・研究成果及び最終試験については，合格，不合格とする。

（３）　大学院に入学する前，及び入学後の本学における授業科目の認定に関する表記は，原則として「認」とする。

第２２条　教育職員免許状授与の所要資格を得ようとする者は,第 19 条に定める修了の所要単位のほか，教育職員免許法（昭和 24 年法律第 147 号）及び教育職員免許法施行規則（昭和 29 年文部省令第 26 号）に定める単位を修得しなければならない。

２　大学院において免許状授与の所要資格を得ることができる教育職員免許状の種類及び免許教科の種類は，次のとおりとする。

研究科・専攻 ＼ 免許状の種類		中学校教諭専修免許状 免許教科	高等学校教諭専修免許状 免許教科
文学研究科	文明研究専攻 史学専攻	社　　会	地理歴史
	日本文学専攻	国　　語	国　　語
	英文学専攻	外国語（英語）	外国語（英語）
	コミュニケーション学専攻	社　　会	公　　民
政治学研究科	政治学専攻	社　　会	公　　民
経済学研究科	応用経済学専攻	社　　会	公　　民

法学研究科	法律学専攻		社　　会	公　　民
人間環境学研究科	人間環境学専攻		理　　科 社　　会	理　　科 公　　民
芸術学研究科	音響芸術専攻		音　　楽	音　　楽
	造型芸術専攻		美　　術	美　　術
体育学研究科	体育学専攻		保健体育	保健体育
理学研究科	数理科学専攻		数　　学	数　　学
	物理学専攻 化学専攻		理　　科	理　　科
工学研究科	電気電子工学専攻			情　　報 工　　業
	応用理化学専攻		理　　科	理　　科 工　　業
	建築土木工学専攻			工　　業
	機械工学専攻			工　　業
海洋学研究科	海洋学専攻		理　　科	理　　科
農学研究科	農学専攻	生物資源科学コース		農　　業
		生命科学コース		理　　科
生物学研究科	生物学専攻		理　　科	理　　科

第８章　学位の授与

第２３条　本学大学院の学位の種類は，その修了した研究科・専攻に応じて次のとおりとする。

大学院

総合理工学研究科	博士（理学）・博士（工学）
生物科学研究科	博士（理学）・博士（農学）・博士（水産学）
文学研究科	
文明研究専攻	修士（文学）・博士（文学）
史学専攻	修士（文学）・博士（文学）
日本文学専攻	修士（文学）・博士（文学）
英文学専攻	修士（文学）・博士（文学）
コミュニケーション学専攻	修士（文学）・博士（文学）
観光学専攻	修士（観光学）
政治学研究科	修士（政治学）・博士（政治学）
経済学研究科	修士（経済学）・博士（経済学）
法学研究科	修士（法学）・博士（法学）
人間環境学研究科	修士（学術）
芸術学研究科	修士（芸術学）
体育学研究科	修士（体育学）・博士（体育学）
理学研究科	修士（理学）
工学研究科	修士（工学）
情報通信学研究科	修士（情報通信学）
海洋学研究科	修士（海洋学）
医学研究科	修士（医科学）・博士（医学）
健康科学研究科	
看護学専攻	修士（看護学）
保健福祉学専攻	修士（保健福祉学）
農学研究科	修士（農学）
生物学研究科	修士（理学）

２　前項に定めるもの（人間環境学研究科を除く）のほか，専攻分野が学際領域等に係わるもので，当該研究科教授会が適当と認めたときは，「学術」と付記することができる。

第２４条　学位の授与については，別に定める東海大学学位規程による。

第９章　入学，退学，休学，再入学，復学，留学，転学

第２５条　削除

第２６条　修士課程及び博士課程前期に入学することができる者は，学校教育法第 102 条の規定により，次の各号の一に該当する者とする。

（１）　学校教育法第 83 条に定める大学を卒業した者

（２）　学校教育法施行規則第 155 条の規定により，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者のうち，次の各号の一に該当する者

イ　学校教育法第 104 条第４項の規定により学士の学位を授与された者

ロ　外国において，学校教育における 16 年の課程を修了した者

ハ　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者

ニ　我が国において，外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

ホ　外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価をうけたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が３年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者

ヘ　専修学校の専門課程（修業年限が４年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

ト　文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年文部省告示第５号）

チ　大学に３年以上在学し，所定の単位を優れた成績をもって修得したと本学大学院が認めた者

リ　本学大学院が，個別の入学資格審査により，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で 22 歳に達した者

第２７条　博士課程及び博士課程後期に入学することができる者は，学校教育法第 102 条ただし書きの規定により，次の各号の一に該当する者とする。

（１）　修士の学位を有する者

（２）　専門職学位を有する者

（３）　学校教育法施行規則第 156 条の規定により修士の学位を有する者若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者のうち，次の各号の一に該当する者

イ　外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

ロ　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

ハ　我が国において，外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

ニ　国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法第１条第２項に規定する 1972 年 12 月 11 日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し，修士の学位に相当する学位を授与された者

ホ　外国の学校，第３号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し，大学院設置基準第 16 条の２に規定する試験及び審査に相当するものに合格し，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

ヘ　文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第 118 号）

ト　本学大学院が個別の入学資格審査により，修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で 24 歳に達した者

第２８条　医学研究科博士課程に入学することができる者は，学校教育法第 102 条の規定により，次の各号の一に該当する者とする。

（１）　学校教育法第 83 条に定める大学の医学，歯学又は修業年限６年の獣医学，薬学を履修する課程を卒業した者

（２）　修士の学位を有する者

（３）　学校教育法施行規則第 155 条の規定により，前号に定める者と同等以上の学力があると認められる者のうち，次の各号の一に該当する者

イ　外国において，学校教育における 18 年の課程を修了した者

ロ　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 18 年の課程を修了した者

ハ　我が国において，外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 18 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

ニ　外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価をうけたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が５年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者

ホ　文部科学大臣の指定した者（昭和 30 年文部省告示第 39 号）

ヘ　本学大学院が，個別の入学資格審査により，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で 24 歳に達した者

第２９条　本学大学院の入学志願者は，所定の書類に受験料を添えて，これを所定の期日までに提出しなければならない。

第３０条　本学大学院の入学試験に関することは，別に定める。

第３１条　入学を許可された者は，指定の期日までに保証人連署の誓約書に，別に定める入学金を添えて提出しなければならない。

２　前項に定める手続を期間内に終了しない者は，入学を許可しない。

第３２条　前条第１項の保証人は，確実に保証人としての責任を果たし得る者でなければならない。

２　保証人が死亡その他の理由でその責務を果たし得なくなった場合には，直ちに新たな保証人を届け出なければならない。改姓又は転居した場合も同様とする。

第３３条　退学又は休学をしようとする者は，保証人連署で願い出なければならない。

２　引き続いて休学できる期間は，原則として１年以内とし，休学期間は在学期間に算入しない。

３　退学又は休学した者は，願により再入学又は復学を許可することがある。
４　休学した者が休学期間終了後２か月以内に復学願を提出しないときは除籍する。
第３４条　本学大学院が教育上有益と認めたときは，学生が国内外の大学院に留学することを認めることがある。
２　留学に関する規程は，別にこれを定める。
第３５条　本学大学院の学生で，他の大学院に転学を志望する者は，保証人連署の上で願い出なければならない。
第３６条　研究科における転科・専攻の変更は，当該学生の所属研究科及び受入研究科の研究科教授会が認めた場合，許可することがある。
第３７条　他の大学院の学生が所属の大学学長又は研究科長の承認を得て，本学大学院に転学を志願するときは，年度の始めに限り大学院運営委員会で選考の上，その入学を許可することがある。

第１０章　学費

第３８条　授業料，入学金その他の学費は，別表５のとおりとする。
第３９条　休学中の学費は，休学の期間が全学期にわたっている場合に限り，当該学期の授業料のみの半額とする。
第４０条　授業料その他の学費は，所定の期日までにこれを納入しなければならない。
２　いったん納付した授業料及びその他の納付金は，事由のいかんにかかわらず返却しない。
３　授業料その他の学費を所定の期日までに納付しない者は，除籍する。ただし，正当な事由により授業料及びその他の納付金の一部若しくは全額を延納しなければならないときは，保証人連署でその旨を願い出て許可を得なければならない。
４　除籍された者は，願により復籍を許可されることがある。

第１１章　賞罰

第４１条　本学大学院在学中，学業・人物共に特に優れた者又は教科外活動でその活動が顕著な者に対して，別に定めるところにより表彰する。
第４２条　本学大学院学生として特に善行のあった者に対して表彰する。
第４３条　学則及び学生諸規則に違反し，学生の本分に反する者に対しては，懲戒委員会の議を経て学長はこれを懲戒する。
２　懲戒は，戒告，停学，退学の３種とする。
３　次の各号の一に該当する者に対しては，退学を命ずる。
（１）　性行不良で改善の見込みがないと認められた者
（２）　学力劣等で成業の見込みがないと認められた者
（３）　正当な理由なしに出席が常でない者
（４）　大学の秩序を乱し，その他学生としての本分に反した者
４　懲戒委員会の規程は，別にこれを定める。

第１２章　教員組織

第４４条　本学大学院における授業及び研究指導の担当教員は，学部所属の教授をこれに当てる。ただし，必要に応じ，研究科教授会の議を経て，准教授，講師及び付置研究所所属の教授，准教授を当てることがある。

第１３章　運営組織

第４５条　本学大学院に運営委員会及び研究科教授会を置き，その規程は，別にこれを定める。

第１４章　研究指導施設

第４６条　本学大学院に学生研究室を設ける。

２　学部及び研究所の施設は,必要に応じ,学生の研究及び指導のため用いることがある。

第１５章　厚生保健施設

第４７条　本学大学院学生は，大学の厚生施設を利用することができる。

第４８条　本学大学院学生は，大学の保健施設を利用することができる。

第４９条　本学大学院学生は，大学が行う定期健康診断を受けなければならない。

第１６章　委託生，聴講生，科目等履修生，研究生

第５０条　本学大学院に委託生，聴講生，科目等履修生，研究生及び法務研究生を置き，その規程は，別に定める。

付　則

１　この学則は，昭和 38 年４月１日から施行する。

２　この学則に特別の規定のないことについては，東海大学学則を準用する。

３　第 22 条第２項に定める高等学校教諭専修免許状の免許教科のうち地理歴史及び公民については，平成６年４月入学者よりこれを適用する。

４　平成 18 年度以前に入学した学生については，旧学則（平成 18 年４月１日付改訂）を適用する。

５　学則第 20 条の第５項については，旧学則（平成 15 年４月１日付改訂）により平成 15 年度に入学した学生についても適用する。

６　平成 23 年度以前に入学した工学研究科情報通信制御システム工学専攻,経営工学専攻の学生については,修了するまで旧学則（平成 23 年４月１日付改訂）を適用する。

７　芸術工学研究科については，平成 25 年４月より学生募集を停止し,在学生の修了をもって廃止する。平成 24 年度以前に入学した芸術工学研究科の学生については，修了するまで旧学則（平成 24 年４月１日付改訂）を適用する。

８　開発工学研究科，理工学研究科電子情報工学専攻については，平成 26 年４月より学生募集を停止し，在学生の修了をもって廃止する。平成 25 年度以前に入学した開発工学研究科，理工学研究科電子情報工学専攻の学生については，修了するまで旧学則（平成 25 年４月１日付改訂）を適用する。

９　海洋学研究科海洋工学専攻，水産学専攻，海洋科学専攻，海洋生物科学専攻については，平成 27 年４月より学生募集を停止し，在学生の修了をもって廃止する。平成 26 年度以前に入学した海洋学研究科海洋工学専攻，水産学専攻，海洋科学専攻，海洋生物科学専攻の学生については，修了するまで旧学則（平成 26 年４月１日付改訂）を適用する。

10　工学研究科情報理工学専攻,電気電子システム工学専攻,応用理学専攻,光工学専攻,工業化学専攻，金属材料工学専攻，建築学専攻，土木工学専攻，機械工学専攻，航空宇宙学専攻については，平成 28 年４月より学生募集を停止し，在学生の修了をもって廃止する。平成 27 年度以前に入学した工学研究科情報理工学専攻，電気電子システム工学専

攻，応用理学専攻，光工学専攻，工業化学専攻，金属材料工学専攻，建築学専攻，土木工学専攻，機械工学専攻，航空宇宙学専攻の学生については，修了するまで旧学則（平成 27 年 4 月 1 日付改訂）を適用する。

11　国際地域学研究科国際地域学専攻，理工学研究科環境生物科学専攻については，平成 28 年４月より学生募集を停止し，在学生の修了をもって廃止する。平成 27 年度以前に入学した国際地域学研究科国際地域学専攻，理工学研究科環境生物科学専攻の学生については，修了するまで旧学則（平成 27 年４月１日付改訂）を適用する。

12　産業工学研究科生産工学専攻，情報工学専攻，社会開発工学専攻については，平成 29 年４月より学生募集を停止し，在学生の修了をもって廃止する。平成 28 年度以前に入学した産業工学研究科生産工学専攻，情報工学専攻，社会開発工学専攻の学生については，修了するまで旧学則（平成 28 年４月１日付改訂）を適用する。

13　別表３における文学研究科コミュニケーション学専攻の授業科目の変更は、令和２年４月１日から施行し、平成 30 年度及び平成 31 年度の入学生に遡及して適用する。

14　地球環境科学研究科地球環境科学専攻については，令和３年４月より学生募集を停止し，在学生の修了をもって廃止する。令和２年度以前に入学した地球環境科学研究科地球環境科学専攻の学生については，修了するまで旧学則（令和２年４月１日付改訂）を適用する。

付　則（令和３年４月１日）

この学則は，令和３年４月１日から施行する。

別表１　　教育研究上の目的及び養成する人材像

<table>
<tr><th>研究科名</th><th>専攻名</th><th>研究科・専攻の教育研究上の目的及び養成する人材像</th></tr>
<tr><td>総合理工学研究科</td><td>総合理工学専攻</td><td>総合理工学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、世界に向けて情報発信できる高度な研究能力を備え、かつ国際的な広い視野と見識を合わせ持った人間味豊かな研究者、技術者、国際機関職員など各方面でリーダーとして活躍し得る人材を養成することである。</td></tr>
<tr><td>生物科学研究科</td><td>生物科学専攻</td><td>生物科学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、国内外の学術交流を深めて国際感覚を有し、人類及び社会が今後遭遇し得る諸問題を発見する高い能力を持つとともに、その問題を生物科学的アプローチで倫理的かつ自律的に解決できる人材を養成することである。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">文学研究科</td><td colspan="2">文学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、専門分野における高度な知識とそれを活用する能力を修得するとともに、近年の社会の多様な価値意識、人文・社会科学の複合的動向をふまえ、より学際的な視点から地球規模でのグローバル社会に対応できる人材を養成することである。本研究科は、伝統的な人文学研究の学問領域を超える研究領域を包括することを特長とし、その特長を活かしながら学問の進展と社会の要求にこたえることを存在の立脚点としている。本研究科が目指すのは、専攻相互さらには外部諸機関との積極的な研究・教育交流によって学問の細分化、専門化に陥ることなく、視野の広い開放的な研究環境のなかで、確固たる基礎力と柔軟な思考の上に立ち、国際的にも活躍できる人材、同時に、高度な科学技術社会において人間性や倫理観を尊重し、批判的姿勢をもってそれに向かう精神を備えた人材を養成することである。</td></tr>
<tr><td>文明研究専攻</td><td>文明研究専攻の教育研究上の目的は、個々の学問領域をふまえながらも同時に狭い専門領域に閉じこもることなく、地球上に存在するさまざまな文明・文化の多様性を尊重し、確固たる歴史観と世界観を基礎とした複眼的視野から人類の文明を捉えることのできる人材を育成することである。本専攻は、科学技術の急速な発展、流動的な内外の政治・社会情勢など、かつてない速度で変化を遂げつつある現代社会において、その変化に対応し同時に揺らぎのない視点を有する人材育成を目指す。本専攻が目指すのは、教育内容の水準を堅持しつつ視野の広がりを促すカリキュラムを設定し、確固とした研究方法と知識を身につけさせることにより研究者としての主体性を持たせることを教育の立脚点とし、専門領域を超えた文明論的視座を備え、優れた社会人として現代社会のなかで自己の能力を十二分に生かすことのできる人材を育成することである。</td></tr>
<tr><td>史学専攻</td><td>史学専攻の教育研究上の目的は、伝統的な史学研究を継承すると同時に、単なる個別な歴史研究ではなく総合的な人類史を追究する視点を有し、より広い研究対象に対してグローバルで柔軟な思考ができる人材を養成することである。本専攻では、史学研究の実践を通し、今日の社会に適応しかつ社会に対して新たな提言のできる人材の育成を教育の立脚点とする。本専攻が目指すのは、文献史学に偏らずに考古学も加えて総合的な人類史を追及できるカリキュラムと、専攻内や他大学の大学院との積極的交流制度を活用して、伝統的な史学研究法だけではなく広い視野を持ってグローバルで柔軟な思考のできる人材を養成することである。</td></tr>
<tr><td>日本文学専攻</td><td>日本文学専攻では、以下の２コースにおいてそれぞれ教育研究上の目的を設定している。日本文学研究コースでは日本文学・日本語学に指導的役割を果たせる教養人もしくは専門研究者や教育者の育成、日本語教育学コースでは日本語教育の研究者や実践家の育成を、それぞれの教育の立脚点としている。
日本文学研究コースの教育研究上の目的は、日本文学および日本語について専門的な深い知識と理解を有し、それらの研究分野で自発的能力を備えて社会的普及に積極的に寄与しうる人材、同時に、将来を通じて国際的に貢献しうる深い知識と実践的能力とを併せ有する人材育成である。本コースが目指すのは、日本文学・日本語研究の専門研究者、日本文学・日本語研究の社会的普及に寄与できる人材、国語教育分野の優れた教員、国際的に貢献できる知識と実践力を持った人材を育成することである。
日本語教育学コース教育の研究上の目的は、日本語教育の社会的ニーズに応えるべく、日本語教育学について専門的な研究能力と実践力を培い、次代を担う優れた日本語教育の専門研究者及び実践者となる人材を養成することである。本コースが目指すのは、優れた日本語教育の研究者・実践家であり、同時に深い知識をもって国際的に貢献できる人材を育成することである。</td></tr>
<tr><td>英文学専攻</td><td>英文学専攻の教育研究上の目的は、新たな知の開拓とともに変革が急速に進みつつある現代社会において、時代に即した高度な知識と実践性を備えた人材、とくに言語学・英米文学については高度な専門知識を有し、英語教育学とコミュニケーション学ではスペシャリストとして実践的知識と豊かで幅広い学識を身につけた人材を養成することである。本専攻は、時代の要求に応じて、英語・英文学についての高度な専門性と教育やコミュニケーション分野での理論と実践的知識を涵養することを教育の立脚点とする。本専攻が目指すのは、英米文学・英語学・英語教育学・コミュニケーション学いずれかの分野で高い専門性を有するとともに、他国の文学や言語に対する深い理解に裏打ちされた豊かで幅広い教養を備え、教育など実践面でも活躍できる人材を育成することである。</td></tr>
</table>

文学研究科	コミュニケーション学専攻	コミュニケーション学専攻の教育研究上の目的は、メディア学系、社会学系、臨床心理学系の３つの学問系列の有機的連関をふまえ、コミュニケーションに関する専門職業人および研究者としての人材を養成することである。具体的には、メディア学系ではコミュニケーションを行う際の媒体の機能とその結果を把握しえる専門家、社会学系ではコミュニケーションを行う人間の集合である社会の諸問題を対象とする専門家、臨床心理学系ではコミュニケーションを行う個人の心の働きに注目する臨床心理学の専門家となるべき人材を養成することである。本専攻は、メディア学系・社会学系・臨床心理学系の３つの学問系列を備え、相互の有機的連関によって、コミュニケーションに関する専門職業人・研究者を養成することを教育の立脚点とする。これらの３つの系列をもつ専攻として目指すのは、メディア学系ではコミュニケーション媒体の機能や情報発信についての専門家、社会学系ではコミュニケーションを行う人間の集団である社会の諸問題についての専門家、臨床心理学系ではコミュニケーションを行う個人の心に注目する臨床心理学の専門家として活躍できる人材を育成することである。
	観光学専攻	観光学専攻の教育研究上の目的は、複合的な知と思考力に基づく問題発見解決力、グローバルな環境で活躍できる発信力・コミュニケーション力、学術的知見を産業界に生かすことができる発想力・応用力を身につけ、観光・地域振興に関する国や地方公共団体等の専門職、民間のシンクタンク等の研究職員、あるいは学問研究分野で基礎的研究者として活躍できる人材を養成することである。本専攻では、社会科学を基盤としつつ、人文科学や自然科学にも及ぶ複合的な知と思考力を形成するカリキュラムに基づき、問題発見解決力、グローバルな環境で活躍できる多言語による発信力・コミュニケーション力、学術的知見を多面的に生かすことができる発想力・応用力を修得させることによって、総合知としての観光学を学術的に展開できる人材を育成することを教育の立脚点とする。本専攻が目指すのは、観光・サービスに関わる研究と産業界におけるその応用を先導することができる、基礎的研究者と高度専門的職業人となる人材を育成することである。
政治学研究科	政治学専攻	政治学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、グローバル化とローカル化、多様性と統一性、分権化と集権化の衝突の中で、わが国及び世界の経済的、社会的、環境的な持続可能性を実現する新しい政治理論とその応用を探究することである。この目的を達成するため、博士課程前期では、広く社会科学を包含する学際的視野をもち、複雑な政治現象を解明してその諸課題を合理的に解決するために必要な政治学的学識を身につけ、知的生産の高い研究能力または高度の専門性を要する職業に必要な能力と、この能力に裏打ちされたリーダーシップを備えた人材を養成する。博士課程後期では、博士課程前期での学修を基礎として、政治学分野における研究者としての自立した研究能力またはその他の高度に専門的な業務に必要な能力と、この能力に裏打ちされた高度なリーダーシップを備えた人材を養成する。
経済学研究科	応用経済学専攻	経済学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、グローバル化・複雑化し、かつ変化のスピードが速い現代の社会において、経済学と経営学の分野を有機的に連携させ市場と組織に関わる諸問題を解明することを志向し、経済・経営現象を究明できる多角的で学際的な知識・視野と科学的な情報収集技能と分析手法を身につけ、問題を発見してその解決を図る力を発揮できる人材を養成することである。
法学研究科	法律学専攻	法学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、法律学の専門知識と学識によって社会に生じるさまざまな法的問題に対応することができる能力、必要であれば自らの専門分野について研究を深化させるだけでなく隣接諸分野の専門知識との統合をはかることによって新たな法的問題に対応することができる能力をそなえ、研究者または専門職業人として、積極的に社会を支えることのできる人材を養成することである。
人間環境学研究科	人間環境学専攻	人間環境学研究科の教育研究上の目的は、違いを対立軸としない新たな価値観に基づく「持続可能な共生社会」を、「環境保全を重視した人間活動と良好な自然環境が両立する自然共生社会、並びに人間と人間が種々の違いを認めつつ文化・習慣・世代などの壁を越えて協同する人間共生社会」と定義し、その基盤となる「真に豊かな人間環境」の実現を目指して、「人間の生き方を再考し、豊かさの本質を問い直す」ことを教育・研究上の理念とする。この理念に基づき、人文・社会・自然科学の枠を超えた学際的な視野で、地域社会との連携を重視した実践的な教育と研究を行うことにより、「従来の固定観念にとらわれることなく人間環境を広い視野で考え、共生社会構築に向けて行動できる人材」を養成する。

芸術学研究科	芸術学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、芸術の今日的課題を究明し、芸術の理論及び表現技術を追求するとともに、自ら問題解決のできる、実践力のある創造的人材を養成することである。 その目的を実現するため、芸術学研究科に音響芸術専攻と造型芸術専攻の２専攻を設け、音楽及び美術・デザインにおける学問と実技・実践の両面から教育・研究を行う。	
	音響芸術専攻	音響芸術専攻の教育研究上の目的は、音響芸術（すなわち音楽）の理論的研究とその現代的課題の究明、演奏・歌唱などに関わる表現技術の研究などを通して専門性を深めると共に、多様化、グローバル化した現代の状況に即応し、音響芸術領域さらには他の専門分野も含めた、横断的で柔軟な人材を養成することである。
	造型芸術専攻	造型芸術専攻の教育研究上の目的は、美術やデザインに関わる理論的研究とその現代的課題の究明、制作・創作などに関わる表現技術の研究などを通して専門性を深めると共に、多様化、グローバル化した現代の状況に即応し、造型芸術領域さらには他の専門分野も含めた、横断的で柔軟な人材を養成することである。
体育学研究科	体育学専攻 博士課程前期	体育学研究科博士課程前期の教育研究上の目的は、社会のニーズを見据えて、本学の建学の精神である人道主義、人格主義に立脚し、体育学の専門分野について専門的な理論と応用を教授研究し、豊かな教養と学識そして技能を有する平和で豊かな人類文化の発展に貢献できるような人材を養成することである。
	体育学専攻 博士課程後期	体育学研究科博士課程後期の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、体育学研究科博士課程前期の研究内容や高度解析技術を発展させて、高いレベルの「スポーツ科学」に精通しながら、他領域・他分野との研究・教育における融合を通じて幅広い知識・考え方を修得し、独創的・創造性に優れた高度な研究能力を備えて専門分野の発展に寄与しつつ、それを社会に還元できる能力を有する人材を養成することである。
理学研究科	理学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、「専門に対応できる基礎力」「総合的な判断力」「プレゼンテーション能力」を身につけた人材を養成することである。	
	数理科学専攻	数理科学専攻の教育研究上の目的は、数学的思考や数理センスあるいは高度なITスキルをもとに社会に貢献できる人材を養成することである。
	物理学専攻	物理学専攻の教育研究上の目的は、新しい科学技術を創造して21世紀の社会を背負って立つ能力をもつ人材を養成することである。
	化学専攻	化学専攻の教育研究上の目的は、21世紀の化学を担うスペシャリストとして専門に対応でき、総合的な判断力と論理的な表現力をもつ人材を養成することである。
工学研究科	工学研究科の教育研究上の目的は、専門分野における精深な学識を身につけ、近年の社会変動に適切に対応する能力と、正しい歴史観、世界観に基づく人間性に加えて国際的視野を兼ね備えた人材を育成することである。修得した高度な技術に基づく社会貢献への強い熱意と共に、高い技術者倫理を持った人材を養成する。	
	電気電子工学専攻	電気電子工学専攻の教育研究上の目的は、社会の動的変化に対応しながらその普遍的本質を俯瞰できる深い学識と卓越した能力を涵養し、次世代の技術の萌芽となる新概念の創出や独創的な技術の開発ができる研究者・技術者を育成することである。工学分野に共通する知識と電気電子工学分野の深遠な知識を併せ持ち、英語表現力、技術者倫理を兼ね備えた人材を養成する。
	応用理化学専攻	応用理化学専攻の教育研究上の目的は、社会の動的変化に対応しながらその普遍的本質を俯瞰できる深い学識と卓越した能力を涵養し、次世代の技術の萌芽となる新概念の創出や独創的な技術の開発ができる研究者・技術者を育成することである。応用理化学分野に共通する知識と機械工学分野の深遠な知識を併せ持ち、英語表現力、技術者倫理を兼ね備えた人材を養成する。
	建築土木工学専攻	建築土木工学専攻の教育研究上の目的は、社会の動的変化に対応しながらその普遍的本質を俯瞰できる深い学識と卓越した能力を涵養し、次世代の技術の萌芽となる新概念の創出や独創的な技術の開発ができる研究者・技術者を育成することである。工学分野に共通する知識と建築・土木工学分野の深遠な知識を併せ持ち、英語表現力、技術者倫理を兼ね備えた人材を養成する。
	機械工学専攻	機械工学専攻の教育研究上の目的は、社会の動的変化に対応しながらその普遍的本質を俯瞰できる深い学識と卓越した能力を涵養し、次世代の技術の萌芽となる新概念の創出や独創的な技術の開発ができる研究者・技術者を育成することである。工学分野に共通する知識と機械工学分野の深遠な知識を併せ持ち、英語表現力、技術者倫理を兼ね備えた人材を養成する。
	医用生体工学専攻	医用生体工学専攻の教育研究上の目的は、社会の動的変化に対応しながらその普遍的本質を俯瞰できる深い学識と卓越した能力を涵養し、次世代の技術の萌芽となる新概念の創出や独創的な技術の開発ができる研究者・技術者を育成することである。工学分野に共通する知識と医用生体工学分野の深遠な知識を併せ持ち、英語表現力、技術者倫理を兼ね備えた人材を養成する。

情報通信学研究科	情報通信学専攻	情報通信学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、情報通信学及び情報通信技術に関する高度な知識及び技術をバランスよく修得し、困難な課題に対して問題を抽象化し問題解決手法を導き出せる応用力と、身につけた能力を社会において実学として活かせる実行力を有し、これらを通じて国際社会の発展に積極的に貢献できる広い視野を持った人材を養成することである。
海洋学研究科	海洋学専攻	海洋学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、海洋に関わる幅広い視野と専門分野の高度な知識・技能を修得し、それらを有機的に応用して海洋に関する諸問題を発見・解決できる能力を育成することにある。さらに、これらの知識・技能・能力を社会問題の解決へとつなぎ、持続可能な社会の実現に貢献できる高度な専門的職業人を育成することを目指す。
医学研究科	医学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、医学及び生命科学分野で国際的に活躍できる研究能力と、良識を兼ね備えた人材を養成することである。	
	先端医科学専攻	先端医科学専攻の教育研究上の目的は、医学及び生命科学分野で活躍できる良識を備えた研究者、及び研究マインドを持った専門医を養成することである。
	医科学専攻	医科学専攻の教育研究上の目的は、医学・生命科学の研究に必要な境界領域の知識を兼ね備えた医学研究者を養成することである。
健康科学研究科	健康科学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、看護・保健・医療・福祉の領域における従来の専門性の枠を越え、より総合的・国際的な視野に立った保健医療福祉サービスの統合化を志向する高度な専門知識と研究・実践能力を備えた人材を養成することである。本研究科は、社会的要請に対応した高度な専門知識・技能とともに、チーム連携調整能力、国際的視野を兼ね備えた指導的専門職業人を育て、看護・保健・医療・福祉の発展に寄与する。	
	看護学専攻	看護学専攻の教育研究上の目的は、科学とヒューマニズムの融和を目指して、高い倫理観を培い、創造的な看護実践ならびにその基盤となる研究を遂行できる人材を養成することである。
	保健福祉学専攻	保健福祉学専攻の教育研究上の目的は、保健福祉領域における最先端の理論や研究方法を習得することにより、実践課題を分析する手法と問題解決スキルを備えた人材を養成することである。
農学研究科	農学専攻	農学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、生物の多様な機能を理解し、生物生産及び生命科学領域に貢献しうる高度な専門性と総合性を併せ持つ学際融合的な人材を養成することである。
生物学研究科	生物学専攻	生物学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、生物学に関する専門的知識、特に生物の生理的機構に関する知識、生物多様性に関する解析やその保全、生物資源の維持・開発に関する知識を修得し、実践的に活用できる人材を養成することである。

別表2　入学定員及び収容定員

研　究　科	専　攻	入学定員		収容定員	
		博士課程前期及び修士課程	博士課程後期及び博士課程	博士課程前期及び修士課程	博士課程後期及び博士課程
総合理工学研究科	総合理工学専攻	－	35	－	105
	計	－	35	－	105
生物科学研究科	生物科学専攻	－	10	－	30
	計	－	10	－	30
文学研究科	文明研究専攻	8	4	16	12
	史学専攻	8	4	16	12
	日本文学専攻	8	4	16	12
	英文学専攻	4	2	8	6
	コミュニケーション学専攻	8	4	16	12
	観光学専攻	8	－	16	－
	計	44	18	88	54
政治学研究科	政治学専攻	10	5	20	15
	計	10	5	20	15
経済学研究科	応用経済学専攻	10	5	20	15
	計	10	5	20	15
法学研究科	法律学専攻	10	5	20	15
	計	10	5	20	15
人間環境学研究科	人間環境学専攻	10	－	20	－
	計	10	－	20	－
芸術学研究科	音響芸術専攻	4	－	8	－
	造型芸術専攻	4	－	8	－
	計	8	－	16	－
体育学研究科	体育学専攻	20	3	40	9
	計	20	3	40	9
理学研究科	数理科学専攻	8	－	16	－
	物理学専攻	12	－	24	－
	化学専攻	12	－	24	－
	計	32	－	64	－
工学研究科	電気電子工学専攻	50	－	100	－
	応用理化学専攻	45	－	90	－
	建築土木工学専攻	25	－	50	－
	機械工学専攻	75	－	150	－
	医用生体工学専攻	8	－	16	－
	計	203	－	406	－
情報通信学研究科	情報通信学専攻	30	－	60	－
	計	30	－	60	－
海洋学研究科	海洋学専攻	20	－	40	－
	計	20	－	40	－
医学研究科	医科学専攻	10	－	20	－
	先端医科学専攻	－	35	－	140
	計	10	35	20	140
健康科学研究科	看護学専攻	10	－	20	－
	保健福祉学専攻	10	－	20	－
	計	20	－	40	－
農学研究科	農学専攻	12	－	24	－
	計	12	－	24	－
生物学研究科	生物学専攻	8	－	16	－
	計	8	－	16	－
合　　計		447	116	894	383

別表3　授業科目および単位数

Ⅰ. 総合理工学研究科

総合理工学専攻・博士課程

授業科目	時間数
共同ゼミナール	30
専修ゼミナール	30

Ⅱ. 生物科学研究科

生物科学専攻・博士課程

授業科目	時間数
共同ゼミナール	30
専修ゼミナール	30

A. 文学研究科

文明研究専攻・博士課程前期

授業科目	単位数
文明理論研究1－1	2
文明理論研究1－2	2
文明理論研究2－1	2
文明理論研究2－2	2
文明理論演習1－1	2
文明理論演習1－2	2
文明理論演習2－1	2
文明理論演習2－2	2
比較文明学研究－1	2
比較文明学研究－2	2
比較文明学演習－1	2
比較文明学演習－2	2
現代文明論研究1－1	2
現代文明論研究1－2	2
現代文明論演習1－1	2
現代文明論演習1－2	2
科学論・技術論研究－1	2
科学論・技術論研究－2	2
科学論・技術論演習－1	2
科学論・技術論演習－2	2
科学史・技術史研究－1	2
科学史・技術史研究－2	2
科学史・技術史演習－1	2
科学史・技術史演習－2	2
アジア文明研究1－1	2
アジア文明研究1－2	2
アジア文明研究2－1	2
アジア文明研究2－2	2
アジア文明研究3－1	2
アジア文明研究3－2	2
アジア文明演習1－1	2
アジア文明演習1－2	2
アジア文明演習2－1	2
アジア文明演習2－2	2
アジア文明演習3－1	2
アジア文明演習3－2	2
ヨーロッパ文明研究1－1	2
ヨーロッパ文明研究1－2	2
ヨーロッパ文明研究2－1	2

文明研究専攻・博士課程後期

授業科目	単位数
文明理論研究3－1	2
文明理論研究3－2	2
文明理論演習3－1	2
文明理論演習3－2	2
文明研究1－1	2
文明研究1－2	2
文明研究2－1	2
文明研究2－2	2
文明研究3－1	2
文明研究3－2	2
文明演習1－1	2
文明演習1－2	2
文明演習2－1	2
文明演習2－2	2
文明演習3－1	2
文明演習3－2	2
現代文明論研究2－1	2
現代文明論研究2－2	2
現代文明論演習2－1	2
現代文明論演習2－2	2
文明研究法2－1	1
文明研究法2－2	1

ヨーロッパ文明研究2－2	2
ヨーロッパ文明研究3－1	2
ヨーロッパ文明研究3－2	2
ヨーロッパ文明演習1－1	2
ヨーロッパ文明演習1－2	2
ヨーロッパ文明演習2－1	2
ヨーロッパ文明演習2－2	2
ヨーロッパ文明演習3－1	2
ヨーロッパ文明演習3－2	2
日本文明研究1－1	2
日本文明研究1－2	2
日本文明研究2－1	2
日本文明研究2－2	2
日本文明研究3－1	2
日本文明研究3－2	2
日本文明演習1－1	2
日本文明演習1－2	2
日本文明演習2－1	2
日本文明演習2－2	2
日本文明演習3－1	2
日本文明演習3－2	2
アメリカ文明研究1－1	2
アメリカ文明研究1－2	2
アメリカ文明研究2－1	2
アメリカ文明研究2－2	2
アメリカ文明研究3－1	2
アメリカ文明研究3－2	2
アメリカ文明演習1－1	2
アメリカ文明演習1－2	2
アメリカ文明演習2－1	2
アメリカ文明演習2－2	2
アメリカ文明演習3－1	2
アメリカ文明演習3－2	2
文明研究法A	1
文明研究法B	1
文明研究法C	1
文明研究法D	1

史学専攻・博士課程前期

授業科目	単位数
史学理論研究1	2
史学理論研究2	2
日本史学特殊研究A－1	2
日本史学特殊研究A－2	2
日本史学特殊研究B－1	2
日本史学特殊研究B－2	2
日本史学特殊研究C－1	2
日本史学特殊研究C－2	2
日本史学特殊研究D－1	2
日本史学特殊研究D－2	2
日本史学特殊研究E－1	2
日本史学特殊研究E－2	2
日本史学文献研究A－1	2
日本史学文献研究A－2	2
日本史学文献研究B－1	2
日本史学文献研究B－2	2

史学専攻・博士課程後期

授業科目	単位数
日本史学特殊研究1	2
日本史学特殊研究2	2
日本史学文献研究1	2
日本史学文献研究2	2
東洋史学特殊研究1	2
東洋史学特殊研究2	2
東洋史学文献研究1	2
東洋史学文献研究2	2
西洋史学特殊研究1	2
西洋史学特殊研究2	2
西洋史学文献研究1	2
西洋史学文献研究2	2
考古学特殊研究1	2
考古学特殊研究2	2
考古学研究(演習)1	2
考古学研究(演習)2	2

日本史学文献研究C－1	2	史学研究法2－1	1
日本史学文献研究C－2	2	史学研究法2－2	1
日本史学文献研究D－1	2		
日本史学文献研究D－2	2		
日本史学文献研究E－1	2		
日本史学文献研究E－2	2		
東洋史学特殊研究A－1	2		
東洋史学特殊研究A－2	2		
東洋史学特殊研究B－1	2		
東洋史学特殊研究B－2	2		
東洋史学特殊研究C－1	2		
東洋史学特殊研究C－2	2		
東洋史学特殊研究D－1	2		
東洋史学特殊研究D－2	2		
東洋史学文献研究A－1	2		
東洋史学文献研究A－2	2		
東洋史学文献研究B－1	2		
東洋史学文献研究B－2	2		
東洋史学文献研究C－1	2		
東洋史学文献研究C－2	2		
東洋史学文献研究D－1	2		
東洋史学文献研究D－2	2		
西洋史学特殊研究A－1	2		
西洋史学特殊研究A－2	2		
西洋史学特殊研究B－1	2		
西洋史学特殊研究B－2	2		
西洋史学特殊研究C－1	2		
西洋史学特殊研究C－2	2		
西洋史学特殊研究D－1	2		
西洋史学特殊研究D－2	2		
西洋史学文献研究A－1	2		
西洋史学文献研究A－2	2		
西洋史学文献研究B－1	2		
西洋史学文献研究B－2	2		
西洋史学文献研究C－1	2		
西洋史学文献研究C－2	2		
西洋史学文献研究D－1	2		
西洋史学文献研究D－2	2		
考古学特殊研究A－1	2		
考古学特殊研究A－2	2		
考古学特殊研究B－1	2		
考古学特殊研究B－2	2		
考古学特殊研究C－1	2		
考古学特殊研究C－2	2		
考古学特殊研究D－1	2		
考古学特殊研究D－2	2		
考古学研究(演習)A－1	2		
考古学研究(演習)A－2	2		
考古学研究(演習)B－1	2		
考古学研究(演習)B－2	2		
考古学研究(演習)C－1	2		
考古学研究(演習)C－2	2		
考古学研究(演習)D－1	2		
考古学研究(演習)D－2	2		
史学研究法A	1		
史学研究法B	1		

史学研究法C	1
史学研究法D	1

日本文学専攻・博士課程前期

授業科目	単位数
日本文学演習－1	2
日本文学演習－2	2
日本語学特殊演習－1	2
日本語学特殊演習－2	2
上代文学特殊講義A－1	2
上代文学特殊講義A－2	2
上代文学特殊講義B－1	2
上代文学特殊講義B－2	2
上代文学特殊講義C－1	2
上代文学特殊講義C－2	2
中古文学特殊講義A－1	2
中古文学特殊講義A－2	2
中古文学特殊講義B－1	2
中古文学特殊講義B－2	2
中古文学特殊講義C－1	2
中古文学特殊講義C－2	2
中世文学特殊講義A－1	2
中世文学特殊講義A－2	2
中世文学特殊講義B－1	2
中世文学特殊講義B－2	2
中世文学特殊講義C－1	2
中世文学特殊講義C－2	2
近世文学特殊講義A－1	2
近世文学特殊講義A－2	2
近世文学特殊講義B－1	2
近世文学特殊講義B－2	2
近世文学特殊講義C－1	2
近世文学特殊講義C－2	2
近代文学特殊講義A－1	2
近代文学特殊講義A－2	2
近代文学特殊講義B－1	2
近代文学特殊講義B－2	2
近代文学特殊講義C－1	2
近代文学特殊講義C－2	2
日本語学特殊講義A－1	2
日本語学特殊講義A－2	2
日本語学特殊講義B－1	2
日本語学特殊講義B－2	2
日本語学特殊講義C－1	2
日本語学特殊講義C－2	2
漢文学特殊講義A－1	2
漢文学特殊講義A－2	2
漢文学特殊講義B－1	2
漢文学特殊講義B－2	2
上代文学文献研究1－1	2
上代文学文献研究1－2	2
中古文学文献研究1－1	2
中古文学文献研究1－2	2
中世文学文献研究1－1	2
中世文学文献研究1－2	2
近世文学文献研究1－1	2

日本文学専攻・博士課程後期

授業科目	単位数
上代文学特殊講義D－1	2
上代文学特殊講義D－2	2
上代文学特殊講義E－1	2
上代文学特殊講義E－2	2
中古文学特殊講義D－1	2
中古文学特殊講義D－2	2
中古文学特殊講義E－1	2
中古文学特殊講義E－2	2
中世文学特殊講義D－1	2
中世文学特殊講義D－2	2
中世文学特殊講義E－1	2
中世文学特殊講義E－2	2
近世文学特殊講義D－1	2
近世文学特殊講義D－2	2
近世文学特殊講義E－1	2
近世文学特殊講義E－2	2
近代文学特殊講義D－1	2
近代文学特殊講義D－2	2
近代文学特殊講義E－1	2
近代文学特殊講義E－2	2
日本語学特殊講義D－1	2
日本語学特殊講義D－2	2
日本語学特殊講義E－1	2
日本語学特殊講義E－2	2
上代文学文献研究2－1	2
上代文学文献研究2－2	2
中古文学文献研究2－1	2
中古文学文献研究2－2	2
中世文学文献研究2－1	2
中世文学文献研究2－2	2
近世文学文献研究2－1	2
近世文学文献研究2－2	2
近代文学文献研究2－1	2
近代文学文献研究2－2	2
日本語学文献研究2－1	2
日本語学文献研究2－2	2
日本文学研究法2－1	1
日本文学研究法2－2	1

近世文学文献研究1－2	2
近代文学文献研究1－1	2
近代文学文献研究1－2	2
日本語学文献研究1－1	2
日本語学文献研究1－2	2
日本文学研究法A	1
日本文学研究法B	1
日本文学研究法C	1
日本文学研究法D	1
日本語学1－1	2
日本語学1－2	2
日本語学2－1	2
日本語学2－2	2
日本語学3－1	2
日本語学3－2	2
日本語教授法研究1－1	2
日本語教授法研究1－2	2
日本語教授法研究2－1	2
日本語教授法研究2－2	2
日本語教授法演習－1	2
日本語教授法演習－2	2
国際関係特論－1	2
国際関係特論－2	2
社会言語学特論	2
日本語研究特論－1	2
日本語研究特論－2	2
日本語教育研究特論	2
日本語教育学研究法A	1
日本語教育学研究法B	1
日本語教育学研究法C	1
日本語教育学研究法D	1

英文学専攻・博士課程前期

授業科目	単位数
近代英文学研究1－1	2
近代英文学研究1－2	2
近代英文学演習1－1	2
近代英文学演習1－2	2
現代英文学研究1－1	2
現代英文学研究1－2	2
現代英文学演習1－1	2
現代英文学演習1－2	2
中世英文学研究1－1	2
中世英文学研究1－2	2
中世英文学演習1－1	2
中世英文学演習1－2	2
アメリカ文学研究1－1	2
アメリカ文学研究1－2	2
アメリカ文学演習1－1	2
アメリカ文学演習1－2	2
英語学研究1A－1	2
英語学研究1A－2	2
英語学演習1A－1	2
英語学演習1A－2	2
英語学研究1B－1	2
英語学研究1B－2	2

英文学専攻・博士課程後期

授業科目	単位数
近代英文学研究2－1	2
近代英文学研究2－2	2
近代英文学演習2－1	2
近代英文学演習2－2	2
現代英文学研究2－1	2
現代英文学研究2－2	2
現代英文学演習2－1	2
現代英文学演習2－2	2
中世英文学研究2－1	2
中世英文学研究2－2	2
中世英文学演習2－1	2
中世英文学演習2－2	2
アメリカ文学研究2－1	2
アメリカ文学研究2－2	2
アメリカ文学演習2－1	2
アメリカ文学演習2－2	2
英語学研究2A－1	2
英語学研究2A－2	2
英語学演習2A－1	2
英語学演習2A－2	2
英語学研究2B－1	2
英語学研究2B－2	2

英語学演習1B－1	2	英語学演習2B－1	2
英語学演習1B－2	2	英語学演習2B－2	2
応用言語学1－1	2	応用言語学2－1	2
応用言語学1－2	2	応用言語学2－2	2
英語教育学研究1－1	2	古典文学研究－1	2
英語教育学研究1－2	2	古典文学研究－2	2
英語教育学演習1－1	2	古典文学演習－1	2
英語教育学演習1－2	2	古典文学演習－2	2
コミュニケーション学研究1－1	2	英文学表現論－1	2
コミュニケーション学研究1－2	2	英文学表現論－2	2
コミュニケーション学演習1－1	2	英語教育学研究2－1	2
コミュニケーション学演習1－2	2	英語教育学研究2－2	2
英文学研究法A	1	英語教育学演習2－1	2
英文学研究法B	1	英語教育学演習2－2	2
英文学研究法C	1	コミュニケーション学研究2－1	2
英文学研究法D	1	コミュニケーション学研究2－2	2
		コミュニケーション学演習2－1	2
		コミュニケーション学演習2－2	2
		英文学研究法2－1	1
		英文学研究法2－2	1

コミュニケーション学専攻・博士課程前期

授業科目	単位数
コミュニケーション研究法A	1
コミュニケーション研究法B	1
コミュニケーション研究法C	1
コミュニケーション研究法D	1
コミュニケーション論特殊研究A	4
コミュニケーション論特殊研究B	4
コミュニケーション論特殊研究C	4
コミュニケーション論特殊研究D	4
コミュニケーション論特殊研究E	4
コミュニケーション論特殊研究F	4
コミュニケーション論研究演習A	4
コミュニケーション論研究演習B	4
コミュニケーション論研究演習C	4
広報媒体論特殊講義1	4
広報媒体論特殊講義2	4
広告論特殊講義1	4
広告論特殊講義2	4
国際コミュニケーション論特殊講義1	4
国際コミュニケーション論特殊講義2	4
マスコミュニケーション論研究演習1	4
マスコミュニケーション論研究演習2	4
社会変動論特殊講義1	4
社会変動論特殊講義2	4
政治コミュニケーション論特殊講義1	4
政治コミュニケーション論特殊講義2	4
社会学研究演習1	4
社会学研究演習2	4
社会心理学特殊講義A	2
社会心理学特殊講義B	2
社会心理学研究演習A	2
社会心理学研究演習B	2
臨床心理学特論1	2
臨床心理学特論2	2

コミュニケーション学専攻・博士課程後期

授業科目	単位数
コミュニケーション研究法2－1	2
コミュニケーション研究法2－2	2
コミュニケーション論特殊研究G	4
コミュニケーション論研究演習D	4
コミュニケーション論研究演習E	4
マスコミュニケーション論研究演習3	4
マスコミュニケーション論研究演習4	4
社会学研究演習3	4
社会学研究演習4	4
社会心理学研究演習C	4
社会心理学研究演習D	4
心理臨床研究演習	4
心理臨床特殊課題研究	4

臨床心理面接特論1（心理支援に関する理論と実践）	2
臨床心理面接特論2	2
臨床心理査定演習1（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2
臨床心理査定演習2	2
臨床心理基礎実習1	2
臨床心理基礎実習2	2
心理実践実習	16
臨床心理実習1	2
臨床心理実習2	2
心理統計法特論	2
心理学研究法特論	2
教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2
発達心理学特論	2
人格心理学特論	2
神経心理学特論	2
家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2
社会心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2
心身医学特論	2
精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2
障害児者心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2
投影法特論	2
グループ・アプローチ特論	2
コミュニティ・アプローチ特論	2
学校臨床心理学特論	2
犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2
臨床心理地域支援実習1	2
臨床心理地域支援実習2	2
心の健康教育に関する理論と実践	2

観光学専攻・修士課程

観光総合理論研究1－1	2
観光総合理論研究1－2	2
観光総合理論研究2－1	2
観光総合理論研究2－2	2
観光総合理論研究3－1	2
観光総合理論研究3－2	2
観光総合理論演習1－1	2
観光総合理論演習1－2	2
観光総合理論演習2－1	2
観光総合理論演習2－2	2
観光総合理論演習3－1	2
観光総合理論演習3－2	2
観光社会理論研究1－1	2
観光社会理論研究1－2	2
観光社会理論研究2－1	2
観光社会理論研究2－2	2
観光社会理論演習1－1	2
観光社会理論演習1－2	2
観光社会理論演習2－1	2
観光社会理論演習2－2	2
観光経済社会理論研究1－1	2
観光経済社会理論研究1－2	2
観光経済社会理論研究2－1	2
観光経済社会理論研究2－2	2
観光経済社会理論演習1－1	2
観光経済社会理論演習1－2	2

観光経済社会理論演習2－1	2
観光経済社会理論演習2－2	2
観光経営社会理論研究1－1	2
観光経営社会理論研究1－2	2
観光経営社会理論研究2－1	2
観光経営社会理論研究2－2	2
観光経営社会理論演習1－1	2
観光経営社会理論演習1－2	2
観光経営社会理論演習2－1	2
観光経営社会理論演習2－2	2
観光システム理論研究1	2
観光システム理論研究2	2
観光システム理論演習1	2
観光システム理論演習2	2
観光学研究法A	1
観光学研究法B	1
観光学研究法C	1
観光学研究法D	1

B. 政治学研究科

政治学専攻・博士課程前期

授業科目	単位数
政治学研究演習1	1
政治学研究演習2	1
政治学研究演習3	1
政治学研究演習4	1
政治学研究講義1	2
政治学研究講義2	2
日本政治史研究講義1	2
日本政治史研究講義2	2
西洋政治史研究講義1	2
西洋政治史研究講義2	2
西洋政治思想史研究講義1	2
西洋政治思想史研究講義2	2
政治過程研究講義1	2
政治過程研究講義2	2
地方行政研究演習1	1
地方行政研究演習2	1
地方行政研究演習3	1
地方行政研究演習4	1
地方行政研究講義1	2
地方行政研究講義2	2
行政学研究講義1	2
行政学研究講義2	2
都市政策研究講義1	2
都市政策研究講義2	2
公共経営特論1	2
公共経営特論2	2
情報政策特論1	2
情報政策特論2	2
国際政治学研究演習1	1
国際政治学研究演習2	1
国際政治学研究演習3	1
国際政治学研究演習4	1
国際政治学研究講義1	2
国際政治学研究講義2	2

政治学専攻・博士課程後期

授業科目	単位数
政治学研究演習5	1
政治学研究演習6	1
政治学研究演習7	1
政治学研究演習8	1
政治学研究演習9	1
政治学研究演習10	1
政治学研究講義3	2
政治学研究講義4	2
西洋政治史研究講義3	2
西洋政治史研究講義4	2
西洋政治思想史研究講義3	2
西洋政治思想史研究講義4	2
政治過程研究講義3	2
政治過程研究講義4	2
地方行政研究演習5	1
地方行政研究演習6	1
地方行政研究演習7	1
地方行政研究演習8	1
地方行政研究演習9	1
地方行政研究演習10	1
地方行政研究講義3	2
地方行政研究講義4	2
行政学研究講義3	2
行政学研究講義4	2
都市政策研究講義3	2
都市政策研究講義4	2
国際政治学研究演習5	1
国際政治学研究演習6	1
国際政治学研究演習7	1
国際政治学研究演習8	1
国際政治学研究演習9	1
国際政治学研究演習10	1
国際政治学研究講義3	2
国際政治学研究講義4	2

国際政治史研究講義1	2	国際政治経済研究講義3	2
国際政治史研究講義2	2	国際政治経済研究講義4	2
国際政治経済研究講義1	2	国際政治史研究講義3	2
国際政治経済研究講義2	2	国際政治史研究講義4	2
現代地域研究（イギリス）講義1	2	現代地域研究（イギリス）講義3	2
現代地域研究（イギリス）講義2	2	現代地域研究（イギリス）講義4	2
現代地域研究（EU）講義1	2	現代地域研究（EU）講義3	2
現代地域研究（EU）講義2	2	現代地域研究（EU）講義4	2
国際関係理論特論1	2		
国際関係理論特論2	2		
英書政治学研究1	1		
英書政治学研究2	1		

C. 経済学研究科

応用経済学専攻・博士課程前期

授業科目	単位数
経済学基礎研究A	2
経済学基礎研究B	2
経営学基礎研究A	2
経営学基礎研究B	2
研究方法基礎論A（論文）	2
研究方法基礎論B（実証）	2
経済・経営情報研究1	2
経済・経営情報研究2	2
経済理論研究1	2
経済理論研究2	2
経済政策研究1	2
経済政策研究2	2
経済システム研究A1	2
経済システム研究A2	2
経済システム研究B1	2
経済システム研究B2	2
応用経済学研究A1	2
応用経済学研究A2	2
応用経済学研究B1	2
応用経済学研究B2	2
経営理論研究1	2
経営理論研究2	2
経営システム研究A1	2
経営システム研究A2	2
経営システム研究B1	2
経営システム研究B2	2
現代企業研究A1	2
現代企業研究A2	2
現代企業研究B1	2
現代企業研究B2	2
会計・財務研究A1	2
会計・財務研究A2	2
会計・財務研究B1	2
会計・財務研究B2	2
国際経済・経営研究A1	2
国際経済・経営研究A2	2
国際経済・経営研究B1	2
国際経済・経営研究B2	2
応用経済学演習1	2
応用経済学演習2	2

応用経済学専攻・博士課程後期

授業科目	単位数
経済理論先端研究1	2
経済理論先端研究2	2
経営理論先端研究1	2
経営理論先端研究2	2
経済・経営情報先端研究1	2
経済・経営情報先端研究2	2
経済政策先端研究1	2
経済政策先端研究2	2
経済システム先端研究1	2
経済システム先端研究2	2
応用経済学先端研究1	2
応用経済学先端研究2	2
経営システム先端研究1	2
経営システム先端研究2	2
現代企業先端研究1	2
現代企業先端研究2	2
会計・財務先端研究1	2
会計・財務先端研究2	2
国際経済・経営先端研究1	2
国際経済・経営先端研究2	2
応用経済学先端演習1（1）	2
応用経済学先端演習1（2）	2
応用経済学先端演習2（1）	2
応用経済学先端演習2（2）	2

D. 法学研究科

法律学専攻・博士課程前期

授業科目	単位数
法学特殊講義1	2
法学特殊講義2	2
基礎法学第一特講1	2
基礎法学第一特講2	2
基礎法学第二特講1	2
基礎法学第二特講2	2
憲法第一特講1	2
憲法第一特講2	2
憲法第二特講1	2
憲法第二特講2	2
行政法第一特講1	2
行政法第一特講2	2
行政法第二特講1	2
行政法第二特講2	2
税法第一特講1	2
税法第一特講2	2
税法第二特講1	2
税法第二特講2	2
刑事法第一特講1	2
刑事法第一特講2	2
刑事法第二特講1	2
刑事法第二特講2	2
刑事法第三特講1	2
刑事法第三特講2	2
民法第一特講1	2
民法第一特講2	2
民法第二特講1	2
民法第二特講2	2
民法第三特講1	2
民法第三特講2	2
商法第一特講1	2
商法第一特講2	2
商法第二特講1	2
商法第二特講2	2
民事訴訟法第一特講1	2
民事訴訟法第一特講2	2
民事訴訟法第二特講1	2
民事訴訟法第二特講2	2
知的財産権法第一特講1	2
知的財産権法第一特講2	2
知的財産権法第二特講1	2
知的財産権法第二特講2	2
社会法第一特講1	2
社会法第一特講2	2
社会法第二特講1	2
社会法第二特講2	2
医事法特講1	2
医事法特講2	2
国際法第一特講1	2
国際法第一特講2	2
国際法第二特講1	2
国際法第二特講2	2

法律学専攻・博士課程後期

授業科目	単位数
法哲学特殊研究1	2
法哲学特殊研究2	2
憲法第一特殊研究1	2
憲法第一特殊研究2	2
憲法第二特殊研究1	2
憲法第二特殊研究2	2
行政法特殊研究1	2
行政法特殊研究2	2
税法特殊研究1	2
税法特殊研究2	2
刑事法第一特殊研究1	2
刑事法第一特殊研究2	2
刑事法第二特殊研究1	2
刑事法第二特殊研究2	2
刑事法第三特殊研究1	2
刑事法第三特殊研究2	2
民法特殊研究1	2
民法特殊研究2	2
民事訴訟法第一特殊研究1	2
民事訴訟法第一特殊研究2	2
民事訴訟法第二特殊研究1	2
民事訴訟法第二特殊研究2	2
商法第一特殊研究1	2
商法第一特殊研究2	2
商法第二特殊研究1	2
商法第二特殊研究2	2
知的財産権法特殊研究1	2
知的財産権法特殊研究2	2
労働法特殊研究1	2
労働法特殊研究2	2
国際法第一特殊研究1	2
国際法第一特殊研究2	2
国際法第二特殊研究1	2
国際法第二特殊研究2	2
法社会学特殊研究1	2
法社会学特殊研究2	2
法学研究演習1A	2
法学研究演習1B	2
法学研究演習2A	2
法学研究演習2B	2
法学研究演習3	2
法学研究演習4	2
法学研究演習5	2
法学研究演習6	2

外国法特講1	2
外国法特講2	2
法学演習1A	2
法学演習1B	2
法学演習2A	2
法学演習2B	2
法学演習3	2
法学演習4	2

E. 人間環境学研究科
人間環境学専攻・修士課程

授業科目	単位数
共生社会基礎論	2
共生社会基礎実習	2
人間環境論文研究1	1
人間環境論文研究2	1
人間環境論文研究3	1
人間環境論文研究4	1
人間環境学特講1	1
人間環境学特講2	1
人間環境学特講3	1
人間環境学特講4	1
自然環境論	2
共生社会倫理論	2
近代環境史	2
保全生態学	2
地域文化論	2
地域環境経済論	2
地域環境政策論	2
共生社会史	2
環境教育特論A	2
環境教育特論B	2
環境教育方法論A	2
環境教育方法論B	2
自然環境評価研究	2
環境負荷影響研究	2
地域環境保全研究	2
資源循環システム研究	2
自然環境保全研究	2
地域農業システム研究	2
地元学研究	2
地域環境デザイン研究	2
世代共生研究	2
環境保全政策研究	2
いごこち研究	2
ライフデザイン研究	2
環境教育フィールド研究	2
環境教育実践研究	2

F. 芸術学研究科
音響芸術専攻・修士課程

授業科目	単位数
音楽研究1	2
音楽研究2	2
音楽研究3	2
音楽研究4	2

音楽研究演習1	1
音楽研究演習2	1
音楽研究演習3	1
音楽研究演習4	1
芸術学総合研究	2
西洋音楽史特講	2
音楽資料論特講	2
日本音楽史特講	2
日本芸能論特講	2
実験美学特講	2
音楽美学特講	2
世界音楽論特講	2
舞踊学特講	2
音楽療法理論特講	2
音楽療法治療構造論特講	2
劇場学特講	2
詩と音楽の理論特講	2
演奏表現法特講	2
楽曲分析特講	2
古楽研究特講	2
演奏法1	1
演奏法2	1
演奏法3	1
演奏法4	1

造型芸術専攻・修士課程

授業科目	単位数
美術学研究1	2
美術学研究2	2
美術学研究3	2
美術学研究4	2
美術学研究演習1	1
美術学研究演習2	1
美術学研究演習3	1
美術学研究演習4	1
デザイン学研究1	2
デザイン学研究2	2
デザイン学研究3	2
デザイン学研究4	2
デザイン学研究演習1	1
デザイン学研究演習2	1
デザイン学研究演習3	1
デザイン学研究演習4	1
芸術学総合研究	2
造形芸術特講(絵画系A)	2
造形芸術特講(絵画系B)	2
造形芸術特講(彫刻系)	2
造形芸術特講(美術史系)	2
造形芸術特講(現代美術系)	2
造形芸術特講(画像系)	2
造形芸術特講(情報系)	2
造形芸術特講(製品系)	2
造形芸術特講(環境系)	2
造形芸術特講(社会系)	2
造形芸術理論特講(美学・哲学系)	2
造形芸術理論特講(材料系)	2

造形芸術理論特講（美術史系A）	2
造形芸術理論特講（美術史系B）	2
造形芸術理論特講（工芸系）	2
造形芸術理論特講（現代芸術系）	2
造形芸術理論特講（国際系）	2
造形芸術理論特講（情報系）	2
造形芸術理論特講（視覚表現系）	2
造形芸術理論特講（色彩系）	2
造形芸術理論特講（図像系）	2
造形芸術理論特講（アートマネジメント系）	2
造形芸術理論特講（メディアアート系）	2
造形芸術理論特講（社会系）	2

G. 体育学研究科

体育学専攻・博士課程前期

授業科目	単位数
体育学研究総論	2
体育学研究法A	2
体育学研究法B	2
体育学文献講読	2
体育哲学特論	2
体育哲学演習	2
スポーツ社会学特論	2
スポーツ社会学演習	2
スポーツ史特論	2
スポーツ史演習	2
スポーツ心理学特論	2
スポーツ心理学特別実習	2
運動生理学特論	2
運動生理学特別実習	2
スポーツバイオメカニクス特論	2
スポーツバイオメカニクス特別実習	2
スポーツ医学特論	2
スポーツ医学特別実習	2
武道学特論	2
武道学特別実習	2
スポーツ方法学特論	2
スポーツ方法学特別実習	2
生涯スポーツ特論	2
生涯スポーツ演習	2
スポーツ＆レジャー特論	2
スポーツ＆レジャー演習	2
スポーツマネジメント特論	2
スポーツマネジメント演習	2
体力学特論	2
体力学特別実習	2
健康教育学特論	2
健康教育学演習	2
スポーツ運動学特論	2
スポーツ運動学演習	2
コーチング特論	2
コーチング特別実習	2
トレーニング特論	2
トレーニング特別実習	2
応用スポーツ心理学特論	2
応用スポーツ心理学特別実習	2

体育学専攻・博士課程後期

授業科目	単位数
スポーツ科学研究理論	2
スポーツ科学研究法A	2
スポーツ科学研究法B	2
高度スポーツ文化社会科学特講	2
高度スポーツ医科学特講	2
高度実践スポーツ科学特講	2
高度スポーツ文化社会科学演習	2
高度スポーツ医科学演習	2
高度実践スポーツ科学演習	2
体育・スポーツ科学特別研究1	2
体育・スポーツ科学特別研究2	2
体育・スポーツ科学特別研究3	2
体育・スポーツ科学特別研究4	2

保健体育科教育学特論	2
保健体育科教育学演習	2
体育学研究1	2
体育学研究2	2
体育学研究3	2
体育学研究4	2
体育学特論A	2
体育学特論B	2
体育学特論C	2
体育学特論D	2

H. 理学研究科

数理科学専攻・修士課程

授業科目	単位数
代数学A	2
代数学B	2
代数学C	2
代数学D	2
幾何学A	2
幾何学B	2
幾何学C	2
幾何学D	2
解析学A	2
解析学B	2
解析学C	2
解析学D	2
統計数学A	2
統計数学B	2
統計数学C	2
統計数学D	2
応用数理学A	2
応用数理学B	2
応用数理学C	2
応用数理学D	2
数理研究ゼミナール1	4
数理研究ゼミナール2	4
代数学通論	2
幾何学通論	2
解析学通論	2
統計数学通論	2
情報数理学通論	2
応用数理学通論	2
代数学特論A	2
代数学特論B	2
代数学特論C	2
代数学特論D	2
幾何学特論A	2
幾何学特論B	2
幾何学特論C	2
幾何学特論D	2
解析学特論A	2
解析学特論B	2
解析学特論C	2
解析学特論D	2
統計数学特論A	2
統計数学特論B	2

統計数学特論C	2
統計数学特論D	2
応用数理学特論A	2
応用数理学特論B	2
応用数理学特論C	2
応用数理学特論D	2
教育数学特論A	2
教育数学特論B	2
教育数学特論C	2
教育数学特論D	2
情報代数学A	2
情報代数学B	2
情報代数学C	2
情報代数学D	2
幾何とそのアリゴリズムA	2
幾何とそのアリゴリズムB	2
幾何とそのアリゴリズムC	2
幾何とそのアリゴリズムD	2
応用解析学A	2
応用解析学B	2
応用解析学C	2
応用解析学D	2
応用確率・統計学A	2
応用確率・統計学B	2
応用確率・統計学C	2
応用確率・統計学D	2
情報数理学A	2
情報数理学B	2
情報数理学C	2
情報数理学D	2
離散数学A	2
離散数学B	2
離散数学C	2
離散数学D	2
情報代数学特論A	2
情報代数学特論B	2
情報代数学特論C	2
情報代数学特論D	2
幾何とそのアルゴリズム特論A	2
幾何とそのアルゴリズム特論B	2
幾何とそのアルゴリズム特論C	2
幾何とそのアルゴリズム特論D	2
応用解析学特論A	2
応用解析学特論B	2
応用解析学特論C	2
応用解析学特論D	2
応用確率・統計学特論A	2
応用確率・統計学特論B	2
応用確率・統計学特論C	2
応用確率・統計学特論D	2
情報数理学特論A	2
情報数理学特論B	2
情報数理学特論C	2
情報数理学特論D	2
離散数学特論A	2
離散数学特論B	2

離散数学特論C	2
離散数学特論D	2

物理学専攻・修士課程

授業科目	単位数
相対論的量子論1	2
相対論的量子論2	2
相対論特論1	2
相対論特論2	2
素粒子論特論1	2
素粒子論特論2	2
統計力学特論1	2
統計力学特論2	2
原子分光物理学特論1	2
原子分光物理学特論2	2
電磁エネルギー物理学特論1	2
電磁エネルギー物理学特論2	2
電磁気学特論1	2
電磁気学特論2	2
レーザー物理学特論1	2
レーザー物理学特論2	2
高分子物理学特論1	2
高分子物理学特論2	2
生命の分子物理学特論1	2
生命の分子物理学特論2	2
複雑液体のダイナミックス1	2
複雑液体のダイナミックス2	2
宇宙放射線計測学特論1	2
宇宙放射線計測学特論2	2
ガンマ線天文学特論1	2
ガンマ線天文学特論2	2
高エネルギー宇宙物理学特論1	2
高エネルギー宇宙物理学特論2	2
地球気候力学特論1	2
地球気候力学特論2	2
惑星流体力学特論1	2
惑星流体力学特論2	2
知的財産権法特論1	2
知的財産権法特論2	2
物理学研究ゼミナールA	4
物理学研究ゼミナールB	4
物理学研究ゼミナールC	4
物理学研究ゼミナールD	4

化学専攻・修士課程

授業科目	単位数
化学研究ゼミナールA－1	2
化学研究ゼミナールA－2	2
化学研究ゼミナールB－1	2
化学研究ゼミナールB－2	2
化学研究ゼミナールC－1	2
化学研究ゼミナールC－2	2
物理化学特論1	2
物理化学特論2	2
物理化学特論3	2
物理化学特論4	2

分析化学特論1	2
分析化学特論2	2
分析化学特論3	2
分析化学特論4	2
無機化学特論1	2
無機化学特論2	2
無機化学特論3	2
無機化学特論4	2
有機化学特論1	2
有機化学特論2	2
有機化学特論3	2
有機化学特論4	2
教育化学特論1	2
教育化学特論2	2
教育化学特論3	2
教育化学特論4	2
自然化学特論1	2
自然化学特論2	2
高分子化学特論1	2
高分子化学特論2	2

I. 工学研究科

電気電子工学専攻・修士課程

授業科目	単位数
電気電子工学特別演習1	2
電気電子工学特別演習2	2
工学倫理知財特論	2
TECHNICAL ENGLISH FOR ENGINEERS	2
電気磁気学基礎論	2
電気磁気学特論	2
画像工学特論	2
基礎物理学特論	2
情報通信ネットワーク特論	2
制御工学特論	2
ディジタル情報処理特論	2
電気回路学特論	2
電子回路学特論	2
ENGLISH PRESENTATION FOR ENGINEERS	2
生命情報学習特論	2
バーチャルリアリティ特論	2
協調型情報システム工学特論	2
情報数理応用特論	2
アルゴリズムとデータ構造特論	2
神経情報科学特論	2
画像解析特論	2
リモートセンシング特論	2
環境情報特論	2
波動光学特論	2
光化学特論	2
非線形光学特論	2
光計測工学特論	2
電磁波工学特論	2
通信工学特論	2
固体物性基礎特論	2
結晶解析学特論	2
コンピュータシステム設計特論	2

半導体工学特論	2
電力システム工学特論	2
電気機器システム特論	2
電気電子材料工学特論	2
環境エネルギー工学特論	2
ロボットシミュレーション特論	2
ロボットビジョン特論	2
システムモデリング特論	2
電力変換工学特論	2
電気電子工学研究ゼミナール1	2
電気電子工学研究ゼミナール2	2
電気電子工学研究ゼミナール3	2
電気電子工学研究ゼミナール4	2

応用理化学専攻・修士課程

授業科目	単位数
理化学基礎特論1	2
理化学基礎特論2	2
工学倫理知財特論	2
TECHNICAL ENGLISH FOR ENGINEERS	2
量子物理学特論	2
プラズマエネルギー科学特論	2
エネルギー変換科学特論	2
コンピュータ化学演習	2
環境工学特論	2
有機化学特論	2
無機化学特論	2
物理化学特論	2
化学工学特論	2
生命化学特論	2
資源・エネルギー特論	2
機器分析特論	2
材料物性基礎特論	2
材料学基礎特論	2
材料加工学基礎特論	2
ENGLISH PRESENTATION FOR ENGINEERS	2
原子力熱化学工学特論	2
環境解析科学特論	2
放射線計測学特論	2
新エネルギー特論	2
応用放射線科学特論	2
原子力エネルギー特論	2
原子力インターンシップ	2
原子炉物理学特論	2
核放射化学特論	2
放射線生物科学特論	2
エネルギー材料物理学特論	2
原子力工学専門講義	2
糖鎖工学特論	2
細胞工学特論	2
免疫生化学特論	2
生体物質生化学特論	2
分子生物学特論	2
遺伝子工学特論	2
生命有機化学特論	2
医薬品化学特論	2

物質化学特論	2
元素化学特論	2
電子化学特論	2
化学熱力学特論	2
反応工学特論	2
有機反応化学特論	2
天然物化学特論	2
物性化学特論	2
高分子化学特論	2
無機合成化学特論	2
材料物理化学特論	2
材料物性応用特論	2
材料プロセス工学特論	2
接合科学特論	2
材料強度学特論	2
機能材料学特論	2
電気材料学特論	2
鉄鋼材料学特論	2
材料加工学応用特論	2
セラミックス材料学特論	2
応用理化学研究ゼミナール1	2
応用理化学研究ゼミナール2	2
応用理化学研究ゼミナール3	2
応用理化学研究ゼミナール4	2

建築土木工学専攻・修士課程

授業科目	単位数
建設マネジメント特論	2
工学倫理知財特論	2
TECHNICAL ENGLISH FOR ENGINEERS	2
ENGLISH PRESENTATION FOR ENGINEERS	2
建築非構造材料特論・同演習	4
建築構造材料特別演習	2
建築基礎設計特論・同演習	4
建築空間計画特論	2
建築家職能特論	2
材料科学特論	2
コンクリート工学特論	2
土質工学特論・同演習	4
水環境学特論	2
都市および地域計画特論	2
都市開発システム特論	2
都市マスタープラン特論	2
シェル・空間構造計画特論	2
シェル・空間構造設計特論	2
建築構造設計特論・同演習	4
建築構造解析特論・同演習	4
先端建築構造技術	2
建築構造材料特論	2
建築温熱環境計画特論	2
建築視環境計画特論	2
建築設備システム設計特論・同演習	4
建築パッシブシステム計画特論	2
空調システム計画特論	2
建築室内環境計画特論・同演習	4
居住環境計画特論	2

建築計画特論1・同演習	4
建築計画特論2・同演習	4
史的空間計画特論	2
建築保存・修復計画特論	2
建築施設計画特論	2
建築設計スタジオ1	4
建築設計スタジオ2	4
建築設計スタジオ3	4
建築インターンシップ1	4
建築インターンシップ2	4
建築インターンシップ3	4
建築インターンシップ4	4
建築インターンシップ5	2
建築インターンシップ6	2
応用力学特論・同演習	4
計算工学特論	2
連続体力学特論	2
応用水理学特論・同演習	4
衛生工学特論	2
施工技術特論	2
統計学特論	2
構造工学特論	2
構造振動学特論	2
コンクリート構造工学特論	2
維持・補修工学特論	2
地下水工学特論	2
環境地盤工学特論	2
海岸水理学特論	2
建築土木工学研究ゼミナール1	2
建築土木工学研究ゼミナール2	2
建築土木工学研究ゼミナール3	2
建築土木工学研究ゼミナール4	2

機械工学専攻・修士課程

授業科目	単位数
機械工学特論A	2
機械工学特論B	2
工学倫理知財特論	2
TECHNICAL ENGLISH FOR ENGINEERS	2
流体力学特論	2
熱工学特論	2
機械材料学特論	2
機械加工学特論	2
統計学特論	2
ENGLISH PRESENTATIONFOR ENGINEERS	2
材料力学特論	2
機械力学特論	2
システム制御工学特論	2
宇宙計測学特論	2
航空宇宙先端科学技術特論	2
有限要素法特論	2
プラズマ理工学特論	2
応用数学特論	2
エネルギーシステム工学特論	2
燃料電池工学特論	2
燃焼工学特論	2

エンジンシステム特論	2
圧縮性流体力学特論	2
非圧縮性流体の数値解析特論	2
圧縮性流体の数値解析特論	2
エアロダイナミクス特論	2
精密加工学特論	2
マイクロマシン特論	2
塑性力学特論	2
生体医工学特論	2
設計工学特論	2
構造力学特論	2
車両工学特論	2
トライボロジー特論	2
モーションコントロール特論	2
メカトロニクス特論	2
マルチボディダイナミクス特論	2
ロボット工学特論	2
機械音響学特論	2
機械振動学特論	2
地球磁気圏科学特論	2
宇宙電磁力学特論	2
電気推進工学特論	2
ロケット推進工学特論	2
飛行力学特論	2
宇宙探査工学特論	2
宇宙システム工学特論	2
宇宙構造物工学	2
航空飛行工学特論	2
機械工学研究ゼミナール1	2
機械工学研究ゼミナール2	2
機械工学研究ゼミナール3	2
機械工学研究ゼミナール4	2

医用生体工学専攻・修士課程

授業科目	単位数
生体工学特論	2
生体システム特論	2
工学倫理知財特論	2
TECHNICAL ENGLISH FOR ENGINEERS	2
臨床工学特論	2
ENGLISH PRESENTATION FOR ENGINEERS	2
臨床工学インターンシップ1	2
臨床工学インターンシップ2	2
生体情報科学特論	2
医用電子工学特論	2
生体材料科学特論	2
生体計測科学特論	2
生体機械工学特論	2
医用画像工学特論	2
放射線医科学特論	2
生体制御工学特論	2
呼吸循環系医工学特論	2
臨床薬理学特論	2
リハビリテーション科学特論	2
医用生体工学研究ゼミナール1	2
医用生体工学研究ゼミナール2	2

医用生体工学研究ゼミナール3	2
医用生体工学研究ゼミナール4	2

J. 情報通信学研究科
情報通信学専攻・修士課程

授業科目	単位数
情報通信学ゼミナール1	1
情報通信学ゼミナール2	1
情報通信学特別研究1	2
情報通信学特別研究2	2
情報通信学特別講義A	2
情報通信学特別講義B	2
技術英語特論	2
知的財産権技術特論	2
情報システム設計特論	2
視知覚制御機構特論	2
情報メディア特論	2
認知科学特論	2
音響工学特論	2
信頼性システム特論	2
コンピュータビジョン特論	2
画像工学特論	2
計算機工学特論	2
システム工学特論	2
組込みシステム技術特論	2
ソフトウェア工学特論	2
組込みシステム設計特論	2
制御工学特論	2
モデリング特論	2
基本ソフトウェア特論	2
人間工学特論	2
ビジネス情報システム特論	2
ロジスティクス特論	2
品質管理特論	2
オペレーションズ・リサーチ特論	2
マーケティング特論	2
人的資源管理特論	2
環境マネジメント特論	2
金融工学特論	2
デジタル信号処理特論	2
通信ネットワーク特論	2
ネットワーク情報検索特論	2
情報セキュリティ特論	2
通信工学特論	2
ネットワークコンピューティング特論	2
符号理論特論	2
通信ネットワーク応用特論	2

K. 海洋学研究科
海洋学専攻・修士課程

授業科目	単位数
総合海洋学特論	2
沿岸環境特論	2
気候変動特論	2
海洋生態学特論	2
海洋総合管理特論	2

水産学特論	2
海洋資源特論	2
海洋科学技術研究特論	2
環境生命科学研究特論	1
アカデミックイングリッシュ	2
海洋学特論A	1
海洋学特論B	1
海洋学特論C	1
海洋学特論D	1
海洋人類学特論	2
海洋ガバナンス特論	2
海洋資源管理特論	2
環境・開発経済特論	2
ロジスティクス特論	2
沿岸域管理特論	2
水産社会特論	2
分子細胞生物学特論	2
海洋生物化学特論	2
水族生理学特論	2
浮遊生物学特論	2
底生生物学特論	2
海棲哺乳類学特論	2
魚類学特論	2
資源生物学特論	2
水産増殖学特論	2
水産食品科学特論	2
大気・海洋物理学特論	2
地球化学特論	2
低次生産環境特論	2
固体地球物理学特論	2
海底資源開発工学特論	2
海洋エネルギー工学特論	2
沿岸域工学特論	2
海洋学研究ゼミナール1	2
海洋学研究ゼミナール2	2
海洋学研究ゼミナール3	2
海洋学研究ゼミナール4	2

L. 医学研究科

医科学専攻・修士課程

授業科目	単位数
医科学研究ゼミナール1	4
医科学研究ゼミナール2	4
医科学研究序論特講	2
分子細胞生物学特講	2
分子細胞生物学特講実習	2
免疫学特講	2
免疫学特講実習	2
医学情報学特講	2
医学情報学特講実習	2
社会医学特講	2
社会医学特講実習	2
国際医療学特講	2
国際医療学特講実習	2
人体構造機能学特講	2
人体構造機能学特講実習	2

先端医科学専攻・博士課程

授業科目	単位数
最新医学研究各論	1
医学研究と倫理	1
データ解析論	1
研究プランニング論	1
研究ゼミナール1	2
研究ゼミナール2	2
研究ゼミナール3	2
医学教育学1	2
医学教育学演習1	2
医学教育学2	2
医学教育学演習2	2
ゲノム医学1	2
ゲノム医学実習1	2
ゲノム医学2	2
ゲノム医学実習2	2

病理病態学特講	2
病理病態学特講実習	2
感染症学特講	2
感染症学特講実習	2
臨床医学特講	2
臨床医学特講実習	2
分子生体制御学特講	2
分子生体制御学特講実習	2
精神保健学特講	2
精神保健学特講実習	2
生物統計学	1
バイオインフォマティクス・リテラシーの基礎	1
臨床試験の基礎	1
医学研究のためのデータ管理	1
放射線物理学特論	2
保健物理防護学	2
放射線診断物理学	2
放射線治療物理学	2
放射線計測学	2
放射線診断画像学	2
放射線生物腫瘍学	2
放射線関連法規・医療倫理	2
放射線治療実習	2

分子細胞医学1	2
分子細胞医学実習1	2
分子細胞医学2	2
分子細胞医学実習2	2
発生工学1	2
発生工学実習1	2
発生工学2	2
発生工学実習2	2
人体構造機能学1	2
人体構造機能学実習1	2
人体構造機能学2	2
人体構造機能学実習2	2
免疫学1	2
免疫学実習1	2
免疫学2	2
免疫学実習2	2
感染防御学1	2
感染防御学実習1	2
感染防御学2	2
感染防御学実習2	2
診断学1	2
診断学実習1	2
診断学2	2
診断学実習2	2
治療学1	2
治療学実習1	2
治療学2	2
治療学実習2	2
再生医学1	2
再生医学実習1	2
再生医学2	2
再生医学実習2	2
薬物代謝学	2
薬と医療機器の開発	2
国際地域・環境学1	2
国際地域・環境学実習1	2
国際地域・環境学2	2
国際地域・環境学実習2	2
実践科学英語	1
実践科学英語演習	1
老年医学総論1	2
老年医学総論2	2
栄養学	2
栄養学実習	2
運動生理学	2
運動生理学実習	2
人間ドック・健康ドック学	2
健康ドック面談法実習	2
比較文化論	2
臨床腫瘍学1	2
臨床腫瘍学実習1	2
臨床腫瘍学2	2
臨床腫瘍学実習2	2
臨床薬理学特講	2
臨床薬理学特講実習	2
放射線治療学	2

放射線治療学実習	2
がん薬物療法学	2
がん薬物療法学実習	2
緩和ケア学	2
緩和ケア学実習	2
内視鏡治療学	2
内視鏡治療学実習	2
医療統計学	1
バイオインフォマティクス・リテラシー	1
臨床試験方法論	1
医学研究のためのデータマネージメント	1
応用看護科学研究論	2
応用看護科学特論	2
応用看護科学演習	2

M. 健康科学研究科
看護学専攻・修士課程

授業科目	単位数
看護理論	2
研究方法概論	2
臨床薬理学特論	2
フィジカルアセスメント特論	2
臨床病態生理学特論	2
看護研究1	2
看護研究2	2
看護教育論	2
看護管理論	2
コンサルテーション論	2
看護倫理	2
家族看護学特論	2
家族健康論1	2
家族健康論2	2
家族援助論1	2
家族援助論2	2
家族援助特論	2
家族看護学演習	2
家族看護学実習1	2
家族看護学実習2	6
家族看護学実習3	2
遺伝看護学特論	2
遺伝看護援助特論	2
遺伝基礎科学1	2
遺伝基礎科学2	2
遺伝看護援助論A	2
遺伝看護援助論B	2
遺伝カウンセリング特論	2
遺伝看護学実習1	2
遺伝看護学実習2	4
遺伝看護学実習3	4
クリティカルケア看護学特論	2
クリティカルケア看護援助論A	2
クリティカルケア看護援助論B	2
クリティカルケア看護援助演習A	2
クリティカルケア看護援助演習B	2
クリティカルケア看護学アセスメント・援助論	2
クリティカル緩和ケア論	2

クリティカルケア看護学実習1	3
クリティカルケア看護学実習2	3
クリティカルケア看護学実習3	4
がん病態生理学特論	2
がん看護学特論	2
がん看護援助論	2
がん看護学演習1	2
がん看護学演習2	2
がん緩和ケア論	2
がん緩和ケア演習	2
がん看護学実習1	2
がん看護学実習2	4
がん看護学実習3	4
精神看護学特論	2
国際看護論	2
質的研究方法論	2
量的研究方法論	2
研究ゼミナール1	2
研究ゼミナール2	2
研究ゼミナール3	2
基礎看護学特論1	2
基礎看護学特論2	2
生命科学特論	2
生命科学演習	2
老年看護学特論	2
在宅看護論特論	2
母性看護学特論	2
小児看護学特論	2
看護管理学特論	2
産業・地域保健看護学特論1	2
産業・地域保健看護学特論2	2
保健科学特論	2
健康環境学特論	2
国際看護演習	2
遺伝生命科学	2
感染看護学	2

保健福祉学専攻・修士課程

授業科目	単位数
保健福祉研究概論1	2
保健福祉研究概論2	2
量的研究方法論	2
質的研究方法論	2
ソーシャルワーク特論	2
保健医療ソーシャルワーク特論	2
家族支援特論	2
障害者心理学特論	2
精神保健福祉特論	2
高齢者福祉特論	2
介護福祉特論	2
社会老年学特論	2
生命倫理・死生学特論	2
地域福祉特論	2
コミュニティ・ソーシャルワーク特論	2
子ども家庭福祉特論	2
公的扶助特論	2

貧困研究特論	2
保健福祉研究ゼミナール1	2
保健福祉研究ゼミナール2	2
保健福祉研究ゼミナール3	4
フィールドワーク実習1	2
フィールドワーク実習2	2
フィールドワーク実習3	2

N. 農学研究科
農学専攻・修士課程

授業科目	単位数
農学特別研究1	2
農学特別研究2	2
農学特別研究3	2
農学特別研究4	2
農学演習1	2
農学演習2	2
応用農学演習1	2
応用農学演習2	2
ゲノム科学特論1	2
ゲノム科学特論2	2
植物保護学特論1	2
植物保護学特論2	2
動物生産環境学特論1	2
動物生産環境学特論2	2
熱帯農学特論	2
農薬学特論	2
植物制御学特論	2
動物生理学特論	2
農学特別講義A	2
農学特別講義B	2
園芸学特論1	2
園芸学特論2	2
植物遺伝育種学特論1	2
植物遺伝育種学特論2	2
資源作物学特論1	2
資源作物学特論2	2
動物生体機能調節学特論1	2
動物生体機能調節学特論2	2
動物遺伝繁殖学特論1	2
動物遺伝繁殖学特論2	2
家畜飼養管理学特論1	2
家畜飼養管理学特論2	2
植物栄養学特論	2
動物習性学特論	2
動物疾病学特論	2
生化学特論1	2
生化学特論2	2
食品機能化学特論1	2
食品機能化学特論2	2
有機機能分子化学特論1	2
有機機能分子化学特論2	2
プロテオミクス特論1	2
プロテオミクス特論2	2
食品衛生学特論	2
分子動態学特論	2

微生物工学特論	2

O. 生物学研究科
生物学専攻・修士課程

授業科目	単位数
総合生物学特論	2
科学英語特論	2
脊椎動物学特論A	2
脊椎動物学特論B	2
脊椎動物学特論C	2
無脊椎動物学特論	2
数理生物学特論	2
大気海洋環境学特論	2
動物生理学特論	2
栄養生理学特論	2
組織学特論	2
環境生理学特論	2
生殖生物学特論	2
動物生態学特論	2
保全生態学特論	2
動物地理学特論	2
多様性生物学特論	2
生態系モデリング学特論	2
生物学研究ゼミナール1	2
生物学研究ゼミナール2	2
生物学研究ゼミナール3	2
生物学研究ゼミナール4	2

別表4　第16条の2に規定する大学院

大 学 院	備　　考
モンクット王ラカバン工科大学大学院	遠隔授業による履修（第13条の2）
麻布大学大学院 神奈川大学大学院 神奈川工科大学大学院 関東学院大学大学院 北里大学大学院 湘南工科大学大学院 専修大学大学院 鶴見大学大学院 桐蔭横浜大学大学院 東京工芸大学大学院 日本大学大学院 日本女子大学大学院 横浜市立大学大学院 横浜国立大学大学院 東京工業大学大学院 明治大学大学院 フェリス女学院大学大学院 情報セキュリティ大学院大学 東京都市大学大学院 総合研究大学院大学 相模女子大学大学院 松蔭大学大学院 青山学院大学大学院 文教大学大学院 神奈川歯科大学大学院 鎌倉女子大学大学院 聖マリアンナ医科大学大学院 昭和大学大学院 女子美術大学大学院	神奈川県内大学間における大学院学術交流協定に基づく学生に限る
青山学院大学大学院 中央大学大学院 上智大学大学院 明治大学大学院 立教大学大学院 専修大学大学院 國學院大學大学院 国士舘大学大学院 駒澤大学大学院 東洋大学大学院	11大学大学院特別聴講生（史学専攻）に関する協定に基づく学生に限る
静岡大学大学院 静岡県立大学大学院	静岡大学，静岡県立大学との単位互換に関する協定に基づく学生に限る
海外の大学院	本学の海外派遣留学制度に基づく大学院に限る

（別表5）

東海大学大学院　学費一覧表（令和3年度）

単位：円

	学年	総合理工学研究科	地球環境科学研究科	生物科学研究科	文学研究科		政治学研究科	経済学研究科
					コミュニケーション学専攻	コミュニケーション学専攻以外		
入学金	1年	300,000		300,000	300,000	300,000	300,000	300,000
授業料	1年	735,000		735,000	650,000	650,000	650,000	650,000
	2年	735,000	735,000	735,000	650,000	650,000	650,000	650,000
	3年	735,000	735,000	735,000	650,000	650,000	650,000	650,000
	4年							
教育運営費	1年	211,000		211,000	168,000	159,000	168,000	168,000
	2年	211,000	211,000	211,000	168,000	159,000	168,000	168,000
	3年	211,000	211,000	211,000	168,000	159,000	168,000	168,000
	4年							
実習実技費	1年							
	2年							
	3年							
	4年							
施設設備費	1年	200,000		200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
	2年	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
	3年	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
	4年							
合計	1年	1,446,000		1,446,000	1,318,000	1,309,000	1,318,000	1,318,000
	2年	1,146,000	1,146,000	1,146,000	1,018,000	1,009,000	1,018,000	1,018,000
	3年	1,146,000	1,146,000	1,146,000	1,018,000	1,009,000	1,018,000	1,018,000
	4年							

単位：円

	学年	法学研究科	人間環境学研究科	芸術学研究科		体育学研究科	理学研究科		工学研究科
				音響芸術専攻	造型芸術専攻		数理科学専攻	数理科学専攻以外	
入学金	1年	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000
授業料	1年	650,000	650,000	735,000	735,000	701,000	735,000	735,000	735,000
	2年	650,000	650,000	735,000	735,000	701,000	735,000	735,000	735,000
	3年	650,000							
	4年								
教育運営費	1年	159,000	168,000	233,000	233,000	168,000	193,000	211,000	211,000
	2年	159,000	168,000	233,000	233,000	168,000	193,000	211,000	211,000
	3年	159,000							
	4年								
実習実技費	1年			50,000					
	2年			50,000					
	3年								
	4年								
施設設備費	1年	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
	2年	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
	3年	200,000							
	4年								
合計	1年	1,309,000	1,318,000	1,518,000	1,468,000	1,369,000	1,428,000	1,446,000	1,446,000
	2年	1,009,000	1,018,000	1,218,000	1,168,000	1,069,000	1,128,000	1,146,000	1,146,000
	3年	1,009,000							
	4年								

単位:円

	学年	情報通信学研究科	海洋学研究科	医学研究科		健康科学研究科	農学研究科	生物学研究科
				医科学専攻	先端医科学専攻			
入学金	1年	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	250,000	250,000
授業料	1年	735,000	735,000	735,000	735,000	735,000	735,000	735,000
	2年	735,000	735,000	735,000	735,000	735,000	735,000	735,000
	3年				735,000			
	4年				735,000			
教育運営費	1年	211,000	211,000	211,000	211,000	211,000	211,000	211,000
	2年	211,000	211,000	211,000	211,000	211,000	211,000	211,000
	3年				211,000			
	4年				211,000			
実習実技費	1年							
	2年							
	3年							
	4年							
施設設備費	1年	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
	2年	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
	3年				200,000			
	4年				200,000			
合計	1年	1,446,000	1,446,000	1,446,000	1,446,000	1,446,000	1,396,000	1,396,000
	2年	1,146,000	1,146,000	1,146,000	1,146,000	1,146,000	1,146,000	1,146,000
	3年				1,146,000			
	4年				1,146,000			

東海大学大学院学則の変更事項を記載した書類

１．変更の事由

①東海大学大学院体育学研究科体育学専攻に博士課程後期を令和３年度に設置し、既設の体育学専攻修士課程は、体育学専攻博士課程前期へ名称変更する。

②東海大学大学院地球環境科学研究科の学生募集を令和３年度より停止する。

２．変更点

①体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）を追加し、授与する学位名称を博士（体育学）とする。入学定員は３名、収容定員は９名とする。
体育学専攻修士課程を体育学専攻博士課程前期に変更する。

②地球環境科学研究科の学生募集停止について付則に記載する。

以　上

新

○東海大学大学院学則

（制定　昭和38年４月１日）
改訂　昭和39年４月１日　　昭和40年４月１日
（略）
平成30年４月１日　　平成31年４月１日
令和２年４月１日　　令和３年４月１日

第１章　総則
（略）
第１条の２　本学大学院は，研究科又は専攻ごとに，人材の養成に関する目的その他の研究教育上の目的を別表１に定め，公表する。
（略）
第３条　本学大学院には，修士課程及び博士課程を置く。
２　博士課程（総合理工学研究科，生物科学研究科，医学研究科を除く。）は，これを前期２年（以下「博士課程前期」という。）及び後期３年（以下「博士課程後期」という。）の課程に区分する。
３　前項の前期２年の課程は，これを修士課程として取り扱う。
（略）
第２章　研究科，専攻等
第６条　本学大学院に，次の研究科・専攻及び課程を置く。
大学院

研　究　科　名	専　　攻　　名	修士課程・博士課程の別
総合理工学研究科	総合理工学専攻	博士課程
生物科学研究科	生物科学専攻	博士課程
（略）	（略）	（略）
体育学研究科	体育学専攻	博士課程（前期・後期）
（略）	（略）	（略）
生物学研究科	生物学専攻	修士課程

（略）
第４章　定員
第１１条　本学大学院の入学定員及び収容定員は，別表２のとおりとする。

旧

○東海大学大学院学則

（制定　昭和38年４月１日）
改訂　昭和39年４月１日　　昭和40年４月１日
（略）
平成30年４月１日　　平成31年４月１日
令和２年４月１日

第１章　総則
（略）
第１条の２　本学大学院は，研究科又は専攻ごとに，人材の養成に関する目的その他の研究教育上の目的を別表１に定め，公表する。
（略）
第３条　本学大学院には，修士課程及び博士課程を置く。
２　博士課程（総合理工学研究科，地球環境科学研究科，生物科学研究科，医学研究科を除く。）は，これを前期２年（以下「博士課程前期」という。）及び後期３年（以下「博士課程後期」という。）の課程に区分する。
３　前項の前期２年の課程は，これを修士課程として取り扱う。
（略）
第２章　研究科，専攻等
第６条　本学大学院に，次の研究科・専攻及び課程を置く。
大学院

研　究　科　名	専　　攻　　名	修士課程・博士課程の別
総合理工学研究科	総合理工学専攻	博士課程
地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	博士課程
生物科学研究科	生物科学専攻	博士課程
（略）	（略）	（略）
体育学研究科	体育学専攻	修士課程
（略）	（略）	（略）
生物学研究科	生物学専攻	修士課程

（略）
第４章　定員
第１１条　本学大学院の入学定員及び収容定員は，別表２のとおりとする。

備　　考

改訂日追加

別表の変更

削除

削除

変更

別表の変更

<table>
<tr><th>新</th><th>旧</th><th>備　　考</th></tr>
<tr><td>

第５章　授業科目及び単位数

第１２条　各研究科の専攻別授業科目及び単位数は，別表３のとおりとする。ただし，総合理工学研究科，生物科学研究科の授業は，時間制を適用する。

（略）

第１７条　最終試験は，修士課程又は博士課程を修了するに必要な単位（総合理工学研究科，生物科学研究科においては必要な受講時間）の全部を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，学位論文を提出した者について行う。

（略）

第２０条　大学院博士課程については，５年（医学研究科にあっては４年）以上在学し，専攻する専門課程の科目につき，必修・選択科目を通じて次の単位を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，博士論文を研究科長に提出し，その審査及び最終試験に合格した者を修了と認定する。ただし，優れた研究業績をあげた者については，大学院に３年以上在学すれば足りるものとする。

研　究　科	文　学	政治学	経済学	法　学	体育学	医　学
単　位　数	40	46	48	48	46	30

２　修士課程を修了した者にあっては，当該課程における２年を在学期間に含めることができる。

３　修士課程を修了した者にあっては，当該課程において修得した単位のうち，博士課程における研究に必要と認められたものについて，第１項の単位に含ませることができる。

４　入学後に第 15 条第２項，第 16 条の２及び第 16 条の３による履修によって修得した単位については，合わせて 10 単位を超えない範囲で研究科教授会の議を経て，これを第１項の単位に含ませることができる。ただし，第 19 条第３項により認められた単位数と本項により認められた単位数の合計は，10 単位を超えないものとする。

５　第１項から前項の規定にかかわらず，学校教育法施行規則第 156 条の規定により大学院への入学資格に関し修士の学位若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者又は専門職学位課程を修了した者が，博士課程の後期３年の課程に入学した場合の博士課程の修了の要件は，大学院に３年（専門職大学院設置基準第 18 条第１項の法科大学院の課程を修了した者にあっては，２年）以上在学し，研究科が必要と認めた授業科目について，次の単位を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，研究科長に博士論文を提出し，その審査及び最終試験に合格することとする。ただし，在学期間に関しては，優れた研究業績をあげた者については，大学院に１年（標準修業年限が１年以上２年未満の専門職学位課程を修了した者にあっては，３年から当該１年以上２年未満の期間を減じた期間）以上在学すれば足りるものとする。

研究科	文学	政治学	経済学	法学	体育学
単位数	10 以上	８以上	８以上（ただし，指導教員が指定する科目の単位数を含む）	16 以上（ただし，法科大学院修了者は８以上とする）	16 以上

第２０条の２　総合理工学研究科，生物科学研究科については，３年（専門職大学院設置基準第 18 条第１項の法科大学院の課程を修了した者にあっては，２年）以上在学し，共同ゼミナール，専修ゼミナール各 30 時間を受講し，かつ，必要な研究指導を受けた上，博士論文を研究科長に提出し，その審査及び最終試験に合格した者を修了と認定する。ただし，優れた研究業績をあ

</td><td>

第５章　授業科目及び単位数

第１２条　各研究科の専攻別授業科目及び単位数は，別表３のとおりとする。ただし，総合理工学研究科，地球環境科学研究科，生物科学研究科の授業は，時間制を適用する。

（略）

第１７条　最終試験は，修士課程又は博士課程を修了するに必要な単位（総合理工学研究科，地球環境科学研究科，生物科学研究科においては必要な受講時間）の全部を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，学位論文を提出した者について行う。

（略）

第２０条　大学院博士課程については，５年（医学研究科にあっては４年）以上在学し，専攻する専門課程の科目につき，必修・選択科目を通じて次の単位を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，博士論文を研究科長に提出し，その審査及び最終試験に合格した者を修了と認定する。ただし，優れた研究業績をあげた者については，大学院に３年以上在学すれば足りるものとする。

研　究　科	文　学	政治学	経済学	法　学	医　学
単　位　数	40	46	48	48	30

２　修士課程を修了した者にあっては，当該課程における２年を在学期間に含めることができる。

３　修士課程を修了した者にあっては，当該課程において修得した単位のうち，博士課程における研究に必要と認められたものについて，第１項の単位に含ませることができる。

４　入学後に第 15 条第２項，第 16 条の２及び第 16 条の３による履修によって修得した単位については，合わせて 10 単位を超えない範囲で研究科教授会の議を経て，これを第１項の単位に含ませることができる。ただし，第 19 条第３項により認められた単位数と本項により認められた単位数の合計は，10 単位を超えないものとする。

５　第１項から前項の規定にかかわらず，学校教育法施行規則第 156 条の規定により大学院への入学資格に関し修士の学位若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者又は専門職学位課程を修了した者が，博士課程の後期 3 年の課程に入学した場合の博士課程の修了の要件は，大学院に３年（専門職大学院設置基準第 18 条第１項の法科大学院の課程を修了した者にあっては，２年）以上在学し，研究科が必要と認めた授業科目について，次の単位を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，研究科長に博士論文を提出し，その審査及び最終試験に合格することとする。ただし，在学期間に関しては，優れた研究業績をあげた者については，大学院に１年（標準修業年限が１年以上２年未満の専門職学位課程を修了した者にあっては，３年から当該１年以上２年未満の期間を減じた期間）以上在学すれば足りるものとする。

研究科	文学	政治学	経済学	法学
単位数	10 以上	８以上	８以上（ただし，指導教員が指定する科目の単位数を含む）	16 以上（ただし，法科大学院修了者は８以上とする）

第２０条の２　総合理工学研究科，地球環境科学研究科，生物科学研究科については，３年（専門職大学院設置基準第 18 条第１項の法科大学院の課程を修了した者にあっては，２年）以上在学し，共同ゼミナール，専修ゼミナール各 30 時間を受講し，かつ，必要な研究指導を受けた上，博士論文を研究科長に提出し，その審査及び最終試験に合格した者を修了と認定する。ただし，

</td><td>

別表の変更

削除

削除

追加

追加

削除

</td></tr>
</table>

新	旧	備　　考
げた者については，大学院に１年（修士課程及び博士課程前期の修了者にあっては，修士課程及び博士課程前期を含めて３年）以上在学し，各ゼミナールについては 15 時間以上受講すれば足りるものとする。 （略） 第８章　学位の授与 第２３条　本学大学院の学位の種類は，その修了した研究科・専攻に応じて次のとおりとする。 大学院 総合理工学研究科　　博士（理学）・博士（工学） 生物科学研究科　　博士（理学）・博士（農学）・博士（水産学） （略） 体育学研究科　　修士（体育学）・博士（体育学） （略） 生物学研究科　　修士（理学） （略） 第１０章　学費 第３８条　授業料，入学金その他の学費は，別表５のとおりとする。 （略） 付　則 （略） 14　地球環境科学研究科地球環境科学専攻については，令和３年４月より学生募集を停止し，在学生の修了をもって廃止する。令和２年度以前に入学した地球環境科学研究科地球環境科学専攻の学生については，修了するまで旧学則（令和２年４月１日付改訂）を適用する。 付　則（令和３年４月１日） この学則は，令和３年４月１日から施行する。	優れた研究業績をあげた者については，大学院に１年（修士課程及び博士課程前期の修了者にあっては，修士課程及び博士課程前期を含めて３年）以上在学し，各ゼミナールについては 15 時間以上受講すれば足りるものとする。 （略） 第８章　学位の授与 第２３条　本学大学院の学位の種類は，その修了した研究科・専攻に応じて次のとおりとする。 大学院 総合理工学研究科　　博士（理学）・博士（工学） 地球環境科学研究科　博士（理学）・博士（工学） 生物科学研究科　　博士（理学）・博士（農学）・博士（水産学） （略） 体育学研究科　　修士（体育学） （略） 生物学研究科　　修士（理学） （略） 第１０章　学費 第３８条　授業料，入学金その他の学費は，別表５のとおりとする。 （略） 付　則 （略） 付　則（令和２年４月１日） この学則は，令和２年４月１日から施行する。	削除 追加 別表の変更 追加 変更 変更

新 旧 対 照 表

【新】

別表1　　教育研究上の目的及び養成する人材像

研究科名	専攻名	研究科・専攻の教育研究上の目的及び養成する人材像
総合理工学研究科	総合理工学専攻	総合理工学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、世界に向けて情報発信できる高度な研究能力を備え、かつ国際的な広い視野と見識を合わせ持った人間味豊かな研究者、技術者、国際機関職員など各方面でリーダーとして活躍し得る人材を養成することである。
生物科学研究科	生物科学専攻	生物科学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、国内外の学術交流を深めて国際感覚を有し、人類及び社会が今後遭遇し得る諸問題を発見する高い能力を持つとともに、その問題を生物科学的アプローチで倫理的かつ自律的に解決できる人材を養成することである。
略	略	
体育学研究科	体育学専攻 博士課程前期	体育学研究科博士課程前期の教育研究上の目的は、社会のニーズを見据えて、本学の建学の精神である人道主義、人格主義に立脚し、体育学の専門分野について専門的な理論と応用を教授研究し、豊かな教養と学識そして技能を有する平和で豊かな人類文化の発展に貢献できるような人材を養成することである。
	体育学専攻 博士課程後期	体育学研究科博士課程後期の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、体育学研究科博士課程前期の研究内容や高度解析技術を発展させて、高いレベルの「スポーツ科学」に精通しながら、他領域・他分野との研究・教育における融合を通じて幅広い知識・考え方を修得し、独創的・創造性に優れた高度な研究能力を備えて専門分野の発展に寄与しつつ、それを社会に還元できる能力を有する人材を養成することである。
略	略	

削除

変更

追加

【旧】

別表1　　教育研究上の目的及び養成する人材像

研究科名	専攻名	研究科・専攻の教育研究上の目的及び養成する人材像
総合理工学研究科	総合理工学専攻	総合理工学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、世界に向けて情報発信できる高度な研究能力を備え、かつ国際的な広い視野と見識を合わせ持った人間味豊かな研究者、技術者、国際機関職員など各方面でリーダーとして活躍し得る人材を養成することである。
地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	地球環境科学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、幅広い視野に立った国際的、学祭的かつ学融的な考究力と豊かな創造性を備えた人材を養成することである。また、法令遵守の精神を尊び、厳正は研究倫理を培い、研究を通じて生み出された全ての知的財産を尊重すると共に、社会の期待に応える人材を育成する。
生物科学研究科	生物科学専攻	生物科学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、国内外の学術交流を深めて国際感覚を有し、人類及び社会が今後遭遇し得る諸問題を発見する高い能力を持つとともに、その問題を生物科学的アプローチで倫理的かつ自律的に解決できる人材を養成することである。
略	略	
体育学研究科	体育学専攻	体育学研究科の教育研究上の目的は、時代の変化に合わせ、本学の建学の精神である人道主義、人格主義に立脚し、体育学の専門分野について高度にして専門的な理論と応用を教授研究し、豊かな教養と学識そして技能を有する平和で豊かな人類文化の発展に貢献できるような人材を養成することである。
略	略	

新

別表２　　入学定員及び収容定員

研　究　科	専　攻	入学定員		収容定員	
		博士課程前期及び修士課程	博士課程後期及び博士課程	博士課程前期及び修士課程	博士課程後期及び博士課程
総合理工学研究科	総合理工学専攻	―	35	―	105
	計	―	35	―	105
生物科学研究科	生物科学専攻	―	10	―	30
	計	―	10	―	30
（略）					
体育学研究科	体育学専攻	20	3	40	9
	計	20	3	40	9
（略）					
生物学研究科	生物学専攻	8	―	16	―
	計	8	―	16	―
合　　計		447	116	894	383

旧

別表２　　入学定員及び収容定員

研　究　科	専　攻	入学定員		収容定員		備　考
		博士課程前期及び修士課程	博士課程後期及び博士課程	博士課程前期及び修士課程	博士課程後期及び博士課程	
総合理工学研究科	総合理工学専攻	―	35	―	105	
	計	―	35	―	105	
地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	―	10	―	30	削除
	計	―	10	―	30	削除
生物科学研究科	生物科学専攻	―	10	―	30	
	計	―	10	―	30	
（略）						
体育学研究科	体育学専攻	15	―	30	―	変更
	計	15	―	30	―	変更
（略）						
生物学研究科	生物学専攻	8	―	16	―	
	計	8	―	16	―	
合　　計		442	123	884	404	変更

新 旧 対 照 表

以下の新旧対照表は、該当科目のみ記載

【新】

別表3　授業科目および単位数

G. 体育学研究科
体育学専攻・博士課程前期

体育学専攻・博士課程後期

授業科目	単位数	
スポーツ科学研究理論	2	新設
スポーツ科学研究法A	2	新設
スポーツ科学研究法B	2	新設
高度スポーツ文化社会科学特講	2	新設
高度スポーツ医科学特講	2	新設
高度実践スポーツ科学特講	2	新設
高度スポーツ文化社会科学演習	2	新設
高度スポーツ医科学演習	2	新設
高度実践スポーツ科学演習	2	新設
体育・スポーツ科学特別研究1	2	新設
体育・スポーツ科学特別研究2	2	新設
体育・スポーツ科学特別研究3	2	新設
体育・スポーツ科学特別研究4	2	新設

【旧】

別表3　授業科目および単位数

消滅　Ⅱ. 地球環境科学研究科
消滅　地球環境科学専攻・博士課程

	授業科目	時間数
消滅	共同ゼミナール	30
消滅	専修ゼミナール	30

G. 体育学研究科
変更　体育学専攻・修士課程

【新】

（別表5）

東海大学大学院　学費一覧表（令和3年度）

単位：円

	学年	地球環境科学研究科		生物学研究科
入学金	1年			250,000
授業料	1年			735,000
	2年	735,000		735,000
	3年	735,000		
	4年			
教育運営費	1年			211,000
	2年	211,000		211,000
	3年	211,000	（略）	
	4年			
実習実技費	1年			
	2年			
	3年			
	4年			
施設設備費	1年			200,000
	2年	200,000		200,000
	3年	200,000		
	4年			
合計	1年			1,396,000
	2年	1,146,000		1,146,000
	3年	1,146,000		
	4年			

【旧】

（別表5）

東海大学大学院　学費一覧表（令和2年度）

単位：円

	学年	地球環境科学研究科		生物学研究科
入学金	1年	300,000		250,000
授業料	1年	735,000		735,000
	2年	735,000		
	3年	735,000		
	4年			
教育運営費	1年	211,000		211,000
	2年	211,000		
	3年	211,000	（略）	
	4年			
実習実技費	1年			
	2年			
	3年			
	4年			
施設設備費	1年	200,000		200,000
	2年	200,000		
	3年	200,000		
	4年			
合計	1年	1,446,000		1,396,000
	2年	1,146,000		
	3年	1,146,000		
	4年			

○東海大学大学院研究科教授会規程

（制定　昭和38年４月１日）

改訂　昭和42年４月１日　　昭和43年４月１日
昭和44年４月１日　　昭和46年４月１日
2008年４月１日　　2014年６月１日
2015年４月１日

第１条　本学大学院の各研究科に研究科教授会（以下「本教授会」という。）を置く。

第２条　本教授会は，その研究科の基礎となる学部の学部長及び研究科専攻主任並びに研究指導資格を有する教員をもつてこれを組織する。

２　研究指導補助資格を有する教員も教授会構成員とすることができる。

第３条　本教授会は，研究科長が招集してその議長となる。ただし，研究科長が必要と認めた場合は，議長を他の本教授会構成員に代行させることができる。

第４条　本教授会に若干名の幹事を置くことができる。

第５条　本教授会は，全構成員の３分の２以上の出席がなければ，これを開くことができない。

第６条　本教授会は，次の事項について審議する。

（１）　学生の研究及び教育，その他学事に関する事項
（２）　学生の指導に関する事項
（３）　学生の入学，課程の修了，学位の授与に関する事項
（４）　学籍異動に関する事項
（５）　学位論文審査に関する事項
（６）　教員の資格審査に関する事項
（７）　大学院運営委員長及び大学院研究科長の諮問に関する事項

２　次の事項については,学長が決定を行うにあたって教授会が意見を述べるものとする。

（１）　学生の入学，課程の修了
（２）　学位の授与
（３）　前項に掲げるもののほか，教育研究に関する重要な事項で，教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

第７条　研究科長は,必要に応じて,本教授会に関係教職員の出席を求めることができる。

第８条　本教授会が審議し，決定した事項は，学長の承認を得て，これを施行する。

第９条　研究科長は，必要に応じて，主任教授会その他の委員会を開くことができる。

付　則

この規程は，昭和 38 年４月１日から施行する。

付　則（2015 年４月１日）

この規程は，2015年４月１日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類
体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）

【本文目次】

① 設置の趣旨及び必要性…p. 2
② 研究科，専攻等の名称及び学位の名称…p. 7
③ 教育課程の編成の考え方及び特色（教育研究の柱となる領域（分野）の説明も含む）…p. 8
④ 教員組織の編成の考え方及び特色…p. 15
⑤ 教育方法，履修指導，研究指導の方法及び修了要件…p. 16
⑥ 施設・設備等の整備計画…p. 20
⑦ 基礎となる学部（又は修士課程）との関係…p. 22
⑧ 入学者選抜の概要…p. 24
⑨ 管理運営…p. 25
⑩ 自己点検・評価…p. 26
⑪ 情報の公表…p. 27
⑫ 教育内容等の改善のための組織的な研修等…p. 31

①　設置の趣旨及び必要性

１）博士課程後期を設置する理由・必要性

（１）大学の沿革・概要

【東海大学体育学部沿革】

1967 年 4 月、東海大学体育学部は心身共に健全な人材の養成と体育関係の指導者の養成を図ることを趣意として、体育学科を擁して設立された。翌 1968 年、武道の発展と指導者の養成を求め、武道学科が柔道、剣道の 2 専攻とともに新設され、2 学科体制となった。さらに翌 1969 年、体育学科には学校体育・社会体育・健康学・コーチ学の 4 専攻が設置され、武道学科柔道・剣道専攻と合わせ、2 学科 6 専攻の修学分野が確立された。

1971 年には、わが国初めての社会体育学科が設立され、社会における体育指導者の養成が目指された。同時に体育学科の専攻も整理され、体育学科（学校体育・コーチ学専攻）、武道学科（柔道・剣道専攻）、社会体育学科（社会体育・健康学専攻）の 3 学科 6 専攻となった。

2004 年、体育学科は専攻制の問題点の解決と、広域化・高度化した体育スポーツ科学に対応するため改組改編が行われた。社会体育学科においても、時代に即した学科名への変更がなされ、さらにスポーツ＆レジャーやマネジメントに特化した学科の新設が行われた。この改組改編により、体育学部は、体育学科、競技スポーツ学科、武道学科（柔道コース、剣道コース）、生涯スポーツ学科、スポーツ・レジャーマネジメント学科の 5 学科体制となり、現在に至っている。

【東海大学大学院体育学研究科沿革】

東海大学大学院体育学研究科（以下本研究科）は、体育学部設立より 10 年後の 1976 年 4 月に設立された。設立時の学科目は、「体育学」、「体力学」、「体育方法学」、「社会体育学」の 4 分野構成で、入学定員は 10 名であった。

2008 年度には、「スポーツ科学」、「応用スポーツ科学」、「指導者養成」、「関連領域」の 4 領域となり、2012 年度に、入学定員を 10 名から 15 名に増員した。その後、「スポーツ文化社会科学」、「スポーツ医科学」、「実践スポーツ科学」の 3 領域に再編された。

以上の通り、心身共に健全な人材の養成と体育関係の指導者の養成を図ることを基本的な指針として設置された本学の体育学部を基盤に、目まぐるしく変化していく社会に対し、広域化への対応を進めつつ、学部・大学院教育を通じ、より高度化した教育研究により社会への貢献を進めている。

（２）博士課程後期設置の理由

【社会のニーズ・博士課程後期設置の必要性】

文部科学省が平成 29 年 3 月に策定した第 2 期「スポーツ基本計画」は、スポーツ基本法の規定に基づき、スポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための重要な指針として位置付けられている。

中長期的なスポーツ政策の基本方針として、平成 29 年度から平成 33 年度まで

の5年計画において、１．スポーツで「人生」が変わる、２．スポーツで「社会」を変える、３．スポーツで「世界」とつながる、４．スポーツで「未来」を創る、を掲げ、「スポーツ参画人口」を拡大し、「一億総スポーツ社会」の実現に取り組むこととしている。

そして、この5年間に総合的にかつ計画的に取り組む施策として、１．スポーツを「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大と、そのための人材育成・場の充実、２．スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現、３．国際競技力の向上に向けた強力で持続可能な人材育成や環境整備、４．クリーンでフェアなスポーツの推進によるスポーツの価値の向上を掲げている。

このように、国を挙げて、スポーツを盛り上げて行こうという気運が高まっている中、特に「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大のための人材育成や、国際競技力の向上に向けた強力で持続可能な人材育成・環境整備は喫緊の課題であり、医療・栄養・トレーニング・心理等のスポーツ科学等専門的な知識・技術を有する人材の資質向上の促進等が求められている。この施策に貢献すべく、本学も高等教育機関として、学部、大学院において、既存の組織・運営体制にさらなる改革をしていくことが必要であると考える。

長期的に見て、高等教育機関、とりわけ大学院の役割に関して、平成30年11月26日中央教育審議会より出された「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」では、「Ｖ．各高等教育機関の役割等－多様な機関による多様な教育の提供－」の「２．大学院における特有の検討課題」の中で、『大学院は、「創造性豊かな研究・開発能力を持つ研究者等の養成」、「高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成」、「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員の養成」及び「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材の養成」という四つの人材養成機能を担っている』とし、知識集約型社会における知の生産、価値創造を先導する高度な人材を育成する役割を中心的に担うことが期待される存在であるとしている一方で、現状においては、各大学院が自らの「強み」や「特色」を踏まえて四つの機能を各々選択し、比重を置いた上で、教育研究を展開しているとは言い難いとされている。

特に、博士課程（後期）については、大学院のカリキュラムと企業をはじめとする社会のニーズとの間にギャップが生じているとの指摘がなされている。

「2040　年を見据えた大学院教育のあるべき姿～社会を先導する人材の育成に向けた体質改善の方策～（審議まとめ）」（平成31年1月22日　中央教育審議会大学分科会）には、大学院のカリキュラムと企業をはじめとする社会のニーズとのギャップについて、“特に、博士課程（後期）については、課程を通じて身に付けられる能力が特定の専門分野の知識や方法論であるのに対し、学生の主たる進路先のひとつである企業は、大学院修了者に対して専門分野以外も含めた幅広い能力も求めており、大学院のカリキュラムと企業をはじめとする社会のニーズとの間にギャップが生じているとの指摘もある。”と示されており、大学院修了者に対する企業のニーズとして、特定の専門分野の知識や方法論のみならず専門分野以外も含めた幅広い能力が求められている。このことは、本研究科が博士課程後期の

設置に向けて企業等へのヒアリング調査やアンケート調査において、次の通り具体的に現れている。

■企業等へのヒアリング調査（2020 年 1 月実施）

調査団体及び業界における博士学位取得者へのニーズとして、「現在、体育・スポーツ系分野の博士学位取得者はいるものの、専門外についても興味関心を持って学際的な取り組みができる研究者が少ない。今後はプロジェクト研究（連携研究）が主流となっていくため、他分野と連携ができる博士学位取得者のニーズは高まっていくものと思われる。」また、本研究科博士課程後期【設置構想中】に対する要望として、「研究の成果を社会に還元する意思と方法を身につけた人材を求める。」（明治安田厚生事業団　体力医学研究所）が寄せられている。

■企業等へのアンケート調査（2020 年 8 月 11 日～18 日実施）

本研究科博士課程後期【設置構想中】に対する要望として、「先端的な、幅広い科学的知識を習得するとともに、実際の(強化)現場等における課題を見い出し、その課題を解決するために科学的知識を活用できる課題解決力・実践力・応用力、そして、それらの成果を論文等にまとめ、発表できる高い能力を身に付ける教育を行っていただくことを期待します。」（独立行政法人日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンター　国立スポーツ科学センター）が寄せられている。

以上の結果により、大学院修了者に対する企業等のニーズは、特定の専門分野の知識や方法論のみならず専門分野以外も含めた幅広い能力が求められていることに加え、その能力を実際の現場の課題解決に活かし、研究の成果を社会へ還元できる力であることは明らかである。なお、ここで挙げた具体例は少数であるが、後述する通り、本研究科博士課程後期は、「他領域・他分野との研究・教育における融合を推進し、幅広い知識・考え方を修得して研究の成果を社会へ還元できる人材を養成する」ことを掲げており、企業等へのアンケート調査（2020 年 8 月 11 日～18 日実施）において、「本研究科博士課程後期について、本研究科博士課程後期【設置構想中】が養成する人材は、貴社・貴団体及び業界において必要であると思われますか。」との設問に、きわめて短い期間の調査ながら、15 箇所の企業・団体より「とても必要だと思う」、15 箇所の企業・団体より「必要だと思う」の回答が得られていることからも企業等のニーズは明らかであると確信する。

このことにより、学部で培った広い知識や視野を基盤とし、より広域化・高度化する企業をはじめとする社会のニーズとのギャップを大学院において、修士課程（博士課程前期）と博士課程後期との連続性による教育研究活動と次に挙げる方策を融合し、実現していくことを目標としている。

【多様性・他領域との融合、独創性・創造性の担保】

前出「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」において、『高等教育は「多様な価値観を持つ多様な人材が集まることにより新たな価値が創造される場」＝「多様な価値観が集まるキャンパス」になることが必要である』とあり、学部・学科を超え、大学を超えた人的資源の共有を通して、「多様な教員」による

多様な教育研究を展開することが必要であるとされている。広域化する社会のニーズに答えるため、大学院において、多様性・他領域との融合や独創性・創造性の担保を達成する必要がある。

また、体育・スポーツの研究領域は、時代や社会の状況の変化に応じて、医学や工学をはじめとする他分野との連携が拡大しており、社会に還元できる研究成果が求められている。

これらに応える方策として、本研究科の博士課程後期では、多様性を重んじ、他領域との研究・教育における融合を推し進める。

「多様性を重んじ」「他領域との研究・教育における融合を推し進める」とは、本研究科の学問分野である体育・スポーツ科学の 3 つの領域（スポーツ文化社会科学領域、スポーツ医科学領域、実践スポーツ科学領域）、そして体育・スポーツ科学以外の学問分野である医学、工学、理学等との交流を通じて幅広い知識と考え方の融合を図ることである。

このことは、後述する養成する人材像における、「他領域・他分野との研究・教育における融合を通じて幅広い知識・考え方を修得する」部分に基づくものであり、これを担保するための教育課程の構造等詳細な説明は、③　教育課程の編成の考え方及び特色（教育研究の柱となる領域（分野）の説明も含む）２）教育課程の編成の概要において行う。

【社会における博士学位取得者の存在意義、研究成果の社会への還元】

さらに、高度化する社会のニーズに答える具体的方策として、研究成果の社会への還元、すなわち社会に役立つ博士学位取得者の育成があげられる。前出「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」においても、現状では、諸外国と比較すると、我が国の修士、博士学位取得者の割合は 2 分の 1 から 3 分の 1 と低い水準にあり、早急に大学院教育の体質の改善が必要であるとしている。そのための具体的な方策として「産業界や国際社会も含めた幅広い社会のニーズや学修者の個々のニーズにより一層対応して、各大学院が、学生の修了後の進路を確保し、高度な専門知識のみならず普遍的なスキル・リテラシー等も身に付けた高度な人材を育成することができるよう、明確な人材養成目的に基づく学位プログラムとしての大学院教育の確立に向けて、分野横断的なコースワークや海外大学とのジョイントディグリー、ダブルディグリーの充実等に取り組むべきである」としている。

本研究科博士課程後期においては、これらの実現のために教育活動と前述した研究活動を活用し、高度かつ分野横断的に、社会からのニーズに積極的に取組くむことが出来る人材、そしてその知識を広め・教授していくことが出来る人材を育成していく。

【学内におけるニーズ・修士課程における研究指導教員の充実】

学内におけるニーズに関して、本研究科修士課程修了者は毎年平均 20 名程度であり、そのうち毎年概ね 3 名程度が他大学の大学院博士課程に進学している。

また、近年、体育学部と大学院体育学研究科修士課程が連携し、高い研究力を有する教員を新規に採用するとともに、在籍する教員の「体育」・「スポーツ科学」における研究レベルの向上に努めた結果、修士課程において、博士号を持ち、博士課程の研究指導教員としてふさわしい研究業績を有する教員が 10 数名に達している。これにより、博士課程の研究指導体制を構築することができる状況となっている。

２）博士課程後期の養成する人材像

（１）博士課程の内容（修士課程との関連性）

【修士課程との連動性、養成する人材】

博士課程後期では、既設の体育学専攻修士課程の 3 領域（スポーツ文化社会科学領域、スポーツ医科学領域、実践スポーツ科学領域）において、それぞれの領域の研究内容や高度解析技術を発展させて、高いレベルの「スポーツ科学」に精通しながら、独創的・創造性に優れた高度な研究能力を備えて専門分野の発展に寄与しつつ、それを社会に還元できる力を有する体育・スポーツ科学の研究者専門職を育成することを目的とし、本研究科をより充実させるものである。

これらを達成するために東海大学が、学部、大学院を通じて、育成目標に掲げている 4 つの力、すなわち、「常に未来を見据え自らが取り組むべき課題を探求する力（自ら考える力）」、「多様な人々の力を結集する力（集い力）」、「困難かつ大きな課題に勇気をもって挑戦する力（挑み力）」、「失敗や挫折を乗り越えて目標を実現していく力（成し遂げ力）」を基盤として、多様化する社会の中で、高度な研究スキルを社会へ還元出来る研究者専門職の育成を目指す。

本研究科博士課程後期は、幅広い知識や視野を持つことを前提とし、さまざまな問題に取り組み、解決や貢献を目指すことができる研究者専門職を育成していく。そして社会への貢献は、総合大学である本学のメリットを活用して他分野との協同を前提に実践していく。

以上により、博士課程後期は、養成する人材像を次の通り定める。

●養成する人材像

修士課程の研究内容や高度解析技術を発展させ、他領域・他分野との研究・教育における融合を通じて幅広い知識・考え方を修得し、独創的・創造性に優れた高度な研究能力を備えて専門分野の発展に寄与しつつ、それを社会に還元できる能力を有する人材

【修了後の進路・人材需要】

修了後の進路としては、体育・スポーツ系の大学の教員、企業や健康運動系事業団の研究所における研究員、スポーツアナリストやスポーツ・アドミニストレーター等の専門職を想定している。

今後、高度な研究スキルを有し、研究成果を社会に還元できる能力を備えた博士課程後期修了者に対しては、本研究科の高度な研究と、幅広い本学のスケールメリットにより、様々なスポーツや健康づくりの現場にエビデンスをつくれる研究マインドを持った人材として、幅広い分野からの需要があることが予想される。

（２）養成する人材と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
以上を踏まえ、博士課程後期のディプロマ・ポリシーを以下の通り設定する。

【学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】
博士課程後期では、本学の学位授与の方針に従い、以下の知識・技能・能力を備えたと認められるものに学位を授与する。
ＤＰ①　体育・スポーツ科学における研究領域の多様性を認識し、研究の特徴・意義・使命を考えることができる。
ＤＰ②　エビデンスに基づく分析力・知力・技術を有し、自ら研究課題を見つけ、取り組むことができる。
ＤＰ③　高度な専門知識と技能を持ち、独創性と創造性に富んだ研究力を身に付けている。
ＤＰ④　他領域・他分野との研究・教育における融合を推進し、幅広い知識・考え方を修得している。
ＤＰ⑤　研究により得られた知見や技術、そして経験を社会に還元していくことができる。

②　研究科，専攻等の名称及び学位の名称

研究科名称は次の通り定める。
研究科名称　：体育学研究科
専攻名称　：体育学専攻（博士課程後期）
学位名称　：博士（体育学）
英訳名称は次の通り定める。
研究科名称　：Graduate School of Physical Education
専攻名称　：Course of Physical Education
学位名称　：Doctor of Physical Education

１）研究科の名称
●体育学研究科
「体育」とは、健全な身体の発達を促し、運動能力や健康で安全な生活を営む能力を育成し、人間性を豊かにすることを目的とする教育であり、「体育学」とは、「身体運動を通じての人間教育を対象とする学問」である。また近年、スポーツの定義が広がりつつあるが、スポーツ基本計画では、スポーツの価値を健全に伝え、良い方向に発展させていくことが求められている。そのためには、わが国が教育の中でスポーツ振興をしてきた経緯を踏まえることも重要であると考えている。
本研究科は、現在、体育学部を基礎として、スポーツ文化社会科学領域、スポーツ医科学領域、実践スポーツ科学領域の 3 領域から構成される体育学研究科として設置されている。本申請は、その修士課程を博士課程前期とし、その上に、新た

に博士課程後期を設置し、体育学研究科を充実させるものである。

本研究科においては、「スポーツ」の中でも「教育＝（体育）」を重要視し、「人を育てること（人材を育成すること）」に重点をおいて教育課程を構築している。例えば、スポーツ科学の発展が目覚ましい今日においては、コーチングにおいても研究や技術指導のみならず、むしろ倫理等、健全な教育的指導が益々重要となっており、原点回帰的な考え方が必要であると考えられる。このような観点もふまえ、本研究科では、今後も「体育学」を教育研究の柱とする。そのため、研究科の名称は、「体育学研究科」のままとする。

２）専攻の名称

●体育学専攻（博士課程後期）

博士課程後期は、既設の体育学研究科体育学専攻修士課程（博士課程前期に名称変更）の上に新たに設置する。体育学研究科体育学専攻修士課程は、体育学専攻のみで構成されており、博士課程後期においても「体育学専攻」の名称は変わらない。

３）学位の名称

●博士（体育学）

既設の体育学研究科体育学専攻修士課程（博士課程前期に名称変更）の学位名称は「修士（体育学）」である。

博士課程後期では、既設の体育学専攻修士課程の３領域（スポーツ文化社会科学領域、スポーツ医科学領域、実践スポーツ科学領域）において、それぞれの領域の研究内容や高度解析技術を発展させて、極めて高いレベルの「スポーツ科学」に精通しながら、独創的・創造性に優れ国際的に通用する研究能力を備え、専門分野の発展に寄与しつつ、それを社会に還元できる能力を有する体育・スポーツ科学の研究者専門職を育成することを目的としている。上述してきたように、研究科の名称は「体育学研究科」、専攻の名称は「体育学専攻（博士課程前期・博士課程後期）」であることから、学位名称を「博士（体育学）」とする。

③　教育課程の編成の考え方及び特色（教育研究の柱となる領域（分野）の説明も含む）

１）教育課程の編成の基本方針と特色

本学大学院は、東海大学建学の精神にのっとり、専門分野における高度な学術の理論及び応用を教授研究し、その意義を認識すると同時に、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の創造発展と人類の福祉に貢献することを目的としている。

この目的と先に述べた、養成する人材像と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、本研究科博士課程後期の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を以下の通り定め、対応関係について明確にすべく、「カリキュラムマップ」を資料として追加する。（**資料１：「体育学研究科体育学専攻博士課程後期　カリキュラムマップ」**）

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー)】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を有する人材を養成するために、以下の方針に基づいた教育プログラムを実施する。

ＣＰ①　必修科目である「スポーツ科学研究理論」において、体育・スポーツ科学の学際性と領域の広がりを最先端の研究を通じて学ぶことにより、研究領域の多様性を認識して広い視野を持ち、体育・スポーツ科学に求められる社会課題を考察できる応用的な力を身につける。また、「研究・教育に必要な正義感・倫理観」を身につけ、「博士論文の作成と成果の社会への還元を目指し、専門性を高めていく」ことに加え、「本研究科を構成する３領域のみならず、社会を構成する各分野へ広がる視点の育成を図っていく」ために必要な基礎的な力を養う。

ＣＰ②　「スポーツ科学研究法」を置き、自らの研究を社会に還元してくために必要な技術として、データマネジメント並びにデータサイエンスの最新の概念や研究方法を学修し、エビデンスに基づく分析力・知力・技術をもって、課題発見力を養う。

ＣＰ③　体育・スポーツ科学の３領域（スポーツ文化社会科学領域、スポーツ医科学領域、実践スポーツ科学領域）の特講科目及び演習科目の学びを通じて、高度な専門知識と技能、研究スキルを習得し、「特別研究」科目において独創性と創造性に富んだ研究力を身に付ける。

ＣＰ④　体育・スポーツ科学の３領域（スポーツ文化社会科学領域、スポーツ医科学領域、実践スポーツ科学領域）の特講科目及び演習科目の学びを通じて、体育・スポーツ科学以外の他分野と研究・教育で融合できる力を養成する。

ＣＰ⑤　研究指導教員により、１年次から博士論文の作成に向けて指導を開始し、２年次から３年次にかけ、「特別研究」科目において継続して指導することにより、博士論文の作成を通じて、研究成果の社会への還元できる力を養う。

『教育課程・学修成果』

博士課程後期は、コースワークとして、研究方法論のみならず、データマネジメントやデータサイエンスに基づく研究について学ぶための共通科目、博士課程前期の教育課程を発展させた、スポーツ文化社会科学領域、スポーツ医科学領域、実践スポーツ科学領域の専門科目を開設し、リサーチワークとして、博士論文を作成するための特別研究科目を開設する。

この教育課程により、博士課程前期の研究内容や高度解析技術を発展させ、高いレベルの「スポーツ科学」に精通しながら、独創的・創造性に優れた高度な研究能力を備えて専門分野の発展に寄与しつつ、それを社会に還元できる能力を養う。

『学修成果の評価方法（博士論文審査基準)』

博士課程後期では、博士論文の審査を以下の基準に基づき行う。

１）研究目的と考察が適切である。

・研究の目的が明確であり、独自性が認められる。

・先行研究を十分に検討して課題を明確に指摘している。
・研究の目的に対応した考察がなされており、学術的、実践的な課題が抽出できている。

２）研究の方法と論文の構成が適切である。
・研究目的を達成するための方法が最新で高度なものであり、方法に対して熟達していることが認められる。
・論文の構成が明確である。

３）論文の記述法が適切である。
・各領域における専門用語が適切に使用されている。
・論理的な文章表現がなされている。
・図、表等の表記が適切である。
・参考・引用文献等の質と量が確保されている。

４）独創性・創造性に富んでいる。
・研究のテーマ、及び論及の方法に独創性、創造性が認められる。
・結果の提示のみならず、独創的・創造的知見が得られているか。

５）方法論の確立がなされ、学界への貢献ができる。
・当該研究領域において方法論に対する新たな提言がなされている。
・当該研究領域において研究の成果が論文としてまとめられることによって学界への貢献ができる。

６）社会への還元ができる。
・研究テーマや成果が社会に還元できる可能性を有している。
・研究により得られた最新で高度な研究方法や他領域の研究成果を学ぶことで、連携の重要性を認識して、社会に還元できる可能性を有している。

博士課程後期の教育課程の特色は次の通りである。

（１）コースワークとリサーチワークのバランスを重視し、1 年次にコースワークの共通科目及び専門科目を、2～3 年次にリサーチワークの特別研究科目を開講する。

（２）研究により得られた知見や技術を社会に還元できる能力を養うため、実践を重視したプログラム構築を目指し、共通科目にデータマネジメント、データサイエンスに関わる科目を配置する。
なお、博士課程後期でのデータマネジメントは、体育・スポーツ科学において得られたデータに関して、得られた知見を組織的運営に活かすこと、及び継続的にデータを得るためのアプローチを扱う。博士課程後期でのデータサイエンスは、体育・スポーツ科学において得られたデータに関して、新たな科学的及び社会に有益な知見を引き出そうとするアプローチを扱う。

２）教育課程の編成の概要

（１）共通

共通科目では、「スポーツ科学研究理論」、「スポーツ科学研究法Ａ」、「スポーツ科学研究法Ｂ」の３科目を配置する。

「スポーツ科学研究理論」では、「体育・スポーツ科学特別研究」の担当者が、それぞれの分野の研究方法論・研究成果を概説する。これはスポーツ科学が複合領域であり、学際的視野が必要であることを確認するものである。また、研究及び教育に関わる者として必要な正義感・倫理観の重要性と、リサーチワークへの導入と研究方法論の理解を促す。さらに、エビデンスに基づく研究成果、知見、技術等を社会へ還元することを目的に、データマネジメント、データサイエンスの概要についても学ぶ。

「スポーツ科学研究法Ａ」は、データマネジメントに関する科目であり、体育・スポーツ科学において得られたデータに関して、得られた知見を組織的運営に活かすこと、及び継続的にデータを得るためのアプローチを学ぶ。

体育・スポーツ科学に必要不可欠なデータの収集及び解析の理論と実践を学修するとともに、結果だけでなくプロセスを研究するアクションリサーチ（質的研究）についても身につけることを目標とする。あわせて、マネジメントやビジネスへの応用についても学び、データの正しい取り扱いと倫理の育成を進めていく。

「スポーツ科学研究法Ｂ」は、データサイエンスに関する科目であり、体育・スポーツ科学において得られたデータに関して、新たな科学的及び社会に有益な知見を引き出そうとするアプローチを学ぶ。

量的データを用いる体育・スポーツ科学領域においては、研究成果として示すデータの正確さの担保が、研究の質を向上させる上では欠かせないことを学び、ミクロ・マクロな視点から、適切な量的データの入手（対象者の選定から測定・調査まで）について学び、データの正しい取り扱いと倫理の育成を進めていく。

（２）専門

専門科目では、博士課程後期の教育研究の柱であり、高度な研究スキルと創造力の獲得を目的とし、博士論文作成に向けて、研究テーマの方向性を定めていく科目である。スポーツ文化社会科学領域、スポーツ医科学領域、実践スポーツ科学領域ごとに、「高度スポーツ文化社会科学特講」、「高度スポーツ医科学特講」、「高度実践スポーツ科学特講」、「高度スポーツ文化社会科学演習」、「高度スポーツ医科学演習」、「高度実践スポーツ科学演習」の６科目を配置し、幅広く多角的な視点から現代の問題点を捉え、正しい倫理観を持ち、独創的、創造的な力を育成していく。

なお、専門科目の科目名称について、修士課程では、修士論文の作成に向け、先行研究の整理と修士課程レベルの研究を実施するための科目を開講しているが、博士課程後期では、修士課程の３領域の教育研究内容を発展させ、研究の最前線の議論や知見、解析方法等を踏まえた研究を展開し、研究成果を社会へ還元することにつなげるための科目を開講することから、並びに「高度」を冠した名称としている。

「高度スポーツ文化社会科学特講」では、体育・スポーツ事象にみられる諸問題

に対する体育学における人文社会科学的アプローチ（体育スポーツ哲学・倫理学、スポーツ史・人類学、スポーツ心理学）によって問題把握の多角化をはかるとともに、これを通して研究を独創的に遂行する能力を育成する。なお、当該授業においては、体育スポーツ哲学・倫理学、スポーツ史・人類学、スポーツ心理学における最前線の議論や知見に触れ、学識と思考力を拡充し創造性を養う。

「高度スポーツ医科学特講」では、体育・スポーツ事象にみられる諸問題に対する体育学における自然科学的アプローチ（スポーツ生理学、スポーツバイオメカニクス・体力学、スポーツ医学）を学び、研究課題の焦点化に資する基礎知識を身につける。同時に、当該学問分野における最前線の解析方法や研究事例に触れ、研究を独創的かつ創造的に遂行する能力を育成する。

「高度実践スポーツ科学特講」では、スポーツや運動、身体活動が、現代社会・国民に果たす具体的な意義について、国内外の様々な先端研究のエビデンスから考究する。特に、ウエルネス、スポーツ・レジャーマネジメント、健康づくり・介護予防の身体活動、アダプテッド体育・スポーツをキーワードとして、それぞれの分野の最新の研究動向やビジネスへの応用を解説し、現代社会・国民に役立つ研究を遂行できる能力とマネジメント力を駆使した創造性を養う。

「高度スポーツ文化社会科学演習」では、体育・スポーツ事象にみられる諸問題に対する体育学における人文社会科学的アプローチ（体育スポーツ哲学・倫理学、スポーツ史・人類学、スポーツ心理学）によって問題解決能力の拡充をはかるとともに、これを通して研究を独創的に遂行する能力を高める。なお、当該授業においては、体育スポーツ哲学・倫理学、スポーツ史・人類学、スポーツ心理学における最前線の議論や知見を踏まえながら、広大で歴史的な知の総体において自らの問題追求を相対化することで、研究者としての学識や良識の錬磨と高度な研究スキルを身に付ける。

「高度スポーツ医科学演習」では、体育・スポーツ事象にみられる諸問題に対する体育学における自然科学的アプローチ（スポーツ生理学、スポーツバイオメカニクス・体力学、スポーツ医学）の手法によるスポーツ科学実験研究のプロセス（計画→測定→処理→論議）を演習として学ぶ。これらを通じて、当該分野において、質の高い研究テーマ、研究デザイン、データの解釈・考察を行い、研究者としての学識や良識の錬磨と論文執筆を遂行できる高度な研究スキルを身に付ける。

「高度実践スポーツ科学演習」では、スポーツや運動、身体活動が、現代社会において貢献しうる研究テーマや研究デザインを、具体的に考案する能力を養う。特に、ウエルネス、スポーツ・レジャーマネジメント、健康づくり・介護予防の身体活動、アダプテッド体育・スポーツをキーワードとして、それぞれの分野において、質の高い研究テーマや実現可能な研究デザインを立案し、ビジネスに応用するための最新情報を取り扱う。加えて、対象領域の広い実践スポーツ科学分野の専門家として、学識や良識の錬磨と高度な研究スキルを身に付ける。

（３）特別研究

特別研究科目では、「体育・スポーツ科学特別研究１」、「体育・スポーツ科学特

別研究２」、「体育・スポーツ科学特別研究３」、「体育・スポーツ科学特別研究４」の４科目を配置する。

「体育・スポーツ科学特別研究１～４」では、各研究指導教員の研究テーマにそって研究活動を行うことにより、高度な専門知識を獲得するとともに、研究計画の立案、実験・調査・解析の遂行、データの解釈・考察、博士論文作成、発表といった一連の研究活動を推進できる能力を養う。

「体育・スポーツ科学特別研究１」では、研究指導教員のもと、自身の研究分野に関連する研究テーマの可能性について考究する。研究手法については予備実験、並びに理論構成に対しての議論を繰り返し、研究方法の精度や妥当性を検証する。学期後半には研究情報交換会においてプロポーザル（企画・提案）発表を行い、体育学研究科の教員から問題点の指摘や助言を受け、今後の研究の再構築をはかる。

「体育・スポーツ科学特別研究２」では、特別研究１でまとめた研究計画をより具体化し、実験系は実験方法のスキルを高め、文献系は資料収集の手順とその整理の仕方を学び、自身の研究を進めていく。また、研究内容のプレゼンテーション、ディスカッションを行う能力を高め、研究成果をまとめるために、学会発表や学会誌へ投稿する準備を行う。学期後半には、研究情報交換会（博士論文作成計画発表会）で研究の進捗状況を発表し、体育学研究科の教員から問題点の指摘や助言を受け、研究内容の充実をはかる。

「体育・スポーツ科学特別研究３」では、特別研究２でまとめた研究成果をもとに、博士論文の作成を進める。学期後半には、研究情報交換会（博士論文作成中間発表会）でこれまでの成果を中間報告として行い、体育学研究科の教員から問題点の指摘や助言を受け、博士論文作成に関わる知見を得て、さらに質の高い研究にするための検討を行う。

「体育・スポーツ科学特別研究４」では、これまでの研究成果をまとめ、社会への貢献につなげていく博士論文を完成させることを目的とする。博士論文の構成と各章の執筆、推敲に関する指導を受け、論文を完成させる。学期後半には、研究情報交換会（博士論文完成発表会）で博士論文の発表を行う。

以上述べてきた教育課程の編成の概要に加え、「他領域・他分野との研究・教育における融合を通じて幅広い知識・考え方を修得する」ための、教育課程の構造等詳細について、次の項目により説明する。

【教育課程における他領域・他分野との研究・教育における融合】

教育課程において、次の内容により、他領域・他分野との研究・教育における融合を図り、幅広い知識・考え方を修得させる。

共通科目の「スポーツ科学研究理論」において、<u>他領域の最新情報を踏まえたうえで、体育・スポーツ科学の学際性と領域の広がりを理解し、このことによって研究領域の多様性を認識して広い視野を持ち、体育・スポーツ科学に求められる社会課題を考察できる応用的な力を身につける。</u>さらに、<u>3 領域を跨る視点の必要性に加え、さらに複雑化する現代における体育・スポーツ科学分野だけではない幅広い視点と他分野との融合の必要性</u>

についても講義を行う。

専門科目の「高度スポーツ文化社会科学特講」「高度スポーツ医科学特講」「高度実践スポーツ科学特講」においては、研究テーマの確定に向けた意見交換等を行うとともに、3領域との関連、体育・スポーツ科学以外の分野との関連性や将来の可能性を含め解説し、修士課程から身に付けてきた、本領域における専門的な知見と幅広い視点、そして他分野との融合を含め、自らの研究テーマとの関連性について再検証を行い、レポートの作成、ディスカッションを行う。

「高度スポーツ文化社会科学演習」においては、隣接する分野（社会学・歴史学等）の専門家・学生と協同しパネルディスカッションにより意見交換を行う。これにより、論文の作成能力や発表力の向上を目指すだけではなく、自分の研究テーマについて広い視点で俯瞰的に見直しを行い、より独創性と創造性の高い研究の実現を目指していく。

「高度スポーツ医科学演習」においては、医学、工学、理学等の他の分野と融合したプロジェクト研究に参加し、計画・測定・処理・論議の全体を経験・発表し、研究能力・成果を社会に還元する力を身につけ、プロジェクト研究に参加した結果について、自分の研究テーマと関連した「現状との差異や問題点」などについて発表・意見交換も行い、より広い視点をもった俯瞰的な見直しを行い、より独創性と創造性の高い研究の実現につなげていくことを目指す。

「高度実践スポーツ科学演習」においては、実践スポーツ科学の担当教員が進めているプロジェクト研究や活動の内容を理解するとともに実際に参加し、プロジェクト研究という実践の場を通じ、自らの研究テーマについての方針・取り組み方などについて再確認をおこなうことに加えて、より高度な専門性、より広い視点の必要性について再確認を行う。

なお、プロジェクト研究は、スポーツ技術向上と健康・体力増進を目的として取り組んでいる本学の総合大学の利点を活かした共同研究をさす。

本研究科博士課程後期の専任教員が学内の他の研究科・学部等と連携し、具体的な例を挙げれば、医学部と連携した「側彎症プロジェクト（側彎症の手術前後・リハビリ後の運動評価）」、大学院工学研究科・工学部と連携した「義足開発プロジェクト（関節の特性を加味した無動力大腿義足の開発と適合性評価）」、大学院総合理工学研究科・理学部と連携した「スポーツビッグデータプロジェクト（ビッグデータを用いたスポーツ支援システムの開発）」等を実施しており、学術的にも、実践的にも多くの研究成果を上げており、本研究科における研究活動の特色となっている。

現在、このプロジェクト研究により、最先端の研究において、本研究科の学問分野である体育・スポーツ科学と他の分野（医学・工学・理学等）との融合が行われている状況であり、その研究成果を本研究科博士課程後期の教育課程において、演習科目におけるプロジェクト研究への理解・参加という形でフィードバックすることにより、体育・スポーツ科学以外の他分野と研究・教育で融合できる力を養成する。

また、博士課程後期の設置によって体育・スポーツ科学研究の博士課程レベルの研究環境が整えば、プロジェクト研究の活動はさらに活発となり、研究成果のフィードバックがさらに促進され、大学院生の研究成果の博士論文へ反映、社会への還元が可能になる。

このように、研究活動の成果を教育活動に反映していく教育活動のサイクルを、体育学

部学士課程→体育学研究科修士課程（博士課程前期）→博士課程後期の教育活動の連動の中で広げていくことにより、研究活動においても、体育・スポーツ科学の枠を超えた他領域との融合研究を、さらに活発に実施していくことが可能になると確信している。

④　教員組織の編成の考え方及び特色

１）専任教員配置の考え方及び特色

博士課程後期は、既設の体育学専攻修士課程の 3 領域（スポーツ文化社会科学領域、スポーツ医科学領域、実践スポーツ科学領域）の研究内容や高度解析技術を発展させるため、専任教員には、

（１）スポーツ哲学、スポーツ人類学、スポーツ史、スポーツ心理学等、スポーツ人文社会科学における研究業績が十分にあり、高度な読解能力・分析能力を教授できる者

（２）臨床経験を有する医師、他領域（医学、教育学、保健学）において科学的エビデンスを構築できる解析法や評価法を教授できる者

（３）スポーツ生理学、スポーツバイオメカニクス、スポーツ医学等、スポーツ医科学の研究業績が十分にあり、高度な解析技術を教授できる者、及び、スポーツマネジメント、アダプテッドスポーツ科学等、実践スポーツ科学における研究業績が十分にあり、ビジネスへの応用、データサイエンスやアクションリサーチに長けた者

を配置しており、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを達成できる教員組織となっている。

専任教員は 13 名で構成され、全員が博士の学位を有している。各領域における専任教員の配置は次の通りである。

スポーツ文化社会科学領域において、研究指導教員として教授 3 名を配置する。

スポーツ医科学領域において、研究指導教員として教授 4 名、助教 1 名を配置する。

実践スポーツ科学領域において、研究指導教員として教授 4 名、講師 1 名を配置する。

これにより、各領域において、博士課程後期の教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない専任教員の配置となっている。

２）専任教員の年齢構成

専任教員全体の年齢構成は、完成年度において、60 歳代が 3 名、50 歳代が 8 名、40 歳代が 1 名、30 歳代が 1 名であり、完成年度までに定年を超える教員はいない。

（資料２：「学校法人東海大学教職員定年規程」）

また、完成年度における各領域の年齢構成は、スポーツ文化社会科学領域において 50 歳代が 3 名、スポーツ医科学領域において 60 歳代 1 名、50 歳代が 3 名、30 歳代が 1 名、実践スポーツ科学領域において 60 歳代 2 名、50 歳代 2 名、40 歳代が 1 名となっており、博士課程後期の教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に、ま

ったく支障がない構成となっている。

なお、40 歳代以下の若手教員が少ないが、完成年度以後、１）専任教員配置の考え方及び特色で述べた、（１）～（３）の内容が教授できる若手教員を専任教員に加えていくことで、バランスの取れた年齢構成となるよう計画する。

⑤　教育方法，履修指導，研究指導の方法及び修了要件

１）教育方法の基本的な考え方

博士課程後期では、既設の体育学専攻修士課程の 3 領域（スポーツ文化社会科学領域、スポーツ医科学領域、実践スポーツ科学領域）の研究内容や高度解析技術を発展させて、極めて高いレベルの「スポーツ科学」に精通しながら、独創的・創造性に優れ国際的に通用する研究能力を備え、専門分野の発展に寄与しつつ、それを社会に還元できる能力を有する体育・スポーツ科学の研究者専門職を育成する。

そのために、共通科目と専門科目では、専門分野の枠にとらわれない他分野の知識・技術が修得できるよう専門分野の異なる複数の教員によるオムニバス形式を中心とした講義及び演習を行う。

「特別研究」科目では、「体育・スポーツ科学特別研究１～４」において、研究情報交換会を、博士課程前期を含めた大学院生・大学院研究指導教員参加の下で実施し、博士課程後期の大学院生は、研究指導教員以外に、複数の異なる専門領域の教員からも研究に対する助言を受けることができる機会を設定する。

また、この研究情報交換会では、大学院生が各分野の特別研究内容と途中経過を発表し、その内容や問題点を共有して、それに対して専門分野を超えた意見交換を行い、更なる研究の進展を図る。

さらに、研究指導体制を整備し、博士論文審査についても、その厳格性・透明性を確保するように管理運営体制を整備する。

２）履修方法

履修方法は、次の通り 16 単位以上を履修する。

共通科目では、必修の「スポーツ科学研究理論」（2 単位）を履修し、自身の研究課題と照らし合わせながら、研究指導教員との相談に基づき、「スポーツ科学研究法Ａ」及び「スポーツ科学研究法Ｂ」から１科目（2 単位）以上を履修する。

専門科目では、研究指導教員との相談に基づき、選択の特講１科目（2 単位）以上、演習１科目（2 単位）以上を履修する。例えば、高度スポーツ医科学領域においては、「高度スポーツ医科学特講」（2 単位）及び「高度スポーツ医科学演習」（2 単位）を含む 2 科目（4 単位）以上を履修する。

共通科目・専門科目は、リサーチワークとのバランスを考慮して、1 年次において履修する。

特別研究科目では、必修の「体育・スポーツ科学特別研究」4 科目（8 単位）を履修する。

特別研究科目は、コースワークとのバランスを考慮して、2～3 年次において継

続して履修し、専門科目で履修した特講・演習科目と関連した研究を行う。

なお、標準的な履修モデルとして、次の３つを想定している。**（資料３：履修モデル）**

（１）体育・スポーツ系の大学の教員を目指す履修モデル（スポーツ文化社会科学）

（２）企業の研究所における研究員を目指す履修モデル（スポーツ医科学）

（３）健康運動系事業団の研究者、スポーツアナリストやスポーツ・アドミニストレーターを目指す履修モデル（実践スポーツ科学）

３）修了要件

博士課程後期の修了要件は、次の通りとする。

共通科目から「スポーツ科学研究理論」を含め 4 単位以上修得し、且つ研究指導を受ける教員が担当する「体育・スポーツ科学特別研究１，２，３，４」を必修とし、合計 16 単位以上を修得して、博士論文の審査並びに最終試験に合格すること。

４）入学から修了までの履修指導及び研究指導

（１）履修指導

入学時に入学者全員に対して、ガイダンスを実施する。

ガイダンスでは、博士課程後期の教育理念・目的・目標、教育課程の編成方針、時間割、履修方法、研究計画、博士論文の提出時期・審査時期・審査方法、最終試験等に関する説明を行い、研究指導教員の決定が通知される。

なお、研究指導教員の決定は、入学試験時において受験者から申告された希望に基づき、入学手続きの完了後、当該大学院生の研究計画と希望のあった当該教員の研究分野の妥当性について研究科教授会で検討し、その審議を経たうえで決定される。

研究指導教員は、大学院生の希望を尊重し、相談に応じながら、修了までの履修計画について指導する。

研究指導教員は、「履修モデル」及び「修了までのスケジュール表」を用いて入学時から修了時までの説明を行い、さらに大学院生が自らの研究テーマに関連づけて学修を深められるように指導を行う。履修方法は以下の通りとする。

1 年次前期・後期において、共通科目及び専門科目を履修する。

共通科目において、「スポーツ科学研究理論」（2 単位）は必修であるが、「スポーツ科学研究法Ａ」、「スポーツ科学研究法Ｂ」は選択科目であるため、自身の研究課題と照らし合わせながら、研究指導教員と相談のうえ、1 科目（2 単位）以上を履修する。

専門科目においては、研究指導教員と相談のうえ、特講 2 単位以上、演習 2 単位以上を履修する。

2 年次前期から 3 年次後期にかけて、特別研究科目を履修する。特別研究科目においては、研究指導教員が担当する「体育・スポーツ科学特別研究１～４」（8 単位）を履修する。

（２）研究指導

大学院生は、1 年次において、共通科目・専門科目の履修を通じ、研究指導教員の指導を受けながら、研究課題の焦点化を行い、研究テーマを設定する。

そのうえで、2 年次前期に「体育・スポーツ科学特別研究１」、2 年次後期に「体育・スポーツ科学特別研究２」、3 年次前期に「体育・スポーツ科学特別研究３」、3 年次後期に「体育・スポーツ科学特別研究４」を履修する。

大学院生は、研究指導教員の指導のもと、研究テーマに関する先行研究をふまえ、それぞれの分野の質の高い研究課題を設定し、研究計画を立案した上で研究活動を展開する。研究指導教員は、大学院生が研究から得られた成果を博士論文として完成できるように指導をする。（**資料４：修了までのスケジュール表**）

研究倫理の審査を必要とする研究については、2 年次前期に、研究倫理の審査を行う委員会に申請して審査を受け、承認された上で研究を開始する。

3 年間の標準的な修了までのスケジュールの概要は、以下の通りである。

(a) 1 年次

①大学院生は、研究指導教員に対して「履修計画書」を提出し、科目の履修について指導を受ける。

②大学院生は、共通科目及び専門科目の履修と研究指導教員の指導に基づいて、研究課題の焦点化を行い、研究テーマを設定する。

(b) 2 年次

①大学院生は、設定した研究テーマに基づいて「研究計画書」を作成し、研究指導教員の指導を受けながら研究を進める。

②大学院生は、必要に応じて研究倫理の審査申請を行う。

③大学院生は、研究情報交換会（7 月、1 月）において発表し、研究指導教員のみならず、それ以外の複数の専門分野・領域の異なる教員より、研究内容、解析方法、結果の解釈・考察について助言を受ける。

④2 年次後期には、研究指導教員の指導を受けながら、関連学会における発表や学会誌への投稿等を行う。

(c) 3 年次

①大学院生は、研究情報交換会（7 月）において、博士論文作成の中間研究発表を行い、研究指導教員のみならず、それ以外の複数の専門分野・領域の異なる教員より助言を受け、博士論文の作成を進める。

②大学院生は、博士論文を提出し、研究情報交換会（1 月）において、博士論文完成発表を行う。

審査委員会の博士論文審査及び最終試験を受ける。

５）博士論文の審査体制

博士論文の審査は、本学の学位規程（**資料５:「東海大学学位規程」**）に定めるほか、以下の手続きにより進める。

（１）学位の申請

博士の学位を申請する者は、学位申請書、履歴書、論文目録、論文の内容の要旨、確認書を添え、博士論文を研究科長を通じて学長に提出する。

（２）審査委員の指名

学位の申請を受け、研究科教授会が審査委員会の審査委員の候補案を作成し、審議・承認したうえで大学院運営委員会へ提出する。大学院運営委員会は、候補案について審議し、承認した内容に基づいて、学長が候補者を指名して決定される。なお、論文の審査にあたって大学院運営委員会が必要と認めるときは、学長は他の大学院又は研究所等の教員等を前項の委員の中に含めることができる。

（３）審査委員会

指名された審査委員は、審査委員会を構成し、主査を選出する。

審査委員会は、博士論文に関連ある科目の担当教員２名以上を含め、総計５名以上で構成される。

なお、主査は、博士論文の審査を行う審査委員会の審査委員から選出される。審査委員会が発足した後、審査委員会において、①当該大学院生の研究指導教員は除外すること、②当該大学院生の博士論文の研究分野と同一もしくは隣接する分野を専門とする者であること、③審査委員会全体を取りまとめる学識と経験を有する者を基準として選出が行われ、決定される。

（４）審査

審査委員会は、博士論文の審査及び最終試験を行う。最終試験は博士論文を中心として、これに関連する学科目について行う。

審査委員会は、審査及び最終試験が終了次第、論文の内容の要旨、審査の結果の要旨、試験の結果の要旨に、学位を授与できるか否かの意見を添えて研究科教授会で報告する。

（５）研究科教授会

研究科教授会は審査委員会の報告に基づいて学位を授与すべきか否かを審議する。審議の結果、学位を授与できる者と判定するためには、３分の２以上の賛成がなければならない。

研究科長は、審議の結果、論文の内容の要旨、審査の結果の要旨、試験の結果の要旨を文書で学長に報告する。

（６）学位授与

学長は研究科長の報告に基づき、大学院運営委員会の議を経て学位を授与するか否かを決定する。

６）博士論文の公表方法

博士（体育学）の学位を授与された者は、学位を授与された日から１年以内に、学位授与の対象となった博士論文を公表しなければならない。ただし、やむを得ない事由がある場合には、大学院運営委員会の議を経て、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。

博士論文の要約及び全文は、ＰＤＦデータで、東海大学付属図書館ホームページの

「東海大学機関リポジトリ」において公表される。「東海大学機関リポジトリ」の博士論文のＰＤＦデータは、国立国会図書館により自動収集・公開がなされる。

７）研究の倫理審査体制

博士課程後期は、学内の体育・スポーツ施設や各種実験施設において、コンピュータによる数値解析や人を対象とした実験等様々な研究活動に取り組むことから、多様な研究に対する倫理審査体制が整っていることが大切である。

本学には、「東海大学「人を対象とする研究」に関する指針」に基づき、「東海大学「人を対象とする研究」に関する倫理委員会」が設置されている。（**資料６：「東海大学「人を対象とする研究」に関する指針」「東海大学「人を対象とする研究」に関する倫理委員会規程」**）

博士課程後期の研究において、倫理審査が必要な場合は、倫理委員会に対して「研究計画書」をはじめとする関連書類が提出され、指針に遵うものであるか否かの審査がなされる体制となっている。

なお、博士課程後期の大学院生に対する研究倫理に関する教育や指導については、共通科目及び「体育・スポーツ科学特別研究１」で実施する。

⑥　施設・設備等の整備計画

１）校地、運動場の整備計画

博士課程後期は、神奈川県平塚市に所在する湘南校舎に設置される。

湘南校舎の校地面積は 533,476.07 ㎡、湘南校舎の学部の収容定員は 18,080 人であり、大学設置基準の必要校地面積を十分に満たしている。校地を共用する大学院の収容定員は 937 人であり、教育研究上支障は生じない。

また、多目的グラウンドをはじめ複数の運動場やカフェテラス等の学生厚生施設が既に整えられているため、新たな校地、運動場の整備計画はない。

２）校舎等施設の整備計画

博士課程後期は、教育研究施設として、既存の湘南校舎 7 号館及び 15 号館等を使用する。

7 号館においては、博士課程後期の専任教員の研究室、7－201 教室、7－202 教室、7－211 教室、7－301 教室、7－302 教室等を講義・演習室として使用し、15 号館においては、運動生理関係実験室、共同実験室等を使用する。

運動生理関係実験室には、最大酸素摂取量測定をはじめとする運動生理学的領域の実験・測定ができる機器設備が、共同実験室には、モーションキャプチャシステムやフォースプレート、筋電計をはじめとするスポーツバイオメカニクス領域の実験・測定ができる機器設備が設置されている。これらの設備は、主に「体育・スポーツ特別研究１～４」において、大学院生各人の研究テーマに合わせて適宜使用していく。

また、15 号館 7 階に、博士課程後期の大学院生専用の研究室として、「体育学研究科大学院院生室２」を新たに整備し、研究に専念できる環境を整える。（**資料７：院**

生室室内の見取り図）

以上の通り、既存の施設設備の活用と院生室の整備により、博士課程後期の教育研究に支障は生じない計画である。

３）図書等の資料及び図書館の整備計画

（１）図書等の整備について

体育学研究科体育学専攻の大学院生が利用する湘南校舎図書館において、既に体育学・医学・心理学等に関する蔵書約 24,600 冊を所蔵しており、博士課程後期設置後も、引き続き開講科目及び周辺学問領域に関わる図書を幅広く収集し、充実させる予定である。

（２）学術雑誌の整備について

学術雑誌については、「学術雑誌一覧」（**資料８：学術雑誌一覧**）の通り、体育学研究科体育学専攻博士課程後期に関する学術雑誌を所蔵しており、教育研究に支障はないが、博士課程後期の設置に向けて、専門分野の電子ジャーナルを充実させるべく、EBSCO 社が提供する電子ジャーナルパッケージである「Sports Discus with Full Text」を開設年度までに導入する予定である。

「Sports Discus with Full Text」は、スポーツ学、健康学、エクササイズ、施設デザイン、健康管理、校内・校外スポーツ、ドーピング問題、保健学、生物学、リハビリテーション、栄養学、また運動生理学や物理療法等の外国雑誌を収録しており、スポーツ及び運動学分野の研究支援に対応したコンテンツである。

（３）オンライン・文献データベースの整備について

体育学研究科体育学専攻の大学院生が利用可能であるオンライン・文献データベースについて、既に国内 26 種、国外 23 種が整備されており、学内の図書館をはじめ各施設、研究室で利用可能となっている。コンテンツの一部は学外から“SSL-VPN”を利用して 24 時間検索を実現している。

（４）図書館の施設整備について

湘南校舎図書館は、授業開講時において 22 時まで開館し、利用者に対応している。閲覧室、閲覧席とも既存の施設を活用し、OPAC 用端末、外部データベース及びレポート作成にも使えるパソコンを館内に設置、さらに無線 LAN の環境も整備して、図書館機能を果たしていると考えている。

（５）他大学図書館との協力について

東海大学付属図書館の蔵書はすべて電算化され、所蔵情報は学生の自宅からも検索が可能である。付属図書館間の図書の相互活用は活発で、利用者が OPAC から取り寄せの依頼が可能となっており、郵送で取寄せた上で、学生等利用者に自館所蔵図書と同じく館外貸出に供している。

同様に他大学との連携は、私立大学図書館協会に加盟し、図書の相互貸借・文

献の複写依頼のやり取りを中心に相互利用を積極的に展開している。また国・公立大学並びに外部機関とも私立大学と変わらない連携・交流関係を確立している。その実績を生かし国立情報学研究所 NACSIS‐ILL の ILL 文献複写等料金相殺サービスにも参画し、充実した相互協力を展開している。また、神奈川県内では神奈川県図書館協議会にも加盟しており今後も活発な協力活動を展開する計画である。

⑦　基礎となる学部（又は修士課程）との関係

１）学士課程と大学院修士課程

【学士課程と大学院修士課程】

東海大学の学士課程（学部）においては、『若き日に汝の思想を培え、若き日に汝の体軀を養え、若き日に汝の知能を磨け、若き日に汝の希望を星につなげ』という創立者の精神に基づき、明日の歴史を担う強い使命感と豊かな人間性をもった人材を養成することを目指している。さらに、グローバル化し、価値観が多様な現代社会にあっては「常に未来を見据え自らが取り組むべき課題を探求する力（自ら考える力）」、「多様な人々の力を結集する力（集い力）」、「困難かつ大きな課題に勇気をもって挑戦する力（挑み力）」、「失敗や挫折を乗り越えて目標を実現していく力（成し遂げ力）」を身につけた自主的・創造的人材の輩出をもって、調和のとれた文明社会を建設することを使命・目的とし、これがディプロマ・ポリシーの中核となっている。現在の体育学部には、体育学科、競技スポーツ学科、武道学科、生涯スポーツ学科、スポーツ・レジャーマネジメント学科があり、上述①「自ら考える力」、②「集う力」、③「挑む力」、④「成し遂げる力」を身に付け、「質の高い体育・スポーツ専門職」を育成することを目標としている。

修士課程は、本学の建学の精神である人道主義、人格主義に立脚し、体育学の専門分野について高度にして専門的な理論と応用を教授研究し、豊かな教養と学識そして技能を有する平和で豊かな人類文化の発展に貢献できるような人物を養成することを教育目標とし、１）体育・スポーツ科学領域において、専門的な知識と技能を有し、研究・教育活動を通じて積極的に社会貢献ができること、２）研究及び教育に携わる者として必要な正義感・倫理観を有し、豊かな教養と人格を身につけていること、及び３）当該分野における国内外の学会等での発表、質疑応答が可能な能力を有していることをディプロマ・ポリシーとしている。修士課程においては、スポーツ文化社会科学領域、スポーツ医科学領域、実践スポーツ科学領域の３領域において教育研究活動を行い、上述①専門的知識・技能　②豊かな教養・人格　③発表能力を身に付け、「科学に基づく知識・技術を取り入れた総合的アプローチを実践できる体育・スポーツ科学の専門職」を育成することを目標としている。

２）既設の修士課程との関係

【修士課程との関連】

既設の体育学研究科修士課程と博士課程後期の連動性については関係図に示す通

りである。（**資料９：体育学部と体育学研究科との関係図**）

本申請では、既設の修士課程の上に博士課程後期を増設するため、博士課程前期（修士課程）のスポーツ文化社会科学領域、スポーツ医科学領域、実践スポーツ科学領域は、博士課程後期において、各領域におけるそれぞれぞれの分野を統合して発展させた専門科目である「高度スポーツ文化社会科学」、「高度スポーツ医科学」、「高度実践スポーツ科学」に対応する。それぞれの「スポーツ科学領域」の研究内容や高度解析技術を発展させて、独創的・創造性に優れた高度な研究能力を有し、それを社会に還元できる能力を身につけた研究者専門職を育成することを目的とする。①専門的知識・技能　②豊かな教養・人格　③発表能力を身に付ける修士課程（博士課程前期）のディプロマ・ポリシーをより高度に設定することに加えて、④独創性・創造性⑤学界貢献　⑥社会還元能力を付加し、大学院博士後期課程を修了して学位取得後は、高度なスポーツ科学の研究能力を、データサイエンス及びデータマネジメントとリンクさせて、社会に貢献できる人材の育成を目指す。そのために、データサイエンス、データマネジメントに関わる「スポーツ科学研究理論」「スポーツ科学研究法Ａ」「スポーツ科学研究法Ｂ」を開講し、研究能力のみならずそれらを社会へ還元する能力を身に付けることを目指す。

以上の内容に加え、既設の体育学研究科修士課程と博士課程後期の連動性をより明確にし、修士課程からの高度化を示すため、次の項目において説明する。

【修士課程との関連とその高度化】

修士課程と博士課程後期のカリキュラムの関連性と高度化を明確にするために、関連図（**資料１０：「現行修士課程と博士課程後期の関連図」**）を示し、次の通り説明する。

修士課程のカリキュラムにおいては、

①共通科目で学ぶ「幅広く物事をとらえる視点、研究に必要な力」

②「スポーツ文化社会科学領域」「スポーツ医科学領域」「実践スポーツ科学領域」の３つの科目区分から深化させた専門性

③ゼミナール科目「体育学研究」を通じて身につけた自ら課題に取り組み、修士論文を作成した成し遂げる力

に加えて、博士課程においてデータサイエンス及びデータマネジメントをベースとして、高度な体育・スポーツ科学の研究能力を社会に還元できるように、より高度化していく。

博士課程のカリキュラムにおいては、

④共通科目において、自らの研究を社会に還元してくために必要な技術（データサイエンス及びデータマネジメント）と倫理観・使命感を身に付けるとともに、「博士論文の作成と成果の社会への還元を目指し、専門性を高めていく」ことに加え、「本研究科を構成する３領域のみならず、社会を構成する各分野へ広がる視点の育成を図っていく」ために必要な基礎的な力を養う。

⑤専門科目において、専門性のみならず、本研究科の３領域に加え他分野との交

流を通じて幅広い知識と考え方の融合を図る。

⑥特別研究において、正しい倫理観・独創性・創造性の獲得をもって博士論文の作成とその成果を社会に還元していく。

以上、①～⑥の関連性により、修士課程から博士課程後期へ連動し、高度化する教育課程となっている。

⑧　入学者選抜の概要

1）入学者受け入れの基本方針

【入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

本学の「建学の精神」と、体育学研究科博士課程後期の教育・研究上の目的及び養成する人材像を理解し、自ら学ぶ意欲を持ち、十分な専門分野の基礎学力を有した者を広く受け入れる。

求める学生像

体育学研究科博士課程後期で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることのできることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

入学者にもとめる力（知識・技能・能力）

1）体育・スポーツ科学領域の専門的な学修をするために必要な修士課程レベルの十分な基礎学力がある者

2）当該分野における極めて高度な知識・技能を有し、独創性・創造性に富んだテーマを持って研究を遂行する意欲のある者

3）研究により得られた知見や技術、及びその過程で得られた能力を社会へ還元する意欲のある者

4）体育・スポーツ科学領域の専門分野の情報・知識を得るために必要な英語の語学力を有している者

2）出願資格

出願資格を有する者は，学校教育法第 102 条第 1 項ただし書きの規定により，次の各号の一に該当する者とする。

（1）修士の学位を有する者

（2）専門職学位を有する者

（3）学校教育法施行規則第 156 条の規定により修士の学位を有する者若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者のうち，次の各号のひとつに該当する者

イ　外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

ロ　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

ハ　我が国において，外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学

校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

ニ　国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法第 1 条第 2 項に規定する 1972 年 12 月 11 日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し，修士の学位に相当する学位を授与された者

ホ　外国の学校，上記ハの指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し，大学院設置基準第 16 条の 2 に規定する試験及び審査に相当するものに合格し，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

ヘ　文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第 118 号）

ト　本学大学院が個別の入学資格審査により，修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で 24 歳に達した者

３）入学試験の実施方法・審査の概要と判定

本研究科修士課程のみならず他大学大学院修士課程の修了見込み及び修了者等の受験を想定する一般入学試験、企業の研究者等で社会での経験・実績を有している者の受験を想定する社会人特別入学試験を実施する。

博士課程後期大学院生の前提となる知識、能力等が十分に備わっていることを入学試験で確認するため、各入学試験に応じて、書面審査、筆記試験、口述試験を行う。

（１）一般入学試験

①書面審査（修士論文等）

②筆記試験（英語）

③口述試験（志望する体育・スポーツ科学領域の専門分野、入学後の研究計画等について）

（２）社会人特別入学試験

①書面審査（研究業績、入学後の研究計画書等）

②口述試験（英語の語学力、志望する体育・スポーツ科学領域の専門分野、これまでの研究業績、入学後の研究計画等について）

試験結果を体育学研究科で総合的に評価し、学長を委員長とする大学院入試判定委員会で合否の判定を決定する。

⑨　管理運営

１）大学院全体の運営

本学には大学院運営委員会が設置されており、大学院運営に関する基本的な重要事項、大学院の各研究科専攻に関する重要事項等を審議する。体育学研究科の管理運営に関しても、該当する事項について大学院運営委員会において審議され、決定される。大学院運営委員会は原則として月 1 回開催される。

２）研究科の運営

体育学研究科長を中心に、体育学研究科の研究指導教員並びに研究指導補助教員を構成員とする体育学研究科教授会が設置されており、大学院生の教育・研究、大学院生の指導に関する事項、学位論文審査に関する事項、教員の資格審査に関する事項をはじめとする教学管理・運営上のすべての事項が審議され、大学院運営委員会で決定されるべき事項を除いて決議される。個別の議案は、研究科教務委員会等の専門委員会に付託するが、その最終審議と決定は、研究科教授会で行われる。研究科教授会は原則として月１回開催される。

３）専攻の運営

体育学専攻には専攻長と教務委員を置き、教務委員の補佐のもと、専攻長を議長として体育学専攻運営会議を設置する。専攻運営会議は、体育学専攻の教育研究体制、大学院生の教育・研究、大学院生指導、教員の研究教育の状況等、教学上のあらゆる事項について検討するとともに、体育学研究科教授会、大学院運営委員会の諸決定を専攻として実施する体制を協議する。専攻運営会議は必要に応じて開催する。

４）事務組織

大学院生の学修・研究、キャンパス生活、並びに就職活動、教員の教育・研究等の支援、及び体育学研究科教授会、各種委員会、入学試験、就職支援、教職員・大学院生の健康管理等の各種管理運営業務の実施にあたっては、湘南校舎の全研究科・学部を対象に置かれている学部支援課、教務課、学生課、事務課、中央図書館、湘南健康推進室等が、それぞれの業務を担当する。

⑩　自己点検・評価

東海大学は、学長の諮問機関として東海大学評価委員会が設置され、大学の自己点検・評価を行いながら、その結果に基づいて、各種教学改革の提言を行ってきている。大学院各研究科には、研究科長の諮問機関として、大学院研究科評価委員会が設置されており、ここで自己点検・評価を行うことになる。

東海大学で実施している自己点検・評価活動は、大別して１）機関点検・評価と２）教員個人の総合的業績評価の２種類に分けることができる。

１）機関点検・評価

機関点検・評価は、学部・研究科を単位として、各教育機関が、東海大学全体の中期目標・計画に沿って、学部・研究科の中期目標・計画を立て、事業計画書の作成を行っている。

この事業計画書記載項目の達成度や問題点について、各学部・研究科が毎年度末に自己点検・評価後にヒアリングを行い調整することで、次年度の目標設定につながる取組みを行っている。

２）教員個人の総合的業績評価

本学では、教員個人が、その活動状況についてWebを利用して登録することが定められており、登録された活動状況について、総合的業績評価システムによって評価を行う。主たる評価項目は、①研究活動、②教育活動、③学内外活動の3項目である。

研究活動については論文・著書の執筆、学会等発表状況を、教育活動については学部における教育活動、学内外活動については各種の学内運営業務の担当状況、学外における学会活動、審議会等学外の委員受託、地域貢献活動等が評価対象となる。これらは、教員の所属学部で毎年総合評価を受ける。

大学院の研究指導教員については、これらの評価項目に加え、研究内容や研究状況等に基づき、3 年に 1 度、研究指導教員資格再審査を受けることになっており、一定の水準に達しなければ、研究指導教員資格を喪失する。

３）認証評価及び大学全体の自己点検・評価

東海大学は、学部・大学院について、平成 29（2017）年度に財団法人大学基準協会による認証評価を受審し、「適合」の判定を得た。次回の認証評価は、令和 6(2024)年度が予定されている。

東海大学は、大学の自己・点検評価について、認証評価とともに、１）及び２）等を取り入れながら毎年度実施しており、その報告を「教育研究年報」に掲載し、公表している。

⑪　情報の公表

本学は、学校教育法第 113 条及び学校教育法施行規則第 172 条の２に基づき、以下の通り、各学部及び大学院各研究科における教育研究活動等の状況について、本学のオフィシャルサイトにより、広く社会に向けて開示している。

ア　大学の教育研究上の目的に関すること

本学では、大学院、学部における教育研究上の目的を、それぞれ各学則に定めており、オフィシャルサイトの＜大学概要＞において、「学則」の条文中の別表として公表している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「教育研究上の目的」：トップ＞大学案内＞学則

イ　教育研究上の基本組織に関すること

本学の教育研究上の基本組織については、オフィシャルサイト＜大学案内＞＜東海大学について＞において、「教育・研究組織」として、各事務部門の組織名称と併せて学部及び研究科の名称を公表している。なお、学部・学科及び研究科・専攻の名称については、オフィシャルサイトの＜学部・大学院＞において公表している。

【オフィシャルサイト】http:// www.u-tokai.ac.jp
「教育・研究組織」の名称
トップ＞大学案内＞東海大学について＞教育・研究組織
「学部・学科」の名称
トップ＞学部・大学院＞学部・学科・専攻・課程のご紹介
「研究科・専攻」の名称
トップ＞学部・大学院＞大学院のご紹介

ウ　教員組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

本学においては、昭和 59 年度より、年度ごとの教育研究活動の客観的事実を広く社会に報告することを目的に「東海大学教育研究年報」を年 1 回編集・発行しており、その中で教員組織に関する情報も公表してきている。教育研究年報がオフィシャルサイトトップページの＜取り組み＞＜教育研究活動＞において、「教育研究年報」として閲覧できるようになっており、専任教員数及び専任教員の年齢構成については、オフィシャルサイトトップページの＜大学案内＞＜東海大学について＞において、「教職員数」として公表している。

また、各教員が有する学位及び業績に関する情報については、オフィシャルサイトトップページの＜学部・大学院＞のページにおいて、各学部・学科及び研究科・専攻のトップページの「教員紹介」として公表している。なお、各教員の研究活動情報については、オフィシャルサイトトップページの＜研究・産官学連携＞において、「研究活動・ライセンス検索（教員研究活動情報の検索）」から検索ができるようになっている。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp
「教員組織等」
トップ＞取り組み＞教育研究活動＞教育研究年報
「教職員数、教員年齢構成」
トップ＞大学案内＞東海大学について＞教職員数
「教員が有する学位及び業績」
トップ＞学部・大学院＞学部・学科・専攻・課程のご紹介、大学院のご紹介＞各学部・学科（各研究科・専攻）トップ＞教員紹介
「教員研究活動情報」
トップ＞研究・産官学連携＞研究活動・ライセンス検索＞教員研究活動情報の検索

エ　入学者に関する受入方針及び入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

入学者に関する受入方針については、オフィシャルサイトトップページの＜大学案内＞＜教育研究上の目的及び養成する人材、３つのポリシー＞に「アドミッション・ポリシー」として掲載している。入学者の数、収容定員及び在学する

学生の数については、オフィシャルサイトトップページの＜大学案内＞＜東海大学について＞において、「学生数」として公表している。また、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況については、オフィシャルサイトトップページの＜キャリア・就職＞において、「各種データ」として公表している。

また、本学では、「就職指導も教育の一環」という理念に基づいて、全学的な就職支援体制を構築している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「入学者に関する受入方針」

トップ＞大学案内＞教育研究上の目的及び養成する人材、３つのポリシー

「入学者の数、収容定員及び在学する学生の数」

トップ＞大学案内＞東海大学について＞学生数

「卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況」

トップ＞キャリア・就職＞各種データ

オ　授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

本学では、授業の概要情報と、授業の基本・詳細情報を合わせてシラバスと称し、シラバスデータベースシステムは、授業内容や授業計画を網羅したシステムとなっている。学生の授業選択を強力にサポートする豊富な検索機能と、学習を進める上で有効となる最新の情報を提供しており、オフィシャルサイトトップページの＜学部・学科＞及び＜大学院＞の各学部・研究科のトップページにおいて「シラバス」として公表している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「学部」のシラバス

トップ＞学部・大学院＞学部・学科・専攻・課程のご紹介＞各学部・学科トップ＞シラバス

「大学院」のシラバス

トップ＞学部・大学院＞大学院のご紹介＞各研究科・専攻トップ＞シラバス

カ　学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

学修の成果に係る評価等、大学設置基準等において、学生に明示することとされている事項については、オフィシャルサイトトップページの＜学部・大学院＞のページにおいて、各学部・学科及び研究科・専攻のトップページの「カリキュラム」として公表している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準(学部・学科)」

トップ＞学部・大学院＞学部・学科・専攻・課程のご紹介＞各学部・学科トップ＞カリキュラム

「学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準（研究科・専攻)」

トップ＞学部・大学院＞大学院のご紹介＞各研究科・専攻トップ＞カリキュラム

キ　校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

校地・校舎等の施設等については、オフィシャルサイトトップページにおいて、「各キャンパス」として、その概要をキャンパスごとに公表している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「学生の教育研究環境等」: トップ＞各キャンパス

ク　授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料等については、オフィシャルサイトトップページの＜大学案内＞において、「学部学科学費」及び「大学院学費」として公表している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「授業料、入学料その他の大学が徴収する費用」

トップ＞大学案内＞学部学科学費、大学院学費

ケ　大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

大学が行う学生の各種支援に関することについては、オフィシャルサイトトップページの＜学生生活＞及び＜キャリア・就職＞において、それぞれ公表している。また、教育支援センターでは、東海大学が進めている教育改革を推進するために、すべての学生の目線に立ち、全学の組織的な教育改善計画（Faculty Development）を開発し、教育の質と教育力の向上を支援しており、大学のオフィシャルサイトとは別に教育支援センターサイトを開設し、その取り組みを公表している。

さらに、健康推進センターでは、病気の早期発見や健康の保持増進に努め、学生及び教職員が心身ともに健康で快適なキャンパスライフを送れるようサポートし、オフィシャルサイトでその取り組みを公表している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「修学支援」: トップ＞学生生活＞教育サポート、学生生活サポート

「進路選択支援」: トップ＞キャリア・就職

「心身の健康等に係る支援」: トップ＞大学案内＞組織紹介＞健康推進センター

【教育支援センターサイト】http://jpn.esc.u-tokai.ac.jp

【健康推進センターサイト】http://www.tsc.u-tokai.ac.jp/pubhome/hokenc

コ　その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報，学則等各種規程，設置認可申請書，設置届出書，設置計画履行状況等報告書，自己点検・評価報告書，認定評価の結果　等）

本学における「アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針)」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針)」、「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針)」については、オフィシャルサイトトップページの＜大学案内＞において、「教育研究上の目的及び養成する人材、３つのポリシー」として掲載している。

学則については、オフィシャルサイトトップページの＜大学案内＞において、「学則」として、東海大学大学院学則、東海大学学則を、それぞれ掲載している。

設置認可申請書・設置届出書及び設置計画履行状況報告書については、オフィシャルサイトトップページの＜情報の公表＞において掲載している。

本学における自己点検評価活動、及び平成 29 年度に受審した第三者評価の結果については、オフィシャルサイトトップページの＜取り組み＞＜教育研究活動＞において、「自己点検評価」として掲載している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「アドミッション・カリキュラム・アカデミックポリシー」

トップ＞大学案内＞教育研究上の目的及び養成する人材、３つのポリシー

「学則」

トップ＞大学案内＞学則

「設置認可申請書・設置届出書及び設置計画履行状況報告書」

トップ＞情報の公開

「自己点検評価活動、第三者評価の結果」

トップ＞取り組み＞教育研究活動＞自己点検評価

⑫　教育内容等の改善のための組織的な研修等

１）大学としての取組

東海大学は、組織的・継続的なＦＤ活動を推進する部署として、東海大学教育支援センターを設置している。

教育支援センターでは、各年度に複数回、教育活動の活性化を図ることを目的に、学外から講師を招き、全学共通の内容を盛り込んだ「ＦＤ・ＳＤ研修会」を開催している。この研修会において、教員だけでなく、事務職員や技術職員等の大学職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な研修を実施している。

２）本研究科としての取組

体育学研究科ＦＤ委員会において、博士課程前期及び博士課程後期におけるＦＤ活動を計画・実施するが、博士課程のＦＤ活動は学士課程のＦＤ活動と密接に関連することから、体育学部のＦＤ活動とも様々な面で情報を共有して活動を展開する。現在計画している取り組みは以下の通りである。

（１）一般公開講座

人文科学系と自然科学系それぞれにおける、健康・スポーツに関連する分野で

活躍する研究者等を招き、体育学研究科・体育学部の教員、大学院生、学部生、教職員、その他広く学外一般からの参加を得て実施する「健康・スポーツ科学セミナー」を開催しており、2019 年度の内容は次の通りである。

第 1 回　学外の大学教員を講師とし、「環境デザイン―身体不活動と生活習慣病との関連―」をテーマに講演

第 2 回　学外の大学教員を講師とし、「スポーツがもたらす無形の価値の『見える化』」をテーマに講演

第 3 回　日本 IBM の事業本部 SPORTS プロデューサーを講師とし、IBM のスポーツ事業の紹介と新しいスポーツビジネスサービスの考案を試みるワークショップを開催

第 4 回　「身体活動・不活動と脳機能」「脳機能に対する運動と栄養の相互作用」を専門とする学外の大学教員を講師とし、研究の心構えと進め方、研究者としてのキャリアアップについて講演

博士課程後期開設後もこのセミナーを開催し、内容を充実させることにより、体育学研究科が専門とする体育・スポーツ科学領域だけでなく、他分野の研究・活動内容に触れ、体育学研究科及び体育学部のＦＤ活動として、教育研究活動の推進につなげる。

（２）授業公開・参観

教育効果を高めるため、体育学研究科では全ての科目について授業公開を原則とし、授業参観をＦＤ活動のひとつとして推奨している。とくに、修士課程の研究科指導教員によるオムニバス方式の科目「体育学研究総論」においては、授業公開・参観のみならず、授業の資料を相互に共有し、授業の申し送り事項を共有する活動を行い、授業改善や授業の充実につながっている。博士課程後期設置後は、博士課程後期の研究科指導教員によるオムニバス方式の科目「スポーツ科学研究理論」において同様の活動を実施する計画である。

以　上

設置の趣旨等を記載した書類
体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）

【資料目次】

資料１　東海大学大学院体育学研究科体育学専攻博士課程後期　カリキュラムマップ
資料２　「学校法人東海大学教職員定年規程」
資料３　履修モデル
資料４　修了までのスケジュール表
資料５　東海大学学位規程
資料６　「東海大学「人を対象とする研究」に関する指針」
「東海大学「人を対象とする研究」に関する倫理委員会規程」
資料７　院生室室内の見取り図
資料８　学術雑誌一覧
資料９　体育学部と体育学研究科との関係図
資料１０　現行修士課程と博士課程後期の関連図

東海大学大学院体育学研究科体育学専攻博士課程後期　カリキュラムマップ

ディプロマポリシー

①体育・スポーツ科学における研究領域の多様性を認識し、研究の特徴・意義・使命を考えることのできる人材

②エビデンスに基づく分析力・知力・技術を有し、自ら研究課題を見つけ、取り組むことができる人材

③高度な専門知識と技能を持ち、独創性と創造性に富んだ研究力を身に付けた人材

④他領域・他分野との研究・教育における融合を推進し、幅広い知識・考え方を修得している人材

⑤研究により得られた知見や技術、そして経験を社会に還元していくことができる人材

3年次

2年次

1年次

③専門性の高度化、理論の確立

『体育・スポーツ科学特別研究４』
研究実施・論文執筆

『体育・スポーツ科学特別研究３』
研究実施・論文執筆

『体育・スポーツ科学特別研究２』
研究実施・論文執筆

『体育・スポーツ科学特別研究１』
研究実施・論文執筆

③④⑤幅広い視野に基づく独創性と創造性による研究力と、成果を社会に還元できる力の育成

③高度・発展的な研究

「高度スポーツ文化社会科学演習』
パネルディスカッション

『高度スポーツ医科学演習』
プロジェクト研究

『高度実践スポーツ科学演習』
プロジェクト研究

『高度スポーツ文化社会科学特講』
高度な研究スキルの教授

『高度スポーツ医科学特講』
高度な研究スキルの教授

『高度実践スポーツ科学特講』
高度な研究スキルの教授

④他領域・他分野との研究・教育における融合を推進し、幅広い知識・考え方を修得

②エビデンスに基づく分析力・知力・技術

『スポーツ科学研究法Ａ』
データマネジメント

『スポーツ科学研究法Ｂ』
データサイエンス

『スポーツ科学研究理論』
研究理論・研究倫理

①体育・スポーツ科学における研究領域の多様性を認識し、研究のその特徴・意義・使命を考える

スポーツ文化社会科学領域

スポーツ医科学領域

実践スポーツ科学領域

体育学研究科　修士課程

体育学部

博士論文の作成
～ディプロマポリシー①～⑤を実現したものとして作成を進め完成させる～

特別研究

専門

共通

○学校法人東海大学教職員定年規程

（制定　昭和28年６月１日）

改訂　昭和43年４月１日　　昭和63年４月１日
1991年６月17日　　1994年４月１日
2000年４月１日　　2003年４月１日
2004年４月１日　　2006年４月１日
2007年４月１日　　2011年４月１日
2012年４月１日　　2013年４月１日
2017年４月１日

第１条　学校法人東海大学に勤務する専任の教職員の定年は，次のとおりとする。

教員

職種	区分	身分	資　格	定年齢
教員	大学院・大学 短大・研究所等		教授	65
			准教授・講師・ 助教・助手	62
	高等学校・中等部 小学校・幼稚園	教諭・養護教諭 司書教諭	上級職１種・２種	65
			中級職１種・２種	62
			一般職１種	62
		助教諭	一般職２種	60
	2004年４月１日以後の採用者	教諭・養護教諭 司書教諭	一般職１種	60

職能資格制度を適用する職員

職種	区分	身分	資格	定年齢
職員	事務		参与・副参与 参事・副参事	65
			主事・副主事	62
			主査・職員一級 職員二級	60
	技術		主席技師・主任技師 技師	65
			技師補・上級技術員	62
			一級技術員・技術員 初級技術員	60
	看護		１等級～４等級	65
			５等級～７等級	62
			８等級以下	60

	保健		主席保健技術員・副主席保健技術員・主任保健技術員	65
			上級保健技術員一・上級保健技術員二	62
			中級保健技術員・保健技術員・初級保健技術員	60

職能資格制度を適用しない職員

職種	区分	身分	資格	定年齢
職員	船舶		船長・機関長	65
			一等航海士，一等機関士，通信長，事務長，次席一等航海士，次席一等機関士，二等航海士，二等機関士，次席二等航海士，次席二等機関士，三等航海士，三等機関士，次席三等航海士，次席三等機関士，小型舟艇船長，小型舟艇機関長，小型舟艇甲板長，甲板長，操機長，司厨長	62
			操舵手，操機手，調理手，甲板員，機関員，司厨員	60
	その他		課長職以上の管理職	65
			上記以外の役職	62
			上記以外の職員	60

第２条　定年による退職は，定年に達した日の属する年度末日とする。

第３条　定年令の計算は,「年令計算ニ関スル法律」及び「民法」第 143 条による。ただし，2000 年３月 31 日までに採用された教職員についてはこれを適用しない。

第４条　教育上又は経営上必要と認めた者については，第１条の規定を適用しない。

第５条　「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」により定年退職後に継続雇用する場合は,「学校法人東海大学大学・短大非常勤教員規程」,「学校法人東海大学初等中等教育機関非常勤講師規程」及び「学校法人東海大学臨時職員規程」を適用する。なお，継続雇用における条件については,「学校法人東海大学高齢者継続雇用運用細則」による。

付　則

１　この規程は，昭和 28 年６月１日から施行する。

２　この規程の施行にあたって必要な細則については，別に定める。

付　則（2017 年４月１日）

この規程は，2017 年４月１日から施行する。

履修モデル

【目指す人材像】

体育・スポーツ系の大学の教員（スポーツ文化社会科学系　研究者）を目指す。

【研究分野】スポーツ文化社会科学

	共通・専門科目 （８単位）	特別研究科目 （８単位）	各学期の学修内容
１年次 前期	「スポーツ科学研究理論」（２単位） 「高度スポーツ文化社会科学特講」（２単位）		スポーツ科学の各分野・領域の研究方法論・研究成果の概要を学ぶ。また、スポーツ文化社会科学の最前線の議論や知見に触れ、学識と思考力を拡充し創造性を養う。
１年次 後期	「スポーツ科学研究法Ａ」（２単位） 「高度スポーツ文化社会科学演習」（２単位）		スポーツ科学において得られたデータに関して、得られた知見を組織的運営に活かすこと、及び継続的にデータを得るためのアプローチを学ぶ。また、人文社会科学的アプローチによって問題解決能力の拡充をはかるとともに、これを通して研究を独創的に遂行する能力を高める。
２年次 前期		「体育・スポーツ科学特別研究１」（２単位）	担当指導教員のもと、自身の研究分野に関連する研究テーマの可能性について考究する。
２年次 後期		「体育・スポーツ科学特別研究２」（２単位）	特別研究１でまとめた研究計画をより具体化し、資料収集の手順とその整理の仕方を学び、自身の研究を進めていく。
３年次 前期		「体育・スポーツ科学特別研究３」（２単位）	特別研究２でまとめた研究成果をもとに、博士論文の作成を進める。研究情報交換会（博士論文作成中間発表会）でこれまでの成果に関して、中間報告を行い、博士論文作成に関わる知見を得て、さらに質の高い研究にするための検討を行う。
３年次 後期		「体育・スポーツ科学特別研究４」（２単位）	博士論文の構成と各章の執筆、推敲に関する指導を受け、論文を完成させる。研究情報交換会（博士論文完成発表会）で博士論文の発表を行う。

【目指す人材像】

企業の研究所における研究員（スポーツ医科学系　研究者）を目指す。

【研究分野】スポーツ医科学

	共通・専門科目 （８単位）	特別研究科目 （８単位）	各学期の学修内容
１年次 前期	「スポーツ科学研究理論」（２単位） 「高度スポーツ医科学特講」（２単位）		スポーツ科学の各分野・領域の研究方法論・研究成果の概要を学ぶ。また、スポーツ医科学における最前線の解析方法や研究事例に触れ、研究を独創的かつ創造的に遂行する能力を育成する。
１年次 後期	「スポーツ科学研究法Ｂ」（２単位） 「高度スポーツ医科学演習」（２単位）		体育・スポーツ科学において得られたデータに関して、新たな科学的及び社会に有益な知見を引き出そうとするアプローチを学ぶ。また、自然科学的アプローチの手法によるスポーツ科学実験研究のプロセス（計画→測定→処理→論議）を演習として学ぶ。
２年次 前期		「体育･スポーツ科学特別研究１」（２単位）	担当指導教員のもと、自身の研究分野に関連する研究テーマの可能性について考究する。
２年次 後期		「体育･スポーツ科学特別研究２」（２単位）	特別研究１でまとめた研究計画をより具体化し、実験方法のスキルを高め、資料収集の手順とその整理の仕方を学び、自身の研究を進めていく。
３年次 前期		「体育･スポーツ科学特別研究３」（２単位）	特別研究２でまとめた研究成果をもとに、博士論文の作成を進める。研究情報交換会（博士論文作成中間発表会）でこれまでの成果に関して、中間報告を行い、博士論文作成に関わる知見を得て、さらに質の高い研究にするための検討を行う。
３年次 後期		「体育･スポーツ科学特別研究４」（２単位）	博士論文の構成と各章の執筆、推敲に関する指導を受け、論文を完成させる。研究情報交換会（博士論文完成発表会）で博士論文の発表を行う。

【目指す人材像】

健康運動系事業団の研究者、スポーツアナリストやスポーツ・アドミニストレーター（実践スポーツ科学系　研究者専門職）を目指す。

【研究分野】実践スポーツ科学

	共通・専門科目 （８単位）	特別研究科目 （８単位）	各学期の学修内容
１年次 前期	「スポーツ科学研究理論」（２単位） 「高度実践スポーツ科学特講」（２単位）		スポーツ科学の各分野・領域の研究方法論・研究成果の概要を学ぶ。また、実践スポーツ科学の最新の研究動向やビジネスへの応用を解説し、現代社会・国民に役立つ研究を遂行できる能力とマネジメント力を駆使した創造性を育成する。
１年次 後期	「スポーツ科学研究法Ａ」（２単位） 「高度実践スポーツ科学演習」（２単位）		スポーツ科学において得られたデータに関して、得られた知見を組織的運営に活かすこと、及び継続的にデータを得るためのアプローチを学ぶ。また、スポーツや運動、身体活動が、現代社会において貢献しうる研究テーマや研究デザインを、具体的に考案する能力を養う。
２年次 前期		「体育・スポーツ科学特別研究１」（２単位）	担当指導教員のもと、自身の研究分野に関連する研究テーマの可能性について考究する。
２年次 後期		「体育・スポーツ科学特別研究２」（２単位）	特別研究１でまとめた研究計画をより具体化し、実験方法のスキルを高め、資料収集の手順とその整理の仕方を学び、自身の研究を進めていく。
３年次 前期		「体育・スポーツ科学特別研究３」（２単位）	特別研究２でまとめた研究成果をもとに、博士論文の作成を進める。研究情報交換会（博士論文作成中間発表会）でこれまでの成果に関して、中間報告を行い、博士論文作成に関わる知見を得て、さらに質の高い研究にするための検討を行う。
３年次 後期		「体育・スポーツ科学特別研究４」（２単位）	博士論文の構成と各章の執筆、推敲に関する指導を受け、論文を完成させる。研究情報交換会（博士論文完成発表会）で博士論文の発表を行う。

修了までのスケジュール表

		大学院生		研究指導教員	研究科運営委員会・審査委員会など
１年次 前期	４月	共通科目「スポーツ科学研究理論」及び専門科目「特講」の履修	・研究指導教員を決定する。 ・「履修計画書」を提出する。	・提出された「履修計画書」に基づいて、科目の履修について指導する。	・全体オリエンテーションの実施 ・ガイダンスの実施
	５月		・共通科目及び専門科目の履修を通じて、研究課題の焦点化を行い研究テーマを設定する。	・研究課題の焦点化と研究テーマの設定に関する指導を行う。	
	６月				
	７月				
	８月				
	９月				
１年次 後期	10月	共通科目「スポーツ科学研究法Ａまたは Ｂ」及び専門科目「演習」の履修			・全体オリエンテーションの実施
	11月				
	12月				
	１月				
	２月				
	３月				
２年次 前期	４月	「体育・スポーツ科学特別研究１」の履修	・設定した研究テーマに基づいて「研究計画書」を提出する。 ・研究情報交換会（プロポーザル発表会）に向けた準備を行う。	・「研究計画書」の作成指導を行う。 ・研究情報交換会（プロポーザル発表会）に向けた指導を行う。	・全体オリエンテーションの実施
	５月				
	６月				
	７月		・研究情報交換会（プロポーザル発表会）で発表する。	・研究情報交換会（プロポーザル発表会）での発表内容の指導及び評価を行う。	・研究情報交換会（プロポーザル発表会）を実施する。
	８月		・必要に応じて、研究倫理の審査申請を行う。	・研究倫理について指導する。	・「東海大学「人を対象とする研究」に関する倫理委員会」は、申請を受けて研究倫理の審査を行う。
	９月				

		大学院生		研究指導教員	研究科運営委員会・審査委員会など
２年次後期	10月	「体育・スポーツ科学特別研究２」の履修		・「研究計画書」の進捗状況の確認及び指導を行う。	・全体オリエンテーションの実施
	11月				
	12月		・研究情報交換会（博士論文作成計画発表会）に向けた準備を行う。	・研究方法に関する指導及び研究情報交換会（博士論文作成計画発表会）に向けた指導を行う。	
	１月		・研究情報交換会（博士論文作成計画発表会）で発表する。 **【博士論文完成度50%】**	・研究情報交換会（博士論文作成計画発表会）での発表内容の指導及び評価を行う。	・研究情報交換会（博士論文作成計画発表会）を実施する。
	２月				
	３月		・学会発表や学会誌（査読有り）への投稿等を行う。	・学会発表や学会誌（査読有り）への投稿等に向けた指導を行う。	
３年次前期	４月	「体育・スポーツ科学特別研究３」の履修		・「研究計画書」の進捗状況の確認及び指導を行う。	・全体オリエンテーションの実施
	５月				
	６月		・研究情報交換会（博士論文作成中間発表会）に向けた準備を行う。	・研究情報交換会（博士論文作成中間発表会）に向けた指導を行う。	
	７月		・研究情報交換会（博士論文作成中間発表会）で発表する。 **【博士論文完成度70%】**	・研究情報交換会（博士論文作成中間発表会）での発表内容の指導及び評価を行う。	・研究情報交換会（博士論文作成中間発表会）を実施する。
	８月				
	９月				

		大学院生		研究指導教員	研究科運営委員会・審査委員会など
３年次後期	10月	「体育・スポーツ科学特別研究４」の履修		・博士論文の構成と各章の執筆、推敲に関する指導を行う。	・全体オリエンテーションの実施
	11月				
	12月		・博士論文を提出する。**【博士論文完成度100%】** ・研究情報交換会（博士論文完成発表会）に向けた準備を行う。	・研究情報交換会（博士論文完成発表会）に向けた指導を行う。	・博士論文の提出を受け、審査委員会を設置する。
	１月		・研究情報交換会（博士論文完成発表会）で発表する。 ・審査委員会の博士論文審査及び最終試験を受ける。	・研究情報交換会（博士論文完成発表会）での発表内容の指導及び評価を行う。	・研究情報交換会（博士論文完成発表会）を実施する。 ・審査委員会は、博士論文の審査及び最終試験を実施する。
	２月				・審査委員会は、博士論文の審査及び最終試験の結果を体育学研究科教授会へ報告し、教授会は報告を踏まえて学位授与の可否を審議する。その審議結果を学長に報告する。
	３月				・学長は報告に基づき、大学院運営委員会の議を経て学位を授与するか否かを決定する。

○東海大学学位規程

（制定　昭和38年４月１日）

改訂　昭和40年４月１日　昭和41年４月１日
昭和42年４月１日　昭和46年４月１日
昭和50年４月１日　昭和51年４月１日
昭和55年４月１日　昭和63年１月１日
1989年１月８日　1991年９月１日
1993年４月１日　1994年４月１日
1997年４月１日　2000年４月１日
2001年４月１日　2004年４月１日
2005年４月１日　2007年４月１日
2008年４月１日　2010年４月１日
2012年４月１日　2013年４月１日
2015年４月１日　2017年４月１日
2018年10月１日

第１章　総則

（目的）

第１条　この規程は，学位規則（昭和 28 年文部省令第９号）第 13 条の規定に基づき東海大学（以下「本学」という。）において授与する学位，論文審査の方法，試験及び学力の確認の方法等に関し，必要な事項について定めるものとする。

（学位の種類）

第２条　本学において授与する学位の種類は,東海大学学則第 25 条及び東海大学大学院学則第 23 条に定めるものとする。

第３条　学士の学位は，本学学部学科を卒業した者に授与する。

（修士の学位授与の要件）

第４条　修士の学位は，本学大学院学則第 19 条の規定により，修士課程又は博士課程前期を修了した者に授与する。

（博士の学位授与の要件）

第５条　博士の学位は，本学大学院学則第 20 条，第 20 条の２の規定により，博士課程又は博士課程後期を修了した者に授与する。

２　前項に定めるもののほか，博士の学位を申請した者については，本学大学院の行う博士論文の審査に合格し，かつ，本学大学院の博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認された者に博士の学位を授与する。

第３章　学位の申請及び審査

（学位の申請）

第６条　第５条第１項の規定により，博士の学位を申請する者は，学位申請書，履歴書，論文目録，論文の内容の要旨，確認書を添え，学位の種類を指定して，学位論文２通を研究科長を通じて学長に提出しなければならない。

２　第５条第２項の規定により，博士の学位を申請する者は，学位申請書，履歴書，論文目録，論文の内容の要旨，確認書，論文審査料を添え，学位の種類を指定して，学位論文２通を研究科長を通じて学長に提出しなければならない。

３　審査のため必要あるときは，学位論文の訳文，模型又は標本などの材料を提出させることができる。なお，学位論文には，参考として他の論文を添付することができる。

（学位論文の受理）

第７条　前条の学位論文の受理は，研究科教授会の議を経て，学長が決定する。

２　いったん受理した学位論文及び論文審査料は返還しない。

（審査委員の指名）

第８条　前条の規定により学位論文を受理したときは，学長は大学院運営委員会の議を経て，その論文を審査すべき委員を指名する。

２　学位論文の審査にあたって大学院運営委員会が必要と認めるときは，学長は他の大学院又は研究所等の教員等を前項の委員の中に含めることができる。

（審査委員会）

第９条　前条により指名された委員は，審査委員会を構成し，主査を選出する。

２　前項の審査委員会は，学位論文に関連ある科目の担当教員２名以上を含め，総計５名以上で構成しなければならない。

第１０条　審査委員会は，第５条第１項に定める学位申請者に対しては学位論文の審査及び最終試験，同条第２項に定める学位申請者に対しては学位論文の審査及び学力の確認を行う。

２　最終試験は学位論文を中心として，これに関連する学科目について行う。

３　学力の確認は，口頭試問及び筆答試問により，本学大学院の博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認するために行う。ただし，筆答試問の実施については審査委員会で協議の上免除することができる。

　また，外国語については１種類を課する。ただし，審査委員会が必要と認める場合は，さらに１種類を課することができる。

４　審査委員会は，前項本文の規定にかかわらず，学位の授与を申請する者の経歴及び提出された学位論文以外の業績を審査して，学力確認の全部又は一部に大学院運営委員会の承認を得て代えることができる。

第１１条　受理した学位論文に対する審査は，大学院運営委員会で審査委員が承認された日から，可及的速やかにその論文の審査，試験又は学力の確認を開始し，最大限１年以内に終了しなければならない。ただし，特別の事由があるときには，研究科教授会の議を経て，その期間を１年以内に限り延長することができる。

第１２条　審査委員会は，学位論文の審査，試験又は学力の確認を終了したときは，直ちに論文の内容の要旨，審査の結果の要旨，試験の結果の要旨又は学力の確認の結果の要旨に，学位を授与できるか否かの意見を添え，研究科教授会で報告しなければならない。

２　審査委員会は，学位論文の審査の結果，その内容が著しく不良であると認めるときは，試験又は学力の確認を行わないことができる。この場合には，審査委員会は，前項の規定にかかわらず，試験の結果の要旨又は学力の確認の結果の要旨を添付することを要しない。

（研究科教授会）

第１３条　研究科教授会は前条の報告に基づいて学位を授与すべきか否かを審議する。

２　前項の審議には，委員会委員の３分の２以上の出席を必要とする。

３　審議の結果，学位を授与できる者と判定するためには，出席委員の３分の２以上の賛成がなければならない。

第１４条　前条の審議を終了したとき研究科長は,学位論文とともに,論文の内容の要旨,審査の結果の要旨，試験の結果の要旨又は学力の確認の結果の要旨を文書で学長に報告しなければならない。

（学位授与及び通知）

第１５条　学長は前条の報告に基づき，大学院運営委員会の議を経て学位を授与するか否かを決定し，総長に報告する。総長は，学位を授与すべき者には，所定の学位記を授与し，学位を授与できない者には，その旨を通知する。

第４章　学位論文の公表

（論文の内容の要旨等の公表）

第１６条　本学は，第５条第１項及び第２項の規定により博士の学位を授与したときは，学位を授与した日から３か月以内に，その論文の内容の要旨及び審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

第１７条　第５条第１項及び第２項の規定により博士の学位を授与された者は，当該博士の学位を授与された日から１年以内に，当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表するものとする。ただし，当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは，この限りでない。

２　第１項の規定にかかわらず，博士の学位を授与された者は，やむを得ない事由がある場合には，大学院運営委員会の承認を受けて，当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において，本学は，その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。なお，やむを得ない事由とは，次の各号に該当する場合とする。また，「やむを得ない事由」が無くなった場合には，当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表するものとする。

（１）　学位論文が立体形状による表現を含む場合

（２）　著作権保護，個人情報保護，守秘義務等の理由による場合

（３）　出版刊行，多重公表を禁止する学術ジャーナルへの掲載の場合

（４）　特許の申請に関する場合

（５）　その他，大学院運営委員長が認めた場合

３　博士の学位を授与された者が行う第１項及び第２項の規定による公表は，本学機関リポジトリの利用により行うものとする。

４　第１項，第２項及び第３項の規定により学位論文を公表するときには,「東海大学審査学位論文」と明記しなければならない。

（学位授与の報告）

第１８条　総長は，第５条第１項及び第２項の規定により博士の学位を授与したときは，学位を授与した日から３か月以内に学位授与報告書を文部科学大臣に提出する。

（学位の取消し）

第１９条　本学において修士又は博士の学位を授与された者に次の各号の事実があったときは，当該研究科教授会の議を経て，学長は，学位を取り消し，総長に報告する。総長は，学位記を返納させ，かつその旨を公表するものとする。

（１）　不正の方法によって学位の授与を受けたとき。

（２）　名誉を汚す行為があったとき。

２　研究科教授会において前項の議決を行うときは，構成員の３分の２以上が出席し，出席者の３分の２以上の賛成を必要とする。

（学位の名称）

第２０条　学位記を授与された者は，学位の名称を用いるときには，授与された学位に（東海大学）と付記するものとする。

第５章　その他

（学位申請関係書類の様式）

第２１条　学位記及び学位申請関係書類の様式は，別表Ⅰ（学位記:学部を卒業した場合），別表Ⅱ（学位記：大学院の修士課程を修了した場合），別表Ⅲ（学位記：大学院の博士課程を修了した場合），別表Ⅳ（学位記：大学院の課程によらない場合），別表Ⅴ（学位申請書：学位規程第６条第１項による者），別表Ⅵ（学位申請書：学位規程第６条第２項による者），別表Ⅶ（履歴書），別表Ⅷ（論文目録），別表Ⅸ（確認書：共著者），別表Ⅹ（確認書：団体等），別表ⅩⅠ（英文確認書：共著者），別表ⅩⅡ（英文確認書：団体等）のとおりとする。ただし，別表Ⅰ～Ⅳに関しては，和文及び英文の併用とする。

（論文審査料）

第２２条　論文審査料については，別表ⅩⅢのとおりとする。

（細則）

第２３条　この規程に定めるもののほか，必要な細則は，各学部及び各研究科で別に定めるものとする。

付　則

この規程は，昭和 38 年４月１日から施行する。

付　則

１　この規程は，2010 年４月１日から施行する。

２　2009 年度以前に入学した学生については，卒業又は修了するまで旧学位規程（2008 年４月１日改訂）を適用する。

３　2010 年度より本学に転学した学生については，この規程を適用する。

付　則

１　この規程は，2012 年４月１日から施行する。

２　2011 年度以前に本専門職大学院組込み技術研究科入学生については，修了するまで旧学位規程（2010 年４月１日改訂）を適用する。

付　則（2013 年４月１日）

１　この規程は，2013 年４月１日から施行する。

２　この規程及び別表ⅥからⅩⅣは，2013 年４月１日以後に博士の学位を授与される者について適用する。

付　則（2017 年４月１日）

１　この規程は，2017 年４月１日から施行する。
２　この規程及び別表ＶからＸⅢは，2017 年４月１日以後に博士の学位を授与される者について適用する。

付　則（2018 年 10 月１日）

１　この規程は,2018 年 10 月１日から施行する。
２　この規程及び別表ⅠからⅣは,2018 年 10 月１日以降に学部,修士及び博士の学位を授与される者について適用する。

別表Ⅰ

東海大学の学部を卒業した場合

第　　号

東海大学の
ロゴマーク

学 位 記

学部　　学科

氏　　名

東海大学において所定の課程を修め
本学を卒業したので
学士（　　学）の学位を授与する

（西暦）　　年　月　日

東海大学学長　　印
東海大学総長　　印

東海大学
の
印

学部

No.

東海大学の
ロゴマーク

By authority vested in the Chancellor
by President [Name of the president],

Tokai University

has hereby conferred upon

[NAME]

the degree of

[Name of the degree]

[Name of the Course],
[Name of the department],
[Name of the school]
with all privileges and obligations on
this [day] of [month], [year]

東海大学
の
印

署名
Chancellor

別表Ⅱ

大学院の修士課程を修了した場合

・修士論文で修了した場合

第　　号

東海大学の
ロゴマーク

学 位 記

研究科　　専攻

氏　　名

東海大学大学院修士課程において所定の単位を修得し
学位論文の審査及び最終試験に合格したので
修士（　　学）の学位を授与する

（西暦）　　年　月　日

東海大学学長　　印
東海大学総長　　印

東海大学
の
印

大学院　Master
（修士論文で修了）

東海大学の
ロゴマーク

No.

By authority vested in the Chancellor
by President [Name of the president],
in recognition of the satisfactory completion of the
specified credits, thesis and final examination,

Tokai University

has hereby conferred upon

[NAME]

the degree of

[Name of the Master]

[Name of the Course],
[Name of the Graduate School]
with all privileges and obligations on
this [day] of [month], [year].

東海大学
の
印

署名
Chancellor

・修士論文に代わる研究成果で修了した場合

第　　号

東海大学の
ロゴマーク

学 位 記

研究科　　専攻

氏　　名

東海大学大学院修士課程において所定の単位を
修得し特定の課題についての研究成果の審査及び
最終試験に合格したので
修士（　　学）の学位を授与する

（西暦）　　年　月　日

東海大学学長　　印
東海大学総長　　印

東海大学
の
印

大学院　Master
（修士論文に代わる研究成果で修了した場合）

No.

東海大学の
ロゴマーク

By authority vested in the Chancellor
by President [Name of the president],
in recognition of the satisfactory completion of the
specified credits, research results and final examination,

TOKAI UNIVERSITY
has hereby conferred upon

[NAME]
the degree of
[Name of the Master]

[Name of the Course],
[Name of the Graduate School]
with all privileges and obligations on
this [day] of [month], [year].

東海大学
の
印

署名
Chancellor

別表Ⅲ
大学院の博士課程を修了した場合
・総合理工学研究科，地球環境科学研究科，生物科学研究科を修了した場合

第　　号

東海大学の
ロゴマーク

学 位 記

研究科　　専攻

氏　　名

東海大学大学院の博士課程における研究
指導を受け所定の科目を履修し学位論文の
審査及び最終試験に合格したので
博士（　　学）の学位を授与する

（西暦）　　年　月　日

東海大学学長　　印
東海大学総長　　印

東海大学
の
印

大学院　Doctor
（総合理工学研究科，地球環境科学研究科，生物科学研究科を修了した場合）

東海大学の
ロゴマーク

No.

By authority vested in the Chancellor
by President [Name of the president],
in recognition of the satisfactory completion of the
courses, research guidance, thesis and final examination,

Tokai University
has hereby conferred upon

[NAME]
the degree of
[Name of the Doctor]

[Name of the Course],
[Name of the Graduate School]
with all privileges and obligations on
this [day] of [month], [year].

署名
Chancellor

東海大学
の
印

・総合理工学研究科，地球環境科学研究科，生物科学研究科以外の研究科を修了した場合

第　　号

東海大学の
ロゴマーク

学 位 記

研究科　　専攻

氏　　名

東海大学大学院の博士課程において所定の単位を修得し
学位論文の審査及び最終試験に合格したので
博士（　　学）の学位を授与する

（西暦）　　年　月　日

東海大学学長　　印
東海大学総長　　印

東海大学
の
印

大学院　Doctor
（総合理工学研究科，地球環境科学研究科，生物科学研究科以外を修了した場合）

No.

東海大学の
ロゴマーク

By authority vested in the Chancellor
by President [Name of the president],
in recognition of the satisfactory completion of the specified credits, research guidance, thesis and final examination,

Tokai University

has hereby conferred upon

[NAME]

the degree of

[Name of the Doctor]

[Name of the Course],
[Name of the Graduate School]
with all privileges and obligations on
this [day] of [month], [year].

東海大学
の
印

署名
Chancellor

別表Ⅳ

大学院の課程によらない場合

第　　号

東海大学の
ロゴマーク

学 位 記

研究科　　専攻

氏　　名

東海大学に学位論文を提出し所定の審査
及び試験に合格したので
博士（　　学）の学位を授与する

（西暦）　　年　月　日

東海大学学長　　印
東海大学総長　　印

東海大学
の
印

大学院　Doctor
（大学院の課程によらない場合）

東海大学の
ロゴマーク

No.

By authority vested in the Chancellor
by President [Name of the president],
in recognition of the satisfactory completion of the
thesis and final examination,

TOKAI UNIVERSITY
has hereby conferred upon

[NAME]
the degree of
[Name of the Doctor]

[Name of the Course],
[Name of the Graduate School]
with all privileges and obligations on
this [day] of [month], [year].

東海大学
の
印

署名
Chancellor

別表Ｖ　学位規程第６条第１項による者（課程博士）
大学院の課程による場合（Ａ４判縦長）

学　位　申　請　書

（西暦）年　　月　　日

東海大学学長　　殿

研究科
専攻

ふりがな
氏　　名　　印

学位論文題目
「　　」

東海大学学位規程第６条第１項の規定により，上記学位論文に履歴書，論文目録，論文の内容の要旨，（確認書）を添え，博士（　　学）の学位の授与を申請いたします。

なお，学位の授与が認められた場合，東海大学学位規程第１６条及び第１７条により，論文の内容の要旨と学位論文（全文・要約）をインターネット上（東海大学の機関リポジトリ）で公表するにあたり，論文の内容の要旨と学位論文は，適正な著作権処理がなされていることを報告するとともに，以下について承諾いたします。

【論文の内容の要旨の登録・公表についての承諾内容】
１．東海大学が，論文の内容の要旨を機関リポジトリへ登録すること。
２．東海大学が，論文の内容の要旨を機関リポジトリへ登録する際に必要な，複製・ファイル変換を行うこと。
３．東海大学が，機関リポジトリに登録された論文の内容の要旨を無償公表すること。

【学位論文の登録・公表に関する承諾内容】
１．東海大学が，学位論文を機関リポジトリへ登録すること。
２．東海大学が，学位論文を機関リポジトリへ登録する際に必要な，複製・ファイル変換を行うこと。
３．東海大学が，機関リポジトリに登録された学位論文を無償公表すること。

注意：やむを得ない事由により学位論文の全文を公表できない場合には，別途，大学院運営委員長あてに文書を提出してください。

別表Ⅵ　学位規程第６条第２項による者（論文博士）
大学院の課程によらない場合（Ａ４判縦長）

学　位　申　請　書

（西暦）年　　月　　日

東海大学学長　　殿

ふりがな
氏　　名　　印

学位論文題目
「　　」

東海大学学位規程第６条第２項の規定により，上記学位論文に履歴書，論文目録，論文の内容の要旨，（確認書）及び論文審査料　　円を添え，博士（　　学）の学位の授与を申請いたします。

なお，学位の授与が認められた場合，東海大学学位規程第１６条及び第１７条により，論文の内容の要旨と学位論文（全文・要約）をインターネット上（東海大学の機関リポジトリ）で公表するにあたり，論文の内容の要旨と学位論文は，適正な著作権処理がなされていることを報告するとともに，以下について承諾いたします。

【論文の内容の要旨の登録・公表についての承諾内容】
１．東海大学が，論文の内容の要旨を機関リポジトリへ登録すること。
２．東海大学が，論文の内容の要旨を機関リポジトリへ登録する際に必要な，複製・ファイル変換を行うこと。
３．東海大学が，機関リポジトリに登録された論文の内容の要旨を無償公表すること。

【学位論文の登録・公表に関する承諾内容】
１．東海大学が，学位論文を機関リポジトリへ登録すること。
２．東海大学が，学位論文を機関リポジトリへ登録する際に必要な，複製・ファイル変換を行うこと。
３．東海大学が，機関リポジトリに登録された学位論文を無償公表すること。

注意：やむを得ない事由により学位論文の全文を公表できない場合には，別途，大学院運営委員長あてに文書を提出してください。

別表Ⅶ

（Ａ４判縦長）

履　　歴　　書

現住所
電話番号

ふりがな
氏　　名
（西暦）　　年　　月　　日生

学　　歴

年　　月
年　　月
年　　月

職　　歴

年　　月
年　　月
年　　月

研　究　歴

年　　月
年　　月
年　　月

上記のとおり違いありません

（西暦）　　年　　月　　日

氏　名　　印

別表Ⅷ

論　文　目　録

（Ａ４判縦長）

論文等一覧表			
1	論　文　等　の　種　類	学術論文・著書・その他（　　）	
	論　文　等　の　題　目		
	掲　載　誌　名		
	発行年・巻（Ｖｏｌ.）・号（Ｎｏ.）・頁（ｐｐ.）等		
	備考（共著者等）		
	Webサイト等で公表の場合	URL・DOI等	
2	論　文　等　の　種　類	学術論文・著書・その他（　　）	
	論　文　等　の　題　目		
	掲　載　誌　名		
	発行年・巻（Ｖｏｌ.）・号（Ｎｏ.）・頁（ｐｐ.）等		
	備考（共著者等）		
	Webサイト等で公表の場合	URL・DOI等	
3	論　文　等　の　種　類	学術論文・著書・その他（　　）	
	論　文　等　の　題　目		
	掲　載　誌　名		
	発行年・巻（Ｖｏｌ.）・号（No.）・頁（pp.）等		
	備考（共著者等）		
	Webサイト等で公表の場合	URL・DOI等	

年　　月　　日

学位申請者氏名　　印

（注）

1　研究科が業績と認めるものを記入すること。

2　発行年の降順に記入すること。

3　学位論文に関係する論文は，論文等一覧表左端の数字を○で囲むこと。なお，当該の論文等に共著者があるときは，「備考（共著者等)」欄に共著者氏名を記入し，別に確認書を提出すること。

4　論文等の種類は該当するものを○で囲み，学術論文・著書以外の場合は，その他の括弧内に記入すること。

5　論文等が学会・学術雑誌等のWebサイトにて公開されている場合は，当該WebサイトのURL・DOI等を記入すること。

別表Ⅸ

（Ａ４判縦長）

年　　月　　日

確　認　書

_____学研究科長　殿

このたびの学位申請にあたり，以下のとおり合意を得ました。

学位申請者氏名：　　印

論　文　題　目

「　　」

※１

学位申請者が東海大学博士（　　学）の学位を申請するにあたり，下記について合意いたします。

記

１．学位申請者が，上記論文を学位論文の一部又は全部として使用すること。

２．学位の授与が認められた場合，学位申請者及び東海大学が，東海大学学位規程に従い学位論文をインターネット上（東海大学機関リポジトリ）で無償公表すること。

３．学位の授与が認められた場合，学位申請者及び東海大学が，東海大学学位規程に従い学位論文をインターネット上（東海大学機関リポジトリ）で無償公表するために必要な，複製・ファイル変換を行うこと。

なお，上記論文については，学位申請者が主たる役割をつとめ，その主たる功績は同氏に帰せられるべきものであります。また，私が上記論文の全部あるいは一部を用いて学位の申請を行わないことを確約し，何時でも照会に応じます。

年　　月　　日

（共著者）
所属機関：
職　　名：
氏　　名：　　印

※１　論文題目には，掲載誌，発行年，巻，号，頁，URL，DOI 等を明記してください。
※２　共著者は，所定事項を記入の上，捺印してください。

別表Ｘ

（Ａ４判縦長）

年　　月　　日

確　認　書

_____学研究科長　殿

このたびの学位申請にあたり，以下のとおり合意を得ました。

学位申請者氏名：　　印

論　文　題　目

「　　」

※１

私どもは，上記論文の著作権を承継いたしました。このたび上記学位申請者が，東海大学博士（　　学）の学位を申請するにあたり，下記について合意いたします。

記

１．学位申請者が，上記論文を学位論文の一部又は全部として使用すること。

２．学位の授与が認められた場合，学位申請者及び東海大学が，東海大学学位規程に従い学位論文をインターネット上（東海大学機関リポジトリ）で無償公表すること。

３．学位の授与が認められた場合，学位申請者及び東海大学が，東海大学学位規程に従い学位論文をインターネット上（東海大学機関リポジトリ）で無償公表するために必要な，複製・ファイル変換を行うこと。

私どもは，これらのことについて何時でも貴職の照会に応ずる用意があります。

年　　月　　日

団体等の名称：

職　　名：

氏　　名：　　印

※１　論文題目には，掲載誌，発行年，巻，号，頁，URL，DOI 等を明記してください。

※２　団体等の代表者は，所定事項を記入の上，捺印してください。

別表ＸＩ

（Ａ４判縦長）

Date: _____

Notification

To the Dean of the Graduate School of _____:

I have received the following confirmation regarding my degree application.

Name of degree applicant: _____

Personal seal or signature of degree applicant:

_____

Title of the Thesis:

“ ”

※1 _____

_____

I consent to the followings in regard to the degree applicant’s application to a doctoral degree (in_____) at Tokai University.

1. The degree applicant uses the above-mentioned thesis as part or all of his/her doctoral thesis.
2. If it is decided that the degree applicant is granted a degree, the degree applicant and Tokai University will publish the degree thesis online (in the Tokai University institutional repository) for free in accordance with the rules governing degrees from Tokai University.
3. If it is decided that the degree applicant is granted a degree, the degree applicant and Tokai University will duplicate and convert the file as necessary to publish the degree thesis online (in the Tokai University institutional repository) for free in accordance with the rules governing degrees from Tokai University.

I also consent that the degree applicant took a predominant role in the above-mentioned research study and should be given primary credit for it. I pledge not to submit all or part of the above-mentioned thesis as a degree thesis. I am prepared to respond at any time to inquiries you may have regarding these matters.

Co-author’s name: _____

※1 Under the “Title of the Thesis,” the name, volume, number, date of issue, page of the publication, URL, and DOI that carries the thesis should be specified.

※2 The co-author must enter the required facts in the box above and should affix his/her personal seal or sign the statement.

別表ＸⅡ

（Ａ４判縦長）

Date: _____

Notification

To the Dean of the Graduate School of _____:

I have received the following confirmation regarding my degree application.

Name of degree applicant: _____

Personal seal or signature of degree applicant:

_____

Title of the Thesis:

“ ”

※1 _____

_____

We have succeeded the copyright of the above-mentioned thesis. We consent to the followings in regard to the degree applicant’s application to a doctoral degree (in_____) at Tokai University.

1. The degree applicant uses the above-mentioned thesis as part or all of his/her doctoral thesis.
2. If it is decided that the degree applicant is granted a degree, the degree applicant and Tokai University will publish the degree thesis online (in the Tokai University institutional repository) for free in accordance with the rules governing degrees from Tokai University.
3. If it is decided that the degree applicant is granted a degree, the degree applicant and Tokai University will duplicate and convert the file as necessary to publish the degree thesis online (in the Tokai University institutional repository) for free in accordance with the rules governing degrees from Tokai University.

I am prepared to respond at any time to inquiries you may have regarding these matters.

Organization’s name: _____
Position (title): _____
Name: _____
Personal seal or signature
_____
Date: _____

※1 Under the “Title of the Thesis,” the name, volume, number, date of issue, page of the publication, URL, and DOI that carries the thesis should be specified.
※2 The representative of the organization must enter the required facts in the box above and should affix his/her personal seal or sign the statement.

別表ＸⅢ

項　　目	金　　額
博　士　論　文　審　査　料	100,000 円

○東海大学「人を対象とする研究」に関する指針

（制定　2011年４月１日）

改訂　2013年１月１日　　2017年８月１日

（目的）

第１条　この指針は，東海大学（以下「本学」という。）における人を対象とする研究が，ヘルシンキ宣言及び国の関連指針や個人情報保護に関する法律等を遵守した上で，適正に実施されるように，実験や調査等を計画し実施する際に遵守すべき事項を示すことを目的とする。

（定義）

第２条　この指針において，次の各用語は，それぞれ次のことを意味する。

（１）　「人を対象とする研究」とは，個人を特定できるヒト由来の試料及びデータ（生活や行動，嗜好，印象等の情報も含む。以下「個人情報等」という。）を用いる研究を含む，人を対象として行われる全ての研究をいう。

（２）　「研究責任者」とは，本学において，人を対象とする研究等を計画し，実施する責任を負う教職員をいう。

（３）　「研究実施者」とは，研究責任者及びその指揮の下に，これに協力あるいは補助にあたる者をいう。

（４）　「研究対象者」とは，人を対象とする研究において研究の対象となる者，研究の対象となることを求められた者又は人を対象とする研究に用いようとする個人情報等を提供する者をいう。研究対象者には，個人，特定集団，不特定集団が含まれる。

（５）　「外部機関等」とは，企業，他大学，各種の研究機関，国・地方公共団体，その他の団体又は個人をいう。

（６）　「上長」,「所属長」とは，学校法人東海大学勤務規則第４条に定める者をいう。

（適用範囲）

第３条　この指針は，本学において行われる全ての人を対象とする研究に適用される。なお，授業，演習，実習，課外活動等において，教育の一環として行われる個人情報等の収集には適用しない。また，医学部及び総合医学研究所にあっては，別に規程を定める。

（研究の基本）

第４条　人を対象とする研究は，その研究を正当化するに足る科学的及び倫理的な原則に基づいて行われなければならない。人を対象とする研究は，可能な限り生体を用いない実験及び動物実験又はその他の科学的に確立された事実を基礎とするものでなければならない。

２　研究責任者は，研究に際して，研究対象者への身体的，精神的負担及び苦痛を最小限にするよう努めなければならない。

（学長の責務）

第５条　学長は，本学における人を対象とする研究が，適正かつ安全に実施されるよう業務を総括する。

２　学長は，人を対象とする研究が適正かつ安全に実施されるよう次に定める任務を行う。

その際には，東海大学「人を対象とする研究」に関する倫理委員会（以下「倫理委員会」という。）に諮問しなくてはならない。

（１） 研究が適正かつ安全に行われるために必要な基本的事項を定めること。

（２） 申請のあった研究計画について，当該研究の実施の可否を決定すること。

（３） 指針に反して研究が実施されているとき，研究方法の改善に関する勧告，研究計画の変更又は中止，研究の承認の取消し等を行うこと。

（上長の責務）

第６条　人を対象とする研究を実施しようとする者の上長は，所属長を通じて当該研究の適正な実施に関し，管理及び監督をしなければならない。

（研究責任者の責務）

第７条　研究責任者は，所属長を経由し上長の了承を得た上で，学長に研究計画書及び関連書類を提出し，承認を得なければならない。

２　研究責任者は，自らの指揮の下に研究に携わる者に対し，この指針に従って行動するように訓練し，監督する責任を負う。

３　研究責任者は，予見し得る研究対象者への危険性をできる限り排除するよう努め，研究対象者の生命と健康を守らなければならない。

４　研究責任者は，人を対象とした研究を行おうとする場合には，研究対象者に対して研究目的，研究計画及びあらかじめ予見し得る危険性について，分かりやすく説明しなければならない。

５　研究責任者は，研究対象者から得た個人情報の保護のために必要な措置を講じなければならない。

６　人を対象とする研究に関する責任は，原則として研究を遂行する側にあり，研究対象者の同意の如何にかかわらず，研究責任者は，研究対象者に責任を転嫁してはならない。

７　研究責任者は，研究が継続されれば研究対象者に危害が及ぶ可能性があると判断するときは，直ちにその研究計画を変更し実施する又は研究を中止しなければならない。

８　研究責任者は，学長が承認した人を対象とする研究の実施期間終了後，すみやかに所定の様式による研究結果報告書を学長に提出しなければならない。

９　研究責任者は，学外機関等から個人情報等を得て研究を実施する場合は，倫理委員会の審査を経て学長の承認を受けなければならない。

10　学外機関等に個人情報等の提供を行う者は，研究対象者から提供に係る同意を得なければならない。又，倫理委員会の審査を経て学長の承認を受けなければならない。

（研究対象者の同意）

第８条　研究対象者が，研究について十分な説明を受け，自由意志に基づいた同意がある場合でなければ，人を対象とする研究を行ってはならない。

２　研究対象者は，いかなる強制・拘束を受けること無く，研究への参加及び離脱の如何を決定する権利が保証されなければならない。

３　研究対象者の同意は，原則として同意書に表明されなければならない。

４　研究対象者に同意する能力がないと判断されるときは，本人に代わって同意することが正当と認められる代諾者（研究対象者の親権を有する者，配偶者，後見人その他これに準ずる者で，両者の生活の実質からみて，本人の最善の利益を図りうる者をいう。）

の同意をもって本人の同意とすることができる。

５　研究対象者が外部機関に属する場合，研究対象者本人の同意とともに，研究対象者の属する機関の長又は責任者の同意を必要とする。

（倫理委員会）

第９条　学長からの諮問を受けて,その研究及び研究計画の内容について審査をするため,本学に倫理委員会を置く。

２　この倫理委員会の組織及び運用に関し必要な事項は，別に定める。

（指針の改廃）

第１０条　この指針の改廃は，倫理委員会の議を経て，学長が決定する。

付　則

この指針は，2011 年４月１日から施行する。

付　則（2013 年１月１日）

１　この指針は，2013 年１月１日から施行する。

２　この指針は，2013 年４月１日以降を実施期間とする「人を対象とする研究」から適用する。

付　則（2017 年８月１日）

この指針は，2017 年８月１日から施行する。

○東海大学「人を対象とする研究」に関する倫理委員会規程

（制定　2011年４月１日）

改訂　2013年４月１日　　2015年４月１日
2017年８月１日

（趣旨）

第１条　この規程は，東海大学「人を対象とする研究」に関する指針（以下「指針」という。）第９条第２項に基づき，東海大学「人を対象とする研究」に関する倫理委員会（以下「倫理委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

（目的）

第２条　倫理委員会は，東海大学（以下「本学」という。）における人を対象とする研究が，指針に遵うものであるか否かを提出された研究計画書及び関連書類（以下「研究計画書等」という。）に基づいて審査することを目的とする。

（組織）

第３条　倫理委員会は，次の委員をもって構成し，委員は，学長が委嘱する。

（１）　研究推進部長
（２）　自然科学分野に関する教員　３名
（３）　人文社会科学分野に関する教員　２名
（４）　法律学を専門とする教員　１名
（５）　医師免許を持つ者　１名
（６）　学外有識者　１名
（７）　その他学長が必要と認める者

２　委員は，男女両性で構成する。

（委員長及び副委員長）

第４条　倫理委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長は，前条の委員から学長が指名し，副委員長は，前条の委員から委員長が指名する。

２　委員長は，委員会を招集し，会議を主宰する。

３　副委員長は，委員長を補佐し，委員長に事故があるときは，その職務を代行する。

（任期）

第５条　委員の任期は，２年とし再任を妨げない。

２　委員に欠員が生じたとき，あらたに任命された委員の任期は，残存期間とする。

（定足数及び決議）

第６条　倫理委員会は，委員の３分の２の出席をもって成立する。

２　前項の場合において，倫理委員会に付議される事項につき書面をもって，あらかじめ意思を表示した者は，出席者とみなす。

３　委員会の議事は，委員長を除く出席委員の過半数によって決し，可否同数のときは，委員長が決する。

（審査事項）

第７条　倫理委員会は，学長の諮問を受けて次の事項を審査し，学長に答申する。

（１）　人を対象とする研究の倫理に関する基本的事項に関すること。

（２） 人を対象とする研究計画と指針との適合性を審査すること。
（３） その他，必要と認められる事項。
（審査の方針）
第８条　倫理委員会は，提出された研究計画書等を審査する場合は，次の事項に留意し，審査しなければならない。
（１） 対象者の安全性の確保に関すること。
（２） 対象者の尊厳と権利を擁護すること。
（３） 対象者のインフォームドコンセントを保障すること。
（４） 研究の科学的貢献度，その研究計画の合理性に関すること。
（審査の方法）
第９条　学長の諮問を受けたときは，委員長は，これを委員会の審査に付さなければならない。
２　委員長が必要と認めたときには，研究責任者に対し，倫理委員会に出席を求め研究計画の内容について説明を求めることができる。
３　委員長が必要と認めたときには,倫理委員会の承諾を得て委員以外の者の出席を求め,意見を聴取することができる。
４　審査の判定は，次のいずれかとする。
（１） 承認
（２） 条件付承認
（３） 変更の勧告
（４） 不承認
（５） 非該当
（計画変更の審査）
第１０条　承認された研究計画の変更については，原則として，倫理委員会の審査を経なければならない。ただし，研究の本質に関わることのない軽微な変更については，この限りでない。
２　委員長及び副委員長は，研究計画の変更が研究の本質に関わることのない軽微な変更と判断するときは，倫理委員会の審査を経ずに，その合意によって研究計画の変更を許可することができる（迅速審査）委員長は，迅速審査を行ったときは，これを倫理委員会に報告しなければならない。
（審査の結果）
第１１条　研究計画について倫理委員会で審査された結果は，速やかに文書をもって学長に報告する。
２　審査の結果には，その理由を付記する。
３　倫理委員会の審査に係る資料及び議事録は，原則として公表し，５年間保存しなければならない。
（勧告）
第１２条　学長は，指針に反して研究を行う研究者があると認めたときは，倫理委員会に調査を求めることができる。
２　倫理委員会は，必要な調査を行い，勧告等の必要な措置につき，学長に答申する。

（事務局）

第１３条　倫理委員会に関する事務は，研究推進部研究計画課が行う。

（規程の改廃）

第１４条　この規程の改廃は，倫理委員会の議を経て学長が決定する。

付　則

この規程は，2011 年４月１日から施行する。

付　則（2015 年４月１日）

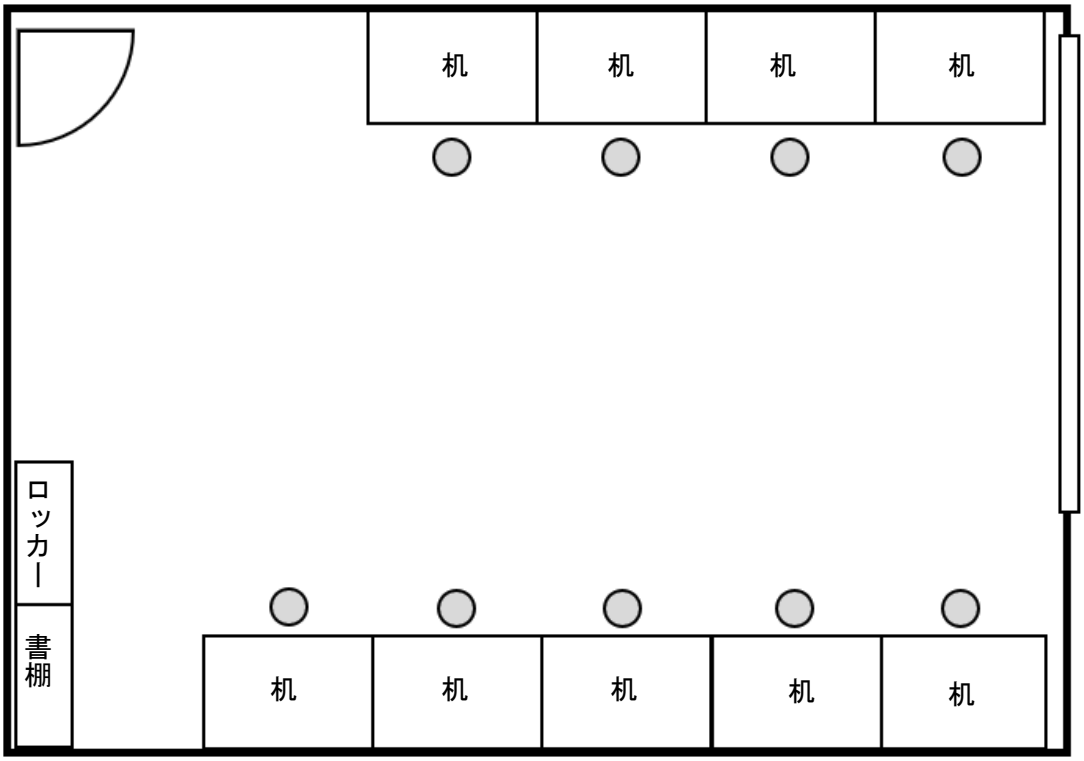
この規程は，2015 年４月１日から施行する。

付　則（2017 年８月１日）

この規程は，2017 年８月１日から施行する。

院生室室内の見取り図

１５号館７Ｆ　体育学研究科大学院院生室２



机：9
椅子：9

学術雑誌一覧

	雑誌名	出版社
体育・スポーツ	体力科学	日本体力医学会
	Journal of Physical Fitness and Sports Medicine	日本体力医学会
	体育学研究	日本体育学会
	International Journal of Sport and Health Science	日本体育学会
	日本臨床スポーツ医学会誌	日本臨床スポーツ医学会
	日本運動生理学雑誌	日本運動生理学会
	Advances in Exercise and Sports Physiology	日本運動生理学会
	バイオメカニズム雑誌	バイオメカニズム学会
	スポーツ心理学研究	日本スポーツ心理学会
	運動疫学研究	日本運動疫学会
	生涯スポーツ学研究	日本生涯スポーツ学会
	スポーツマネジメント研究	日本スポーツマネジメント学会
	スポーツ産業学研究	日本スポーツ産業学会
	体育・スポーツ経営学研究	日本体育・スポーツ経営学会
	体育・スポーツ哲学研究	日本体育・スポーツ哲学会
	スポーツ史研究	スポーツ史学会
	体育史研究	体育史学会
	スポーツ人類学研究	日本スポーツ人類学会
	運動とスポーツの科学	日本運動・スポーツ科学学会
	コーチング学研究	日本コーチング学会
	バスケットボール研究	日本バスケットボール学会
	Journal of Training Science for Exercise and Sport	日本トレーニング科学会
	武道学研究	日本武道学会
	アダプテッド・スポーツ科学	日本アダプテッド体育・スポーツ学会
	野外教育研究	日本野外教育学会
	レジャー・レクリエーション研究	日本レジャー・レクリエーション学会
	体育測定評価研究	日本体育測定評価学会
	東京体育学研究	東京体育学会
	日本スポーツ栄養	日本スポーツ栄養学会
	体育哲学研究（旧題：体育原理研究）	日本体育学会体育哲学専門領域
	体育哲学年報	日本体育学会体育哲学専門領域
	バイオメカニズム	慶應大学出版会株式会社
	フットボールの科学	日本フットボール学会
	体操競技・器械運動研究	体操競技・器械運動学会
	大学体育	全国大学体育連合
	現代スポーツ評論	創文企画
	JOA Times 日本オリンピックアカデミー機関紙	日本オリンピックアカデミー
	No Limit	公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
	レクルー	公益財団法人日本レクリエーション協会

医学・健康	日本公衆衛生雑誌	一般社団法人日本公衆衛生学会
	産業衛生学雑誌	公益財団法人日本産業衛生学会
	日本生理学雑誌	日本生理学会、杏林社
	日本健康教育学会誌	一般社団法人日本健康教育学会
	臨床神経生理学	日本臨床神経生理学会
	肥満研究	日本肥満学会
	健康心理学研究	日本健康心理学会
	栄養学雑誌	日本栄養改善学会
	登山医学	日本登山医学会
その他	行動計量学	日本行動計量学会
	発育発達研究	日本発育発達学会
	特殊教育学研究	日本特殊教育学会
	社会福祉学	日本社会福祉学会
	海洋人間学雑誌	日本海洋人間学会
	イベント学研究	イベント学会
	教育学雑誌	日本大学教育学会
海外雑誌	Medicine and Science in Sport and Exercise	American College of sport Medicine
	Leisure Sciences	Taylor & Francis
	Sport Management Review	Elsevier
	Journal of Sport Management	Human Kinetics
	European Sport Management Quarterly	Taylor & Francis
	Journal of Sport Tourism	Taylor & Francis
	European journal of Sport Science	Taylor & Francis
	Advances in Exercise and Sports Physiology	ISEBU Corporation

体育学部と大学院体育学研究科との関係図

「独創性・創造性に優れた高い研究能力を有し、それを
社会に還元できる能力を有する研究者専門職」の育成

大学院体育学研究科体育学専攻　博士課程後期

・高度スポーツ文化社会科学
・高度スポーツ医科学
・高度実践スポーツ科学

①専門的知識・技能　②豊かな教養・人格　③発表能力
④独創性・創造性　⑤学界貢献　⑥社会還元能力

大学院体育学研究科体育学専攻　修士課程（博士課程前期）

・スポーツ文化社会科学領域
・スポーツ医科学領域
・実践スポーツ科学領域

①専門的知識・技能　②豊かな教養・人格　③発表能力

体育学部

・体育学科　・競技スポーツ学科
・武道学科　・スポーツ・レジャーマネジメント学科
・生涯スポーツ学科

①自ら考える力　②集い力　③挑み力　④成し遂げ力

現行修士課程と博士課程後期の関連図

１．カリキュラムの関連性

修士課程において養ってきた力、①共通科目における「幅広く物事をとらえる視点、研究に必要な力」、②「スポーツ文化社会科学領域」「スポーツ医科学領域」「実践スポーツ科学領域」の３つの科目区分から深化させた専門性、③ゼミナール科目「体育学研究」を通じて身に着けた自ら課題に取り組み、修士論文を作成した成し遂げる力に、博士課程においてデータサイエンス及びデータマネジメントをベースとして、高度な体育・スポーツ科学の研究能力を社会に還元できるように、より高度化していく。

具体的に博士課程においては、④共通科目において、自らの研究を社会に還元してくために必要な技術（データサイエンス及びデータマネジメント）と倫理観・使命感を身に付けるとともに、「博士論文の作成と成果の社会への還元を目指し、専門性を高めていく」ことに加え、「本研究科を構成する３領域のみならず、社会を構成する各分野へ広がる視点の育成を図っていく」ために必要な基礎的な力を養う。⑤専門科目において、専門性のみならず、本研究科の３領域に加え他分野との交流を通じて幅広い知識と考え方の融合を図り、⑥特別研究において、正しい倫理観・独創性・創造性の獲得をもって博士論文の作成とその成果を社会に還元していくことにより、修士課程（博士課程前期）から博士課程後期に連動できるよう、教育課程を構築していく。

（体育学研究科体育学専攻　修士課程）

	授業科目の名称	配当年次	必選	単位
③研究ゼミナール	体育学研究１	1前	必修	2
	体育学研究２	1後	必修	2
	体育学研究３	2前	必修	2
	体育学研究４	2後	必修	2

（体育学研究科体育学専攻　博士課程後期）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	必選	単位
⑥特別研究	体育・スポーツ科学特別研究１	2前	必修	2
	体育・スポーツ科学特別研究２	2後	必修	2
	体育・スポーツ科学特別研究３	3前	必修	2
	体育・スポーツ科学特別研究４	3後	必修	2

【説明】

⑥特別研究において、修士課程（博士課程前期）から博士課程後期に連動できるよう、教育課程を構築していく。修士課程から身に付けてきた考え方や力（①～⑤）を結び付け、博士論文の作成につなげていく。そして、正しい倫理観・独創性・創造性の獲得をもって博士論文の作成を行い、その成果を社会に還元していく。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	必選	単位
②スポーツ文化社会科学領域　１０科目　各２単位　選択科目				
②スポーツ医科学領域　８科目　各２単位　選択科目				
②実践スポーツ科学領域　２０科目　各２単位　選択科目				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	必選	単位
⑤専門	高度スポーツ文化社会科学演習	1後	選択	2
	高度スポーツ文化社会科学特講	1前	選択	2
⑤専門	高度スポーツ医科学演習	1後	選択	2
	高度スポーツ医科学特講	1前	選択	2
⑤専門	高度実践スポーツ科学演習	1後	選択	2
	高度実践スポーツ科学特講	1前	選択	2

【説明】

⑤専門科目においては、修士課程で身に付けた専門性の高度化だけではなく、本研究科の３領域に加え他分野との交流を通じて幅広い知識と考え方の融合を図り、プロジェクト研究、パネルディスカッション等を通じて実践力・応用力等、研究能力・研究成果を社会へ還元する能力を獲得し、独創的・創造性に優れた高度な研究能力を育成していく。

	授業科目の名称	配当年次	必選	単位
①共通	体育学研究総論	1前	必修	2
	体育学研究法Ａ	1前	必修	2
	体育学研究法Ｂ	1後	必修	2
	体育学文献講読	1後	選択	2
	体育学特論Ａ	1前・2後	選択	2
	体育学特論Ｂ	1後・2後	選択	2
	体育学特論Ｃ	1前・2前	選択	2
	体育学特論Ｄ	1後・2後	選択	2
	小計（８科目）	－		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	必選	単位
④共通	スポーツ科学研究理論	1前	必修	2
	スポーツ科学研究法Ａ	1後	選択	2
	スポーツ科学研究法Ｂ	1後	選択	2

【説明】

修士課程のカリキュラムの構成と対応するように、博士課程においても、④共通科目群、⑤専門科目群、⑥特別研究科目群を設定している。

博士課程においては、まずは④共通科目において、自らの研究を社会に還元してくために必要な技術（データサイエンス及びデータマネジメント）と倫理観・使命感を身に付け、「博士論文の作成と成果の社会への還元を目指し、専門性を高めていく」ことに加え、「本研究科を構成する３領域のみならず、社会を構成する各分野へ広がる視点の育成を図っていく」ために必要な基礎的な力を養う。

２．修士課程からの専門性の高まり

（体育学研究科体育学専攻　修士課程）

	授業科目の名称	配当年次	必選	単位
スポーツ文化社会科学領域	体育哲学特論	1前・2前	選択	2
	体育哲学演習	1後・2後	選択	2
	スポーツ社会学特論	1前・2前	選択	2
	スポーツ社会学演習	1後・2後	選択	2
	スポーツ史特論	1前・2前	選択	2
	スポーツ史演習	1後・2後	選択	2
	スポーツ心理学特論	1前・2前	選択	2
	スポーツ心理学特別実習	1後・2後	選択	2
	応用スポーツ心理学特論	1前・2前	選択	2
	応用スポーツ心理学特別実習	1後・2後	選択	2
	小計（１０科目）	－		

（体育学研究科体育学専攻　博士課程後期）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	必選	単位
専門	高度スポーツ文化社会科学演習	1後	選択	2
専門	高度スポーツ文化社会科学特講	1前	選択	2

【説明】

博士課程の専門科目は、修士課程における専門科目で学んだ各領域の多数の科目を包括的に捉えて統合し、さらに高度化させると共に、研究成果を社会へ還元するための応用能力の獲得を目的として設置している。

高度スポーツ文化社会科学特講では、体育・スポーツ事象にみられる諸問題に対する体育学における人文社会科学的アプローチ（体育スポーツ哲学・倫理学、スポーツ史・人類学、スポーツ心理学）によって問題把握の多角化をはかるとともに、それを包括的に捉えて統合し、これを通して研究を独創的に遂行する能力を育成する。なお、本科目においては、体育スポーツ哲学・倫理学、スポーツ史・人類学、スポーツ心理学における最前線の議論や知見に触れ、修士課程で獲得された一般的研究能力における人文社会科学的認識・思考能力の洗練を通じて、学識と思考力を拡充し、研究者としての高度な創造性を養う。

高度スポーツ文化社会科学演習では、体育・スポーツ事象にみられる諸問題に対する体育学における人文社会科学的アプローチによって問題解決能力の拡充をはかるとともに、これを通して研究を独創的に遂行する能力を高める。本科目においては、修士課程で獲得された一般的研究能力における人文社会科学的認識・思考能力のさらなる洗練のために、最前線の議論や知見を踏まえながら、広大で歴史的な知の総体において自らの問題追求を相対化することで、研究者としての学識や良識の錬磨と高度な研究スキルを身に付ける。

また、同時に学生の研究テーマに合わせて、本研究科を構成する他領域との連携や、体育学分野にかかわらず、教育研究における他の分野との融合を演習を通じて推進していく。

	授業科目の名称	配当年次	必選	単位
スポーツ医科学領域	運動生理学特論	1前・2前	選択	2
	運動生理学特別実習	1後・2後	選択	2
	スポーツバイオメカニクス特論	1後・2後	選択	2
	スポーツバイオメカニクス特別実習	1前・2前	選択	2
	スポーツ医学特論	1前・2前	選択	2
	スポーツ医学特別実習	1後・2後	選択	2
	体力学特論	1後・2後	選択	2
	体力学特別実習	1前・2前	選択	2
	小計（８科目）	－		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	必選	単位
専門	高度スポーツ医科学演習	1後	選択	2
専門	高度スポーツ医科学特講	1前	選択	2

【説明】

博士課程の専門科目は、修士課程における専門科目で学んだ各領域の多数の科目を包括的に捉えて統合し、さらに高度化させると共に、研究成果を社会へ還元するための応用能力の獲得を目的として設置している。

高度スポーツ医科学特講では、体育・スポーツ事象にみられる諸問題に対する体育学における自然科学的アプローチ（スポーツ生理学、スポーツバイオメカニクス・体力学、スポーツ医学）を学び、博士課程後期の研究として、研究課題の焦点化に資する専門知識を身につける。同時に、当該学問分野における最前線の解析方法や研究事例に触れ、研究を独創的かつ創造的に遂行する能力を育成する。

高度スポーツ医科学演習では、体育・スポーツ事象にみられる諸問題に対する体育学における自然科学的アプローチによるスポーツ科学実験研究のプロセス（計画→測定→処理→論議）を演習として学ぶ。これらを通じて、当該分野において、質の高い研究テーマ、研究デザイン、修士課程で学修した内容を基礎に、博士課程後期としてふさわしい研究者としての学識や良識の錬磨と、論文執筆を遂行できる高度な研究スキルを身に付ける。さらに、後半の共同の部分で、医学、工学、理学等の他分野が融合したプロジェクト研究に参加し、研究能力・成果を社会に還元する力を身につける。

また、同時に学生の研究テーマに合わせて、本研究科を構成する他領域との連携や、体育学分野にかかわらず、教育研究における他の分野との融合を演習を通じて推進していく。

	授業科目の名称	配当年次	必選	単位
実践スポーツ科学領域	武道学特論	1後・2後	選択	2
	武道学特別実習	1前・2前	選択	2
	スポーツ方法学特論	1前・2前	選択	2
	スポーツ方法学特別実習	1後・2後	選択	2
	生涯スポーツ特論	1前・2前	選択	2
	生涯スポーツ演習	1後・2後	選択	2
	スポーツ＆レジャー特論	1前・2前	選択	2
	スポーツ＆レジャー演習	1後・2後	選択	2
	スポーツマネジメント特論	1前・2前	選択	2
	スポーツマネジメント演習	1後・2後	選択	2
	健康教育学特論	1前・2前	選択	2
	健康教育学演習	1後・2後	選択	2
	スポーツ運動学特論	1前・2前	選択	2
	スポーツ運動学演習	1後・2後	選択	2
	コーチング特論	1前・2前	選択	2
	コーチング特別実習	1後・2後	選択	2
	トレーニング特論	1後・2後	選択	2
	トレーニング特別実習	1前・2前	選択	2
	保健体育科教育学特論	1前・2前	選択	2
	保健体育科教育学演習	1後・2後	選択	2
	小計（２０科目）	－		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	必選	単位
専門	高度実践スポーツ科学演習	1後	選択	2
専門	高度実践スポーツ科学特講	1前	選択	2

【説明】

博士課程の専門科目は、修士課程における専門科目で学んだ各領域の多数の科目を包括的に捉えて統合し、さらに高度化させると共に、研究成果を社会へ還元するための応用能力の獲得を目的として設置している。

高度実践スポーツ科学特講では、スポーツや運動、身体活動が、現代社会・国民に果たす具体的な意義について、修士課程より研究範囲を広げ国内外の様々な先端研究のエビデンスから考究する。特に、ウエルネス、スポーツ・レジャーマネジメント、健康づくり・介護予防の身体活動、アダプテッド体育・スポーツをキーワードとして、それぞれの分野の最新の研究動向やビジネスへの応用について、修士課程より深めた解説から、現代社会・国民と地域の発展に役立つ研究を遂行できる能力とマネジメント力を駆使した創造性を育成する。

高度実践スポーツ科学演習では、スポーツや運動、身体活動が、現代社会において貢献しうる研究テーマや研究デザインを、具体的に考案する能力を養う。特に、それぞれの分野において、質の高い研究テーマや実現可能な研究デザインを立案し、ビジネスに応用するための最新情報を取り扱う。加えて、対象領域の広い実践スポーツ科学分野の専門家となるため、修士課程で学修した内容を基礎に、博士課程後期としてふさわしい学識や良識の錬磨を図り、自立した研究者になるための高度な研究スキルを身に付ける。また、実践スポーツ科学の担当教員が進めている研究プロジェクトや活動の内容を理解するとともに参加して、中核的に研究に携わることで、博士論文のテーマについての研究を深めていく。

また、同時に学生の研究テーマに合わせて、本研究科を構成する他領域との連携や、体育学分野にかかわらず、教育研究における他の分野との融合を演習を通じて推進していく。

学生の確保の見通し等を記載した書類
体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）

（１）　学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①　学生の確保の見通し

ア　定員充足の見込み

新設する体育学研究科体育学専攻博士課程後期の定員充足の見込み

定員設定の考え方として、博士課程後期では、既設の体育学専攻修士課程の３領域の研究内容や高度解析技術を発展させて、高いレベルの「スポーツ科学」に精通しながら、独創的・創造性に優れた高度な研究能力を備えて専門分野の発展に寄与しつつ、それを社会に還元できる能力を有する体育・スポーツ科学の研究者専門職を育成することを目的としていることから、少数の大学院生に対して教員の綿密な指導による質の高い教育環境を整える必要がある。

このため、博士課程後期が３つの領域で構成されていることと、本学体育学専攻修士課程を修了し、他大学の大学院博士課程に進学する大学院生が、毎年概ね３名程度いることを踏まえ、博士課程後期の入学定員を３名と設定した。

博士課程後期は、博士課程前期の教育研究内容を発展させて設置されることから、博士課程前期の修了生が博士課程後期へ進学するケースが多いと想定される。そのため、定員充足の見込みを検討するにあたり、2019 年 12 月、進学対象となる体育学専攻修士課程１年生に進学意向のアンケート調査を実施した。

その結果、本学大学院博士課程後期への進学を希望すると回答した学生は５名であり、設定する入学定員を上回った。

また、我が国の体育・スポーツ系大学院博士後期課程の志願・入学者数について、過去３年度調査したところ、本学博士課程後期が所在する関東圏の大学については、概ね定員を充足し、一部の大学では、定員を大きく上回る多数の大学院生を受け入れている状況であることから、関東圏の大学院の体育・スポーツ系博士後期課程への進学需要は高い傾向にあると考えられる。

さらに定員充足の見込みの確認するため、2020 年度修士課程１年生と学部、修士課程修了生（すでに社会人となっている者）に対して進学意向のアンケート調査を実施した。

■2020 年度修士課程１年生への進学意向のアンケート調査

2020 年５月、博士課程後期の基礎となる体育学研究科体育学専攻修士課程１年生に対して進学意向のアンケート調査を実施した。

その結果、本学大学院博士課程後期への「進学を希望する」と回答した学生は３名であり、設定する入学定員に達した。

■学部生への進学意向のアンケート調査

2020 年 5 月、体育学部の 1～4 年生（修業年限超過者含む）に対して進学意向のアンケート調査を実施した。

まずは修士課程への進学希望を問う設問に対し、「進学を希望する」と回答したのは次のとおりであった。

4 年生以上（修業年限超過者含む）は 6 名、3 年生は 3 名、2 年生は 1 名、1 年生は 0 名。

学年が上がるほど進学希望者が多くなっており、これは高学年になるほどゼミナールや卒業研究を通じ自身の研究活動の進捗や取り組む意欲が高まっているため、学部で行った研究を修士課程においても継続したいと考える学生が増えるためと考えられる。2020 年度は本学においても新学期開始がゴールデンウィーク明けであった。4 年生以上においては新学年開始直後の段階で明確に修士課程への進学希望を示した学生が 6 名おり、今後卒業研究等が進むにつれ、研究活動への意欲の高まりから、進学希望者が増えることが見込まれる。

続いて博士課程後期への進学希望を問う設問に対し、4 年生以上では「進学を希望する」と回答したのは 1 名であった。しかし、前述のとおり修士課程に進学後、さらに研究活動を継続させていくことで博士課程後期への進学意欲が向上することが見込まれる。後述する「進学説明会」において博士課程後期における研究活動のイメージを明確し、説明内容を充実化させることで、特に「進学先の 1 つとして検討する」と回答した 7 名（4 年生以上）を中心により進学希望者を拡充させることは可能であると考える。

また、3 年生は現時点で博士課程後期へ「進学を希望する」の回答者が 3 名おり、上述のような取り組みでさらに段階的な進学希望者の拡充を達成することができると考える。

■修了生への進学意向のアンケート調査

2020 年 8 月、修了生（修士課程を修了し、すでに社会人となっている者）53 名に対して進学意向のアンケート調査を実施した。

結果、「あなたは、設置構想中の体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）が開設された場合、今後、進学を希望しますか？」の設問に、「進学を希望する」と回答した者が 5 名に達した。

これまでの進学意向アンケート調査の結果をまとめれば、次の通りとなる。

〈2019 年 12 月実施〉修士課程 1 年生（現在修士課程 2 年生）【博士課程後期開設年度進学対象】への調査では、「進学を希望する」5 名。

〈2020 年 5 月実施〉修士課程 1 年生【博士課程後期開設 2 年度進学対象】への調査では、「進学を希望する」3 名。

〈2020 年 5 月実施〉学部 4 年生以上【博士課程後期開設完成年度進学対象】

への調査では、「進学を希望する」1 名、「条件が合えば進学を希望する」0 名、「進学先の 1 つとして検討する」7 名。

〈2020 年 5 月実施〉学部 3 年生【博士課程後期開設 4 年度進学対象】への調査では、「進学を希望する」3 名、「条件が合えば進学を希望する」7 名、「進学先の 1 つとして検討する」10 名。

以上の結果に、修了生（社会人）の「進学を希望する」5 名を加えれば、博士課程後期が設定する入学定員 3 名は、中長期的に、継続的に確保できることが見込まれる。

イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

１）本学修士課程修了生の他大学博士課程への進学状況（資料１）

2011 年度以降の本学修士課程修了生の他大学博士課程への進学状況を一覧にした。毎年、概ね 3 名程度の本学修士課程修了生が、他大学の博士課程へ進学している。

２）東海大学大学院体育学研究科体育学専攻博士課程後期に関するアンケート調査（資料２）

博士課程後期設置後、進学対象となる修士課程の 1 年生に対して、2019 年 12 月、博士課程後期への進学に関するアンケート調査を実施した。調査では、修士課程（博士前期課程）修了後の進学関心と、本学博士課程課程後期への進学の可能性を明確に探った。その結果、5 名（回答者数の 20%）の学生が本学博士課程課程後期への進学を希望していることが判明した。

今後、修士課程の 1 年生に対して、博士課程後期のカリキュラムや教員構成、研究内容などを詳細に説明する機会を設けることにより、１）で述べた他大学博士課程へ進学していた修了生について、本学の博士課程後期へ進学する道筋をつける。

３）我が国の体育・スポーツ系大学院博士後期課程の志願・入学者数（資料３）

本学博士課程後期と類似する、体育・スポーツ系大学院研究科博士後期課程の入試状況について、国公立大学を含めて調査した。

志願者数を公表していない大学があるが、本学博士課程後期が所在する関東圏において、一部の大学では、定員を大きく上回る多数の大学院生を受け入れている状況であり、関東圏の大学院における体育・スポーツ系博士後期課程の進学需要は高い傾向にあると考えられる。

４）東海大学大学院体育学研究科体育学専攻博士課程後期に関するアンケート調査（2020 年度修士課程 1 年生対象）（資料４）

2020 年 5 月、修士課程 1 年生に博士課程後期への進学に関するアンケート調査を実施した。調査では、本学博士課程後期への進学の可能性を明確に探った。その結果、修士課程 1 年生において、本学博士課程後期への進学を希

望している学生数は3名であり、入学定員に達していることが判明した。

5）東海大学大学院体育学研究科体育学専攻博士課程後期に関するアンケート調査（2020年度体育学部生対象）（資料５）

2020年5月、体育学部1～4年生（修業年限超過者含む）に対して、博士課程後期への進学に関するアンケート調査を実施した。調査では、本学博士課程後期への進学の可能性を明確に探った。その結果、学部3～4年生以上において、本学博士課程後期への進学を希望している・進学先の1つとして検討している学生数及がほぼ入学定員に達していることが判明した。

6）東海大学大学院体育学研究科体育学専攻博士課程後期に関するアンケート調査（修士課程修了生対象）（資料６）

2020年8月、修了生（社会人となっている者）に対して、博士課程後期設置後の進学意向を確認すべく博士課程後期への進学に関するアンケート調査を実施した。調査では、本学博士課程後期への進学の可能性を明確に探った。その結果、本学博士課程後期への進学を希望している者が5名に達していることが判明した。

ウ　学生納付金の設定の考え方

1）既設研究科との比較

博士課程後期は、修士課程の教育研究内容と接続しているため、博士課程後期の学生納付金額は、修士課程と同額の、初年度学納金 1,369,000（入学金 300,000 円、授業料 701,000 円／年、教育運営費・施設設備費 368,000 円／年）を設定している。

なお、本学大学院において、文系の研究科の初年度学納金は1,309,000円、理工系の研究科の初年度学納金は1,446,000円となっており、体育学研究科は、文系・理工系両方に学問領域が亘ることから、文系・理工系の中間の金額となっている。

2）近隣の競合校等の状況との比較

博士課程後期には、既設の修士課程の修了生が多く進学することを想定している。本学修士課程から進学する場合、入学金等が減額され、初年度学納金は、869,000円となる。

本学と同じ私立大学で、近隣に所在する体育・スポーツ科学分野の大学院博士課程の初年度学納金は、慶応義塾大学大学院720,000円、順天堂大学大学院 800,000 円、早稲田大学大学院 947,000 円、日本体育大学大学院1,048,000 円、国士舘大学大学院 1,344,000 円となっており、この中において、本学博士課程後期の学費は、中間の水準であり、適切な金額設定となっている。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

新設する博士課程後期の取組状況

「設置の趣旨等を記載した書類」で述べた研究情報交換会は、博士課程後期の大学院生だけでなく修士課程（博士課程前期）の大学院生も参加して、大学院研究指導教員と大学院学生の活発な議論が展開されるが、この中で、博士課程前期と博士課程後期との連続を意識させ、これを博士課程後期への進学の契機としていく。

また、修士課程の大学院生に対して、毎年度 4 月初め及び 10 月初めにガイダンスを行うが、この機会を捉えて、博士課程後期の教育研究目的、教育課程等の説明、アナウンスを行い、博士課程後期への進学につなげる。

以上の機会に加えて「進学説明会」の充実を行う。現在、例年 10 月に、学部生を対象として、体育学研究科修士課程への「進学説明会」を開催している。この「進学説明会」は、体育学研究科修士課程の概要説明、研究指導教員の紹介に加え、修士課程の在学生や修了生との意見交換等を含んだ進学相談会としている。この説明会の目的は、学部生が持つ希望や計画と、実際の修士課程の研究内容・進路等を学生単位で個別にマッチングすることであり、教員・在学生・修了生と直接話ができる環境を整えて行われるものである。これを博士課程後期への進学も含めた内容に充実することで、学部生に対して博士課程後期までの進学意欲を喚起し、進学につなげる。

（２） 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

体育学研究科博士課程後期の教育研究上の目的は、社会の情勢や時代の変化に合わせ、体育学研究科博士課程前期の研究内容や高度解析技術を発展させて、高いレベルの「スポーツ科学」に精通しながら、独創的・創造性に優れた高度な研究能力を備えて専門分野の発展に寄与しつつ、それを社会に還元できる能力を有する人材を養成することである。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的な根拠

１）社会的な人材需要

文部科学省が平成 29 年 3 月に策定した第 2 期「スポーツ基本計画」は、スポーツ基本法の規定に基づき、スポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための重要な指針として位置付けられている。

第 2 期「スポーツ基本計画」では、「スポーツに関わる多様な人材の育成と活躍の場の確保」が挙げられ、次の通り示されている。

（略）
（２）スポーツ環境の基盤となる「人材」と「場」の充実
①スポーツに関わる多様な人材の育成と活躍の場の確保
［施策目標］
スポーツに関わる人材の全体像を把握しつつ，アスリートのキャリア形成援や，指導者，専門スタッフ，審判員，経営人材などスポーツ活動を支える人材の育成を図ることにより，スポーツ参画人口の拡大に向けた環境を整備する。

［現状と課題］
（略）
・医療，栄養，スポーツ科学，ドーピング検査など専門スタッフが少ない。
（略）

［具体的施策］
（略）
＜専門スタッフ，審判員，スポーツボランティア等＞
サ　国及び日体協は，スポーツ団体及び大学等と連携し，医療・栄養・トレーニング・心理等のスポーツ科学などの専門的な知識・技術を有する人材の資質向上を促進し…
（略）

このことから、スポーツ科学に関する、独創的・創造性に優れた高度な研究能力を備えて専門分野の発展に寄与しつつ、それを社会に還元できる能力を有する人材を養成することを目指す本学博士課程後期の設置は、「スポーツ基本計画」と方針を同じくしており、社会的な人材需要と合致している。

２）企業等における人材需要

１）で述べた社会的な人材需要の動向をより明確にするため、博士課程後期修了後の進路として、採用動向を探ることを目的に、事業団や企業に対してヒアリング調査を行った。（資料７）

「明治安田厚生事業団体力医学研究所」は、採用において、体育・スポーツ系分野の博士学位取得者を非定期で募集しており、2019 年度は 2～3 名程度募集している。なお、研究所の研究員は全員博士学位取得者とのことである。本学博士課程後期に対して、研究の成果を社会に還元する意思と方法を身につけた人材等の養成が求められ、本学博士課程後期への高い期待がうかがえた。

「株式会社 DKH」は、本学修士課程修了生の採用実績がある。この企業のグループ全体として、体育・スポーツ系分野の大学院修了者の採用を進めている

状況にあり、本学博士課程後期に対し、研究成果を社会に還元できる人材養成が求められた。

「日本電信電話株式会社コミュニケーション科学基礎研究所」では、業界としてスポーツ市場の開拓・参入について大きな関心を持っており、採用において、スポーツの現場の動向に精通し、データ分析などのノウハウを有する人材を求めているとのことである。

ヒアリング調査の結果、企業等において、体育・スポーツ系分野の博士学位取得者の人材需要があることが分かり、求める人材像として、「研究成果を社会に還元できる人材」が示された。この人材像は、本学博士課程後期の養成する人材と合致している。

このヒアリング調査に加え、本学博士課程後期の修了生に対する企業等の採用のニーズがどの程度あるのかを具体的に探ることを目的とし、企業や団体に対して本学博士課程後期が養成する人材の必要性及び修了した人材の採用意向等について回答を求めるアンケート調査を行った。（資料８）

アンケート調査の結果、企業等やその所属する業界において、本学博士課程後期が養成する人材が「とても必要だと思う」「必要だと思う」という回答が30 箇所の企業等から得られ、本学博士課程後期が養成する人材の必要性を認める結果となった。さらに、修了者について 17 箇所の企業等が「採用したい」とし、本学博士課程後期の入学定員３名を大きく上回る結果となり、企業等において、体育・スポーツ系分野の博士学位取得者の人材需要があることが明確となった。

以上により、本学博士課程後期の設置は、社会的な人材需要及び企業等における人材需要の動向を踏まえている。

以　上

学生の確保の見通し等を記載した書類
体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）

【資料目次】

資料１　本学修士課程修了生の他大学博士課程への進学状況
資料２　東海大学大学院体育学研究科体育学専攻博士課程後期に関するアンケート調査
資料３　我が国の体育・スポーツ系大学院博士後期課程の志願・入学者数
資料４　東海大学大学院体育学研究科体育学専攻博士課程後期に関するアンケート調査（2020 年度修士１年生対象）
資料５　東海大学大学院体育学研究科体育学専攻博士課程後期に関するアンケート調査（2020 年度体育学部生対象）
資料６　東海大学大学院体育学研究科体育学専攻博士課程後期に関するアンケート調査（修士課程修了生対象）
資料７　ヒアリング調査
資料８　東海大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）の設置に関するアンケート調査（人材需要に関する調査）

本学修士課程修了生の他大学博士課程への進学状況

東海大学体育学部記念誌編集委員会『東海大学体育学部50年史・大学院体育学研究科40年史』2018年1月　より作成

進学年度	人数	進学先
2011年度	３名	中京大学大学院　博士課程
		筑波大学大学院　博士課程
		早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程
2012年度	６名	早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士後期課程
		筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科
		順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程
		大阪体育大学大学院　博士課程
		エジンバラ大学大学院　博士課程
		広島大学大学院　博士課程
2013年度	２名	順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程
		鹿屋大学大学院　博士課程
2014年度	２名	順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程
		筑波大学大学院人間総合科学研究科博士課程
2016年度	４名	オタワ大学大学院　博士課程
		テネシー大学大学院　博士課程
		早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士後期課程
		順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程
2017年度	３名	早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士後期課程
		チェコ共和国　大学院　博士課程
		九州工業大学大学院　博士課程

東海大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）
の設置に関するアンケート調査　集計結果

調査対象　：東海大学大学院体育学研究科体育学専攻（修士課程）１年生
調査実施日：２０１９年１２月２日（月）

調査対象者数	25
有効回答者数	25

設問		件数	全体%
設問1.	修士課程修了後の進路についてどのように考えますか？	25	
1	博士課程へ進学したい、または検討している	7	28.0%
2	就職したい	11	44.0%
3	未定	7	28.0%
設問2.	【設問1に対して、1を選択した方のみ】 博士課程へ進学したい、または検討している、と考える動機は何ですか？（複数選択可）	7	
1	博士の学位を取得するため	3	12.0%
2	研究職に就きたいため	4	16.0%
3	より高度な知識を身につけ、社会で活躍するため	3	12.0%
4	その他	0	0.0%
設問3.	【設問1に対して、1を選択した方のみ】 設置構想中の本学の体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）への進学を希望しますか？	7	
1	進学を希望する	5	20.0%
2	進学を希望しない	1	4.0%
3	未定	1	4.0%

東海大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）の設置に関するアンケート調査

（無記名式／修士１年次生対象）

＜回答した内容によって将来の進路が制限されることはありません＞

東海大学では、現在、体育学研究科体育学専攻（修士課程）を基礎とする体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）の設置計画を進めています。このアンケートは、在学生のみなさんの修了後の進学についてお聞きし、当課程の設置手続きを進めるための基礎資料とするものです。是非ご協力をお願いします。

なお、この調査結果は、当課程を設置するための基礎資料としてのみ使用し、その他の用途には使用しません。

次の【設置構想中　体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）の概要】と「類似する近隣の体育・スポーツ系大学院研究科博士課程後期一覧」を確認したうえで、アンケートに回答してください。

【設置構想中　体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）の概要】

1. 研究科・専攻の概要

名　　称　：体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）
学　　位　：博士（体育学）
定　　員　：入学定員３名
標準修業年限　：３年
開 設 時 期　：2021 年４月１日
開 設 校 舎　：湘南校舎
学費（予定）　：入学金 300,000 円　授業料等 1,069,000 円　合計 1,369,000 円
※本学修士課程・博士前期課程修了者は入学金等免除のため、合計 869,000 円

2. 設置理念

体育学研究科体育学専攻修士課程（博士課程前期）は、心身共に健全な人材の養成と体育関係の指導者の養成を図ることを基本的な指針として設置された本学の体育学部を基盤に、目まぐるしく変化していく社会に対し、広域化への対応を進めつつ、学部・大学院教育を通じ、より高度化した教育研究により社会への貢献を進めてきました。

このたび、修士課程（博士課程前期）の研究内容や高度解析技術を発展させて、極めて高いレベルの「スポーツ科学」に精通しながら、独創的・創造性に優れた高度な研究能力を備え、専門分野の発展に寄与しつつ、それを社会に還元できる能力を有する体育・スポ

ーツ科学の人材を育成することを目的として、博士課程後期を設置します。

3. 養成する人材像

体育・スポーツ科学領域において、高いレベルの「スポーツ科学」に精通しながら、独創的・創造性に優れた高度な研究能力を備えて専門分野の発展に寄与しつつ、それを社会に還元できる能力を有する人材

＜裏面に続く＞

アンケート記入用紙

各設問について、該当する番号に〇をつけてください。

1. 修士課程修了後の進路についてどのように考えますか？
   1　博士課程へ進学したい、または検討している
   2　就職したい
   3　未定

2. 【設問１に対して、１を選択した方のみ】
   博士課程へ進学したい、または検討している、と考える動機は何ですか？（複数選択可）
   1　博士の学位を取得するため
   2　研究職に就きたいため
   3　より高度な知識を身につけ、社会で活躍するため
   4　その他（　　）

3. 【設問１に対して、１を選択した方のみ】
   設置構想中の本学の体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）への進学を希望しますか？
   1　進学を希望する
   2　進学を希望しない
   3　未定

4. 体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）の設置準備にあたって、ご意見・ご要望等がありましたら、記入してください。

アンケート調査は以上です。ご協力ありがとうございました。

東海大学体育学研究科体育学専攻博士課程後期【設置構想中】

所在地	区分	大学院名称	研究科名	専攻名		入学金	授業料（年間）	その他	合計
神奈川県	私立	東海大学大学院	体育学研究科	体育学専攻　博士課程後期	本学修士課程・博士課程前期修了者	－	¥　701,000	¥　168,000	¥　869,000
					上記以外（参考）	¥　300,000	¥　701,000	¥　368,000	¥　1,369,000

類似する近隣の体育・スポーツ系大学院研究科博士後期課程一覧

所在地	区分	大学院名称	研究科名	専攻名	課程区分	入学定員	入学金	授業料（年間）	その他	合計
埼玉県	私立	早稲田大学大学院	スポーツ科学研究科	スポーツ科学専攻	博士後期課程	30	¥　200,000	¥　677,000	¥　70,000	¥　947,000
千葉県	私立	順天堂大学大学院	スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	博士後期課程	10	¥　200,000	¥　550,000	¥　50,000	¥　800,000
東京都	私立	国士舘大学大学院	スポーツ・システム研究科	スポーツ・システム専攻	博士課程	3	¥　240,000	¥　770,000	¥　334,000	¥　1,344,000
東京都	私立	日本体育大学大学院	体育科学研究科	体育科学専攻	博士後期課程	6	¥　300,000	¥　738,000	¥　10,000	¥　1,048,000
東京都	私立	日本体育大学大学院	体育科学研究科	コーチング学専攻	博士後期課程	3	¥　300,000	¥　738,000	¥　10,000	¥　1,048,000
神奈川県	私立	慶応義塾大学大学院	健康マネジメント研究科	公衆衛生・スポーツ健康科学専攻	後期博士課程	5	－	¥　660,000	¥　60,000	¥　720,000

※1　各大学院情報については、公式Webサイト等により調査しました。

※2　学費以外の諸会費等は含んでいません。

我が国の体育・スポーツ系大学院博士後期課程の志願・入学者数

本表の内容は、各大学公式Webサイト等で掲載されている情報により調査した。

							2019年度		2018年度		2017年度	
所在地	区分	大学院名称	研究科名	専攻名	課程区分	入学定員	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数
茨城県	国立	筑波大学大学院	人間総合科学研究科	体育科学専攻	博士後期課程	15	24	15	26	16	20	15
茨城県	国立	筑波大学大学院	人間総合科学研究科	コーチング学専攻	３年制博士課程	5	13	7	15	8	10	8
茨城県	国立	筑波大学大学院	人間総合科学研究科	スポーツ医学専攻	３年制博士課程	10	21	14	11	9	10	10
埼玉県	私立	早稲田大学大学院	スポーツ科学研究科	スポーツ科学専攻	博士後期課程	30	掲載無	29	掲載無	27	掲載無	22
千葉県	私立	順天堂大学大学院	スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	博士後期課程	10	掲載無	21	掲載無	11	掲載無	10
東京都	私立	国士舘大学大学院	スポーツ・システム研究科	スポーツシステム専攻	博士課程	3	掲載無	0	掲載無	掲載無	掲載無	掲載無
東京都	私立	日本体育大学大学院	体育科学研究科	体育科学専攻	博士後期課程	6	14	11	14	10	14	12
東京都	私立	日本体育大学大学院	体育科学研究科	コーチング学専攻 ※2018年度開設	博士後期課程	3	8	6	4	4		
神奈川県	私立	慶応義塾大学大学院	健康マネジメント研究科	公衆衛生・スポーツ健康科学専攻 ※2018年度開設	後期博士課程	5	7	6	9	7		
愛知県	私立	中京大学大学院	体育学研究科	体育学専攻	博士後期課程	4	9	9	6	5	4	4
滋賀県	私立	立命館大学大学院	スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	博士課程後期課程	8	4	4	5	5	10	10
京都府	私立	同志社大学大学院	スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	博士課程（後期）	3	1	0	3	3	2	1
大阪府	私立	大阪体育大学大学院	スポーツ科学研究科	スポーツ科学専攻	博士後期課程	6	5	5	掲載無	1	掲載無	11
福岡県	私立	福岡大学大学院	スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	博士課程（後期）	4	1	1	掲載無	掲載無	掲載無	掲載無
鹿児島県	国立	鹿屋体育大学大学院	体育学研究科	体育学専攻	博士後期課程	6	7	7	4	4	9	8

東海大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）
の設置に関するアンケート調査　集計結果

調査対象　：東海大学大学院体育学研究科体育学専攻（修士課程）１年生
調査実施期間：２０２０年５月１１日（月）～３１日(日)

調査対象者数	14
有効回答者数	14

設問		件数	全体%
設問1.	修士課程修了後の進路についてどのように考えますか？	14	
1	博士課程へ進学したい、または検討している	7	50.0%
2	就職したい	4	28.6%
3	未定	3	21.4%
設問2.	【設問1に対して、1を選択した方のみ】 博士課程へ進学したい、または検討している、と考える動機は何ですか？（複数選択可）	7	
1	博士の学位を取得するため	5	35.7%
2	研究職に就きたいため	4	28.6%
3	より高度な知識を身につけ、社会で活躍するため	0	0.0%
4	その他	0	0.0%
設問3.	【設問1に対して、1を選択した方のみ】 設置構想中の本学の体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）への進学を希望しますか？	7	
1	進学を希望する	3	21.4%
2	進学を希望しない	0	0.0%
3	未定	4	28.6%

基本情報

名称		【0CGPM生用】体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）設置に関するアンケート
説明		修了後の進路に関する進学意向調査です。
実施期間		2020年5月11日（月）9時0分 ～ 2020年5月31日（日）17時0分
作成者		博士課程設置準備会議
回答時ヘッダー		東海大学では、現在、体育学研究科体育学専攻（修士課程）を基礎とする体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）の設置計画を進めています。このアンケートは、在学生のみなさんの修了後の進学についてお聞きし、当課程の設置手続きを進めるための基礎資料とするものです。添付ファイルを必ず参照のうえ、設問にご回答ください。 なお、この調査結果は、当課程を設置するための基礎資料としてのみ使用し、その他の用途には使用しません。
回答時フッター		アンケートは以上です。
照会時ヘッダー		入力内容をご確認ください
照会時フッター		ご回答ありがとうございました。参考にさせていただきます。
添付ファイル	ファイル1	博士課程後期の詳細
	ファイル2	
	ファイル3	

対象者

対象者の人数は、アンケートの対象者を登録した時点での人数です。

登録時点から公開までの間発生した、学生の異動や教職員の部署の異動などは反映されていません。

対象者を最新の状態にするためには、対象者設定画面で再度、登録処理を行ってください。

対象者	14人
公開者	個別設定（ 全学生 全教員 全職員 ）

設問

下記は、設定された設問の表示イメージです。ここに何か入力を行っても何も反映されません。

設問 1 *	1. 修士課程修了後の進路についてどのように考えますか？ [ ]
設問 2	2.【設問1に対して、1を選択した方のみ】博士課程へ進学したい、または検討している、と考える動機は何ですか？（複数選択可） ☐ 1. 博士の学位を取得するため ☐ 2. 研究職に就きたいため ☐ 3. 研究職に就きたいため ☐ 4. その他
設問 3	3.【設問2に対して4を選択した方のみ】その他の内容をご記入ください。 [ ]
設問 4	4.【設問1に対して、1を選択した方のみ】設置構想中の本学の体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）への進学を希望しますか？ [ ]
設問 5	5. 体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）の設置準備にあたって、ご意見・ご要望等がありましたら、記入してください。 [ ]

東海大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）の設置に関するアンケート調査
（無記名式／修士１年次生対象）
＜回答した内容によって将来の進路が制限されることはありません＞

東海大学では、現在、体育学研究科体育学専攻（修士課程）を基礎とする体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）の設置計画を進めています。このアンケートは、在学生のみなさんの修了後の進学についてお聞きし、当課程の設置手続きを進めるための基礎資料とするものです。是非ご協力をお願いします。

なお、この調査結果は、当課程を設置するための基礎資料としてのみ使用し、その他の用途には使用しません。

次の【設置構想中　体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）の概要】と「類似する近隣の体育・スポーツ系大学院研究科博士課程後期一覧」を確認したうえで、アンケートに回答してください。

【設置構想中　体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）の概要】

1. 研究科・専攻の概要

名　　称　：体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）
学　　位　：博士（体育学）
定　　員　：入学定員３名
標準修業年限　：３年
開 設 時 期　：2021 年４月１日
開 設 校 舎　：湘南校舎
学費（予定）　：入学金 300,000 円　授業料等 1,069,000 円　合計 1,369,000 円
※本学修士課程・博士前期課程修了者は入学金等免除のため、合計 869,000 円

2. 設置理念

体育学研究科体育学専攻修士課程（博士課程前期）は、心身共に健全な人材の養成と体育関係の指導者の養成を図ることを基本的な指針として設置された本学の体育学部を基盤に、目まぐるしく変化していく社会に対し、広域化への対応を進めつつ、学部・大学院教育を通じ、より高度化した教育研究により社会への貢献を進めてきました。

このたび、修士課程（博士課程前期）の研究内容や高度解析技術を発展させて、極めて高いレベルの「スポーツ科学」に精通しながら、独創的・創造性に優れた高度な研究能力を備え、専門分野の発展に寄与しつつ、それを社会に還元できる能力を有する体育・スポーツ科学の人材を育成することを目的として、博士課程後期を設置します。

3. 養成する人材像

博士後期では、他領域・他分野との研究・教育における融合を推進し、幅広い知識・考え方を修得して独創性・創造性に優れた高い研究能力を有し、それを社会に還元できる能力を有する研究者（大学教員、企業などの研究員）、専門職（スポーツアナリスト、スポーツ・アドミニストレーター）の育成を目指します。

＜次ページに続く＞

東海大学体育学研究科体育学専攻博士課程後期【設置構想中】

所在地	区分	大学院名称	研究科名	専攻名		入学金	授業料（年間）	その他	合計
神奈川県	私立	東海大学大学院	体育学研究科	体育学専攻　博士課程後期	本学修士課程・博士課程前期修了者	－	¥　701,000	¥　168,000	¥　869,000
					上記以外（参考）	¥　300,000	¥　701,000	¥　368,000	¥　1,369,000

類似する近隣の体育・スポーツ系大学院研究科博士後期課程一覧

所在地	区分	大学院名称	研究科名	専攻名	課程区分	入学定員	入学金	授業料（年間）	その他	合計
埼玉県	私立	早稲田大学大学院	スポーツ科学研究科	スポーツ科学専攻	博士後期課程	30	¥　200,000	¥　677,000	¥　70,000	¥　947,000
千葉県	私立	順天堂大学大学院	スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	博士後期課程	10	¥　200,000	¥　550,000	¥　50,000	¥　800,000
東京都	私立	国士舘大学大学院	スポーツ・システム研究科	スポーツ・システム専攻	博士課程	3	¥　240,000	¥　770,000	¥　334,000	¥　1,344,000
東京都	私立	日本体育大学大学院	体育科学研究科	体育科学専攻	博士後期課程	6	¥　300,000	¥　738,000	¥　10,000	¥　1,048,000
東京都	私立	日本体育大学大学院	体育科学研究科	コーチング学専攻	博士後期課程	3	¥　300,000	¥　738,000	¥　10,000	¥　1,048,000
神奈川県	私立	慶応義塾大学大学院	健康マネジメント研究科	公衆衛生・スポーツ健康科学専攻	後期博士課程	5	－	¥　660,000	¥　60,000	¥　720,000

※1　各大学院情報については、公式Webサイト等により調査しました。

※2　学費以外の諸会費等は含んでいません。

東海大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）
の設置に関するアンケート調査　集計結果　　1/2

調査対象　：東海大学体育学部１～４年生（修業年限超過者含む）
調査実施期間：２０２０年５月１１日（月）～３１日(日)

調査対象者数	1898
有効回答者数	651

設問		件数	
設問1.	あなたの学年を教えてください。	651	
1	１年生	290	44.5%
2	２年生	40	6.1%
3	３年生	164	25.2%
4	４年生以上	157	24.1%
設問2.	あなたの所属学科を教えてください。	651	
1	体育学科	198	30.4%
2	競技スポーツ学科	133	20.4%
3	武道学科	101	15.5%
4	生涯スポーツ学科	142	21.8%
5	スポーツレジャー・マネジメント学科	77	11.8%

東海大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）
の設置に関するアンケート調査　集計結果　　2/2

調査対象者数	1898
有効回答者数	651

設問3.	学部卒業後の進路についてどのように考えますか？						
		１年生	２年生	３年生	４年生以上	合計	全体%
1	大学院へ進学したい	1	2	7	10	20	3.1%
2	条件があえば大学院へ進学したい	18	6	20	5	49	7.5%
3	就職したい	221	29	123	130	503	77.3%
4	未定	50	3	14	12	79	12.1%
合計		290	40	164	157	651	－

設問4.	（設問3に対して、1・2を選択した方のみ）本学の体育学研究科体育学専攻（修士・博士前期）への進学を希望しますか？						
		１年生	２年生	３年生	４年生以上	合計	全体%
1	進学を希望する	0	1	3	6	10	1.5%
2	条件があえば進学を希望する	4	0	7	1	12	1.8%
3	進学先の１つとして検討する	13	6	13	2	34	5.2%
4	進学を希望しない（他大学の大学院修士への進学を希望する）	1	0	2	6	9	1.4%
5	未定	1	1	2	0	4	0.6%
合計		19	8	27	15	69	－

設問5.	（設問4に対して、1・2・3を選択した方のみ）体育学研究科体育学専攻（博士後期）が開設された場合、進学を希望しますか？						
		１年生	２年生	３年生	４年生以上	合計	全体%
1	進学を希望する	0	0	3	1	4	0.6%
2	条件があえば進学を希望する	4	2	7	0	13	2.0%
3	進学先の１つとして検討する	13	4	10	7	34	5.2%
4	進学を希望しない（他大学の大学院修士への進学を希望する）	0	1	1	1	3	0.5%
5	未定	0	0	2	0	2	0.3%
合計		17	7	23	9	56	－

基本情報

名称		【学部生用】体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）設置に関するアンケート
説明		卒業後の進路に関する進学意向調査です。
実施期間		2020年5月11日（月）9時0分 ～ 2020年5月31日（日）17時0分
作成者		博士課程設置準備会議
回答時ヘッダー		東海大学では、現在、体育学研究科体育学専攻（修士課程）を基礎とする体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）の設置計画を進めています。このアンケートは、在学生のみなさんの卒業後の進学についてお聞きし、当課程の設置手続きを進めるための基礎資料とするものです。添付ファイルを必ず参照のうえ、設問にご回答ください。 なお、この調査結果は、当課程を設置するための基礎資料としてのみ使用し、その他の用途には使用しません。
回答時フッター		アンケートは以上です。
照会時ヘッダー		入力内容をご確認ください
照会時フッター		ご回答ありがとうございました。参考にさせていただきます。
添付ファイル	ファイル1	体育学研究科の詳細
	ファイル2	
	ファイル3	

対象者

対象者の人数は、アンケートの対象者を登録した時点での人数です。

登録時点から公開までの間発生した、学生の異動や教職員の部署の異動などは反映されていません。

対象者を最新の状態にするためには、対象者設定画面で再度、登録処理を行ってください。

対象者	1898人
公開者	個別設定（ 全学生 全教員 全職員 ）

設問

下記は、設定された設問の表示イメージです。ここに何か入力を行っても何も反映されません。

設問 1 ＊	1. あなたの学年を教えてください。
設問 2 ＊	2. あなたの所属学科を教えてください。
設問 3 ＊	3. 学部卒業後の進路についてどのように考えますか？
設問 4	4.【設問3に対して、1・2を選択した方のみ】本学の体育学研究科体育学専攻（修士・博士前期）への進学を希望しますか？
設問 5	5.【設問4に対して、1・2・3を選択した方のみ】体育学研究科体育学専攻（博士後期）が開設された場合、進学を希望しますか？

東海大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）の設置に関するアンケート調査

（無記名式／学部生対象）

＜回答した内容によって将来の進路が制限されることはありません＞

東海大学では、現在、体育学研究科体育学専攻（修士課程）を基礎とする体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）の設置計画を進めています。このアンケートは、在学生のみなさんの卒業後の進学についてお聞きし、当課程の設置手続きを進めるための基礎資料とするものです。是非ご協力をお願いします。

なお、この調査結果は、当課程を設置するための基礎資料としてのみ使用し、その他の用途には使用しません。

---------- **体育学研究科体育学専攻（修士課程・博士課程前期／博士課程後期※設置構想中）について** ----------

１．はじめに

体育学研究科体育学専攻修士課程（博士課程前期）は、目まぐるしく変化していく社会に対し、広域化への対応を進めつつ、学部・大学院教育を通じ、より高度化した教育研究により社会への貢献を進めてきました。

このたび、修士課程（博士課程前期）の研究内容や高度解析技術を発展させて、極めて高いレベルの「スポーツ科学」に精通しながら、独創的・創造性に優れた高度な研究能力を備え、専門分野の発展に寄与しつつ、それを社会に還元できる能力を有する体育・スポーツ科学の人材を育成することを設置の理念・目的として、博士課程後期を設置します。

２．博士課程後期※設置構想中の概要

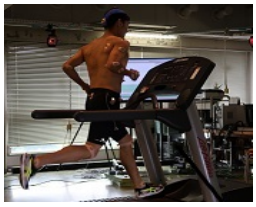
名称：体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）

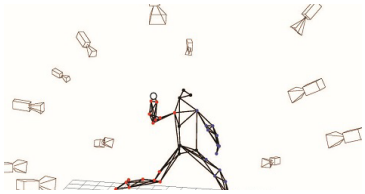
◎以下「博士後期」と表記

学位：博士（体育学）　　定員：入学定員３名

標準修業年限：３年　　開設時期：2021 年４月１日

開設校舎：湘南校舎





「動き」を測る

３．養成する人材像

修士（博士前期）では、「理論」と「実践」を重視した「体育・スポーツ科学」研究を通じて、より高度な職業人の育成を目指します。

博士後期では、他領域・他分野との研究・教育における融合を推進し、幅広い知識・考え方を修得して独創性・創造性に優れた高い研究能力を有し、それを社会に還元できる能力を有する研究者（大学教員、企業などの研究員）、専門職（スポーツアナリスト、スポーツ・アドミニストレーター）の育成を目指します。

４．本学修士修了生のメッセージ

金藤　理絵さん　体育学研究科体育学専攻（修士）2012 年度修了／リオ五輪　女子 200m平泳ぎ優勝（金メダル）

大学４年間より少人数指導となり、指導内容もより専門的になります。また、知識を教わるだけでなく自ら研究することを通して、後輩たちに教える機会も増えるので、自分の知識や能力の整理・把握ができました。より責任も増え、自分のやるべきことが明白になり、今後のスキルアップにつながる、大切な２年間になりました。

長尾　秀行さん　体育学研究科体育学専攻（修士）2010年度修了／国立スポーツ科学センター スポーツ研究部 研究員

大学院は、皆さんが学部を卒業するまでに学ぶことで習得してきた知恵、知識、技能を最大限に活用する場です。それでもすぐには解決できない課題に何度も悩まされることでしょう。しかしその度に悩み、考えることは大変価値のある経験になります。皆さんも大学院で多くを学び、また経験して研究課題の答えを探究して下さい。

類似する近隣の体育・スポーツ系大学院研究科一覧

金額は（円）

所在地	学校名	研究科・専攻名	区分		入学金	授業用（年間）	その他	合計
神奈川	東海大学大学院	体育学研究科体育学専攻	修士（博士前期）	本学学部卒業生	150,000	701,000	168,000	1,019,000
				上記以外	300,000	701,000	368,000	1,369,000
			博士後期※設置構想中	本学修士・博士前期修了者	－	701,000	168,000	869,000
				上記以外	300,000	701,000	368,000	1,369,000

所在地	学校名	研究科名	専攻名	区分	入学定員	入学金	授業用（年間）	その他	合計
埼玉	早稲田大学大学院	ｽﾎﾟｰﾂ科学研究科	ｽﾎﾟｰﾂ科学専攻	修士（2年制）	140	200,000	926,000	70,000	1,196,000
				博士後期	30	200,000	677,000	70,000	947,000
千葉	順天堂大学大学院	ｽﾎﾟｰﾂ健康科学研究科	ｽﾎﾟｰﾂ健康科学専攻	博士前期	61	200,000	550,000	50,000	800,000
				博士後期	10	200,000	550,000	50,000	800, 000
東京	国士館大学大学院	ｽﾎﾟｰﾂ・ｼｽﾃﾑ研究科	ｽﾎﾟｰﾂ・ｼｽﾃﾑ専攻	修士	30	240,000	770,000	294,000	1,304,000
				博士	3	240,000	770,000	334,000	1,344,000
東京	日本体育大学大学院	体育科学研究科	体育科学専攻	博士前期	25	300,000	738,000	10,000	1,048,000
				博士後期	6	300,000	738,000	10,000	1,048,000
			ｺｰﾁﾝｸﾞ学専攻	博士前期	12	300,000	738,000	10,000	1,048,000
				博士後期	3	300,000	738,000	10,000	1,048,000
神奈川	慶応義塾大学大学院	健康ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ研究科	公衆衛生・ｽﾎﾟｰﾂ健康科学専攻	修士	30	－	1,630,000	60,000	1,690,000
				後期博士	5	－	660,000	60,000	720,000

以　上

東海大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）の設置に関するアンケート調査　集計結果

調査対象　：東海大学大学院体育学研究科体育学専攻（修士課程）修了生
調査実施期間：２０２０年８月１１日（金）～１８日(火)

調査依頼者数	53
有効回答者数	49

設問		件数	全体%
設問1.	あなたの修士課程修了年月を教えてください。		
	1995年～2020年3月修了生	－	－
設問2.	あなたの現在の職業を教えてください。		
	会社員、個人事業主、教員　等	－	－
設問3.	あなたが修士課程を修了したときに、本学の体育学研究科に博士課程後期があったと仮定した場合、あなたは、進学を希望しましたか？		
	東海大学大学院体育学研究科の博士課程への進学を希望した	22	44.9%
	希望しない（他大学大学院の博士課程への進学を希望する等）	14	28.6%
	わからない	13	26.5%
設問4.	あなたは、設置構想中の体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）が開設された場合、今後、進学を希望しますか？		
	進学を希望する	5	10.2%
	現在の就職先の許可や学費等の条件があえば進学を希望する	19	38.8%
	希望しない（他大学院博士課程を希望する等）	18	36.7%
	わからない	7	14.3%
設問5.	【設問3または4で、「進学を希望した」または「進学を希望する」場合】 進学を希望する、または検討している、と考える動機は何ですか？（複数選択可）		
	博士の学位を取得するため	21	42.9%
	研究職に就きたいため	9	18.4%
	設置の理念や養成する人材像に記載された力を身に付け、社会で活躍するため	17	34.7%
	その他（新たな知見の獲得と将来の選択肢を広げるため　等）	3	6.1%

← 戻る　　コンピューター　携帯電話/タブレット

東海大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）【設置構想中】の設置に関するアンケート調査（無記名式／修士課程修了生対象）

東海大学では、現在、体育学研究科体育学専攻（修士課程）を基礎とする体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）の設置計画を進めております。このアンケート調査は、体育学専攻（修士課程）を修了された皆様の大学院博士課程への進学についてお伺いし、当課程の設置手続きを進めるための基礎資料とさせていただきたいと考えております。メールでご案内した参考資料を参照のうえ、設問にご回答ください。

なお、この調査結果は、当課程を設置するための基礎資料としてのみ使用し、その他の用途には使用いたしません。

* 必須

1. あなたの修士課程修了年月を教えてください。　例）2019年3月、2019年9月 *

回答を入力してください

2. あなたの現在の職業を教えてください。　例）公務員、会社員、主婦（夫） *

回答を入力してください

3. あなたが修士課程を修了したときに、本学の体育学研究科に博士課程後期があったと仮定した場合、あなたは、進学を希望しましたか？ *

- ◯ 東海大学大学院体育学研究科の博士課程への進学を希望した
- ◯ 希望しない（他大学大学院の博士課程への進学を希望する等）
- ◯ わからない

4. あなたは、設置構想中の体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）が開設された場合、今後、進学を希望しますか？ *

- ◯ 進学を希望する
- ◯ 現在の就職先の許可や学費等の条件があれば進学を希望する
- ◯ 希望しない（他大学院博士課程を希望する等）
- ◯ わからない

5. 【設問3または4で、「進学を希望した」または「進学を希望する」場合】
進学を希望する、または検討している、と考える動機は何ですか？（複数選択可）

- ☐ 博士の学位を取得するため
- ☐ 研究職に就きたいため
- ☐ 設置の理念や養成する人材像に記載された力を身に付け、社会で活躍するため
- ☐ その他

6. 本学体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）【設置構想中】への要望等ございましたらご記入ください。

回答を入力してください

【設置構想中　体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）の概要】

1．研究科・専攻の概要

名　　称　：体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）
学　　位　：博士（体育学）
定　　員　：入学定員３名
標準修業年限　：３年
開設時期　：2021年４月１日
開設校舎　：湘南校舎
学費（予定）　：入学金300,000円　授業料等1,069,000円
合計1,369,000円
※本学修士課程・博士前期課程修了者は入学金等免除のため、合計869,000円

2．設置理念

体育学研究科体育学専攻修士課程（博士課程前期）は、心身共に健全な人材の養成と体育関係の指導者の養成を図ることを基本的な指針として設置された本学の体育学部を基盤に、目まぐるしく変化していく社会に対し、広域化への対応を進めつつ、学部・大学院教育を通じ、より高度化した教育研究により社会への貢献を進めてきました。

このたび、修士課程（博士課程前期）の研究内容や高度解析技術を発展させて、極めて高いレベルの「スポーツ科学」に精通しながら、独創的・創造性に優れた高度な研究能力を備え、専門分野の発展に寄与しつつ、それを社会に還元できる能力を有する体育・スポーツ科学の人材を育成することを目的として、博士課程後期を設置します。

3．養成する人材像

博士後期では、他領域・他分野との研究・教育における融合を推進し、幅広い知識・考え方を修得して独創性・創造性に優れた高い研究能力を有し、それを社会に還元できる能力を有する研究者（大学教員、企業などの研究員）、専門職（スポーツアナリスト、スポーツ・アドミニストレーター）の育成を目指します。

東海大学体育学研究科体育学専攻博士課程後期【設置構想中】

所在地	区分	大学院名称	研究科名	専攻名		入学金	授業料（年間）	その他	合計
神奈川県	私立	東海大学大学院	体育学研究科	体育学専攻　博士課程後期	本学修士課程・博士課程前期修了者	－	¥　701,000	¥　168,000	¥　869,000
					上記以外（参考）	¥　300,000	¥　701,000	¥　368,000	¥　1,369,000

類似する近隣の体育・スポーツ系大学院研究科博士後期課程一覧

所在地	区分	大学院名称	研究科名	専攻名	課程区分	入学定員	入学金	授業料（年間）	その他	合計
埼玉県	私立	早稲田大学大学院	スポーツ科学研究科	スポーツ科学専攻	博士後期課程	30	¥　200,000	¥　677,000	¥　70,000	¥　947,000
千葉県	私立	順天堂大学大学院	スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	博士後期課程	10	¥　200,000	¥　550,000	¥　50,000	¥　800,000
東京都	私立	国士舘大学大学院	スポーツ・システム研究科	スポーツ・システム専攻	博士課程	3	¥　240,000	¥　770,000	¥　334,000	¥　1,344,000
東京都	私立	日本体育大学大学院	体育科学研究科	体育科学専攻	博士後期課程	6	¥　300,000	¥　738,000	¥　10,000	¥　1,048,000
東京都	私立	日本体育大学大学院	体育科学研究科	コーチング学専攻	博士後期課程	3	¥　300,000	¥　738,000	¥　10,000	¥　1,048,000
神奈川県	私立	慶応義塾大学大学院	健康マネジメント研究科	公衆衛生・スポーツ健康科学専攻	後期博士課程	5	－	¥　660,000	¥　60,000	¥　720,000

※1　各大学院情報については、公式Webサイト等により調査しました。

※2　学費以外の諸会費等は含んでいません。

ヒアリング結果

日　時	2020 年 1 月 28 日（火）　11：00～12：30
調査団体	明治安田厚生事業団　体力医学研究所
先方担当者	副センター長　荒尾　孝　氏　　主任研究員　甲斐　裕子　氏
本学担当者	体育学研究科　萩　裕美子

１．調査団体の活動内容（企業であれば業務内容）

・健康に関わる諸問題の解決を目指し、運動を活用した心身の健康増進に関する調査研究

・明治安田新宿健診センターと協力して、ライフスタイル研究の実施

・健康科学分野に携わる若手研究者の活動支援を目的にした研究助成

２．体育・スポーツ系分野の博士学位取得者の採用状況

・博士学位取得者を非定期ではあるが 2019 年度は 2～3 名程度募集している。

・研究員は全員博士学位取得者である。

３．調査団体及び業界における博士学位取得者へのニーズ

・現在、体育・スポーツ系分野の博士学位取得者はいるものの、専門外についても興味関心を持って学際的な取り組みができる研究者が少ない。今後はプロジェクト研究（連携研究）が主流となっていくため、他分野と連携ができる博士学位取得者のニーズは高まっていくものと思われる。

４．東海大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）【設置構想中】への要望等

以下のような力をつけた修了生をぜひ採用したい。

・研究の成果を社会に還元する意思と方法を身につけた人材

・スポーツ科学が学際的な領域であることを認識し、文系理系両方の領域にアプローチができる人材

・情報マネジメント（収集、分析、提案）ができる人材

・プロジェクトマネジメントができる人材

・専門家集団をコーディネートして課題解決できるような人材

以　上

ヒアリング結果

日　時	2020 年 2 月 13 日（木）14：00～14：30
調査団体	株式会社 DKH 東京都千代田区丸の内 1 丁目 7 番 12 号 サピアタワー26F 会議室にて
先方担当者	代表取締役 COO　慶徳　幌二　氏
本学担当者	体育学研究科　　山田　洋

１．調査団体の活動内容（企業であれば業務内容）

・体育・スポーツ、心理、リハビリ等の幅広い分野で人やものの動きを定量的に分析するツールを提供

・生体・動作計測機器の研究、開発、販売

・動作解析ソフトウェアの研究、開発、販売

・各種計測設備の導入コンサルタント、設置工事

・計測用周辺装置の研究、開発、販売

・計測用センサー及び周辺機器の輸入、販売

２．体育・スポーツ系分野の博士学位取得者の採用状況

・体育・スポーツ系分野の博士学位取得者の採用実績はないが、現在、DKH には、体育学修士卒の社員が３名おり、内訳は技術部２名・営業部１名である。ここには、2017 年度東海大学大学院修士課程体育学研究科修了の１名が含まれる。

・2019 年度東海大学大学院修士課程体育学研究科修了予定の１名が、2020 年４月より、MSC グループに新規採用予定であり、体育・スポーツ系分野の大学院修了者の採用を進めている状況にある。

３．調査団体及び業界における博士学位取得者へのニーズ

・研究者を支援するツールは揃っている。新しいモノを生み出してくれることを期待している。例えば、作ったもの、研究成果をフィードバックするツールの開発等。

・DKH は、MSC グループ全体と共に、健康系ビジネスにも力を入れたいと考えている。高齢化社会に向けた「健康維持・増進」のための製品開発、「健幸寿命の延伸」に伴う高齢者向けサービスの製品化。例えば独居老人向け見守りサービスなど。

４．東海大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）【設置構想中】への要望等

・研究の「成果を活用したモノづくり」を推進したい。研究成果を社会に還元できる人材養成を求める。

以　上

ヒアリング結果

日　時	2020 年 2 月 12 日（水）10：00～10：30
調査団体	日本電信電話（株）コミュニケーション科学基礎研究所
先方担当者	主任研究員　　木村　聡貴　氏
本学担当者	体育学研究科　山田　洋

１．調査団体の活動内容（企業であれば業務内容）

・主要な研究のひとつとして、スポーツ脳科学プロジェクトに取り組んでいる。

・通信事業、情報システム構築事業、都市開発事業

・通信にかかわる基盤研究

・本研究所では、情報と人間に関する新原理の発見・新概念の創出がミッション

２．体育・スポーツ系分野の博士学位取得者の採用状況

・数年に１名程度の採用実績である。

・ポスドクでの採用実績がある。（正社員になった事例あり）

３．調査団体及び業界における博士学位取得者へのニーズ

・スポーツ市場の開拓・参入は業界として大きな関心をもっており、スポーツの現場の動向に精通し、データ分析などのノウハウを有する人材を求めている。

４．東海大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）【設置構想中】への要望等

・現場の感覚をもちつつ、スポーツに関する情報処理などの専門性を備えた人材を育てていただきたい。

以　上

東海大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）の設置に関するアンケート調査　集計結果
（人材需要に関する調査）

調査対象　：博士課程後期修了者の採用が想定される企業・団体
調査実施期間：２０２０年８月１１日（金）～１８日(火)

調査依頼数	52
有効回答数	34

設問		件数	全体%
設問1.	貴社・貴団体名をお知らせください。		
	株式会社、公益財団法人、社会福祉法人　等	－	－
設問2.	本アンケート回答者様のご所属・役職をお知らせください。		
	代表取締役、人事部長、総務部主任　等	－	－
設問3.	貴社・貴団体の業務内容・活動内容を差し支えない範囲でお知らせください。		
	スポーツ・身体活動に関する調査研究、競技および生涯スポーツの推進　等	－	－
設問4.	東海大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）【設置構想中】が養成する人材は、貴社・貴団体及び業界において必要であると思われますか。		
	とても必要だと思う	15	44.1%
	必要だと思う	15	44.1%
	あまり必要でないと思う	0	0.0%
	必要でないと思う	1	2.9%
	わからない	3	8.8%
設問5.	東海大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）【設置構想中】の修了者を採用したいと思われますか。		
	採用したい	17	50.0%
	採用したいと思わない	1	2.9%
	わからない	16	47.1%

← 戻る

東海大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）【設置構想中】の設置に関するアンケート調査（企業・団体　人事・採用ご担当者対象）

東海大学では、現在、体育学研究科体育学専攻（修士課程）を基礎とする体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）の設置計画を進めております。

このアンケート調査を通して、人事・採用ご担当者の皆様からご意見を伺い、より充実した博士課程後期設置のための参考とさせていただきたいと考えております。メールでご案内した別添資料を参照のうえ、設問にご回答ください。

なお、この調査結果は、当課程を設置するための参考資料としてのみ使用し、その他の用途には使用いたしません。アンケート調査へのご協力を謹んでお願い申し上げます。

* 必須

1. 貴社・貴団体名をお知らせください。　例）株式会社○○、一般社団法人○○ *

回答を入力してください

2. 本アンケート回答者様の役職・氏名をお知らせください。　例）人事課長○○、主任研究員○○ *

回答を入力してください

3. 貴社・貴団体の業務内容・活動内容を差し支えない範囲でお知らせください。 *

回答を入力してください

4. 東海大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）【設置構想中】が養成する人材は、貴社・貴団体及び業界において必要であると思われますか。 *

- ◯ とても必要だと思う
- ◯ 必要だと思う
- ◯ あまり必要でないと思う
- ◯ 必要でないと思う
- ◯ わからない

5. 東海大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）【設置構想中】の修了者を採用したいと思われますか。 *

- ◯ 採用したい
- ◯ 採用したいと思わない
- ◯ わからない

6. 本学体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）【設置構想中】への要望等ございましたらご記入ください。

回答を入力してください

送信

---------体育学研究科体育学専攻（修士課程・博士課程前期／博士課程後期※設置構想中）について----------

１．はじめに

体育学研究科体育学専攻修士課程（博士課程前期）は、目まぐるしく変化していく社会に対し、広域化への対応を進めつつ、学部・大学院教育を通じ、より高度化した教育研究により社会への貢献を進めてきました。

このたび、修士課程（博士課程前期）の研究内容や高度解析技術を発展させて、極めて高いレベルの「スポーツ科学」に精通しながら、独創的・創造性に優れた高度な研究能力を備え、専門分野の発展に寄与しつつ、それを社会に還元できる能力を有する体育・スポーツ科学の人材を育成することを設置の理念・目的として、博士課程後期を設置します。

２．博士課程後期※設置構想中の概要

名称：体育学研究科体育学専攻（博士課程後期）

◎以下「博士後期」と表記

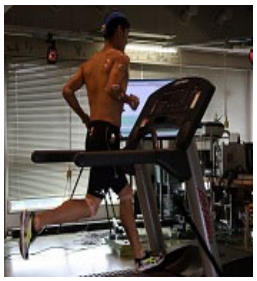
学位：博士（体育学）

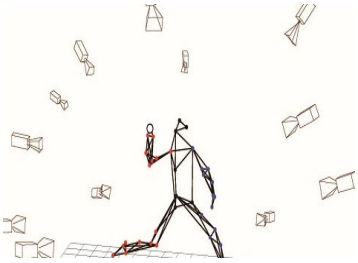
定員：入学定員３名

標準修業年限：３年

開設時期：2021 年４月１日

開設校舎：湘南校舎





「動き」を測る

３．養成する人材像

修士（博士前期）では、「理論」と「実践」を重視した「体育・スポーツ科学」研究を通じて、より高度な職業人の育成を目指します。

博士後期では、他領域・他分野との研究・教育における融合を推進し、幅広い知識・考え方を修得して独創性・創造性に優れた高い研究能力を有し、それを社会に還元できる能力を有する**研究者（大学教員、企業などの研究員）、専門職（スポーツアナリスト、スポーツ・アドミニストレーター）**の育成を目指します。

４．本学修士修了生の紹介

金藤　理絵さん　体育学研究科体育学専攻（修士）2012 年度修了／リオ五輪　女子 200m平泳ぎ優勝（金メダル）

大学４年間より少人数指導となり、指導内容もより専門的になります。また、知識を教わるだけでなく自ら研究することを通して、後輩たちに教える機会も増えるので、自分の知識や能力の整理・把握ができました。より責任も増え、自分のやるべきことが明白になり、今後のスキルアップにつながる、大切な２年間になりました。

長尾　秀行さん　体育学研究科体育学専攻（修士）2010 年度修了／国立スポーツ科学センター スポーツ研究部 研究員

大学院は、学部を卒業するまでに学ぶことで習得してきた知恵、知識、技能を最大限に活用する場です。それでもすぐには解決できない課題に何度も悩まされることでしょう。しかしその度に悩み、考えることは大変価値のある経験になりました。大学院で多くを学び、また経験して研究課題の答えを探究したことは良い学びとなりました。

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　　員　　名　　簿

学　長　の　氏　名　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職（就任年月）
―	学長	ヤマダ　キヨシ 山田　清志 ＜平成26年10月＞		法学士 ※		東海大学学長 (平26.10～令3.3)

（注）　高等専門学校にあっては校長について記入すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（体育学研究科体育学専攻　博士課程後期）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
①	専	教授	ｱﾍﾞ　ｺﾞﾛｳ 阿部　悟郎 ＜令和3年4月＞		博士(体育科学)		スポーツ科学研究理論　※ 高度スポーツ文化社会科学特講　※ 高度スポーツ文化社会科学演習　※ 体育・スポーツ科学特別研究１ 体育・スポーツ科学特別研究２ 体育・スポーツ科学特別研究３ 体育・スポーツ科学特別研究４	1前 1前 1後 2前 2後 3前 3後	0.1 0.7 0.7 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東海大学 体育学部 教授 （平２８．４）	４日
②	専	教授	ﾏﾂﾅﾐ　ﾐﾉﾙ 松浪　稔 ＜令和3年4月＞		博士(体育科学)		スポーツ科学研究理論　※ 高度スポーツ文化社会科学特講　※ 高度スポーツ文化社会科学演習　※ 体育・スポーツ科学特別研究１ 体育・スポーツ科学特別研究２ 体育・スポーツ科学特別研究３ 体育・スポーツ科学特別研究４	1前 1前 1後 2前 2後 3前 3後	0.1 0.7 0.7 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東海大学 体育学部 教授 （平２０．４）	４日
③	専	教授	ﾏﾂﾓﾄ　ﾋﾃﾞｵ 松本　秀夫 ＜令和3年4月＞		博士(海洋科学)		スポーツ科学研究理論　※ 高度スポーツ文化社会科学特講　※ 高度スポーツ文化社会科学演習　※ 体育・スポーツ科学特別研究１ 体育・スポーツ科学特別研究２ 体育・スポーツ科学特別研究３ 体育・スポーツ科学特別研究４	1前 1前 1後 2前 2後 3前 3後	0.1 0.7 0.7 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東海大学 体育学部 教授 （平５．４）	４日
④	専	教授	ﾊｯﾀ　ｱﾘﾋﾛ 八田　有洋 ＜令和3年4月＞		博士(学術)		スポーツ科学研究理論　※ 高度スポーツ医科学特講　※ 高度スポーツ医科学演習　※ 体育・スポーツ科学特別研究１ 体育・スポーツ科学特別研究２ 体育・スポーツ科学特別研究３ 体育・スポーツ科学特別研究４	1前 1前 1後 2前 2後 3前 3後	0.1 0.5 0.5 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東海大学 体育学部 教授 （平２６．４）	４日
⑤	専	教授 （専攻長）	ﾔﾏﾀﾞ　ﾋﾛｼ 山田　洋 ＜令和3年4月＞		博士(体育科学)		スポーツ科学研究理論　※ スポーツ科学研究法Ｂ　※ 高度スポーツ医科学特講　※ 高度スポーツ医科学演習　※ 体育・スポーツ科学特別研究１ 体育・スポーツ科学特別研究２ 体育・スポーツ科学特別研究３ 体育・スポーツ科学特別研究４	1前 1後 1前 1後 2前 2後 3前 3後	0.1 1 0.5 0.5 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	東海大学 体育学部 教授 （平１５．４）	４日
⑥	専	教授	ｳﾁﾔﾏ　ｼｭｳｲﾁ 内山　秀一 ＜令和3年4月＞		博士(医学)		スポーツ科学研究理論　※ 高度スポーツ医科学特講　※ 高度スポーツ医科学演習　※ 体育・スポーツ科学特別研究１ 体育・スポーツ科学特別研究２ 体育・スポーツ科学特別研究３ 体育・スポーツ科学特別研究４	1前 1前 1後 2前 2後 3前 3後	0.1 0.5 0.5 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東海大学 体育学部 教授 （平５．４）	４日
⑦	専	教授	ﾐﾔｻﾞｷ　ｾｲｼﾞ 宮崎　誠司 ＜令和3年4月＞		博士(医学)		スポーツ科学研究理論　※ 高度スポーツ医科学特講　※ 高度スポーツ医科学演習　※ 体育・スポーツ科学特別研究１ 体育・スポーツ科学特別研究２ 体育・スポーツ科学特別研究３ 体育・スポーツ科学特別研究４	1前 1前 1後 2前 2後 3前 3後	0.1 0.5 0.5 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東海大学 体育学部 教授 （平９．４）	４日
⑧	専	教授	ｸﾎﾞﾀ　ｱｷｵ 久保田　晃生 ＜令和3年4月＞		博士(社会福祉学)		スポーツ科学研究理論　※ 高度実践スポーツ科学特講　※ 高度実践スポーツ科学演習　※ 体育・スポーツ科学特別研究１ 体育・スポーツ科学特別研究２ 体育・スポーツ科学特別研究３ 体育・スポーツ科学特別研究４	1前 1前 1後 2前 2後 3前 3後	0.1 0.5 0.5 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東海大学 体育学部 教授 （平２１．４）	４日
⑨	専	教授 （研究科長）	ﾊｷﾞ　ﾕﾐｺ 萩　裕美子 ＜令和3年4月＞		博士(保健学)		スポーツ科学研究理論　※ スポーツ科学研究法Ａ　※ 高度実践スポーツ科学特講　※ 高度実践スポーツ科学演習　※ 体育・スポーツ科学特別研究１ 体育・スポーツ科学特別研究２ 体育・スポーツ科学特別研究３ 体育・スポーツ科学特別研究４	1前 1前 1後 2前 2後 3前 3後	0.7 1 0.5 0.5 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	東海大学 体育学部 教授 （平２１．４）	４日
⑩	専	教授	ﾉｻｶ　ﾄｼﾔ 野坂　俊弥 ＜令和3年4月＞		博士(スポーツ医学)		スポーツ科学研究理論　※ 高度実践スポーツ科学特講　※ 高度実践スポーツ科学演習　※ 体育・スポーツ科学特別研究１ 体育・スポーツ科学特別研究２ 体育・スポーツ科学特別研究３ 体育・スポーツ科学特別研究４	1前 1前 1後 2前 2後 3前 3後	0.1 0.5 0.5 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東海大学 体育学部 教授 （平２６．４）	４日
⑪	専	教授	ﾖｼｵｶ　ﾅｵﾐ 吉岡　尚美 ＜令和3年4月＞		博士(学術)		スポーツ科学研究理論　※ 高度実践スポーツ科学特講　※ 高度実践スポーツ科学演習　※ 体育・スポーツ科学特別研究１ 体育・スポーツ科学特別研究２ 体育・スポーツ科学特別研究３ 体育・スポーツ科学特別研究４	1前 1前 1後 2前 2後 3前 3後	0.1 0.5 0.5 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東海大学 体育学部 教授 （平１５．４）	４日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（体育学研究科体育学専攻　博士課程後期）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
⑫	専	講師	ｵｼﾐ　ﾀﾞｲﾁ 押見　大地 ＜令和3年4月＞		博士(スポーツ科学)		スポーツ科学研究理論　※ スポーツ科学研究法Ａ　※ 体育・スポーツ科学特別研究１ 体育・スポーツ科学特別研究２ 体育・スポーツ科学特別研究３ 体育・スポーツ科学特別研究４	1前 1後 2前 2後 3前 3後	0.1 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	東海大学 体育学部 講師 （平３０．４）	４日
⑬	専	助教	ﾏﾂｼﾀ　ﾑﾈﾋﾛ 松下　宗洋 ＜令和3年4月＞		博士(スポーツ科学)		スポーツ科学研究理論　※ スポーツ科学研究法Ｂ　※ 体育・スポーツ科学特別研究１ 体育・スポーツ科学特別研究２ 体育・スポーツ科学特別研究３ 体育・スポーツ科学特別研究４	1前 1後 2前 2後 3前 3後	0.1 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	東海大学 体育学部 助教 （平３０．４）	４日

別記様式第３号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職　位	学　位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	人	８人	２人	１人	人	１１人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	１人	人	人	人	人	１人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	１人	人	人	人	人	人	１人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	１人	１人	８人	２人	１人	人	１３人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
4　専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。